

書道文化に関する基礎調査報告書
(付)書道団体実態調査

日本書道ユネスコ登録推進協議会

目次

1. 事業の目的と内容	4
2. アンケートの概要	
— 調査対象、調査方法、回答締切日、配布総数に関する基礎データ —	4
3. アンケートの調査結果・分析結果	5
①全国の小学校	5
②全国の中学校	19
③全国の高等学校(書道担当教員、書道部員、書道選択者)、 大学(書道部員、書道関係専攻者)	32
④月刊『大東書道』定期購読者	44
⑤書道展に来場した未就学児～高校生およびその保護者	55
⑥書道団体	
・書道団体実態調査	64
・書道文化に関する基礎調査(書き初めについて)	82
⑦書道具の生産業者・卸問屋・メーカー・生産販売併業者	91
⑧書道具の小売業者・書道具店	116
⑨表具店・設営業者	127
4. まとめ	150

1 事業の目的と内容

日本書道ユネスコ登録推進協議会では、平成29年に調査委員会を設置し、本年、アンケート調査を実施することにした。日本国民において書道文化がどのような位置付けにあり、日常生活の中でどのように捉えられているか、また、今日の日本社会で書道文化が抱える問題点はどのようなものなのか、その実態を把握しようと試みたものである。

調査は可能な限り広範な意見を得るために、小・中学校、高校・大学、一般の書道愛好者、展覧会参観者、全国の書道団体、書道用品生産者・小売業者、表具店・設営業者など、今日の書道に関係すると思われる各所に幅広く回答を求めることにした。これに即して対象を大きく9つに分類、それぞれにアンケート内容を検討し、郵送やファクシミリなど適当な方法で回答を依頼した。

この調査は、手書き文化自体が衰退する今日、生活文化としての書道の現状を詳細に把握して、適切な保護・振興策を検討するための基礎的な資料を作成することを目的としている。

2 アンケートの概要——調査対象、調査方法、回答締切日、配布総数は以下の要項で実施された。

調査対象	調査方法	回答締切日	配布総数	回答数	回答率
①小学校 (小中一貫校を含む)	JA 共済連(全国共済農業協同組合連合会)から発送	平成30年4月20日	19,889	2,735	13.75%
②中学校 (中高一貫校を含む)	JA 共済連(全国共済農業協同組合連合会)から発送	平成30年4月20日	10,273	1,425	13.87%
③高等学校・大学	(公社)日本書芸院から発送	平成30年6月15日	6,330	117	1.84%
④月刊『大東書道』 定期購読者	大東文化大学書道研究所から発送	平成30年5月7日	1,591	540	33.94%
⑤書道展に来場した未 就学児～高校生およ びその保護者	【謙慎書道会展来場者】 1. 池袋サンシャインシティ ワールドインポ ートマートビル4階「文字の水族館」 2. 静岡市民文化会館「文字の動物園」 3. 茨城県立県民文化センター「文字の動 物園」	1. 平成30年3月22日 2. 平成30年5月13日 3. 平成30年8月6日		1. 37 2. 46 3. 45 計128	
⑥書道団体	日本書道ユネスコ登録推進協議会から発送	平成30年5月31日	299	119	39.79%
⑦書道具の生産業者・ 卸問屋・メーカー・ 生産販売併業者	日本書道ユネスコ登録推進協議会から発送	平成30年8月20日	631	70	17.90%
⑧書道具の小売業者・ 書道具店	日本書道ユネスコ登録推進協議会から発送	平成30年8月20日		43	
⑨表具店・設営業者	日本書道ユネスコ登録推進協議会から発送	平成30年8月20日	121	30	24.79%

アンケート集計の留意点

- ・それぞれのアンケートの回答総数と設問ごとの回答数は必ずしも一致しない。設問によって回答の有無にばらつきがあるためである。
- ・設問ごとに示した割合はその設問の回答数を母数に計算したもので、無回答のものは含めていない。
- ・小・中学校は共通のアンケート用紙を使用しているため、質問項目や回答に「児童・生徒」などの表現が混在していることがある。

① 全国の小学校

書道文化に関する基礎調査

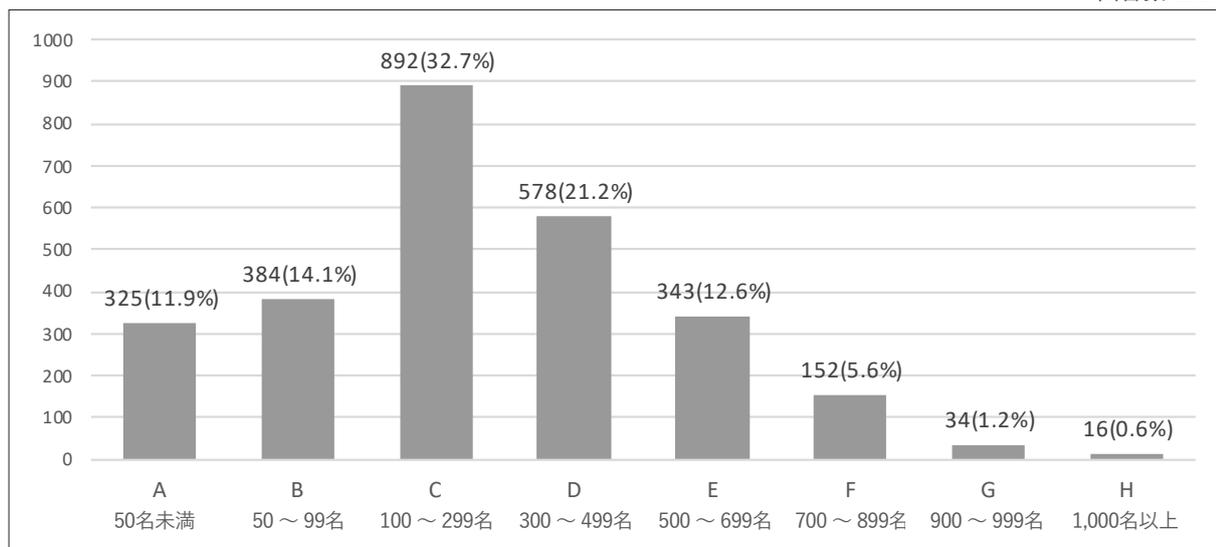
—アンケート集計結果—

対象：全国の小学校(計2735校)
※小中一貫校を含む

設問1 全校児童数、全校生徒数をお伺いします。

- A 50名未満 B 50～99名 C 100～299名 D 300～499名
E 500～699名 F 700～899名 G 900～999名 H 1,000名以上

回答数 2724

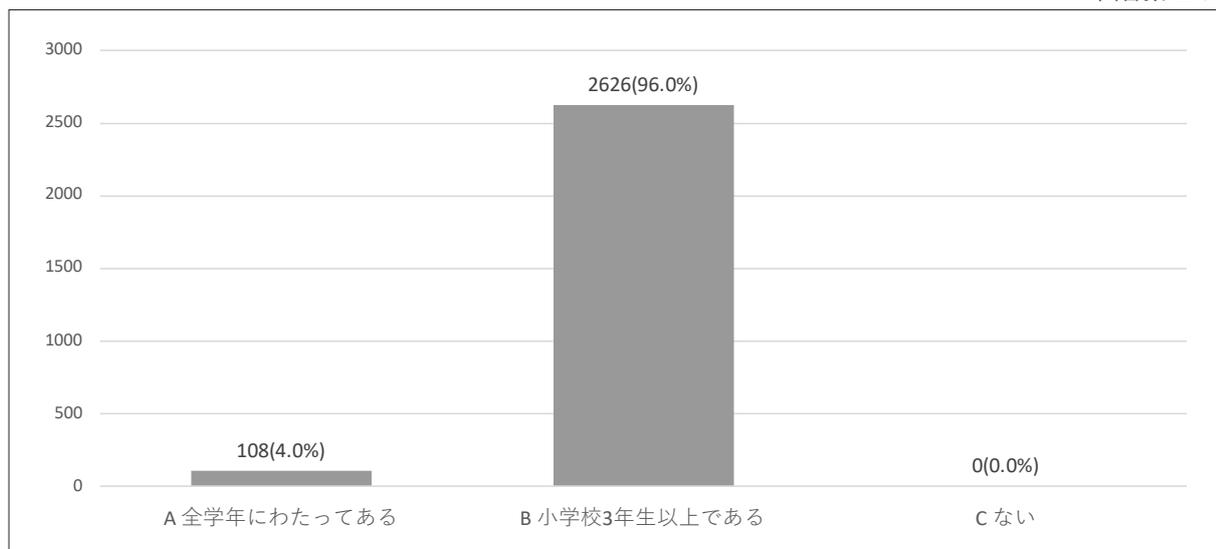


設問2 貴校における毛筆による書写活動についてお伺いします。

① 毛筆で文字を書く機会がありますか。

- A 全学年にわたってある B 小学校3年生以上である C ない

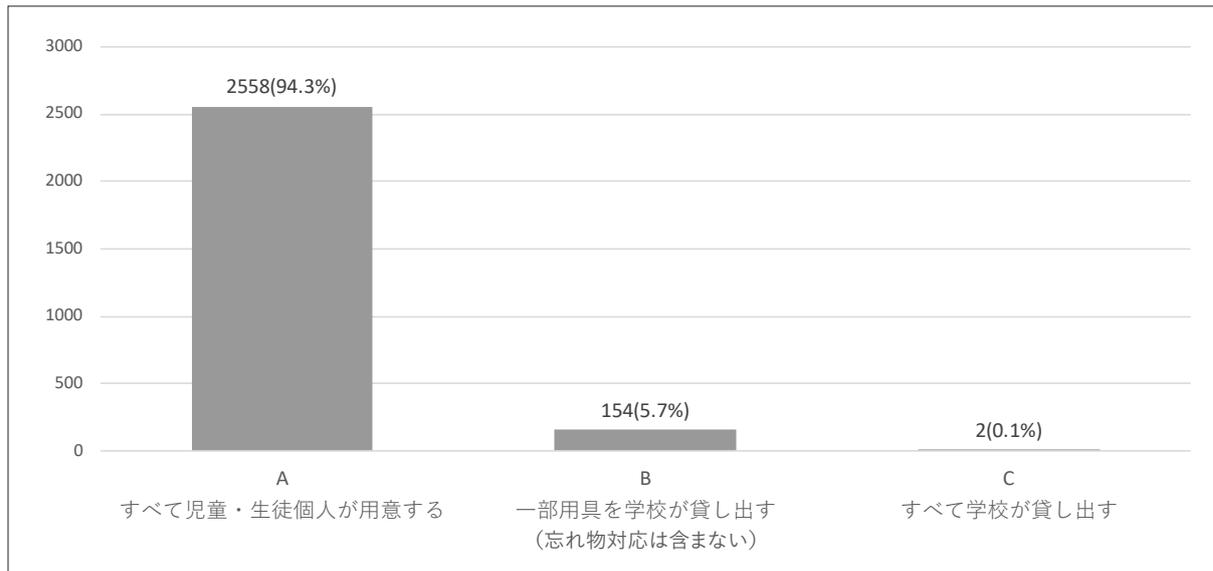
回答数 2734



② ①で「A 全学年にわたってある」、「B 小学校3年生以上である」と回答された方に質問です。
 用具用材はどのように用意していますか。

- A すべて児童・生徒個人が用意する B 一部用具を学校が貸し出す(忘れ物対応は含まない)
 C すべて学校が貸し出す

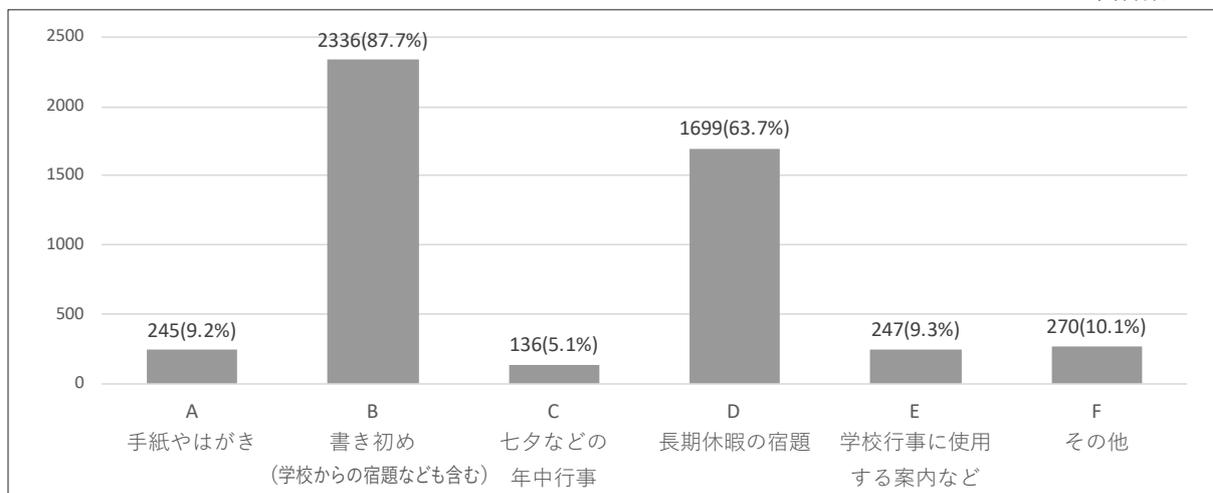
回答数 2714



③ 国語科書写の授業以外で、児童・生徒が毛筆を使用する機会がある場合、どのようなものがありますか。
 (複数回答可)

- A 手紙やはがき B 書き初め(学校からの宿題なども含む) C 七夕などの年中行事
 D 長期休暇の宿題 E 学校行事に使用する案内など F その他()

回答数 2665



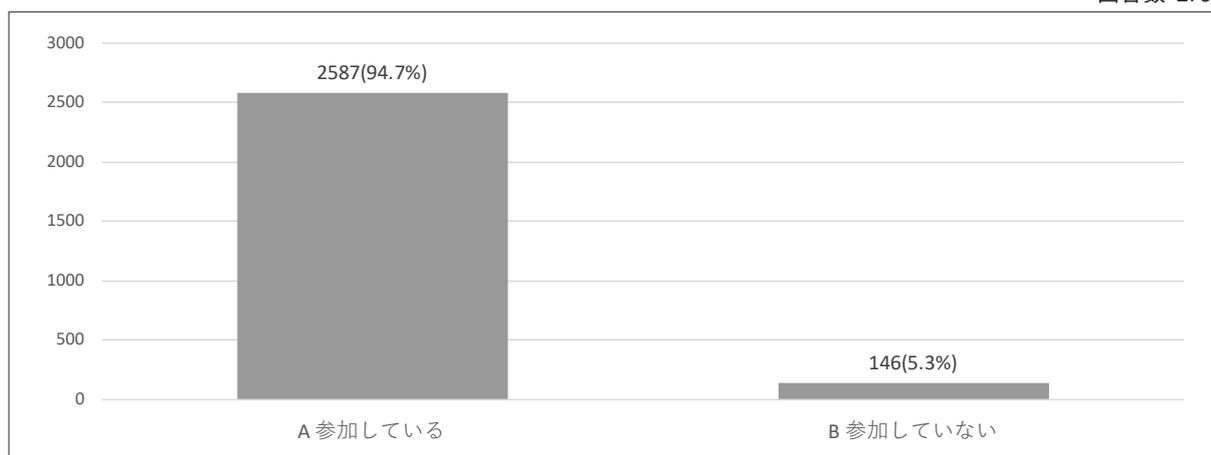
【その他の主な回答】

- ・各種コンクール、展覧会への出品 ・学校行事におけるプログラム、看板等の掲示物 ・校内掲示物
- ・図画工作の授業・作品制作 ・スローガン、目標を書く ・俳句を書く ・クラブ活動 ・習い事

④ 校外の書道展や書道コンクールなどに参加していますか。

A 参加している B 参加していない

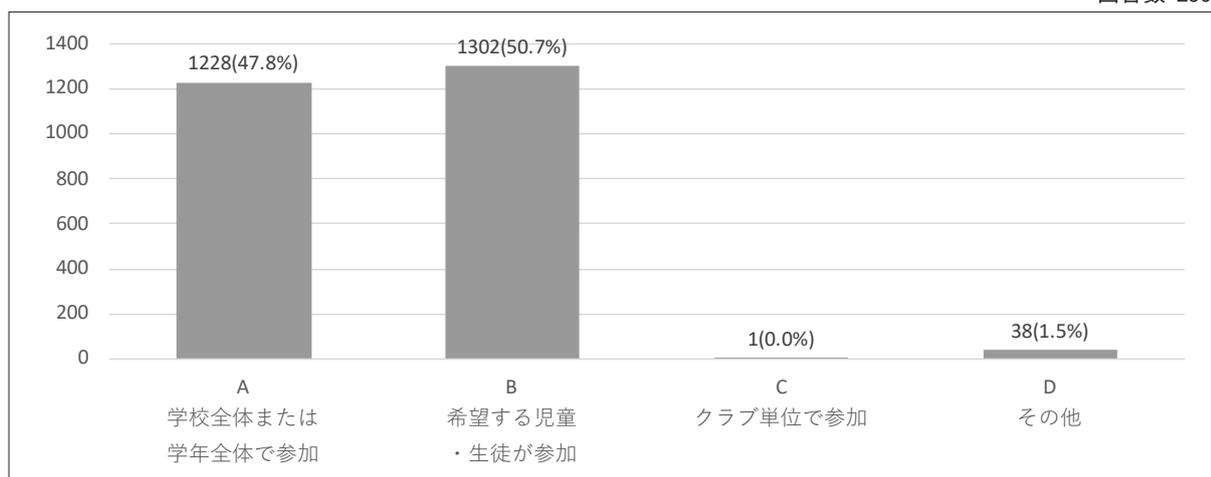
回答数 2733



⑤ ④で「A 参加している」と回答された方に質問です。どのような形態で参加していますか。

A 学校全体または学年全体で参加 B 希望する児童・生徒が参加 C クラブ単位で参加
D その他()

回答数 2569



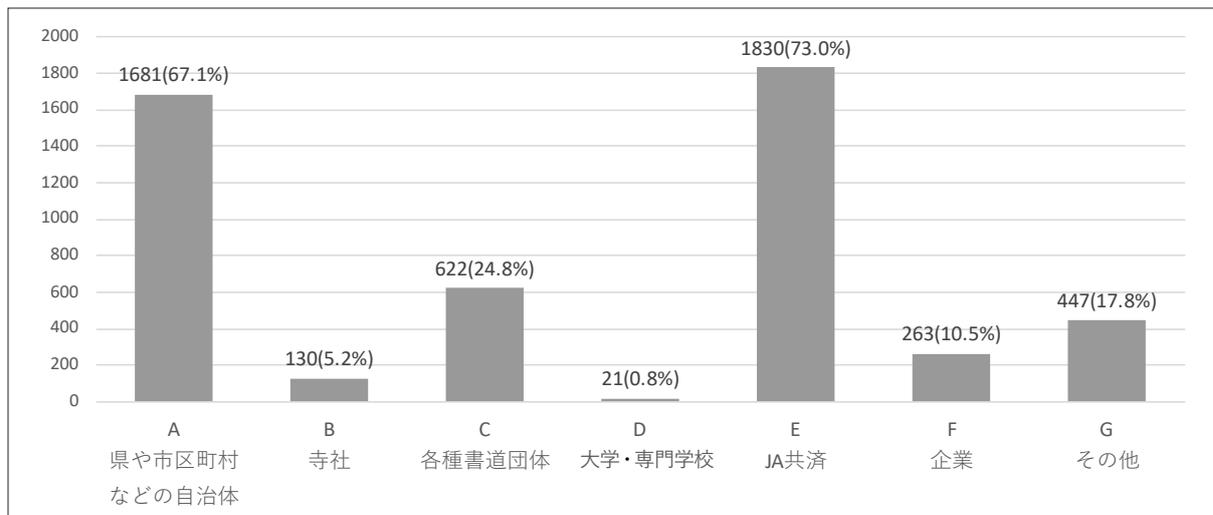
【その他の主な回答】

- ・ 選ばれた代表者のみ参加
- ・ Aの場合とBの場合がある
- ・ 書道塾に通っている児童のみ参加
- ・ 長期休暇中に取り組む課題として参加

⑥ ④で「A 参加している」と回答された方に質問です。参加している書道展の主催者をお答えください。また、その書道展の名称を差し支えない範囲でお答えください。(複数回答可)

- A 県や市区町村などの自治体 B 寺社 C 各種書道団体 D 大学・専門学校
 E JA共済 F 企業 G その他()

回答数 2507

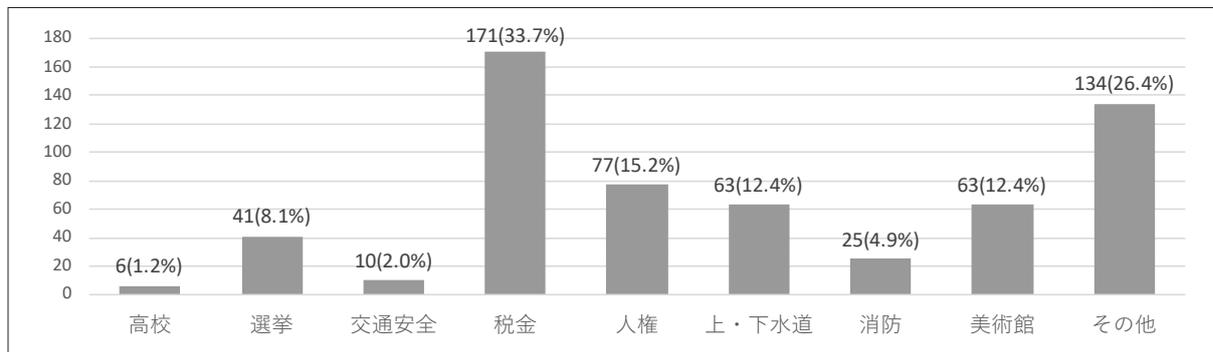


【その他の主な回答】

- ・各種団体(教育研究会等)
- ・国の行政機関
- ・美術館・博物館

書道展の名称(書道展主催者・募集内容)

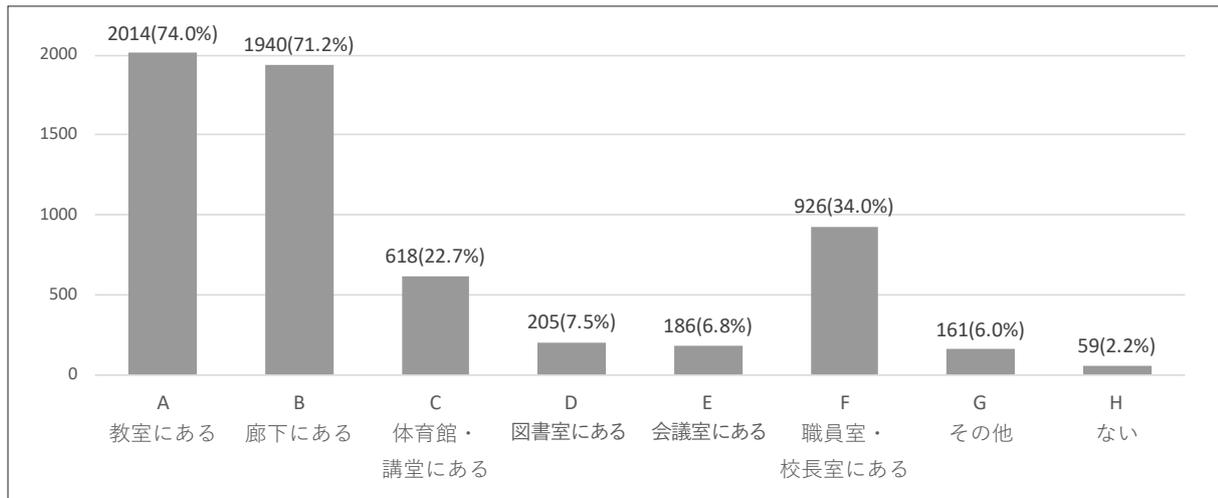
回答数 507



⑦ 校内に毛筆で書かれた文字が掲示されていますか。(複数回答可)

- A 教室にある B 廊下にある C 体育館・講堂にある D 図書室にある
 E 会議室にある F 職員室・校長室にある G その他() H ない

回答数 2721



【その他の主な回答】

- ・玄関にある
- ・特別教室にある
- ・階段にある

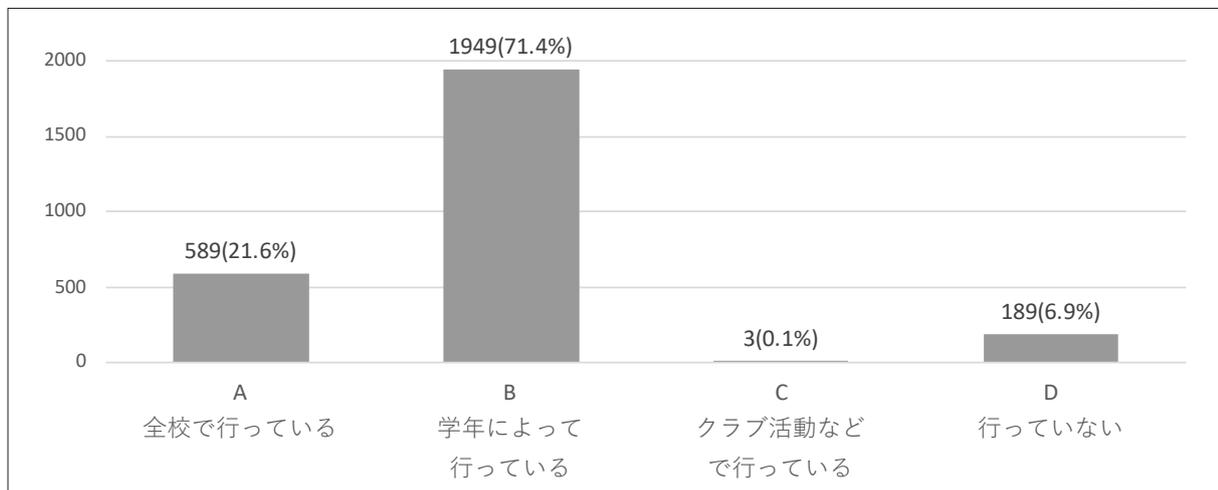
設問3 書き初めについてお伺いします。

書き初めとは、文字の上達を願って新年に初めて文字を書く行為を言いますが、毛筆で書き初め大会や正月のコンクールなどに出品するために書くことなども含めて幅広く捉えてください。

⑧ 学校で毛筆による書き初めを行っていますか。

- A 全校で行っている B 学年によって行っている
 C クラブ活動などで行っている D 行っていない

回答数 2730

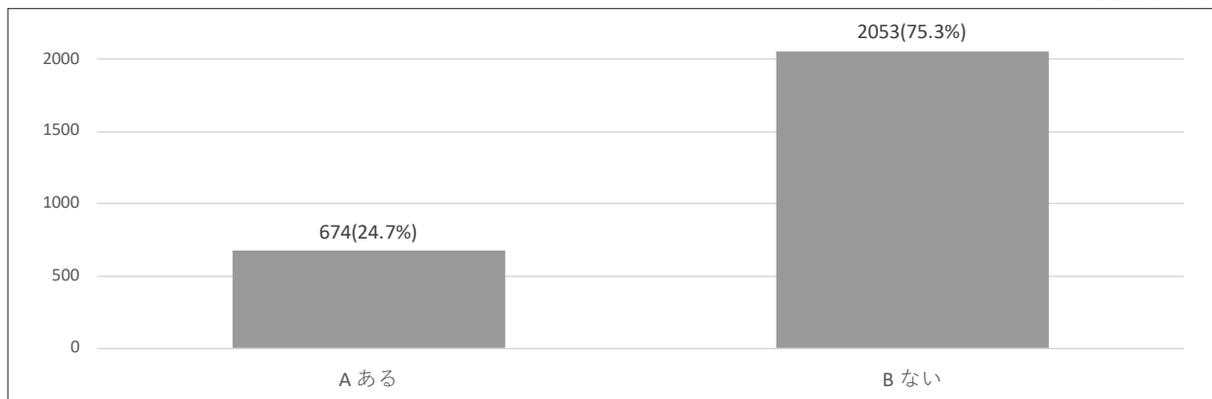


設問4 生活文化としての書についてお伺いします。

⑪ 児童・生徒のみなさんが日常的な生活の中で毛筆(筆ペンを含む)を使用している場面を見聞する機会がありますか。

A ある B ない

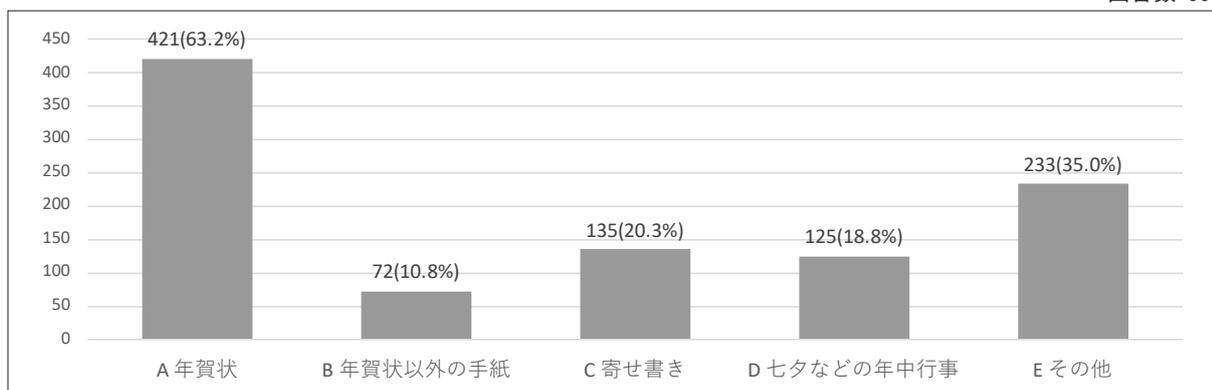
回答数 2727



⑫ ⑪で「A ある」と回答した方に質問です。その事例を具体的に教えてください。(複数回答可)

A 年賀状 B 年賀状以外の手紙 C 寄せ書き D 七夕などの年中行事
E その他()

回答数 666



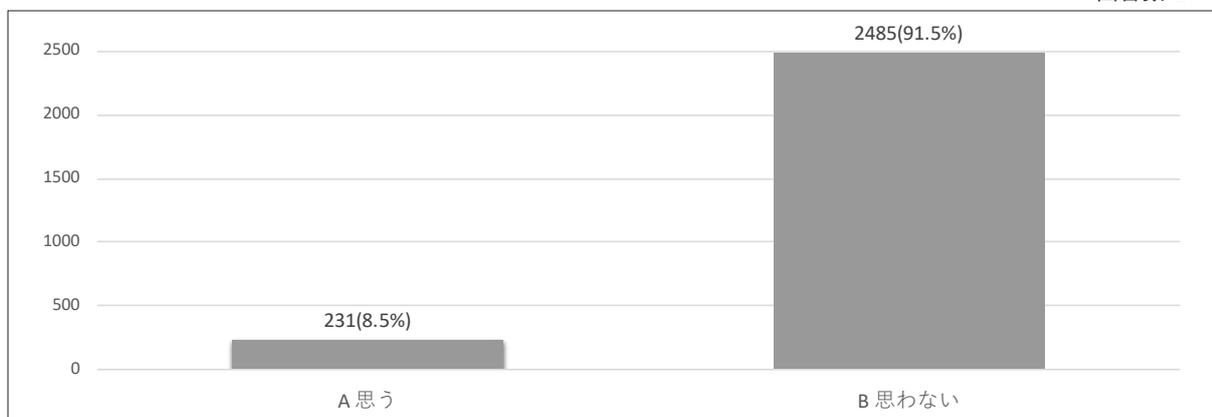
【その他の主な回答】

- ・ 掲示物 ・ 習い事 ・ 賞状 ・ 短歌、俳句 ・ 目標、スローガン ・ 作品制作
- ・ 絵画、絵手紙等 ・ 祝儀袋、香典、芳名録等 ・ 漢字や平仮名の練習 ・ クラブ活動
- ・ リーフレット、新聞、文集などの学内刊行物 ・ 看板 ・ 地域のイベント ・ 自主勉強 ・ 今年の漢字

⑬ 児童・生徒の日常生活に毛筆の使用が定着していると思いますか。

A 思う B 思わない

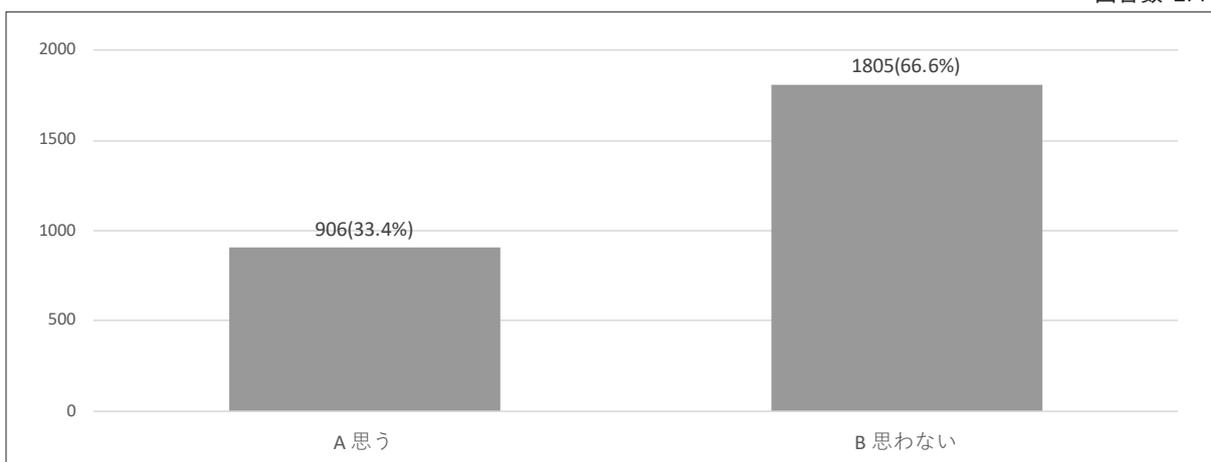
回答数 2716



⑭ 児童・生徒の日常生活に毛筆で書かれた文字が定着していると思いますか。

- A 思う B 思わない

回答数 2711

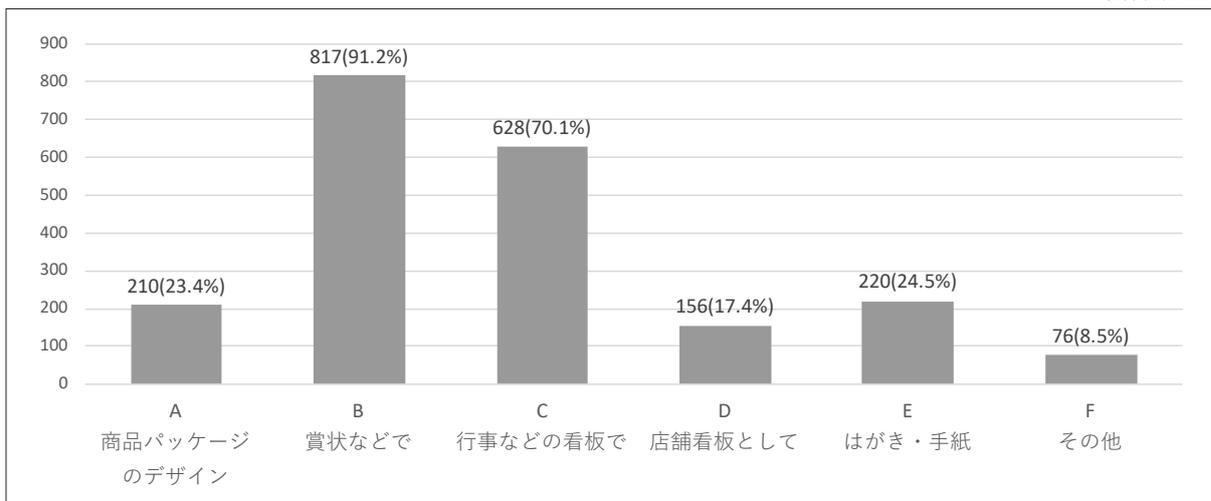


⑮ ⑭で「A 思う」と回答された方に質問です。

具体的にどのような形で毛筆の文字が定着していますか。(複数回答可)

- A 食品などの商品パッケージのデザインとして B 賞状などで
 C 行事などの看板で D 店舗看板として
 E はがき・手紙 F その他()

回答数 896



【その他の主な回答】

- ・掲示物で ・題字で

- ⑩ 学校教育における毛筆書写が、児童・生徒の日常生活でどのように活かされているか、また、書写・書道教育に対する先生方の思いなど、課題や希望なども含めご自由に記述してください。

現 状		(人)
1	毛筆書写は日常生活に活かされていないと思う(毛筆書写は授業内で完結している)	99
2	毛筆書写の教育的意義は大きいと思う(児童の興味・関心が高い)	94
3	毛筆書写によって児童の書写力が向上していると思う(硬筆書写力の向上)	91
4	児童の日常生活で毛筆書写が活かされていると思う(掲示物等)	83
5	日常生活に手書きをする機会が失われている	62
6	児童の日常生活で毛筆書写が活かされていると思う(4, 9, 10, 12以外)	54
7	毛筆書写に対して関心が薄くなってきている	38
8	地域人材(書家等の外部講師)を活用している	33
9	児童の日常生活で毛筆書写が活かされていると思う(筆ペン)	18
10	児童の日常生活で毛筆書写が活かされていると思う(手紙・はがき等)	16
11	異文化交流(外国人との交流)に役立っている	11
12	児童の日常生活で毛筆書写が活かされていると思う(賞状・名票等の記名)	6
13	児童の書写力が低下していると思う	1
14	特になし 特にありません	119
先生の思い		
15	伝統文化(日本文化、東洋文化)として大切にしたい	282
16	毛筆書写は筆順・字形の理解に効果がある(文字学習としての効果)	221
17	手書き文字文化を大切にしていきたい(字が上手でありたい)	195
18	集中力を高めるのに役立つ(精神統一)(落ち着く、静けさ)	152
19	文字は心を込めて書いてほしい(情操教育・道徳教育としての意義)	54
課 題		
20	毛筆書写の時間数が足りない(増やしてほしい)	114
21	教員の指導力(技能)が不足していると思う(指導方法がわからない・経験差がある)	61
22	用具・用材の取り扱いが難しい(汚れの対応等)	40
23	筆ペン等、毛筆以外の筆記具の指導も充実させたい	36
24	書塾に通う子どもとそうでない子どもの差が大きい(経験差が大きい)	34
25	毛筆書写の環境(設備)が足りない	14
26	用具・用材の取り扱いが難しい(経済的な面で)	10
要 望		
27	毛筆書写を指導する教員(外部の人材)がほしい	29
28	毛筆書写を日常生活に活用する方法を知りたい(研修等を実施してほしい)	25
29	毛筆書写の指導者を育成してほしい(研修等を実施してほしい)	20
30	毛筆を用いた作品に親しむ機会がほしい	16
31	筆ペン等を使用した指導方法を知りたい	4
32	毛筆書写は学校教育で取り扱う必要はない	3
33	毛筆書写と硬筆書写の関連について知りたい	2
34	学校間(小・中・高)の連携・接続を強化したい	1

【①全国の小学校 分析結果】

▶アンケートの対象とした小学校の性質

これは JA 共済連を通じて全国の全ての小学校を対象にアンケート用紙を配布、回答を得たものである。

▶小学校における毛筆による書写活動について[設問2]

大半の学校で学習指導要領に準じて3年生以上で毛筆書写が行われており、「全学年にわたってある」とした学校も4.0%あった(①)。書写に関する用具用材はおおむね個人で用意しており、家庭に書道具が揃えられている様子がわかる(②)。

書写の授業以外で毛筆を使用する機会としては「書き初め」がもっとも多く、約88%の小学校で取り組んでいた。「長期休暇の宿題」として毛筆書写を課す学校も60%を超える。割合としては小さいが、「学校行事に使用する案内など」「手紙やはがき」「七夕などの年中行事」においても、およそ5%～9%の学校で毛筆を使用していることがわかった(③)。

大半の学校で校外の書道展や書道コンクールを活用しており、前述のような校内における毛筆書写の成果を、学校の枠組みを超えて示そうという意欲が見られる(④)。書道展などの主催者は、自治体や JA 共済を中心に各種書道団体や企業、寺社など多様である。税金や人権、上下水道、選挙など、さまざまな啓蒙・啓発活動に毛筆が用いられていることがわかる(⑥)。

ほぼ全校にわたって校内に毛筆で書かれた文字が掲示されており、児童は教室や廊下、体育館、図書室といった日常的な学校生活の場でそれらを目にしていることがわかる。同時に職員室や校長室、会議室に毛筆で書かれた文字が掲示されている学校が3割を超え、教職員もこうした環境に慣れ親しんでいる(⑦)。

▶書き初めについて[設問3]

90%以上の学校で書き初めを行っており、「学年によって行っている」と回答した学校が70%ほどである。行っていない学校は約7% (⑧)。書き初めを通常授業の中で行う学校が60%ほど、書き初め大会を開催する学校が37%ほどで、書き初めが正規のカリキュラムに組み込まれていたり、特別活動として学校内における教育活動に位置付けられたりしていることがわかる。宿題として課している学校は3割ほどで、中学校と比較すると校内で書き初めを行う学校が多いことがわかる(⑨)。

一方、書き初めを行っていない理由としては、「時間が不足している」が80%超でもっとも多く、指導者の不足を回答した学校も1割ほど見られた。時間と指導者の不足が書き初めを開催できない大きな原因であることがわかる(⑩)。

▶生活文化としての書について[設問4]

小学校教員が日常的に毛筆を使用している児童を目にした割合は24.7%で、年賀状をはじめとする手紙、寄せ書きや七夕などといった季節の行事に毛筆が使用されることが多い(⑪⑫)。教員の9割以上が児童の日常生活に毛筆が定着していないと考え、67%近くが毛筆で書かれた文字も定着していないと回答した(⑬⑭)。これについては、学校生活に毛筆書写が深く浸透している実態が看取されることとのあいだに矛盾が見られる[設問2]。毛筆の文字が定着している場面としては、賞状や行事などの看板といった学校生活の場を回答したものが目立ち、児童の極めて身近な生活環境に毛筆の文字が溶け込んでいる様子がわかる(⑮)。

▶自由記述[設問4]

・現状では、学校における毛筆書写が、さまざまな形で児童の日常生活に生かされているという意見が多く、総合的に目立った回答であった(⑯4, 6, 9, 10, 12)。毛筆の書写が硬筆書写の能力向上にも益しており(⑯3)、児童の興味関心も高く教育的な効果が高いという(⑯2)。一方で、毛筆書写が授業の中だけで完結しており、日常生活には生かされていないという意見も多く見られた(⑯1)。

指導には地域人材を活用している学校もあり(⑯8)、異文化コミュニケーションのツールとしても活用されている(⑯11)。

しかし、日常生活において手書きの機会は減少しており(⑯5)、毛筆への関心が薄らいできていると感じている教員も少なくない(⑯7)。

・教員は日本や東洋の伝統文化として毛筆書写や手書き文化を大切にしたいと考えており、これがこの項で最多の回答であった(⑯15, 17)。毛筆書写が筆順や字形の学習に効果的であると同時に、集中力を高め、落ち着きが得られるといった内面的な効果を強調する意見も目立ち、道徳的な側面においても意義があるという回答が多かった(⑯16, 18, 19)。

・課題としては、時間と指導力との不足が数多く上げられた(⑯20, 21)。その他、墨による汚れへの対応や、毛筆より扱い

が簡便な筆ペンの指導法への関心も高かった(⑩22, 23)。書塾に通う児童とそうでない児童との差が大きいことについても課題として上げられた(⑩24)。音楽や水泳などについても同様の課題が存在するものと想像される。

- 要望としては、毛筆書写のための外部人材の確保や指導者育成(⑩27, 29)、毛筆書写の日常生活への活用法、毛筆の書に親しむ機会の確保(⑩28, 30, 31, 33)などが目立った。

② 全国の中学校

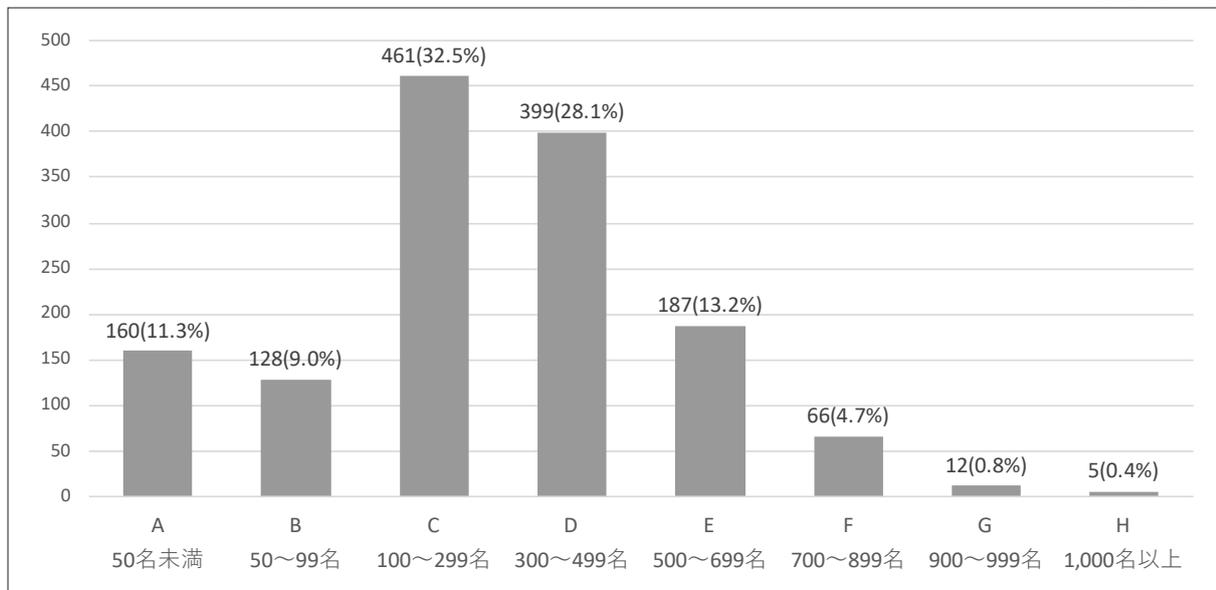
書道文化に関する基礎調査 —アンケート集計結果—

対象：全国の中学校(計1425校)
※中高一貫校を含む

設問1 全校児童数、全校生徒数をお伺いします。

- | | | | |
|------------|------------|------------|------------|
| A 50名未満 | B 50～99名 | C 100～299名 | D 300～499名 |
| E 500～699名 | F 700～899名 | G 900～999名 | H 1,000名以上 |

回答数 1418

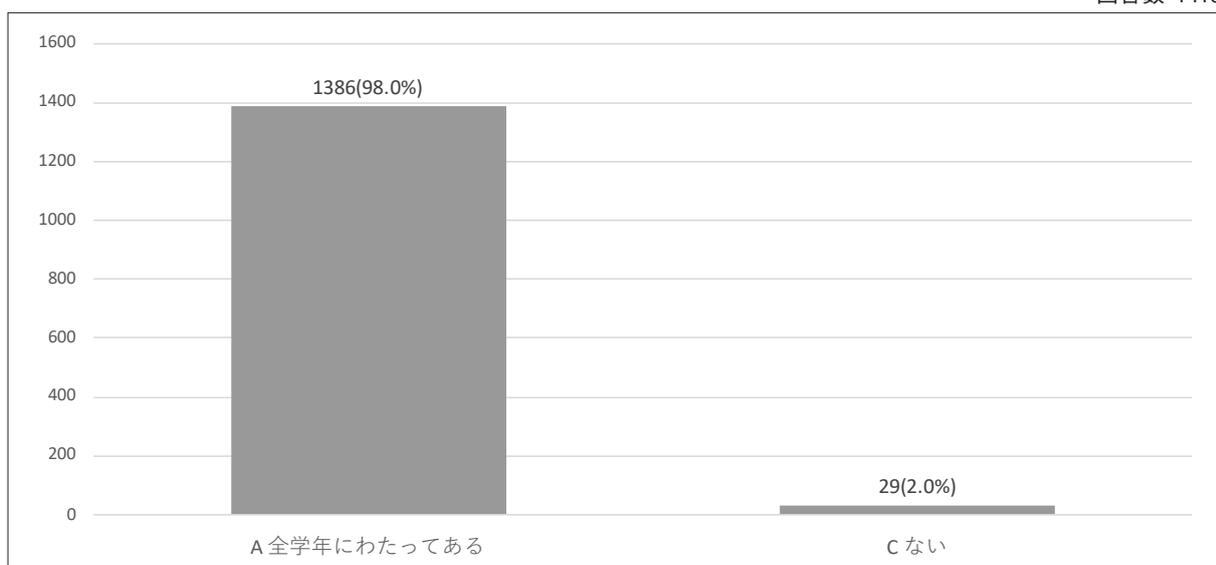


設問2 貴校における毛筆による書写活動についてお伺いします。

① 毛筆で文字を書く機会がありますか。

- | | | |
|--------------|---------------|------|
| A 全学年にわたってある | B 小学校3年生以上である | C ない |
|--------------|---------------|------|

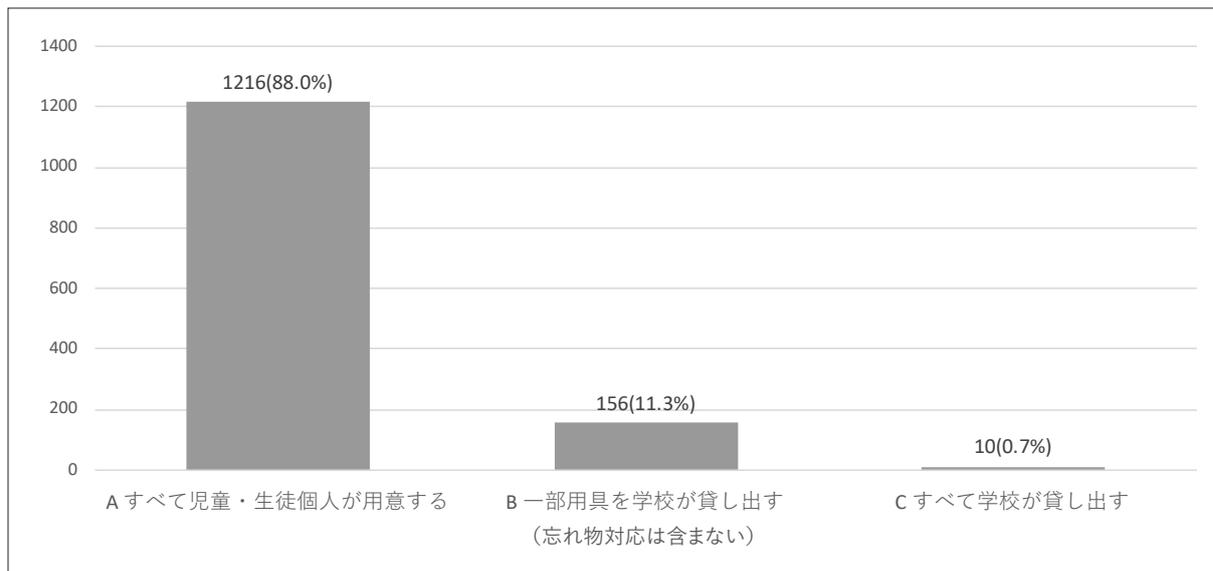
回答数 1415



② ①で「A 全学年にわたってある」、「B 小学校3年生以上である」と回答された方に質問です。
 用具用材はどのように用意していますか。

- A すべて児童・生徒個人が用意する B 一部用具を学校が貸し出す(忘れ物対応は含まない)
 C すべて学校が貸し出す

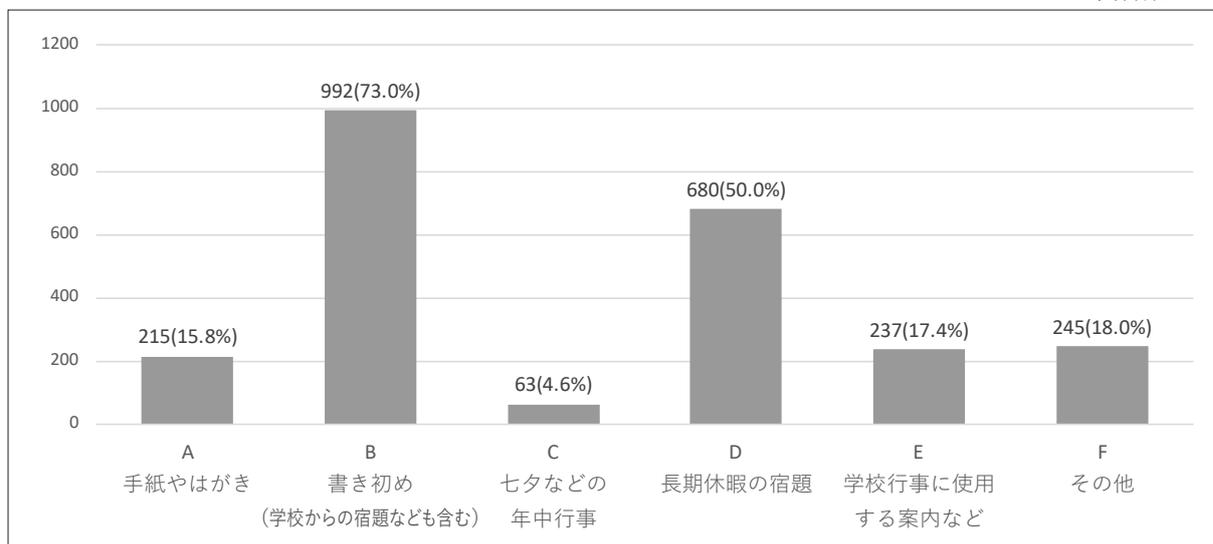
回答数 1382



③ 国語科書写の授業以外で、児童・生徒が毛筆を使用する機会がある場合、どのようなものがありますか。
 (複数回答可)

- A 手紙やはがき B 書き初め(学校からの宿題なども含む) C 七夕などの年中行事
 D 長期休暇の宿題 E 学校行事に使用する案内など
 F その他()

回答数 1359



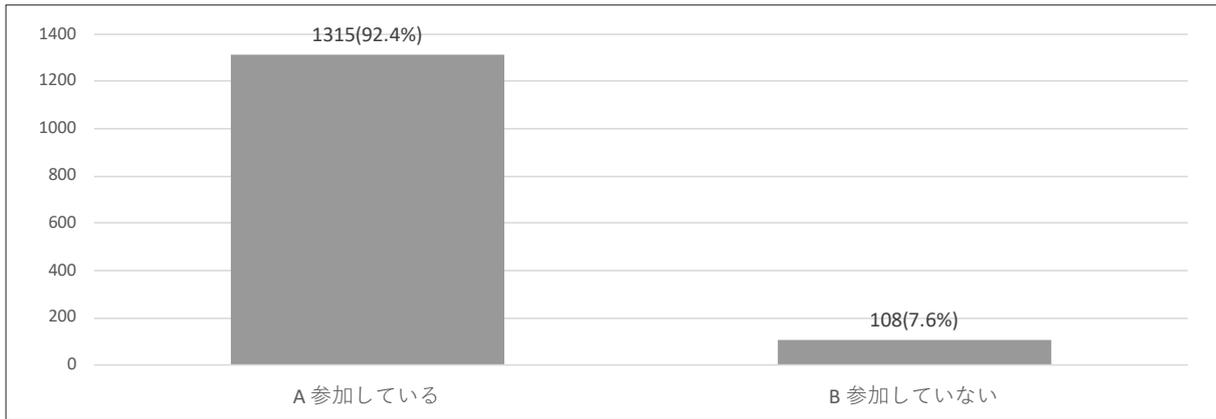
【その他の主な回答】

- ・校内掲示物 ・学校行事におけるプログラム、看板等の掲示物 ・各種コンクール、展覧会への出品
- ・俳句、短歌を書く ・文化祭等の学校行事における作品展示
- ・学校行事としての席書会(席書大会、立志式等での揮毫) ・スローガン、目標を書く
- ・部活動、クラブ活動 ・作品制作

④ 校外の書道展や書道コンクールなどに参加していますか。

- A 参加している B 参加していない

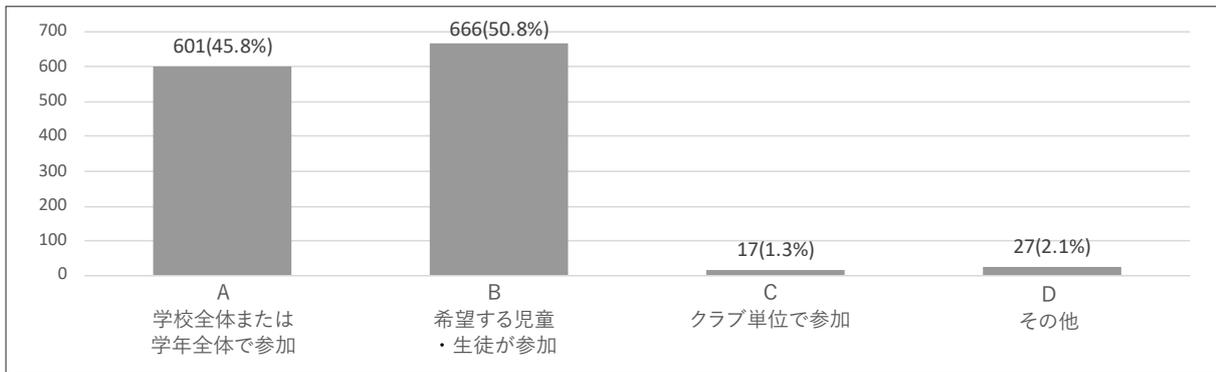
回答数 1423



⑤ ④で「A 参加している」と回答された方に質問です。どのような形態で参加していますか。

- A 学校全体または学年全体で参加 B 希望する児童・生徒が参加 C クラブ単位で参加
D その他()

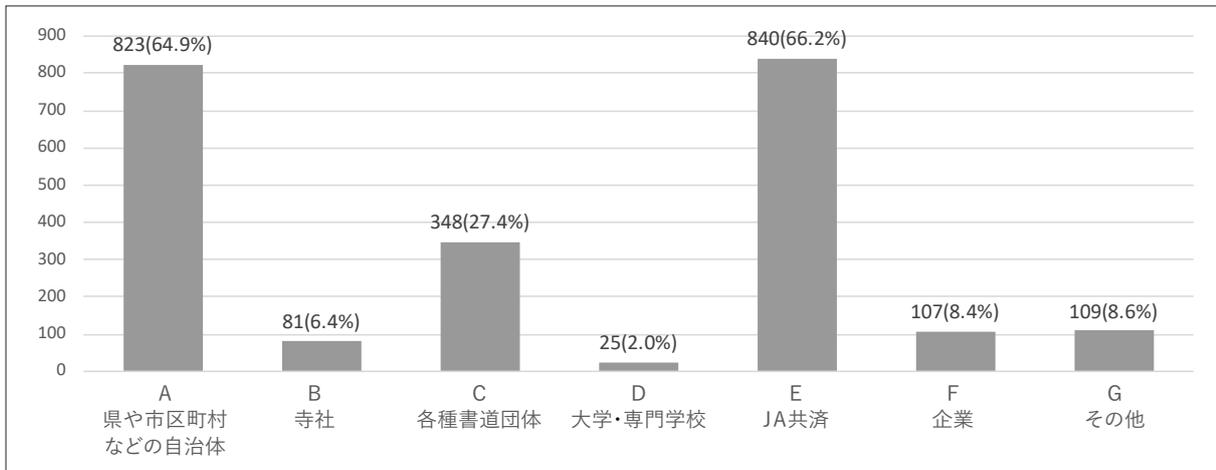
回答数 1311



⑥ ④で「A 参加している」と回答された方に質問です。参加している書道展の主催者をお答えください。また、その書道展の名称を差し支えない範囲でお答えください。(複数回答可)

- A 県や市区町村などの自治体 B 寺社 C 各種書道団体 D 大学・専門学校
E JA共済 F 企業 G その他()

回答数 1269

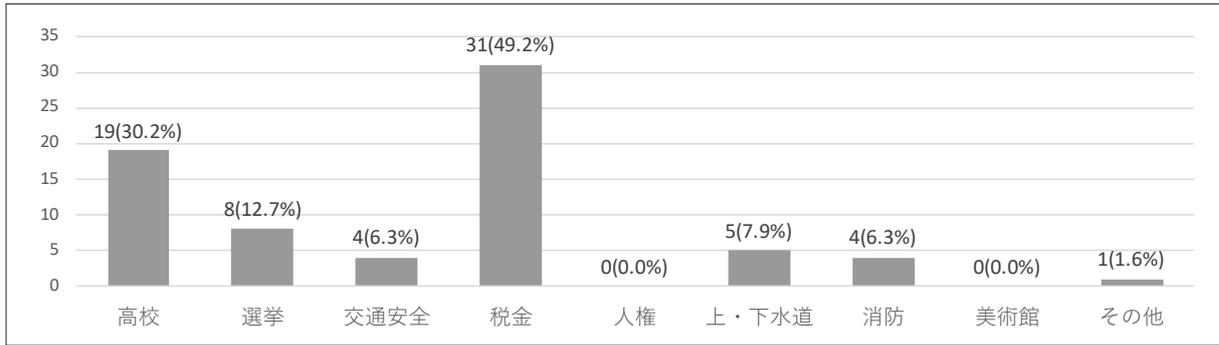


【その他の主な回答】

- ・各種団体(教育研究会等) ・公益法人 ・高校 ・国の行政機関

書道展の名称(書道展主催者・募集内容)

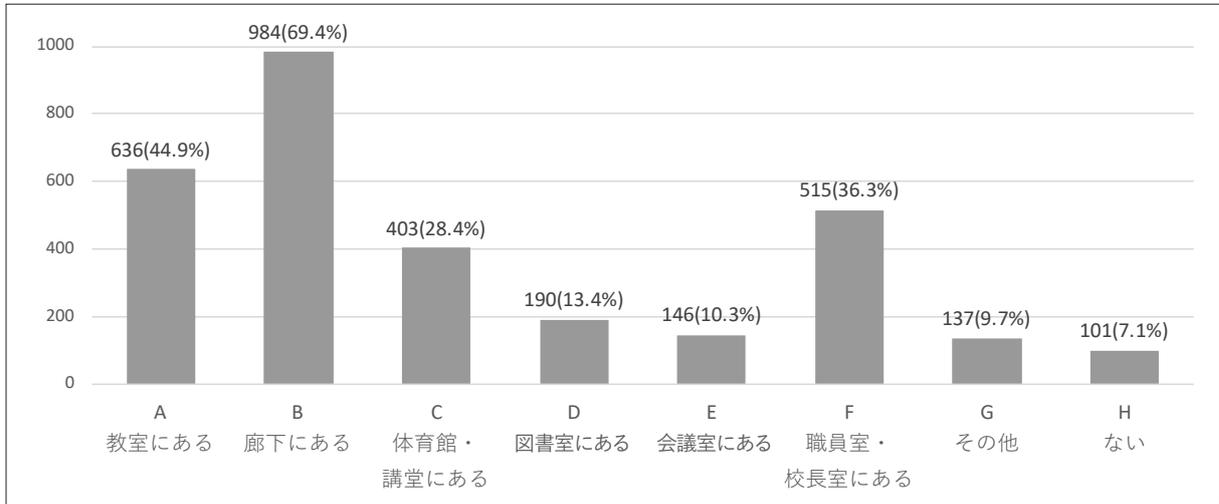
回答数 63



⑦ 校内に毛筆で書かれた文字が掲示されていますか。(複数回答可)

- A 教室にある B 廊下にある C 体育館・講堂にある D 図書室にある
 E 会議室にある F 職員室・校長室にある G その他() H ない

回答数 1418



【その他の主な回答】

- ・玄関にある ・学校行事で掲示している ・特別教室にある ・応接室にある
- ・武道場にある ・食堂にある ・昇降口にある ・オープンスペースにある

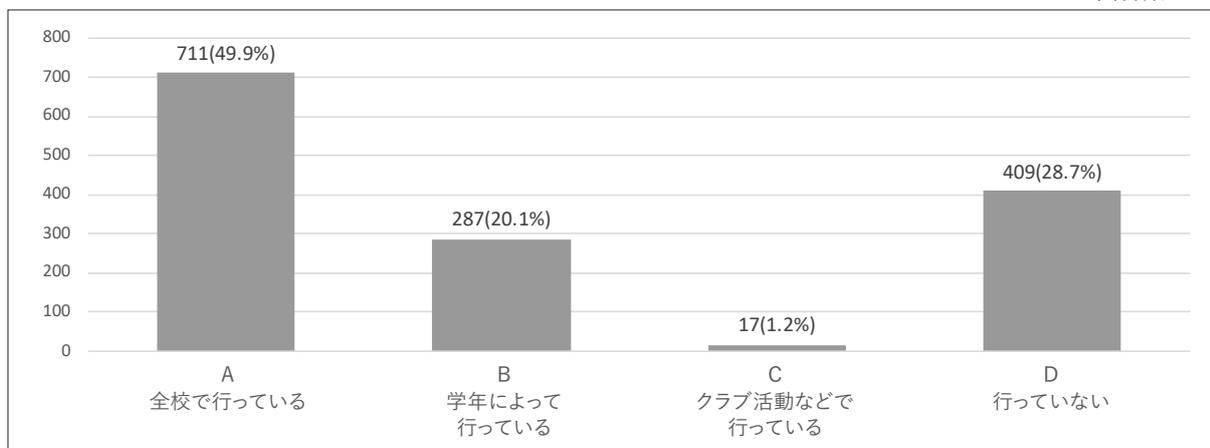
設問3 書き初めについてお伺いします。

書き初めとは、文字の上達を願って新年に初めて文字を書く行為を言いますが、毛筆で書き初め大会や正月のコンクールなどに出品するために書くことなども含めて幅広く捉えてください。

⑧ 学校で毛筆による書き初めを行っていますか。

- A 全校で行っている B 学年によって行っている C クラブ活動などで行っている D 行っていない

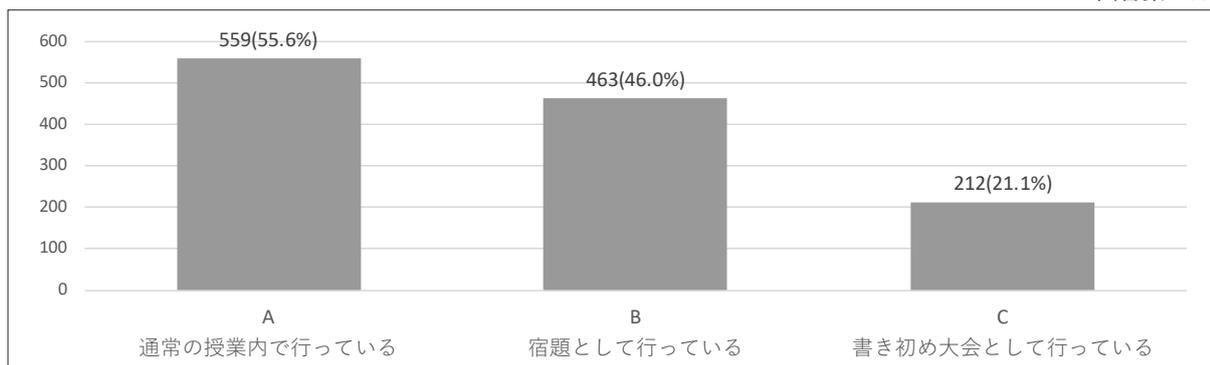
回答数 1424



⑨ ⑧で「A 全校で行っている」、「B 学年によって行っている」、「C クラブ活動などで行っている」と回答された方に質問です。書き初めは、どのように行っていますか。(複数回答可)

- A 通常の授業内で行っている B 宿題として行っている C 書き初め大会として行っている

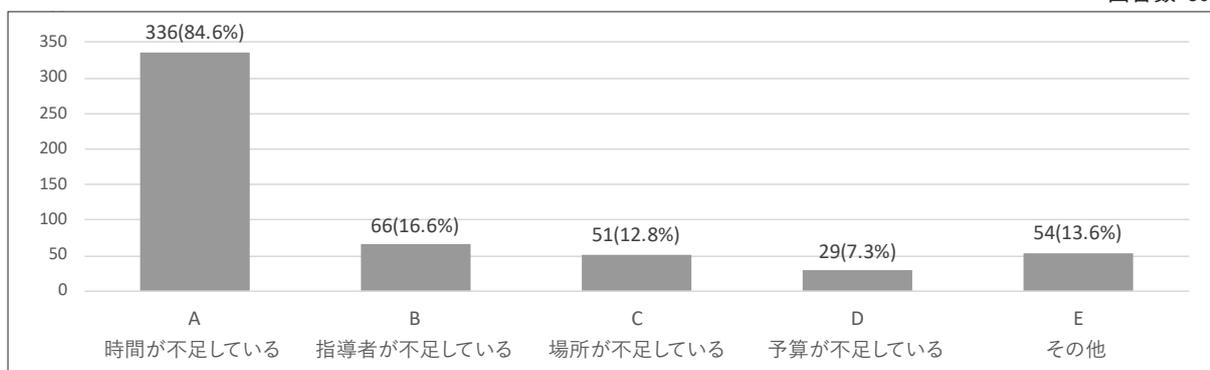
回答数 1006



⑩ ⑧で「D 行っていない」と回答された方に質問です。書き初めを行っていない理由をお教えてください。(複数回答可)

- A 時間が不足している B 指導者が不足している C 場所が不足している
D 予算が不足している E その他()

回答数 397



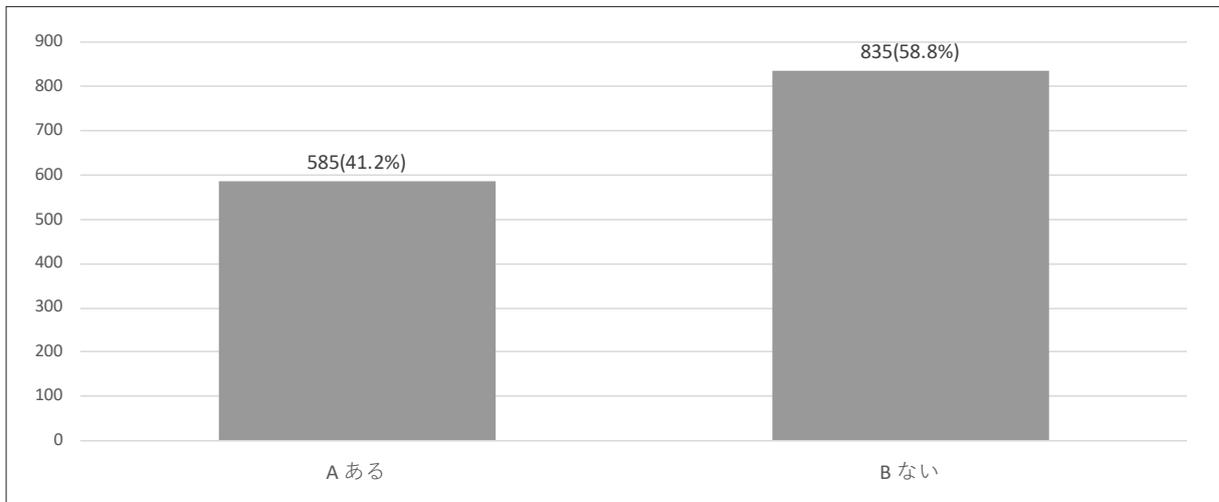
【その他の主な回答】

- ・以前から計画に入れていないため
- ・必要性を感じない
- ・生徒指導上の問題がある

設問4 生活文化としての書についてお伺いします。

- ⑪ 児童・生徒のみなさんが日常生活の中で毛筆(筆ペンを含む)を使用している場面を見聞する機会がありますか。
 A ある B ない

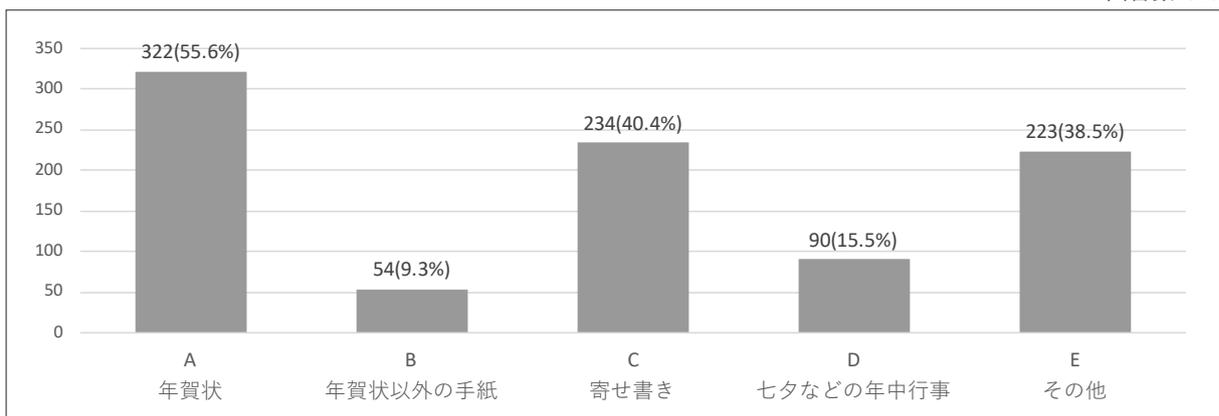
回答数 1420



- ⑫ ⑪で「A ある」と回答した方に質問です。その事例を具体的に教えてください。(複数回答可)

- A 年賀状 B 年賀状以外の手紙 C 寄せ書き D 七夕などの年中行事
 E その他()

回答数 579



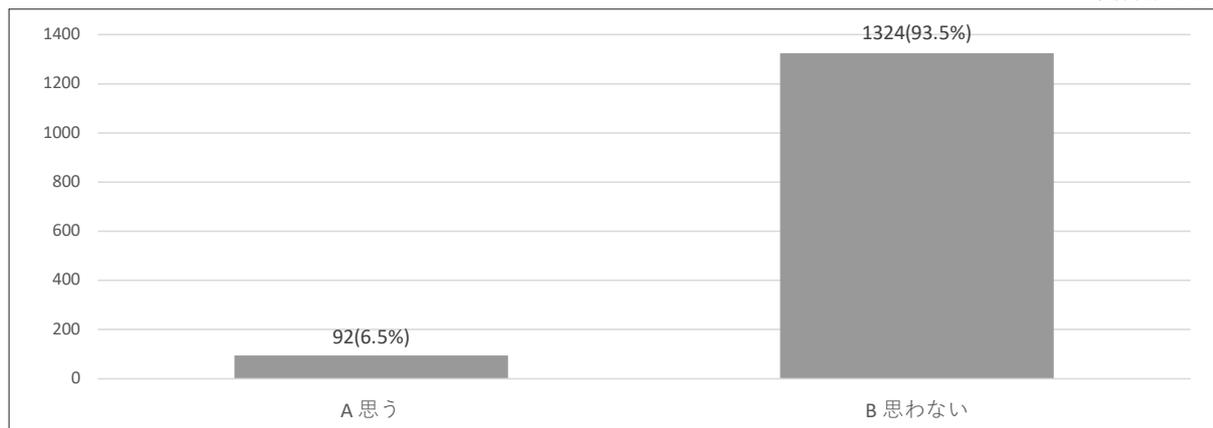
【その他の主な回答】

- ・ 掲示物
- ・ 目標、スローガン
- ・ 短歌、俳句
- ・ 学校行事におけるプログラム、看板等
- ・ 作品制作
- ・ 授業

⑬ 児童・生徒の日常生活に毛筆の使用が定着していると思いますか。

A 思う B 思わない

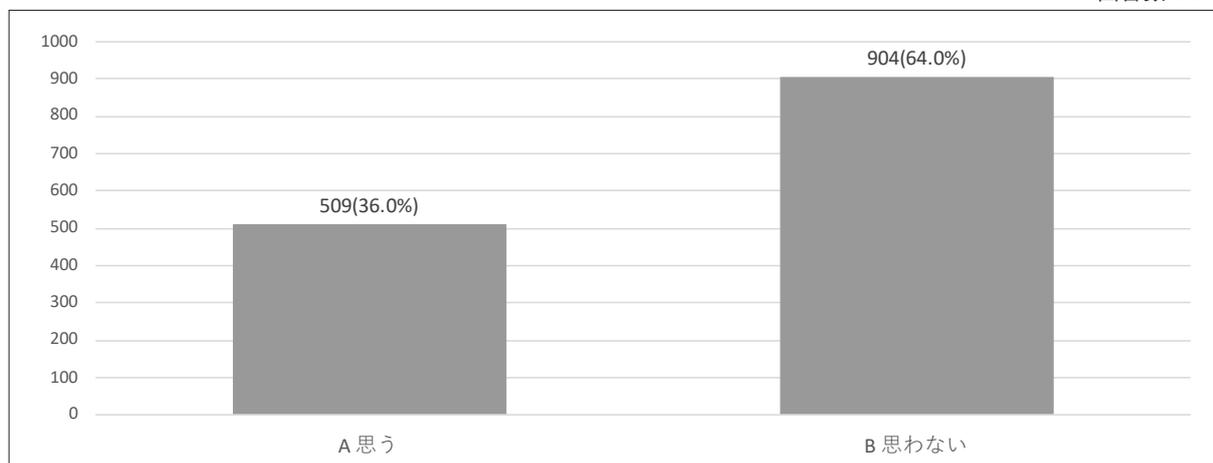
回答数 1416



⑭ 児童・生徒の日常生活に毛筆で書かれた文字が定着していると思いますか。

A 思う B 思わない

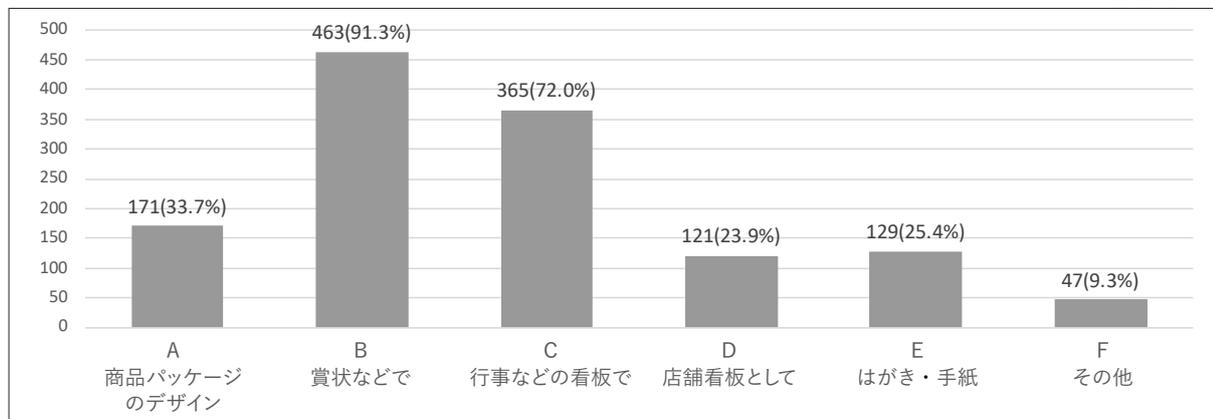
回答数 1413



⑮ ⑭で「A 思う」と回答された方に質問です。具体的にどのような形で毛筆の文字が定着していますか。(複数回答可)

- A 食品などの商品パッケージのデザインとして B 賞状などで
 C 行事などの看板で D 店舗看板として
 E はがき・手紙 F その他()

回答数 507



【その他の主な回答】

- ・掲示物で ・学級通信等のプリントで ・パソコンのフォント ・筆ペンで

- ⑩ 学校教育における毛筆書写が、児童・生徒の日常生活でどのように活かされているか、また、書写・書道教育に対する先生方の思いなど、課題や希望なども含めご自由に記述してください。

現 状		(人)
1	毛筆書写の教育的意義は大きいと思う(生徒の興味・関心が高い)	90
2	毛筆書写は日常生活に活かされていないと思う(毛筆書写は授業内で完結している)	76
3	生徒の日常生活で毛筆書写が活かされていると思う(掲示物等)	74
4	日常生活に手書きをする機会が失われている	43
5	生徒の日常生活で毛筆書写が活かされていると思う(筆ペン)	38
6	毛筆書写に対して関心が薄くなってきている	35
7	生徒の日常生活で毛筆書写が活かされていると思う(3, 5, 9, 12以外)	25
8	毛筆書写によって生徒の書写力が向上していると思う(硬筆書写力の向上)	17
9	生徒の日常生活で毛筆書写が活かされていると思う(手紙・はがき等)	15
10	地域人材(書家等の外部講師)を活用している	12
11	生徒の書写力が低下していると思う	12
12	生徒の日常生活で毛筆書写が活かされていると思う(賞状・名票等の記名)	11
13	異文化交流(外国人との交流)に役立っている	4
14	特になし 特にありません	17
先生の思い		
15	伝統文化(日本文化、東洋文化)として大切にしたい	115
16	手書き文字文化を大切にしていきたい(字が上手でありたい)	113
17	毛筆書写は筆順・字形の理解に効果がある(文字学習としての効果)	79
18	集中力を高めるのに役立つ(精神統一)(落ち着く、静けさ)	53
19	文字は心を込めて書いてほしい(情操教育・道徳教育としての意義)	46
課 題		
20	毛筆書写の時間数が足りない(増やしてほしい)	186
21	教員の指導力(技能)が不足していると思う(指導方法がわからない・経験差がある)	65
22	筆ペン等、毛筆以外の筆記具の指導も充実させたい	40
23	書塾に通う子どもとそうでない子どもの差が大きい(経験差が大きい)	35
24	用具・用材の取り扱いが難しい(汚れの対応等)	29
25	毛筆書写の環境(設備)が足りない	20
26	用具・用材の取り扱いが難しい(経済的な面で)	11
要 望		
27	毛筆書写の指導者を育成してほしい(研修等を実施してほしい)	13
28	毛筆書写を指導する教員(外部の人材)がほしい	8
29	学校間(小・中・高)の連携・接続を強化したい	7
30	毛筆を用いた作品に親しむ機会がほしい	6
31	毛筆書写を日常生活に活用する方法を知りたい(研修等を実施してほしい)	5
32	毛筆書写は学校教育で取り扱う必要はない	3
33	筆ペン等を使用した指導方法を知りたい	1
34	毛筆書写と硬筆書写の関連について知りたい	1

【②全国の中学校 分析結果】

▶ アンケートの対象とした中学校の性質

これはJA 共済連を通じて全国の全ての中学校を対象にアンケート用紙を配布、回答を得たものである。

▶ 中学校における毛筆による書写活動について[設問2]

全学年にわたって毛筆を用いて文字を書く機会があると答えた中学校が大半であり、学習指導要領による学習の枠組みに順って毛筆書写が行われていることがわかった(①)。用具用材は9割近くが生徒自身で用意しており、全て学校側が貸し出すと回答した例は極少数に留まった(②)。各家庭に書道具が備えられていることが理解される。

書写の授業以外で毛筆を使用する機会としては「書き初め」がもっとも多く、7割以上の学校で取り組んでいる。また、およそ5割の学校で長期休暇の宿題として毛筆書写を課している。さらに「学校行事に使用する案内など」「手紙やはがき」など、学校において多様に毛筆が使用されていることがわかる。「七夕などの年中行事」は全体の4%強と小学校と比べると少ないが、中学校におけるこれらの行事の開催自体が少ないものと想像される(③)。

大半の学校で校外の書道展や書道コンクールを活用しており、前記のような校内における学習の成果を、学校の枠組みを超えて広く示そうという意欲が見られる(④)。書道展などは自治体が主催するもの、JA 共済が主催するものなどを中心に、各種書道団体や企業、寺社など、主催者は多様である。税や選挙、交通安全、水道、防災など、多岐にわたる啓発活動や普及活動に毛筆が活用されていることがわかった(⑥)。

90%を超える学校で、校内に毛筆で書かれた文字が掲示されており、廊下や教室、体育館、講堂といった日常的な学校生活のいたるところで生徒たちが毛筆の文字に親しんでいることがわかる。同時に、職員室や校長室などに毛筆の文字がある学校が3割ほど見られ、教職員もこうした環境を共有している(⑦)。

▶ 書き初めについて[設問3]

書き初めを行う学校は全体の70%超。このうち、全校生徒が参加する学校が約半数に上る(⑧)。書き初めを通常授業の中で行う学校が55%超、書き初め大会を設けている学校も20%強あった。宿題として課す学校が46%である(⑨)。

一方で、書き初めを行っていない理由は「時間が不足している」が85%ほどでその主たる原因である。指導者、場所、予算などの不足と合わせて、書き初めを行うための環境が整わない学校があることもわかる(⑩)。

▶ 生活文化としての書について[設問4]

中学校教員が日常的に毛筆を使用している生徒を目にした割合は4割程度で、年賀状や寄せ書き、七夕といった季節の行事に毛筆が使用される機会が多いことがわかる(⑪⑫)。教員の9割以上は毛筆の使用が生徒の日常生活に定着していないと考え、毛筆で書かれた文字についても64%が定着していないと回答した(⑬⑭)。これについて、設問2からは学校生活に毛筆書写が深く浸透している実態が看取され、この項とのあいだに矛盾が見られる。一方で、賞状や各種行事の看板、商品パッケージなど、生徒の生活環境に極めて近いところに毛筆の文字があることを回答する教員も多い(⑮)。

▶ 自由記述[設問4]

- ・現状では、毛筆に対する生徒の興味関心が高く、書写能力の向上にも益しておりその教育的な意義を高く位置付けている(⑯1)。掲示物や筆ペンによる書写などによって、毛筆書写は生徒の日常生活に一定の形で息づいており、実用的な役割を担っている(⑯3, 5, 7, 9)。一方で、授業のなかで毛筆書写が完結して、実生活に活かされていないという意見も目立つ(⑯2)。毛筆を用いる機会の減少や能力の低下、冒頭の回答とは反対に関心の希薄化を指摘する意見も少なくない(⑯4, 6, 11)。
- ・教員の多くが日本や東洋の伝統文化として毛筆書写を大切にしたい、手書き文字文化を大切にしたいと考えている(⑯15, 16)。筆順や字形理解のための重要なツールと考えると同時に、集中力の涵養や落ち着きを持たせるといった情操的な側面における効果を高く評価する回答も数多く見られた(⑯17, 18, 19)。
- ・課題としては、毛筆書写のための時間の不足を上げる回答が多く、群を抜いていた(⑯20)。必要を感じながら指導の時間を確保できない現状が垣間見られる。教員の指導力の養成も課題であり、用具用材の扱いや実生活との関連の観点から筆ペンの指導を充実させたいという意見も多かった(⑯21, 22, 24)。書道塾などに通う生徒とそうでない生徒との間の差に戸惑う声もあり、社会教育における効果の大きさを裏付ける面がある(⑯23)。

- ・要望でもっとも多かったのは指導者育成や人材確保に関する問題だった(⑩27, 28)。毛筆で書かれた作品鑑賞の機会の確保や、実生活に毛筆を活かすための方法を学びたいという意見があった(⑩30, 31, 33)。

③ 全国の高等学校・大学

書道文化に関する基礎調査

アンケート用紙（２枚）を、平成３０年６月１５日（金）までにＦＡＸにてご返送ください。
 ＦＡＸをお持ちでない方は、第２３回「全日本高校・大学生書道展」の応募作品送付の際に、
 アンケート用紙を同封してください。

日本書道ユネスコ登録推進協議会 ＦＡＸ． ０６－６９４５－４５０５
 （公益社団法人 日本書芸院 事務局）

学校名 【 立 】
 ご記入者の役職・氏名 【 】【 】
 学校の電話番号 【 ー ー 】

※恐れ入りますが、学校名、氏名、電話番号はご記入いただきますようお願いいたします。

対象 / 高等学校（書道担当教員、書道部員、書道選択者）・大学（書道部員、書道関係専攻者）
 回答方法 / 該当するアルファベットに○印をつけてください。

設問１ 構成員数（部員・選択者・学科・専攻などの人数）をお伺いします。

- A １～１９名 B ２０～３９名 C ４０～５９名 D ６０～７９名
 E ８０～９９名 F １００～１４９名 G １５０～１９９名 H ２００～２４９名
 I ２５０～２９９名 J ３００名以上

設問２ 毛筆による書道活動についてお伺いします。

- ① 作品制作以外に年間を通して毛筆で文字を書く機会がありますか。
 A ある B ない
- ② ①で「A ある」と回答された方に質問です。具体的にどのような機会がありますか。複数回答可。
 A 授業 B 書き初め C 学校祭・文化祭 D 七夕などの年中行事
 E はがき・手紙 F その他（ ）
- ③ 書道展を開催していますか。
 A 開催している B 開催していない
- ④ 校外の書道展などに参加していますか。
 A 参加している B 参加していない
- ⑤ ④で「A 参加している」と回答された方に質問です。
 参加している書道展の主催者をお答えください。また、その書道展の名称を差し支えない範囲
 でお答えください。
 A 県や市区町村などの自治体 B 寺社 C 各種書道団体
 D 大学・専門学校 E 企業 F その他（ ）

書道展の名称

- ⑥ 校内に毛筆で書かれた文字が掲示されていますか。複数回答可。
 A 教室にある B 廊下にある C 体育館・講堂にある D 図書館にある
 E 会議室にある F 研究室にある G その他（ ） H ない

学校名 【 立 】

※お手数ですが、こちらの2枚目にも、必ず学校名をご記入ください。

⑦ 書道部などで校外のイベント（祭礼や文化行事）に参加する機会がありますか。

A ある B ない

⑧ ⑦で「A ある」と回答された方に質問です。どのようなイベントに参加していますか。

また、具体的にその内容を記入してください。複数回答可。

A 市町村などの自治体が主催するイベント B 企業や法人が主催するイベント
C 寺社が主催するイベント D その他（ ）

内容

⑨ 書道部などで書を通したボランティア活動を行ったことがありますか。

ある場合にはその内容を回答してください。複数回答可。

A 幼稚園や保育園における指導 B 障害者施設における指導
C 高齢者施設における指導 D 書道展で併催されるワークショップ
E その他（ ） F ない

設問3 生活文化としての書についてお伺いします。

⑩ 学校に在籍するみなさんの日常的な生活のなかで、毛筆（筆ペンを含む）を使用している場面を見聞する機会がありますか。

A ある B ない

⑪ ⑩で「A ある」と回答した方に質問です。その事例を具体的に教えてください。複数回答可。

A 年賀状 B 年賀状以外の手紙 C 寄せ書き D 七夕などの年中行事
E 芳名録 F のし紙・のし袋 G その他（ ）

⑫ みなさんの日常生活に毛筆の使用が定着していると思いますか。

A 思う B 思わない

⑬ 日常生活に毛筆で書かれた文字が定着していると思いますか。

A 思う B 思わない

⑭ ⑬で「A 思う」と回答された方に質問です。

具体的にどのような形で毛筆の文字が定着していますか。複数回答可。

A 食品などの商品パッケージのデザインとして B 賞状などで C 行事などの看板で
D 店舗看板として E はがき・手紙
F その他（ ）

⑮ 毛筆で書かれた文字や毛筆体のフォント、また、毛筆を使用することや学校で書を学ぶ（触れる）ことなどは、みなさんの日常生活にどう影響している（影響していく）と思いますか。

課題や希望なども含めご自由に記述してください。

ご協力ありがとうございました。

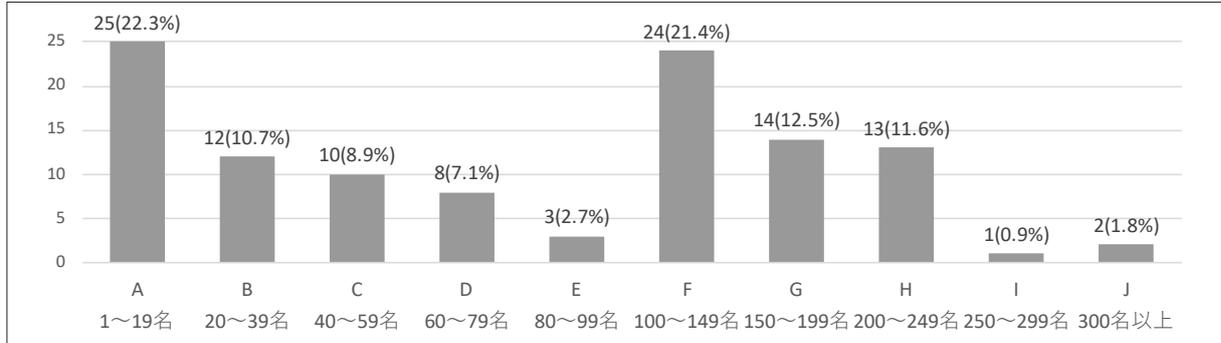
書道文化に関する基礎調査 —アンケート集計結果—

対象：高等学校・大学(計117名)

設問1 構成員数(部員・選択者・学科・専攻などの人数)をお伺いします。

- A 1～19名 B 20～39名 C 40～59名 D 60～79名 E 80～99名
F 100～149名 G 150～199名 H 200～249名 I 250～299名 J 300名以上

回答数 112

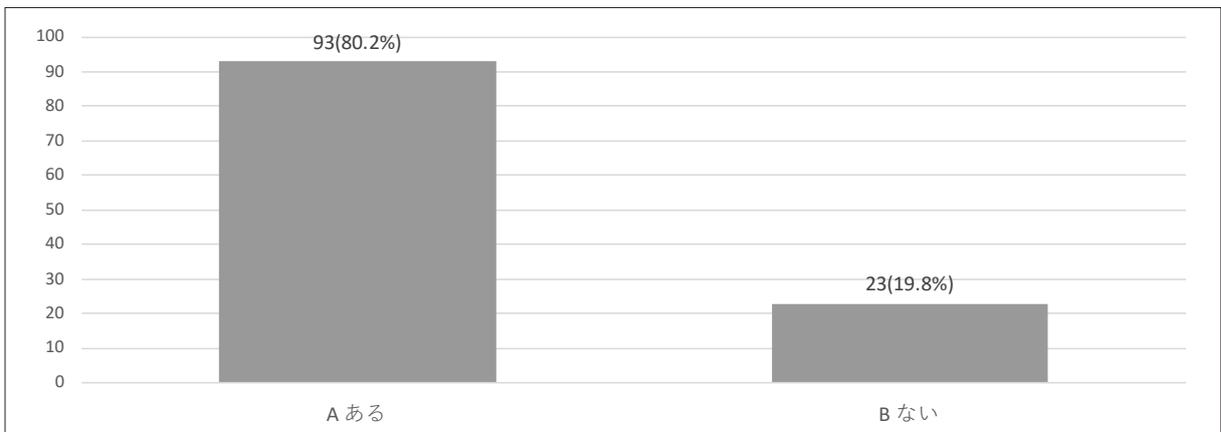


設問2 毛筆による書道活動についてお伺いします。

- ① 作品制作以外に年間を通して毛筆で文字を書く機会がありますか。

- A ある B ない

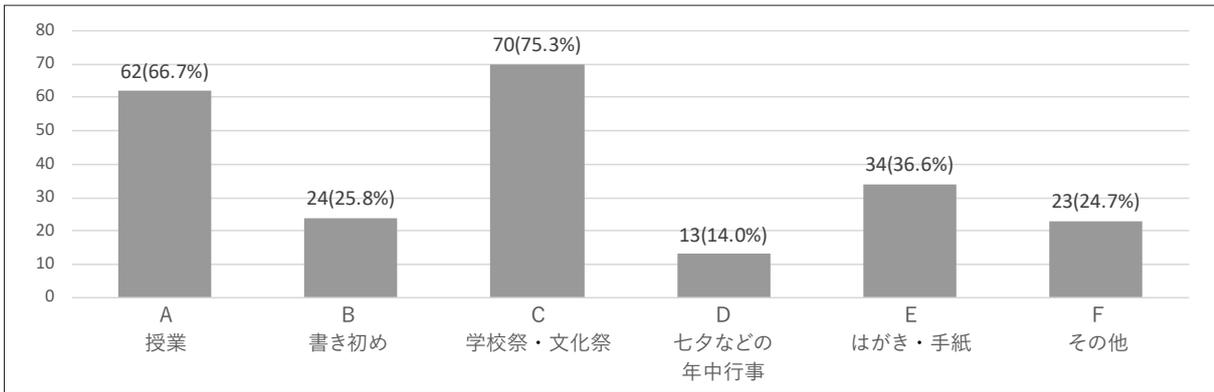
回答数 116



② ①で「A ある」と回答された方に質問です。具体的にどのような機会がありますか。(複数回答可)

- A 授業 B 書き初め C 学校祭・文化祭 D 七夕などの年中行事
E はがき・手紙 F その他()

回答数 93



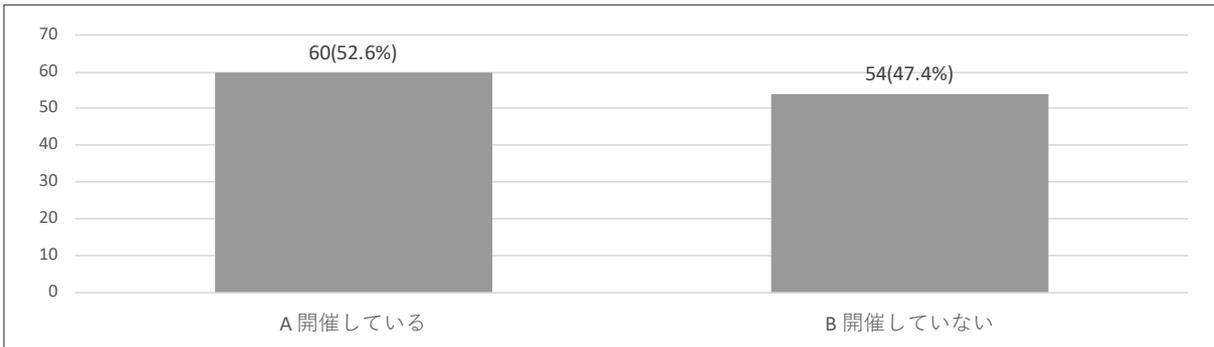
【その他の主な回答】

- ・書道パフォーマンス(地域の祭り、商業施設、学校説明会など) ・掲示物
- ・年賀状、賞状 ・競書、展覧会出品

③ 書道展を開催していますか。

- A 開催している B 開催していない

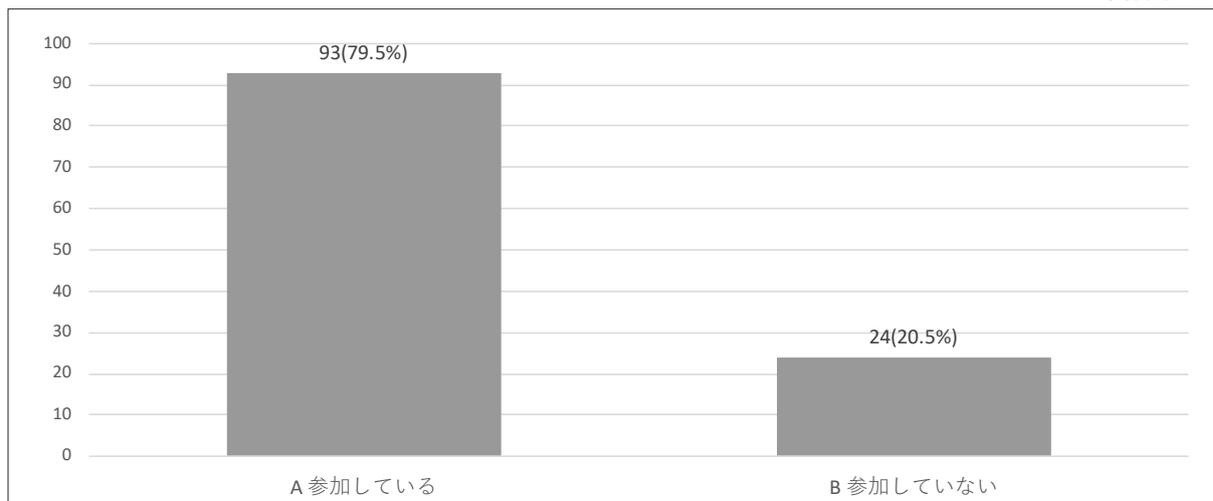
回答数 114



④ 校外の書道展などに参加していますか。

A 参加している B 参加していない

回答数 117

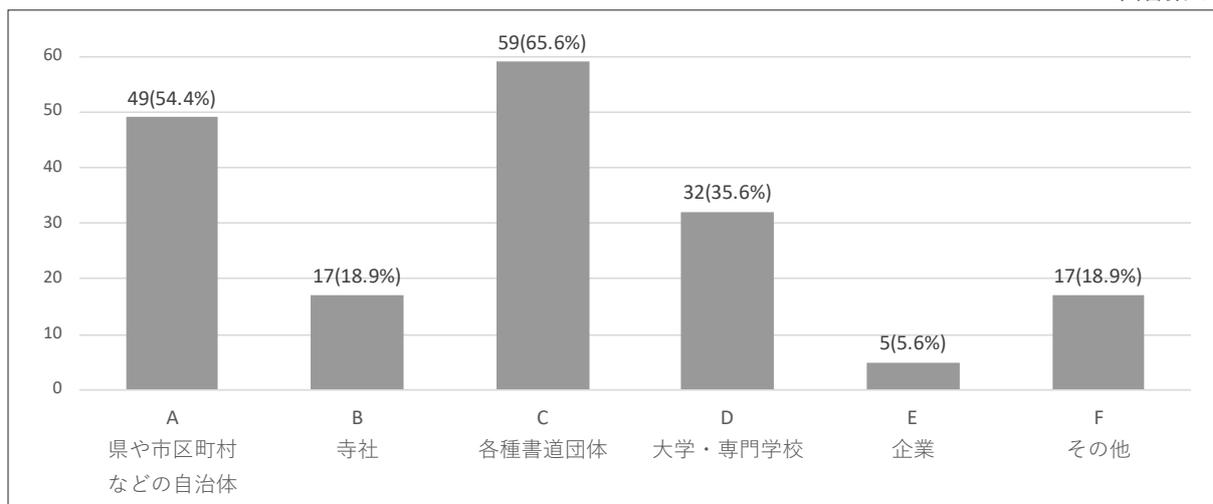


⑤ ④で「A 参加している」と回答された方に質問です。

参加している書道展の主催者をお答えください。また、その書道展の名称を差し支えない範囲でお答えください。
(複数回答可)

A 県や市区町村などの自治体 B 寺社 C 各種書道団体
D 大学・専門学校 E 企業 F その他()

回答数 90



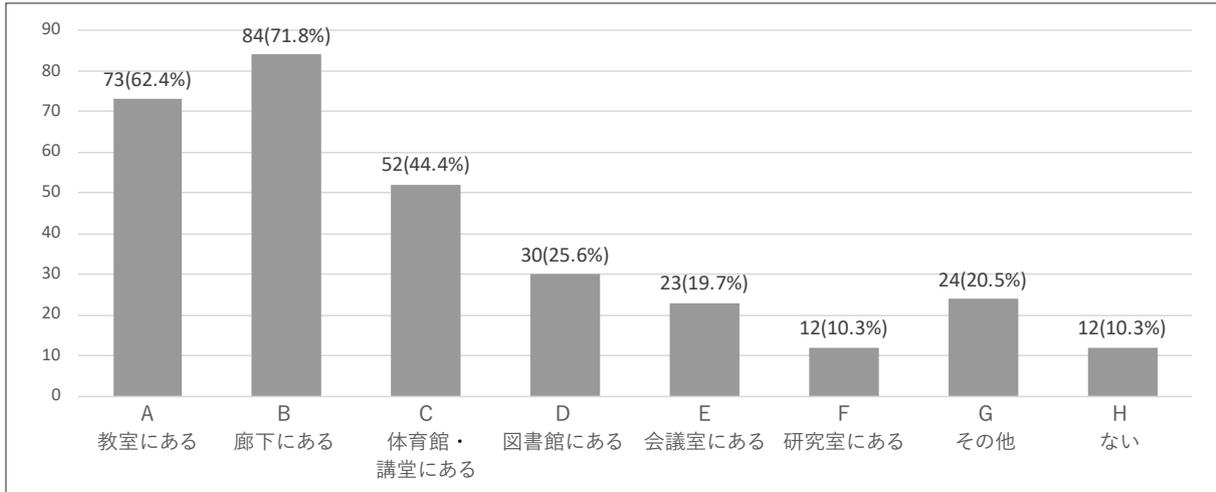
【その他の主な回答】

・高等学校総合文化祭 ・書道の教員展 ・地区、近隣高校との合同展

⑥ 校内に毛筆で書かれた文字が掲示されていますか。(複数回答可)

- A 教室にある B 廊下にある C 体育館・講堂にある D 図書館にある
 E 会議室にある F 研究室にある G その他() H ない

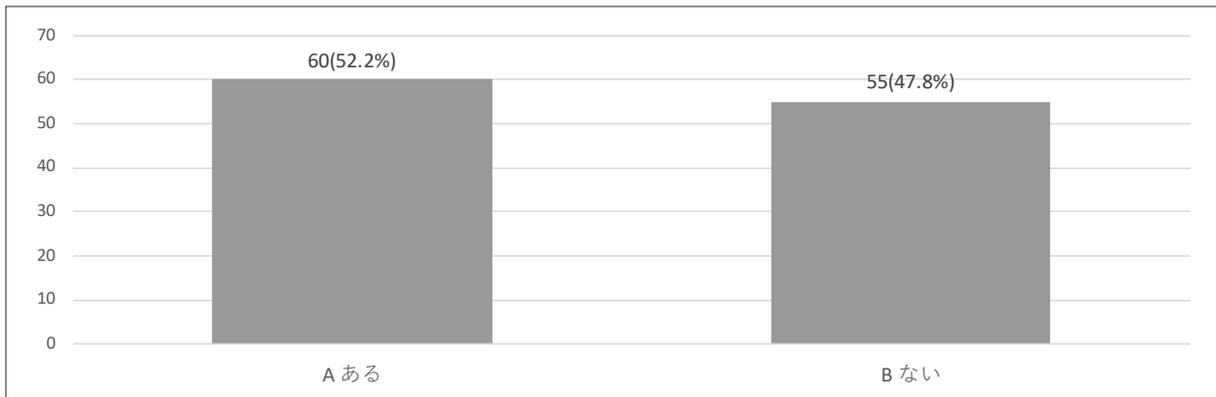
回答数 117



⑦ 書道部などで校外のイベント(祭礼や文化行事)に参加する機会がありますか。

- A ある B ない

回答数 115

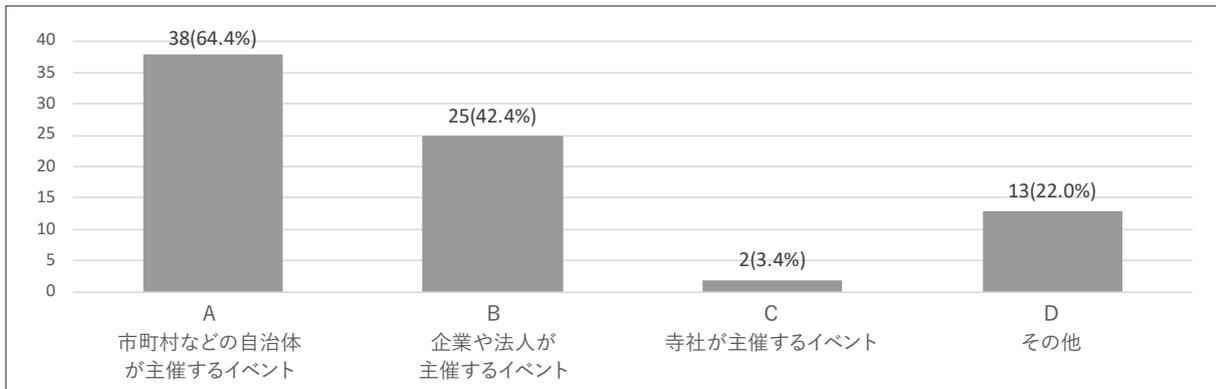


⑧ ⑦で「A ある」と回答された方に質問です。どのようなイベントに参加していますか。

また、具体的にその内容を記入してください。(複数回答可)

- A 市町村などの自治体が主催するイベント B 企業や法人が主催するイベント
 C 寺社が主催するイベント D その他()

回答数 59



【その他の主な回答】

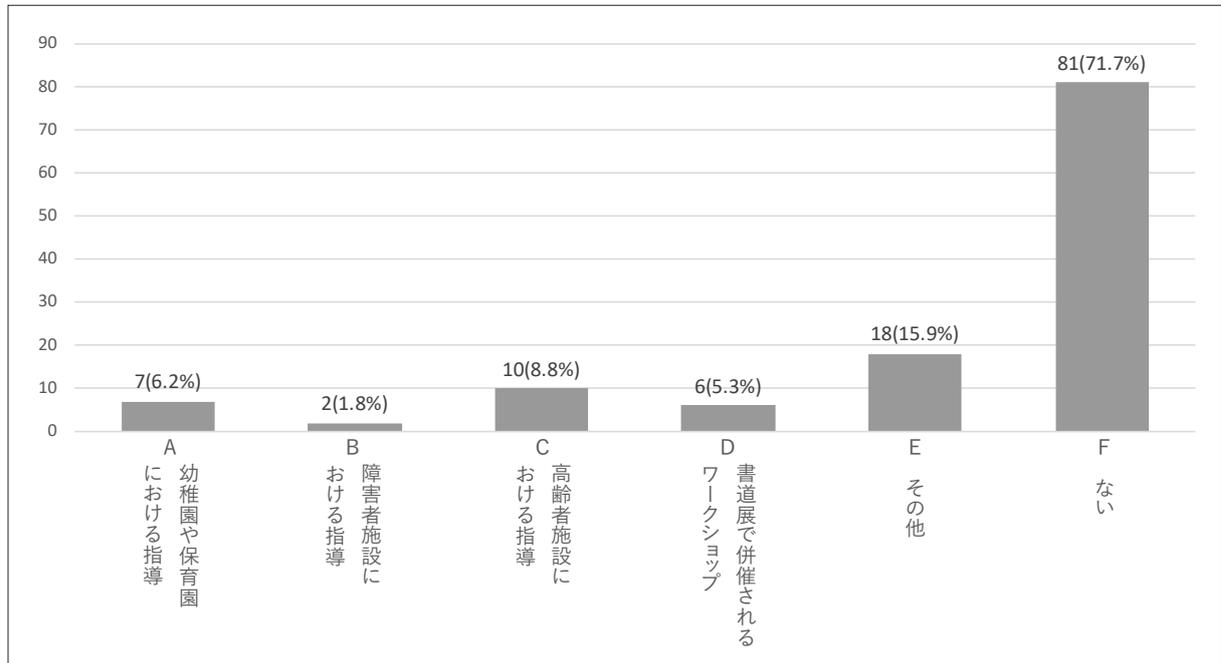
- ・パフォーマンス
- ・学校のイベント
- ・学校と地域共催のイベント
- ・老人施設

⑨ 書道部などで書を通したボランティア活動を行ったことがありますか。

ある場合にはその内容を回答してください。(複数回答可)

- A 幼稚園や保育園における指導
- B 障害者施設における指導
- C 高齢者施設における指導
- D 書道展で併催されるワークショップ
- E その他()
- F ない

回答数 113

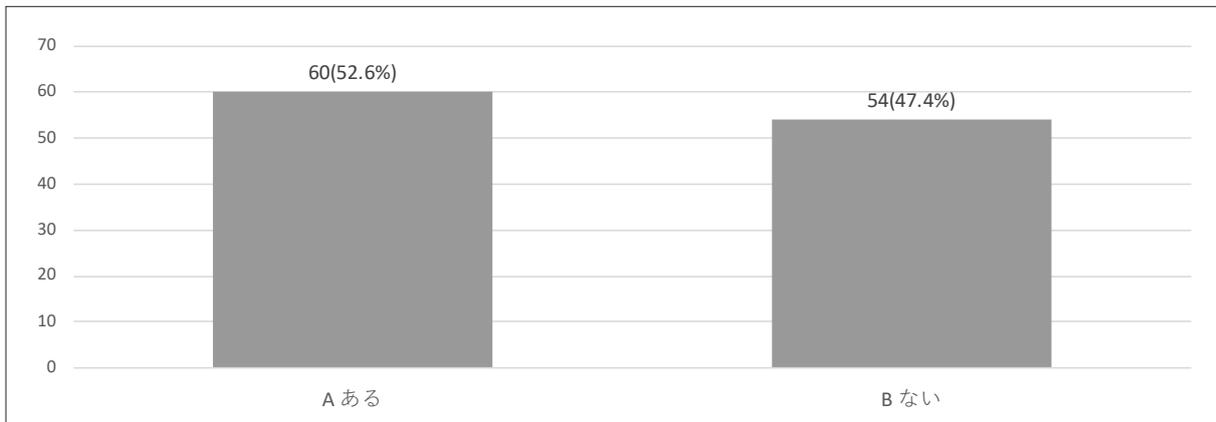


設問3 生活文化としての書についてお伺いします。

⑩ 学校に在籍するみなさんの日常生活のなかで、毛筆(筆ペンを含む)を使用している場面を見聞する機会がありますか。

A ある B ない

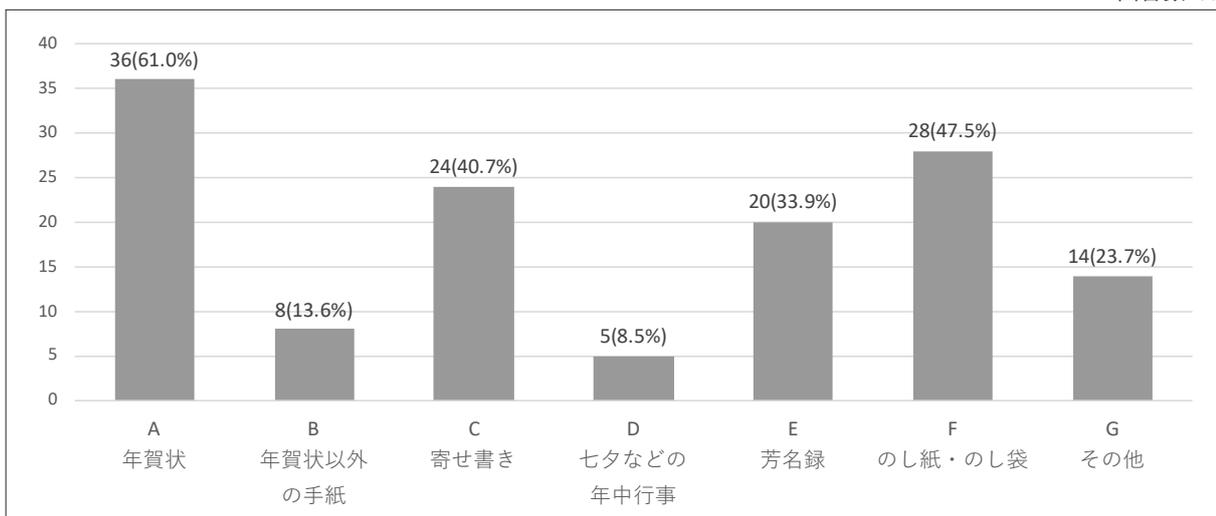
回答数 114



⑪ ⑩で「A ある」と回答した方に質問です。その事例を具体的に教えてください。(複数回答可)

A 年賀状 B 年賀状以外の手紙 C 寄せ書き D 七夕などの年中行事
E 芳名録 F のし紙・のし袋 G その他()

回答数 59



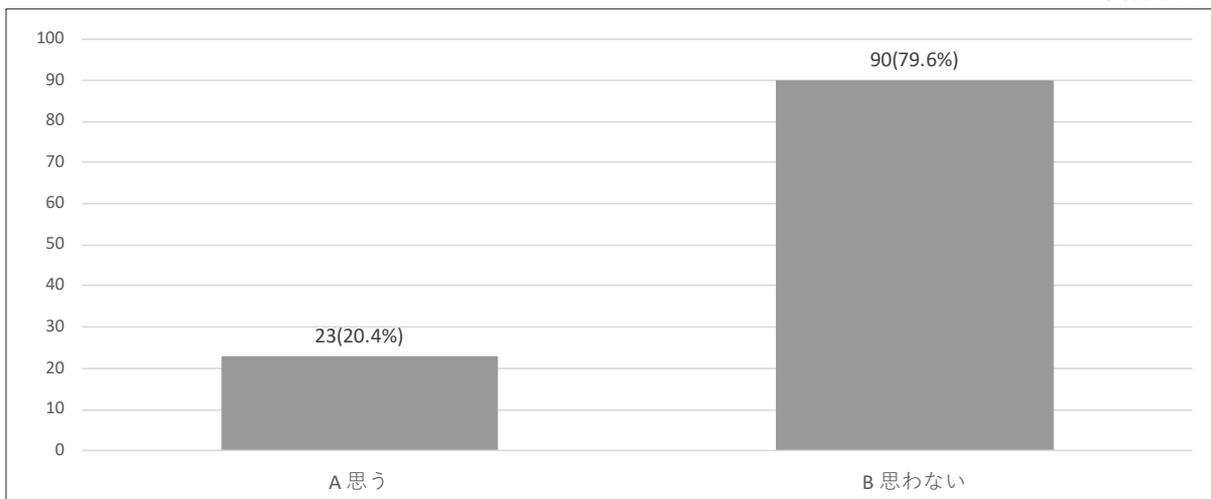
【その他の主な回答】

- ・掲示板
- ・体育祭、文化祭のクラス T シャツ、応援旗
- ・書道の作品制作
- ・文化祭での書道パフォーマンス

⑫ みなさんの日常生活に毛筆の使用が定着していると思いますか。

A 思う B 思わない

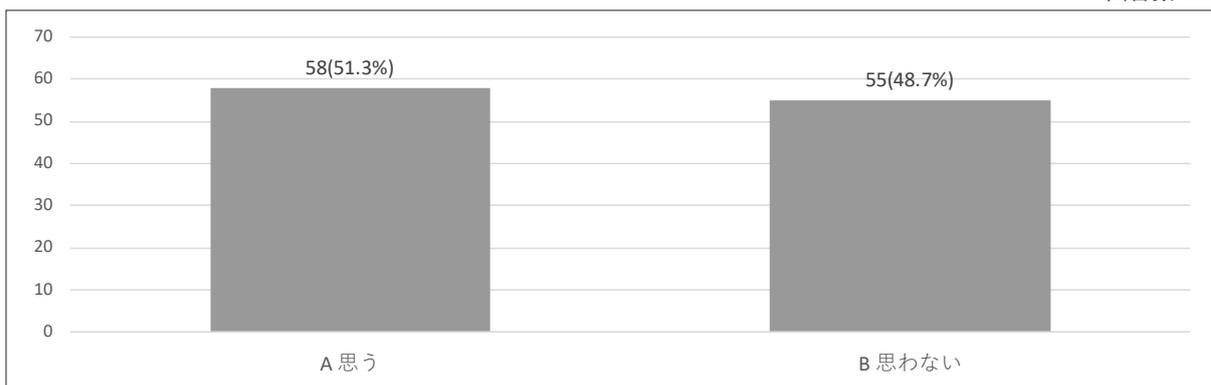
回答数 113



⑬ 日常生活に毛筆で書かれた文字が定着していると思いますか。

A 思う B 思わない

回答数 113

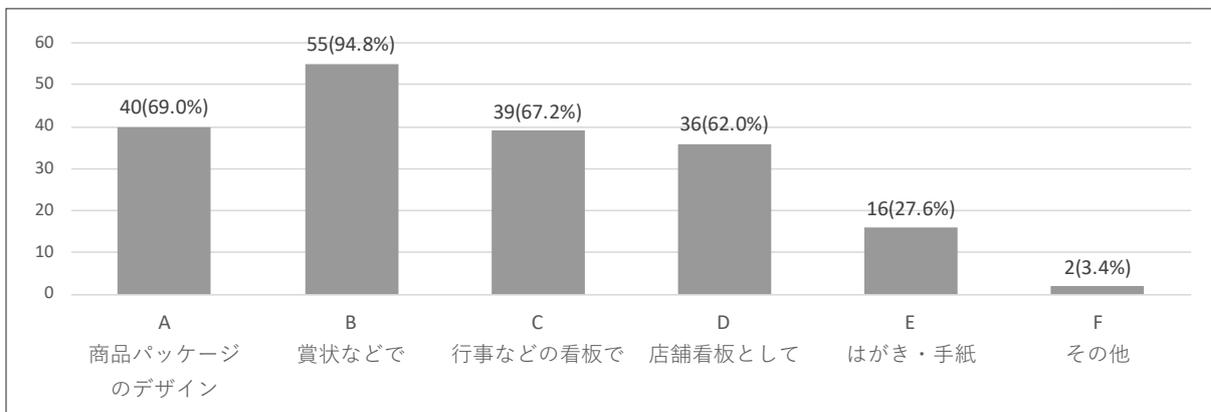


⑭ ⑬で「A 思う」と回答された方に質問です。

具体的にどのような形で毛筆の文字が定着していますか。(複数回答可)

A 食品などの商品パッケージのデザインとして B 賞状などで C 行事などの看板で
D 店舗看板として E はがき・手紙 F その他()

回答数 58



- ⑮ 毛筆で書かれた文字や毛筆体のフォント、また、毛筆を使用することや学校で書を学ぶ(触れる)ことなどは、みなさんの日常生活にどう影響している(影響していく)と思いますか。
課題や希望なども含めご自由に記述してください。

現 状		(人)
1	毛筆の書の教育的意義は大きいと思う(生徒・学生の興味・関心が高い)	23
2	日常生活に手書きをする機会が失われている	7
3	生徒・学生の日常生活で毛筆の書が活かされていると思う(5以外)	6
4	毛筆の書によって生徒・学生の書写力が向上していると思う(硬筆書写力の向上)	5
5	生徒・学生の日常生活で毛筆の書が活かされていると思う(掲示物等)	4
6	毛筆の書に対して関心が薄くなってきている	2
7	地域人材(書家等の外部講師)を活用している	1
8	異文化交流(外国人との交流)に役立っている	1
9	毛筆の書は日常生活に活かされていないと思う(毛筆の書は授業内で完結している)	1
10	特になし 特にありません	7
思 い		
11	手書き文字文化を大切にしていきたい(字が上手でありたい)	23
12	伝統文化(日本文化、東洋文化)として大切にしたい	20
13	集中力を高めるのに役立つ(精神統一)(落ち着く、静けさ)	11
14	文字は心を込めて書いてほしい(情操教育・道徳教育としての意義)	7
15	毛筆の書は筆順・字形の理解に効果がある(文字学習としての効果)	5
課 題		
16	毛筆の書の時間数が足りない(増やしてほしい)	6
17	教員の指導力(技能)が不足していると思う(指導方法がわからない・経験差がある)	2
要 望		
18	毛筆の書を指導する教員(外部の人材)がほしい	1
19	毛筆の書を日常生活に活用する方法が知りたい(研修等を実施してほしい)	1

【③全国の高等学校・大学 分析結果】

▶ アンケート対象とした高校・大学の性質 [設問1]

このアンケートは日本書芸院を通じて配布した全国の高校・大学(短大・大学院を含む)に回答を求めたものである。高校の書道科教諭や大学の書道部員など教員と学生の回答が混在しており、小・中学校のように必ずしも教員による回答ではない。また、回答の大半は、書道の選択授業や書道部、書道専攻などがある高校・大学から寄せられたものである。

▶ 毛筆による書道活動について [設問2]

作品制作以外に毛筆で文字を書く機会があると回答した学校が80%超で、授業や学校祭・文化祭といった学校内での活動が多く、はがきや手紙がこれに次いだ。書き初めは26%ほどに留まり、学校や学年などで包括的に取り組む小学校や中学校ほどは多くはない(①②)。書道展を開催していると回答した学校が半数を超えるとともに、校外の書道展への出品も8割近くに上る(③④)。出品する展覧会の主催者は、自治体に並んで各種書道団体が多いことが小中学校とは異なる点である(⑤)。制作した作品を披露する場を積極的に求め、より高度な評価を望んでいるものと考えられる。

毛筆で書かれた文字が掲示されている学校が約90%で、小中学校と同様に日常的に毛筆の文字を目にしながら学生生活を過ごしていることがわかる(⑥)。書道部などで校外のイベントに参加することがあると回答した学校が約52%で、自治体や企業・法人などの求めに応じて各種のイベントに参加している(⑦⑧)。また、実数は少ないが、幼稚園や保育園、高齢者施設などにおけるボランティア活動を展開する集団も見られ(⑨)、毛筆を通じて校外の人たちと交流が行われている様子がわかる。

▶ 生活文化としての書について [設問3]

学生・生徒が日常生活において毛筆を使用する場面があると回答した学校がない学校を上回り、書道部などで筆に親しんでいる者にとっては毛筆の使用が身近である様子が見られる(⑩)。なかでも年賀状やのし紙・のし袋、芳名録のように、一般生活において毛筆を活かしていることがわかる(⑪)。一方で、日常生活に毛筆の使用が定着しているとは思わないという回答が多い(⑫)。それに対して、日常生活に毛筆で書かれた文字が定着していると思うという回答は、思わないという回答を上回っており、賞状や商品パッケージのデザイン、各種の看板などの文字に関心を抱いている様子が見られる(⑬⑭)。

▶ 自由記述 [設問3]

- ・ 伝統文化として毛筆の書や書写活動を大切にしたいという回答がもっとも多く、手書き文化を尊重する意見が目立った(⑮11, 12)。実用的な面でも精神的な側面においても教育的な効果を指摘する意見が上位に見られた(⑮1, 4, 5)。その反面、文字を手書きする機会が失われている、毛筆の書写の時間が不足している、毛筆の書写に対して関心が薄くなっているという回答も見られ、日本の伝統文化として重要であると考えながらも日常生活においては毛筆が遠ざかっている様子が垣間見られる(⑮2, 6, 16, 17)。

④ 月刊『大東書道』定期購読者

書道文化に関する基礎調査

アンケート用紙（2枚）を、平成30年5月7日（月）までにFAXにてご返送ください。
FAXをお持ちでない方は、大東書道（4月号）の課題作品送付の際に、アンケート用紙を
同封してください。

大東文化大学書道研究所 FAX. 03-5399-7346

対象 / 月刊「大東書道」を定期購読する方

回答方法 / 該当するアルファベットに○印をつけてください。

お子さまについての回答は、保護者の方がご記入ください。

設問1 年齢、性別をお伺いします。

① 年齢を差し支えない範囲でお答えください。

A ~18歳（ 幼児 小1 小2 小3 小4 小5 小6 中学生 高校生 ）

※こちらにも○印を付けてください

B 18~29歳

C 30代

D 40代

E 50代

F 60代

G 70代

H 80代以上

② 性別をお答えください。

A 男性

B 女性

設問2 毛筆による書道活動についてお伺いします。

③ 書道の勉強をどのような形で行っていますか。

A 独学

B 書道教室に通っている

C その他（

）

④ 書道展に参加していますか。

A 参加している

B 参加していない

⑤ ④で「A 参加している」と回答された方に質問です。

参加している書道展の主催者をお答えください。また、その書道展の名称を差し支えない範囲
でお答えください。

A 県や市区町村などの自治体

B 寺社

C 各種書道団体

D 大学・専門学校

E 企業

F その他（

）

書道展の名称

⑥ 書道を勉強する目的を教えてください。複数回答可。

A 日常生活における書写・書道能力の向上

B 作品制作のための力量の向上

C 習い事として

D 礼節を身につける（身につけさせる）ため

E 伝統文化理解のため

F 仲間同士のコミュニケーションのため

G その他（

）

書道文化に関する基礎調査 —アンケート集計結果—

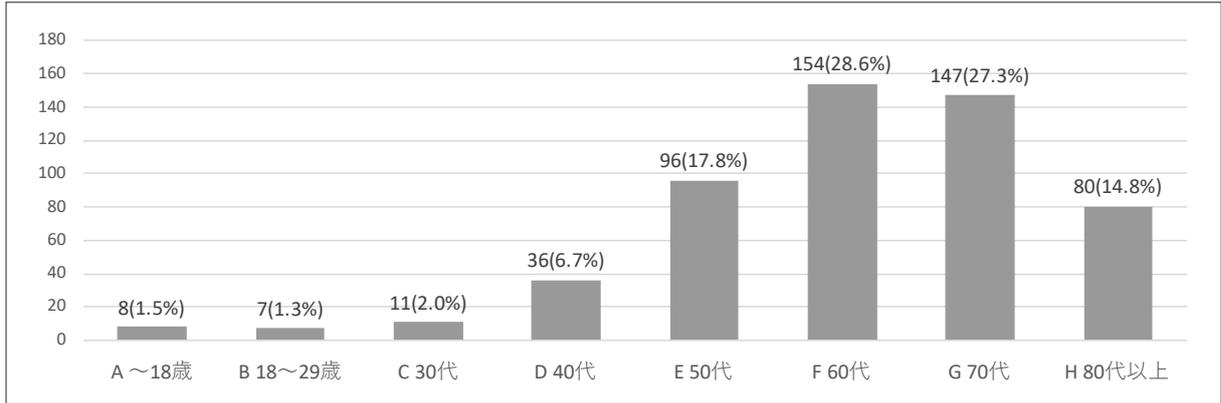
対象：月刊『大東書道』定期購読者(計540名)

設問1 年齢、性別をお伺いします。

① 年齢を差し支えない範囲でお答えください。

- A ～18歳 (幼児 小1 小2 小3 小4 小5 小6 中学生 高校生) ※こちらにも○印を付けてください
 B 18～29歳 C 30代 D 40代 E 50代
 F 60代 G 70代 H 80代以上

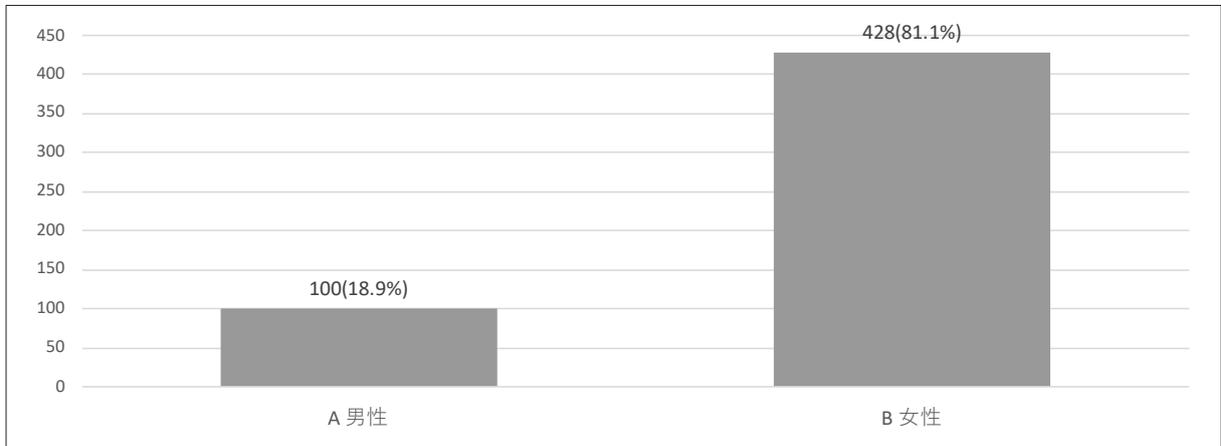
回答数 539



② 性別をお答えください。

- A 男性 B 女性

回答数 528

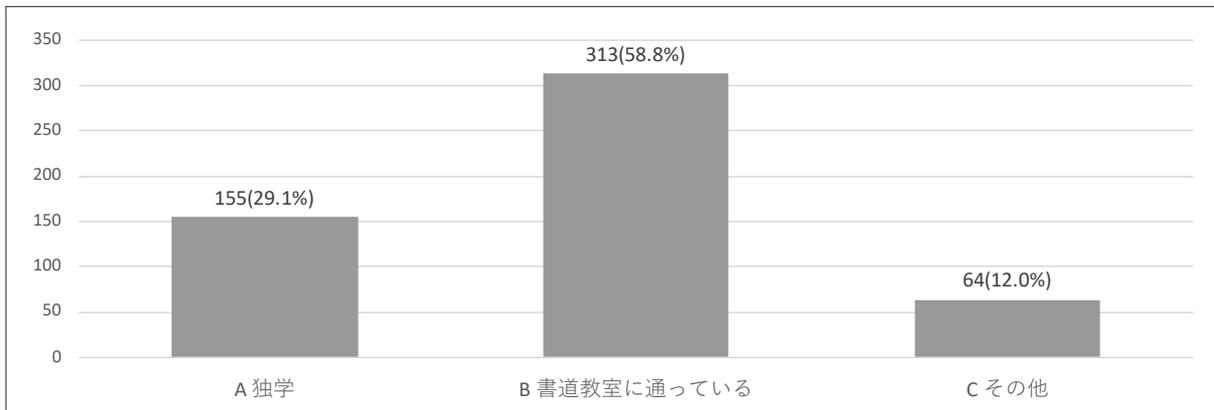


設問2 毛筆による書道活動についてお伺いします。

③ 書道の勉強をどのような形で行っていますか。

A 独学 B 書道教室に通っている C その他()

回答数 532



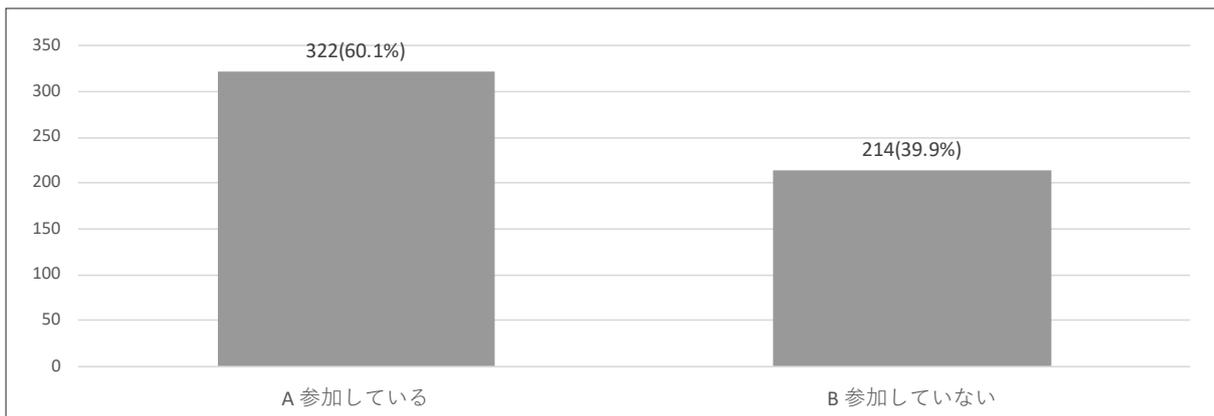
【その他の主な回答】

- ・教室に通っていた
- ・書道教室を主宰、指導している
- ・競書雑誌、大東書道
- ・グループ活動
- ・通信教育
- ・カルチャーセンター
- ・オープンカレッジ

④ 書道展に参加していますか。

A 参加している B 参加していない

回答数 536

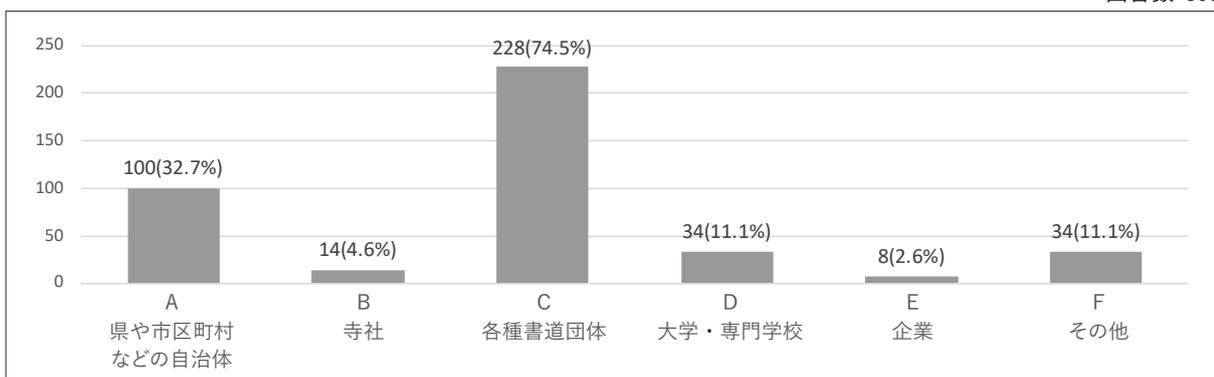


⑤ ④で「A 参加している」と回答された方に質問です。

参加している書道展の主催者をお答えください。また、その書道展の名称を差し支えない範囲でお答えください。
(複数回答可)

A 県や市区町村などの自治体 B 寺社 C 各種書道団体 D 大学・専門学校
E 企業 F その他()

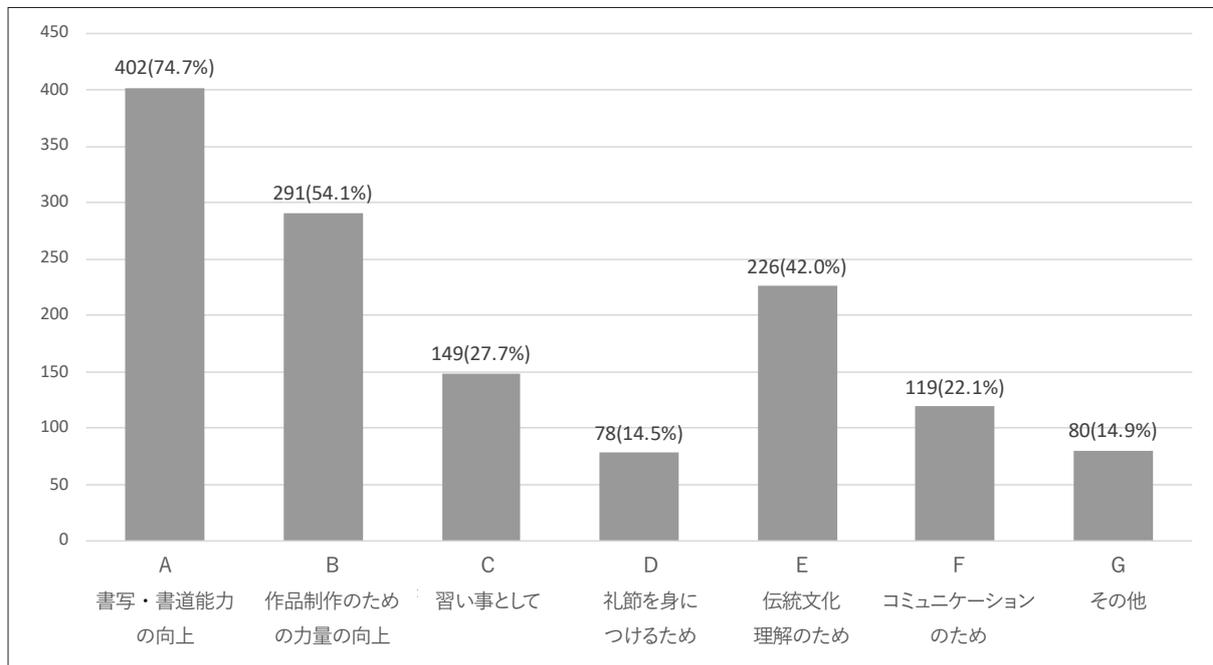
回答数 306



⑥ 書道を勉強する目的を教えてください。(複数回答可)

- A 日常生活における書写・書道能力の向上 B 作品制作のための力量の向上
 C 習い事として D 礼節を身につける(身につけさせる)ため
 E 伝統文化理解のため F 仲間同士のコミュニケーションのため
 G その他()

回答数 538



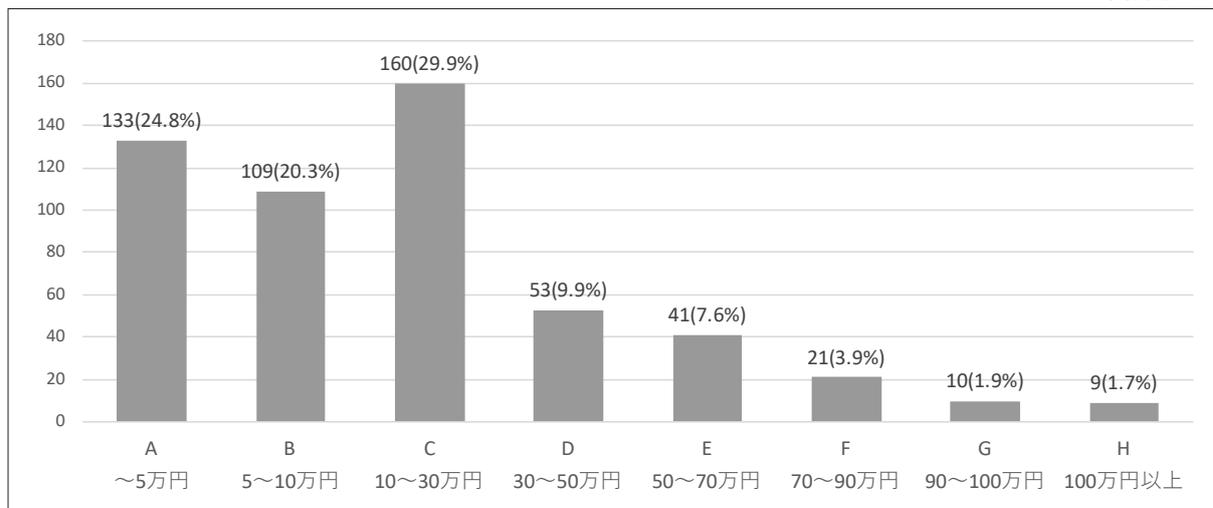
【その他の主な回答】

- ・書の知識を深めるため ・書道、書くことが好き ・書道教室運営、指導力向上のため
- ・生きがい ・健康維持、老化防止 ・精神統一 ・心が落ち着く

⑦ 書道に関する活動費(書道用具に関する費用・月謝・会費・資料代・出品料・講座などへの参加費など)は年間でどれくらいですか。概算でお答えください。

- A ~5万円 B 5~10万円 C 10~30万円
 D 30~50万円 E 50~70万円 F 70~90万円
 G 90~100万円 H 100万円以上

回答数 536

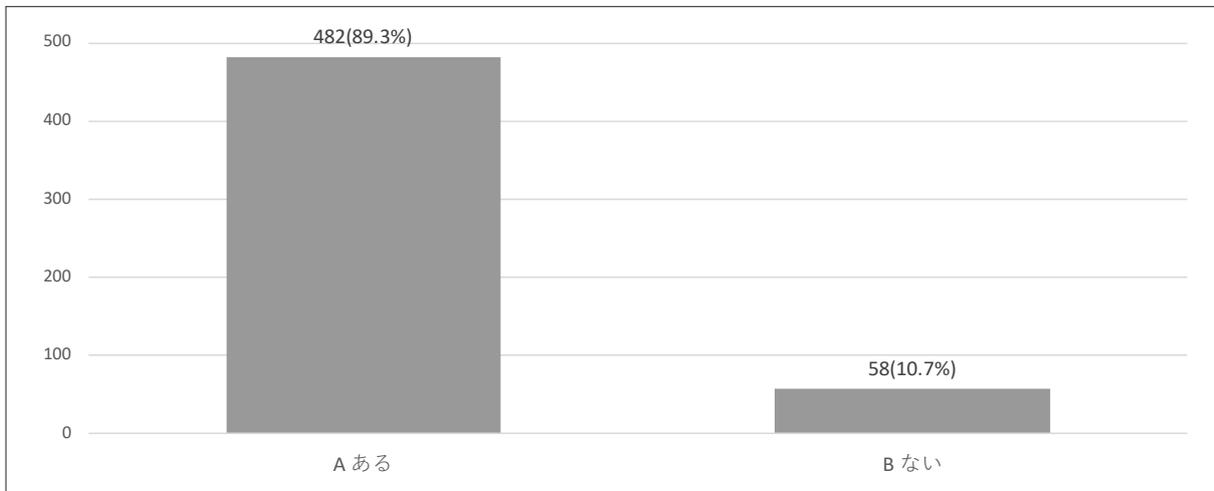


設問3 生活文化としての書についてお伺いします。

⑧ 日常的な生活のなかで毛筆(筆ペンを含む)を使用する機会がありますか。

- A ある B ない

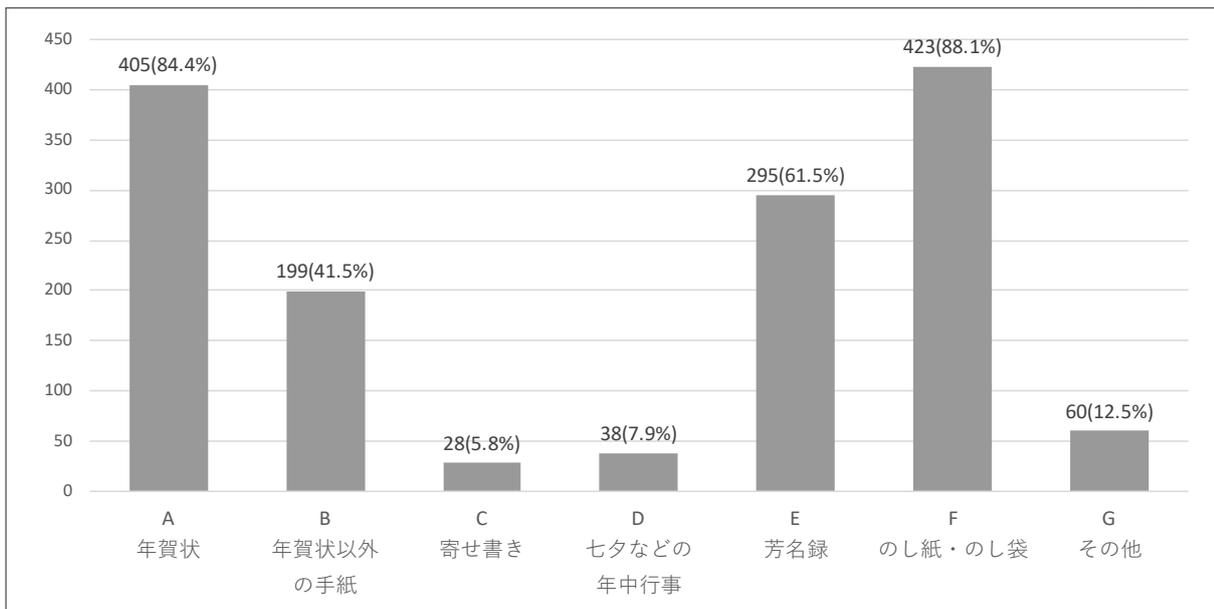
回答数 540



⑨ ⑧で「A ある」と回答した方に質問です。その事例を具体的に教えてください。(複数回答可)

- A 年賀状 B 年賀状以外の手紙 C 寄せ書き D 七夕などの年中行事
E 芳名録 F のし紙・のし袋 G その他()

回答数 480



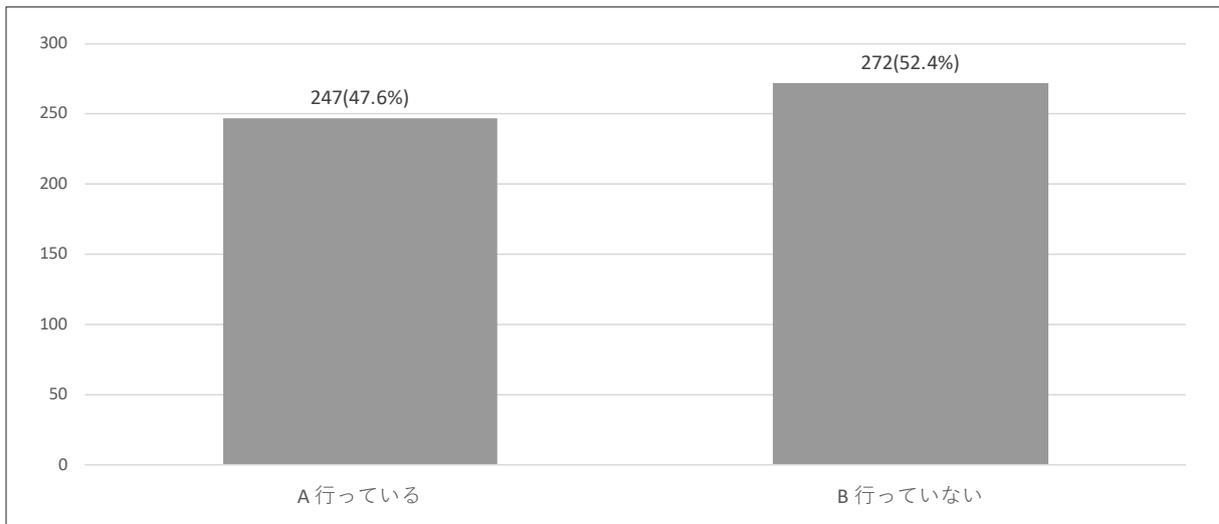
【その他の主な回答】

- ・賞状 ・掲示物(看板、ポスターなど) ・手本書き、依頼物など ・日記など日常的に
- ・デザイン ・写経

⑩ 年中行事として、毛筆による書き初めを行っていますか。

A 行っている B 行っていない

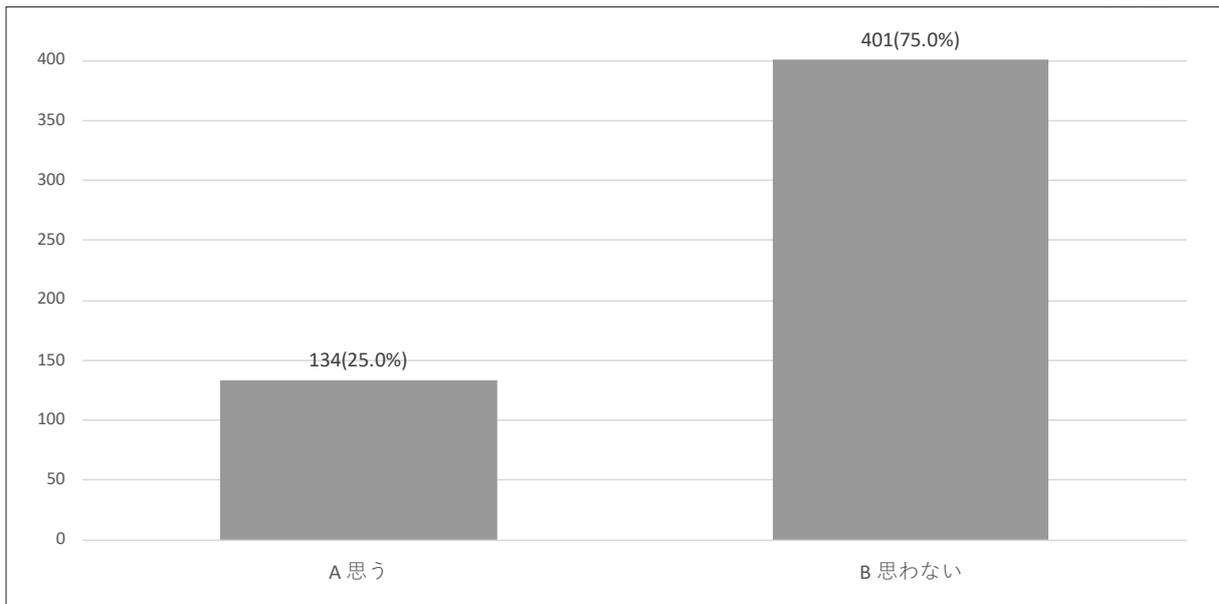
回答数 519



⑪ 身近な日常生活に毛筆の使用が定着していると思いますか。

A 思う B 思わない

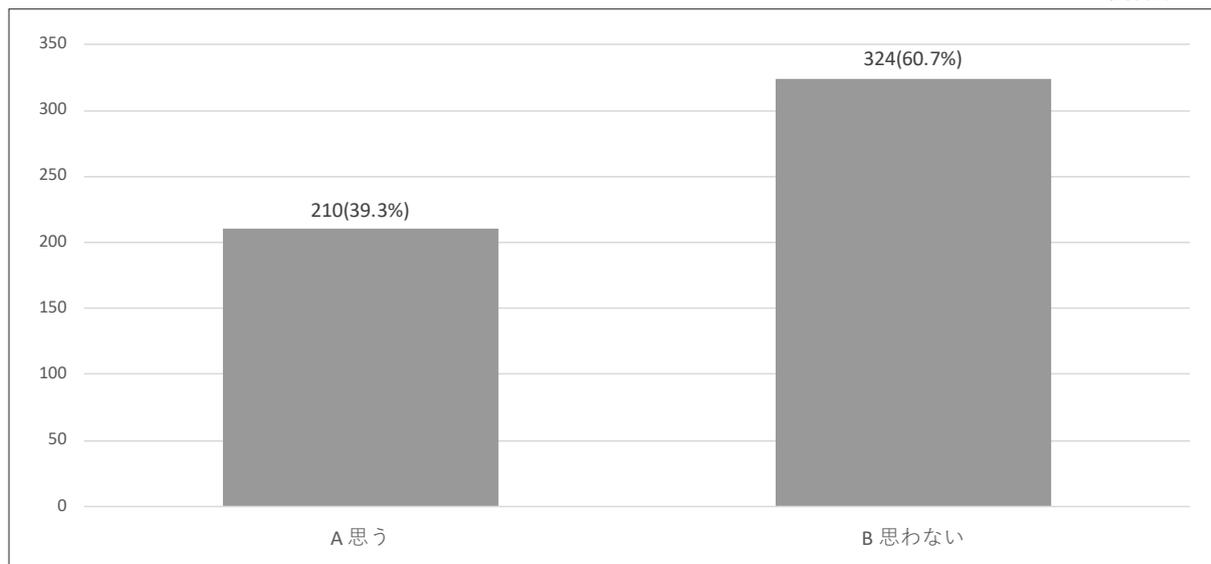
回答数 535



⑫ 身近な日常生活に毛筆で書かれた文字が定着していると思いますか。

A 思う B 思わない

回答数 534

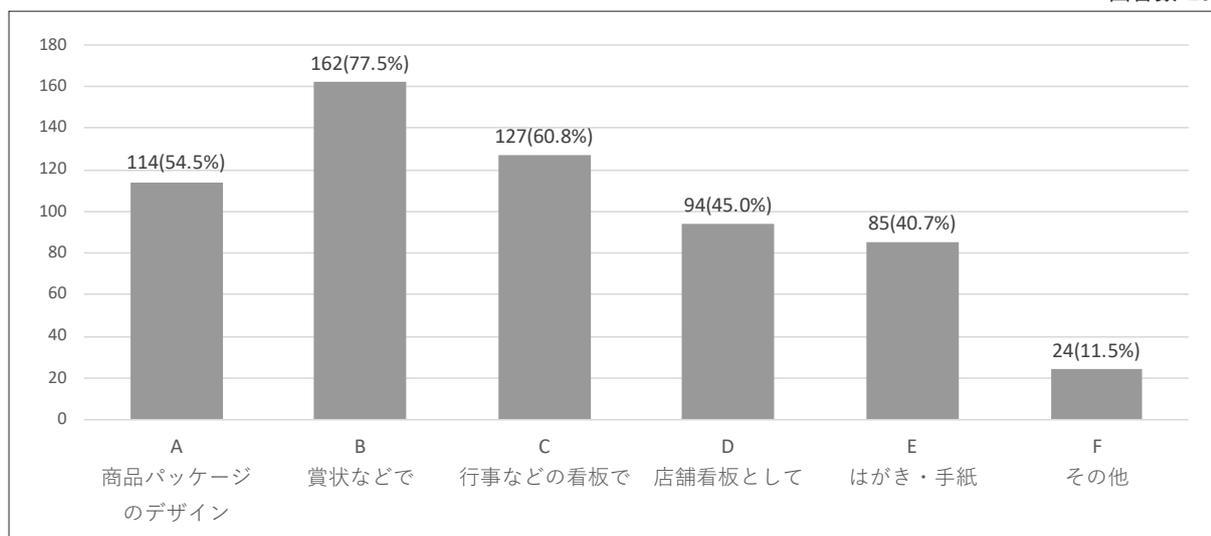


⑬ ⑫で「A 思う」と回答された方に質問です。

具体的に、どのような形で毛筆の文字が定着していますか。(複数回答可)

A 食品などの商品パッケージのデザインとして B 賞状などで C 行事などの看板で
 D 店舗看板として E はがき・手紙
 F その他()

回答数 209



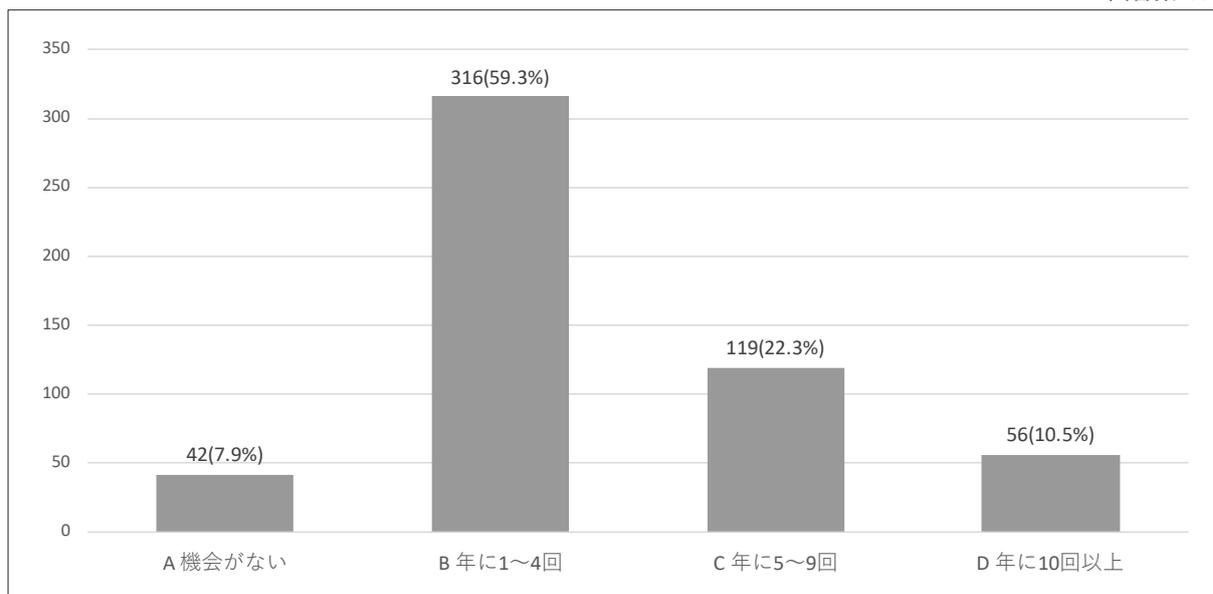
【その他の主な回答】

・掲示物 ・額、軸 ・のし袋 ・パソコンなどのフォント ・表札 ・寺、神社

⑭ 書に関する展示(書跡が出品される古美術展などを含む)を鑑賞する機会がありますか。
年間の頻度をお答えください。

A 機会がない B 年に1～4回 C 年に5～9回 D 年に10回以上

回答数 533



⑮ 毛筆で書かれた文字や毛筆体のフォント、また、毛筆を使用することや書を学ぶ(触れる)ことなどは、みなさんの日常生活にどう影響している(影響していく)と思いますか。
課題や希望なども含めご自由に記述してください。

	回 答	(人)
1	修養(心の豊かさ、心の落ち着き、集中力、精神統一)が身につく	101
2	伝統文化(日本文化、東洋文化)の理解(継承)に役立っている	84
3	学校教育において毛筆指導を充実させてほしい(指導者の育成)	53
4	毛筆の文字から、個性の表現(美しさ、面白さ)を感じている	48
5	毛筆文字は日常生活に用いられないことがない(情報機器の普及によって)	42
6	手紙・はがき(年賀状)を書く際に活かされている(筆ペンを含む)	35
7	芸術的感性、美的感覚、表現力、鑑賞力が身につく	33
8	文字文化(文学作品、古文書など)の理解に役立っている	26
9	趣味、余暇の活用としている	19
10	毛筆文字は日常生活において、インパクトを与える(注意を引く)効果がある	16
11	仲間(家族)とコミュニケーションがとれる	15
12	記帳、慶弔の表書きなどを書く際に活かされている(筆ペンを含む)	13
13	生涯学習の場として、書を学ぶ(鑑賞する)機会を増やしてほしい	13
14	老化防止(脳の機能向上)に役立っている	11
15	書を学ぶことは芸術的な活動(展覧会、競書)であり、日常生活には活かされていない	11
16	日常生活で、毛筆で文字を書くこと(記名や掲示)を頼まれることがある	5
17	日常生活の手書き文字(硬筆)に活かされている	4
18	特になし 特にありません	1

【④月刊『大東書道』定期購読者 分析結果】

▶アンケート対象の性質

このアンケートは、大東文化大学書道研究所が発行する月刊競書雑誌『大東書道』の定期購読者を対象に行ったものである。

▶年齢、性別について[設問1]

60歳代の28.6%を頂点に50歳代以降の回答者が約90%である。また、男女比は2対8で女性が圧倒的に多い。高齢、女性の参加率が高いことがわかる(①②)。

▶毛筆による書道活動について[設問2]

回答者のうち、書道教室に通っている人が6割近くに上る一方、独学の人も約30%で、個人で工夫しながら書に向き合っている人が少なくないこともわかる(③)。

書道展に参加している人は6割ほどで、各種書道団体が主催する展覧会への出品が7割を超え、自治体主催が次ぐ。本格的でより高度な書に取り組もうとする傾向があるものと考えられる(④⑤)。

書を勉強する目的は「書写・書道能力の向上」と回答した人が7割を超え、日常生活にその能力を活かすことが動機の第一義と考えられる。作品制作のためとの回答が半数超とそれに次ぎ、技法・技術の向上、芸術的創作活動を目的に書に取り組んでいることがわかる。さらに、約4割が伝統文化理解のためと回答し、書を生活文化・伝統文化両面において尊重していることがわかる。また、2割ほどが仲間同士のコミュニケーションを目的としており、書を通じて人間的な交流が生まれている様子も垣間見られた(⑥)。

書に関する活動費は、「10～30万円」と回答した人が30%弱でもっとも多く、10万円以下が40%超。30万円以上が3割弱で、比較的手軽に取り組むことができると同時に、本格的に向き合う人たちは費用をかける面が多くなることもある(⑦)。

▶生活文化としての書について[設問3]

日常的な生活のなかで筆ペンを含む毛筆を使用する機会があると回答した人が約9割で、学びを生活に活かしている様子が如実に表れた(⑧)。特に、年賀状をはじめとする手紙やのし紙・のし袋、芳名録など、時候の挨拶や儀礼的な面で毛筆を活用していることがわかる(⑨)。しかし、身近な日常生活に毛筆の使用が定着していると回答した人は25%に留まり、使用する機会があると回答した人が約9割だったことと矛盾する(⑩)。他のアンケートにおいても同様の傾向が見られ、手書き全体からすると毛筆の使用は特別な場面に限られることを表しているものと考えられる。身近な日常生活に毛筆で書かれた文字が定着していると回答した人は約4割で、賞状、各種の看板、商品パッケージ、手紙など、さまざまな形で生活に馴染んでいることを自覚する人も少なくない(⑫⑬)。

書き初めを行う人が5割弱、行っていない人が5割強で拮抗している。義務教育世代と比較すると実施率は低いが、年中行事としては身近な存在と言えそうである(⑭)。

書に関する展示を鑑賞する機会がある人は9割を超え、3割以上の人が年間に5回以上展覧会場に足を運んでいる(⑮)。書の学習は鑑賞活動にも大きな影響を与えている様子がみられ、技法的に書を学ぶことで鑑賞を楽しむ姿勢が醸成されていることがわかる。

▶自由記述[設問3]

- ・書の学習の修養的な効果を上げた回答が多く見られた(⑯1)。
- ・毛筆文化の豊かさに気付き、伝統文化の理解や継承を自覚している(⑯2, 4, 8, 10)。
- ・日常生活において毛筆を使用する場面が限られている状況を指摘し、使用や指導を充実させて欲しいという要望がある(⑯3, 5, 13, 15)。
- ・芸術的な活動として達成感を得ている(⑯4, 7)。

**⑤ 書道展に来場した未就学児
～高校生およびその保護者**

書道文化に関する基礎調査

対象 / 書道展にご来場の未就学児、小学生、中学生、高校生、およびその保護者様
回答方法 / 該当するアルファベットに○印を付けてください。
※中学生以下の方は、保護者・同伴者の方と一緒に回答してください。

設問1 あなた（お子さま）は、どちらに所属していますか。

- A 未就学 B 小学校 C 中学校 D 高等学校

設問2 毛筆による書道活動についてお伺いします。

① ご家庭に書道用具が揃っていますか。

- A 揃っている B 揃っていない

② ご家庭で毛筆を使って文字を書く機会がありますか。

- A ある B ない

③ ②で「A ある」と回答された方に質問です。

具体的にどのような機会がありますか。複数回答可。

- A 書き初め B 年賀状などの手紙 C 七夕 D 長期休暇の宿題
E その他（)

④ 書道教室に通っていますか。

- A 通っている B 以前通っていた C これから通う予定 D 通っていない

⑤ ④で「A 通っている」「B 以前通っていた」「C これから通う予定」と回答された方に質問です。

書道教室に通う（通わせる）目的としてあてはまるものを選んでください。複数回答可。

- A 文字の習得のため B 文字や言語の理解力向上のため
C 書写・書道能力の向上のため D 作品制作のための力量の向上のため
E 習い事の一環として F 日本の伝統文化を理解するため
G 礼儀作法の取得のため H 集中力をつけるため
I その他（)

⑥ 日常生活に毛筆の使用が定着していると思いますか。

- A 思う B 思わない

⑦ 日常生活に毛筆で書かれた文字が定着していると思いますか。

- A 思う B 思わない

⑧ ⑦で「A 思う」と回答された方に質問です。

具体的に、どのような形で毛筆の文字が定着していますか。複数回答可。

- A 食品などの商品パッケージのデザインとして B 賞状などで
C 行事などの看板で D 店舗看板として E はがき・手紙
F その他（)

⑨ あなたの行動範囲で、毛筆で書かれた文字や毛筆体のフォントをどんな場所で見かけますか。複数回答可。

- A 家庭の中 B 園や学校の中 C 街頭（看板など） D 飲食店や店舗の中
E 公共施設の中（駅・公民館・図書館・児童館など） F 乗り物の中（電車・バスなど）
G 寺や神社（御札や御朱印など） H その他（)

⑩ 毛筆で書かれた文字や毛筆体のフォント、また、毛筆を使用することや書道を学ぶ（触れる）ことなどは、あなた（お子さま）の日常生活にどう影響している（影響していく）と思いますか。課題や希望なども含めご自由に記述してください。

ご協力ありがとうございました。

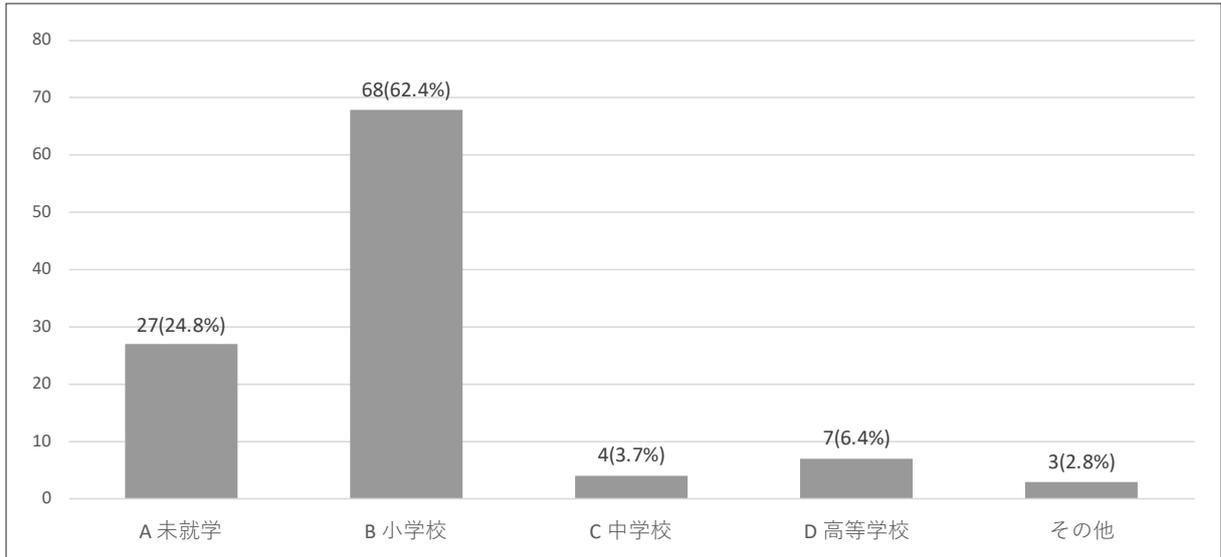
書道文化に関する基礎調査 —アンケート集計結果—

対象：書道展に来場した未就学児～高校生およびその保護者(計128名)

設問1 あなた(お子さま)は、どちらに所属していますか。

- A 未就学 B 小学校 C 中学校 D 高等学校

回答数 109



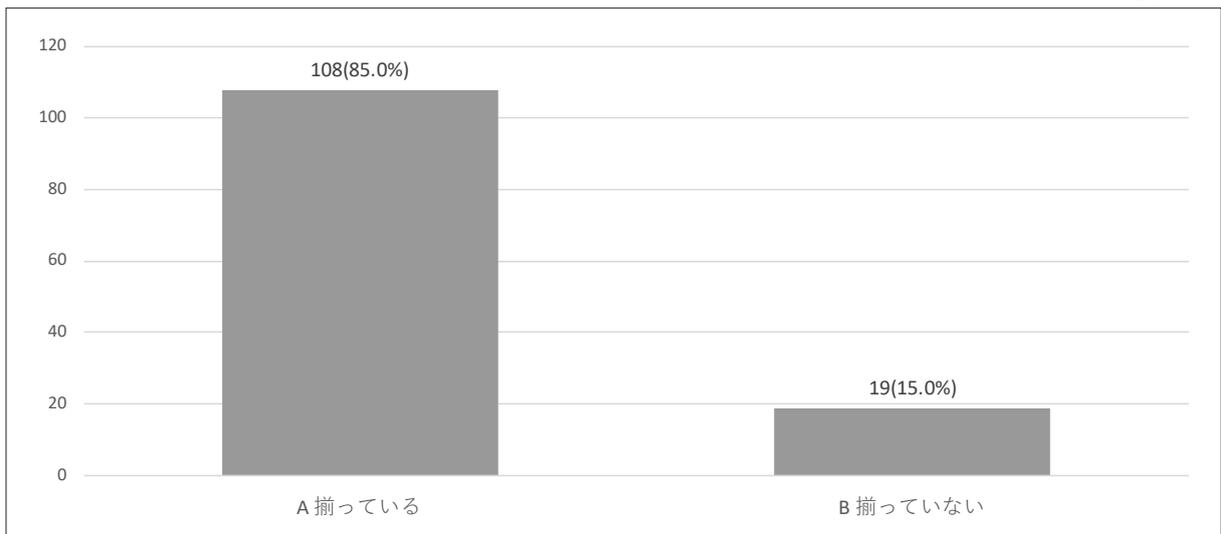
⑤ 書道展に来場した未就学児
高校生およびその保護者

設問2 毛筆による書道活動についてお伺いします。

① ご家庭に書道用具が揃っていますか。

- A 揃っている B 揃っていない

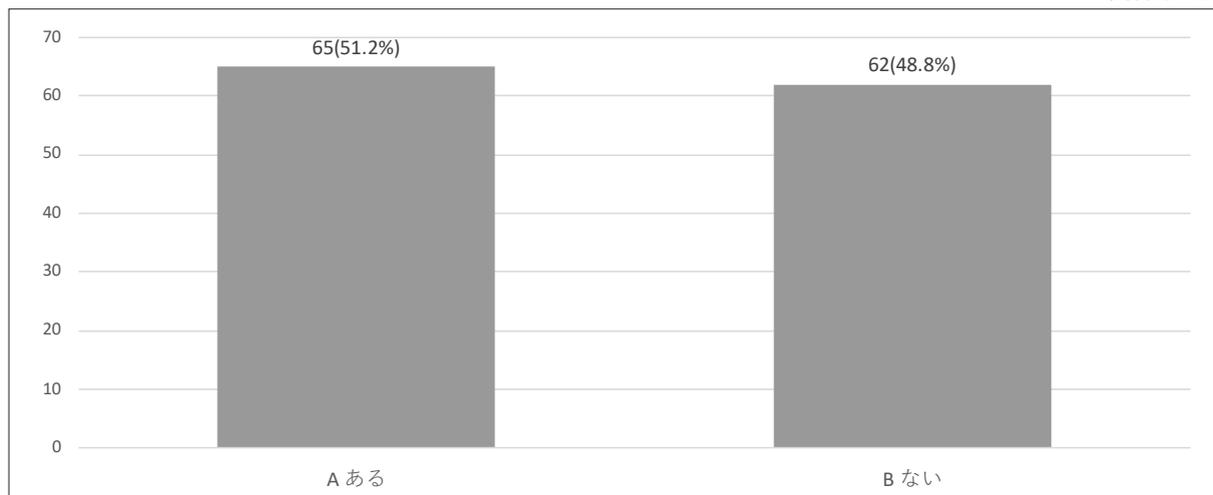
回答数 127



② ご家庭で毛筆を使って文字を書く機会がありますか。

A ある B ない

回答数 127

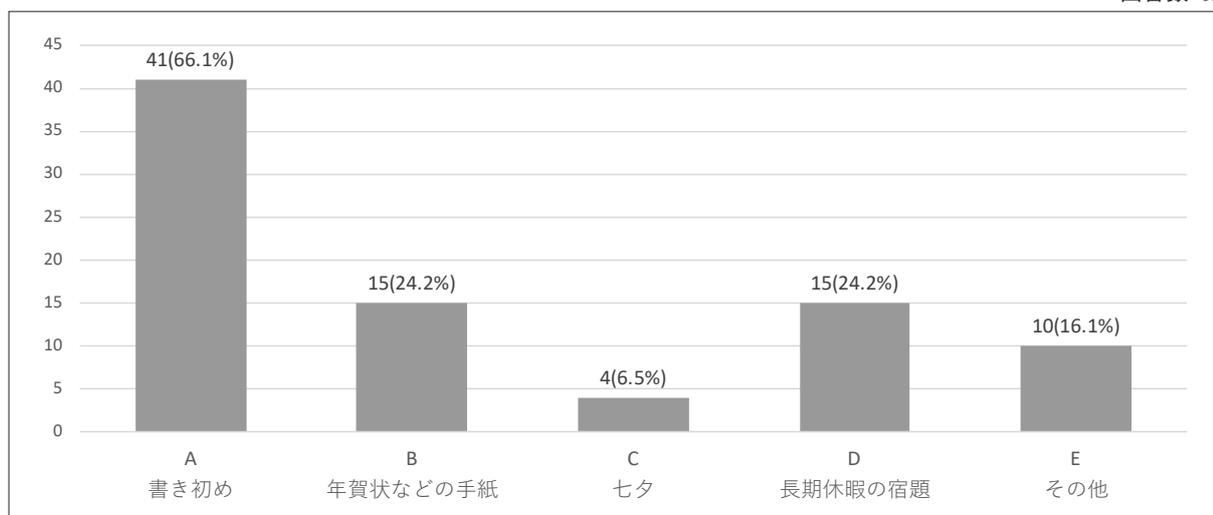


③ ②で「A ある」と回答された方に質問です。

具体的にどのような機会がありますか。(複数回答可)

A 書き初め B 年賀状などの手紙 C 七夕 D 長期休暇の宿題
E その他()

回答数 62



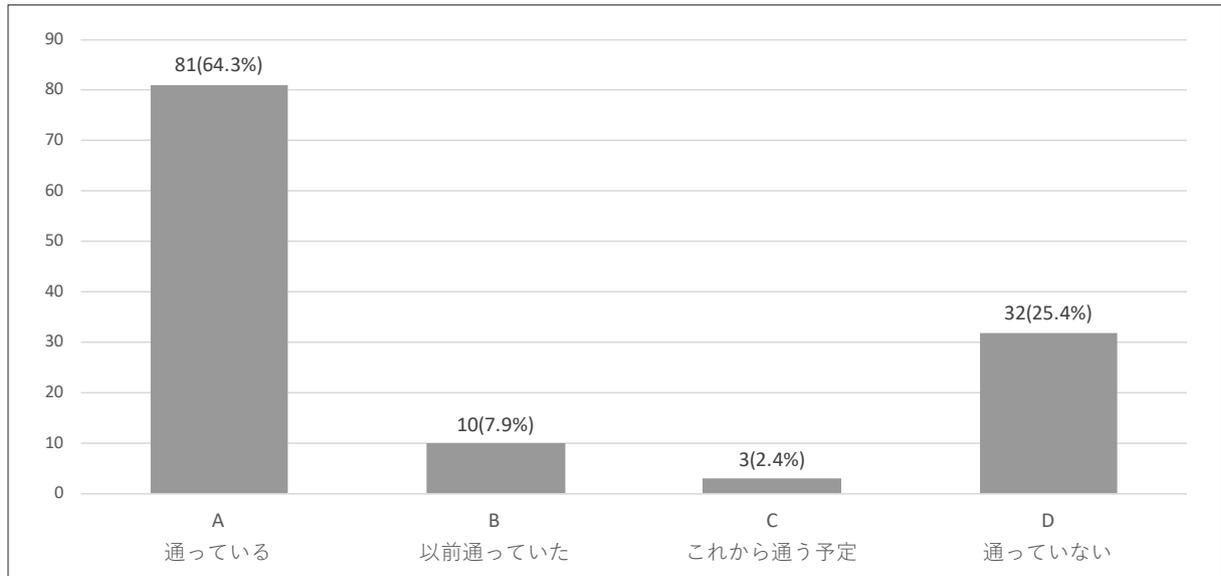
【その他の主な回答】

・私が作品を書いていると書きたいというので ・親子書道展 ・魚拓

④ 書道教室に通っていますか。

- A 通っている B 以前通っていた C これから通う予定 D 通っていない

回答数 126

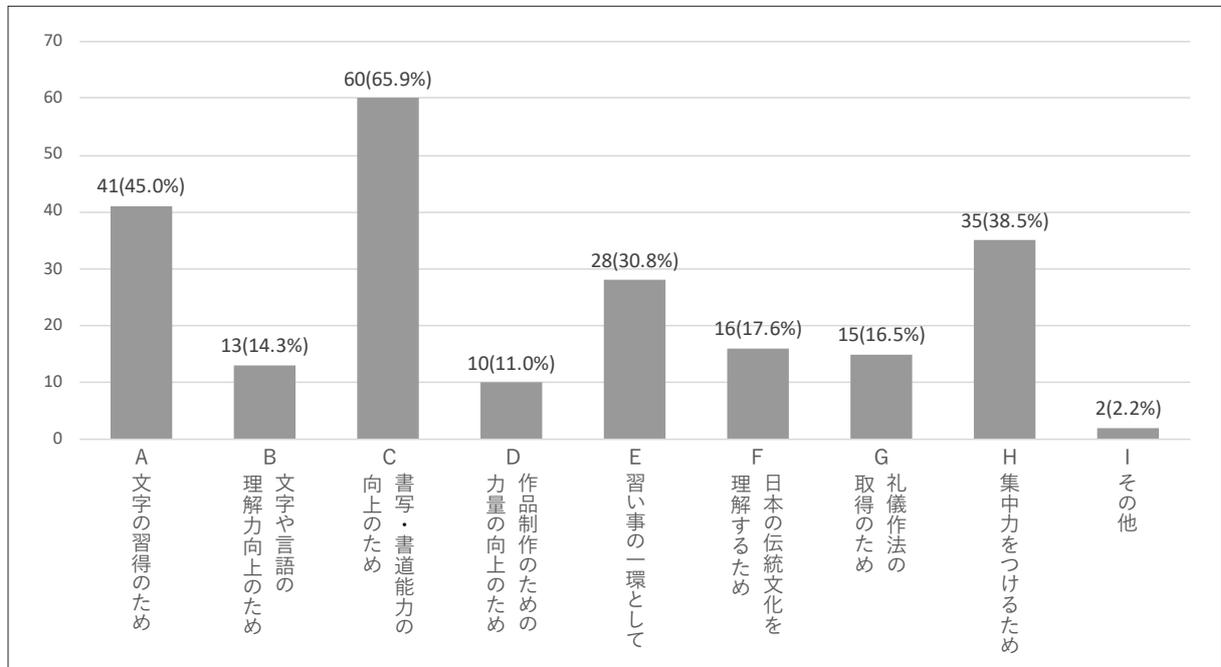


⑤ ④で「A 通っている」「B 以前通っていた」「C これから通う予定」と回答された方に質問です。

書道教室に通う(通わせる)目的としてあてはまるものを選んでください。(複数回答可)

- A 文字の習得のため B 文字や言語の理解力向上のため
 C 書写・書道能力の向上のため D 作品制作のための力量の向上のため
 E 習い事の一環として F 日本の伝統文化を理解するため
 G 礼儀作法の取得のため H 集中力をつけるため
 I その他()

回答数 91

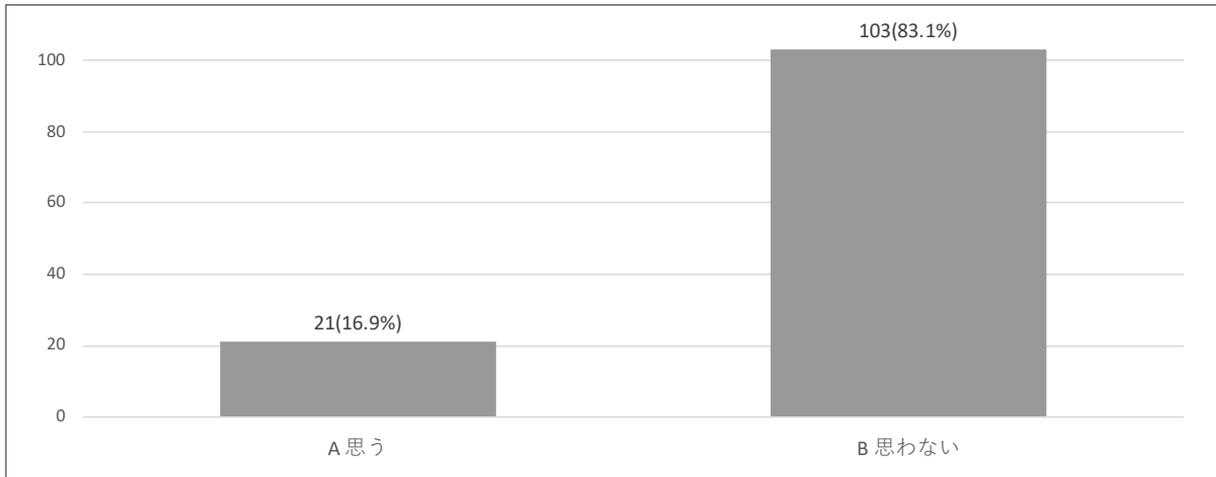


⑤ 書道展に来場した未就学児
高校生およびその保護者

⑥ 日常生活に毛筆の使用が定着していると思いますか。

A 思う B 思わない

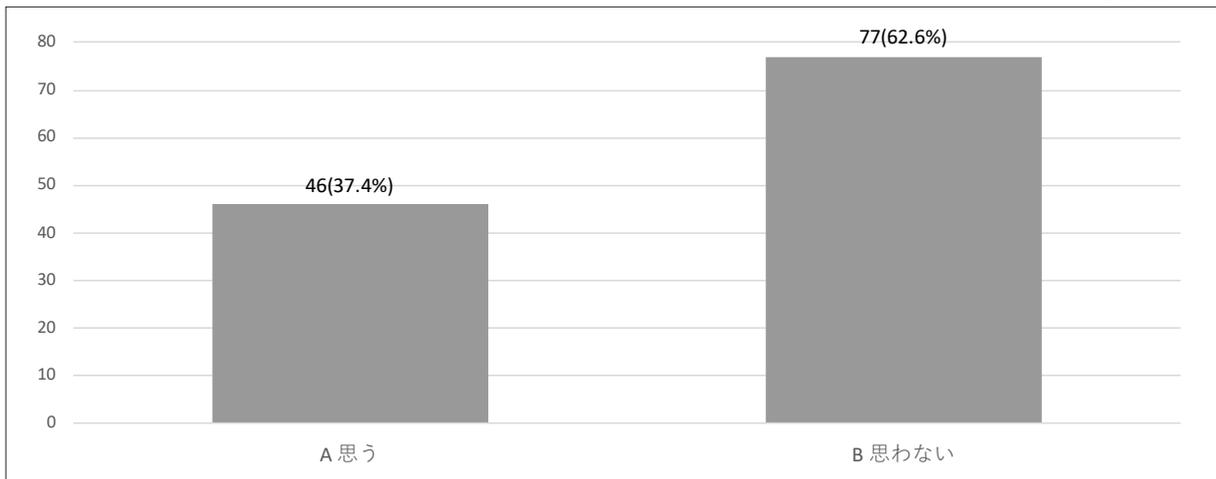
回答数 124



⑦ 日常生活に毛筆で書かれた文字が定着していると思いますか。

A 思う B 思わない

回答数 123

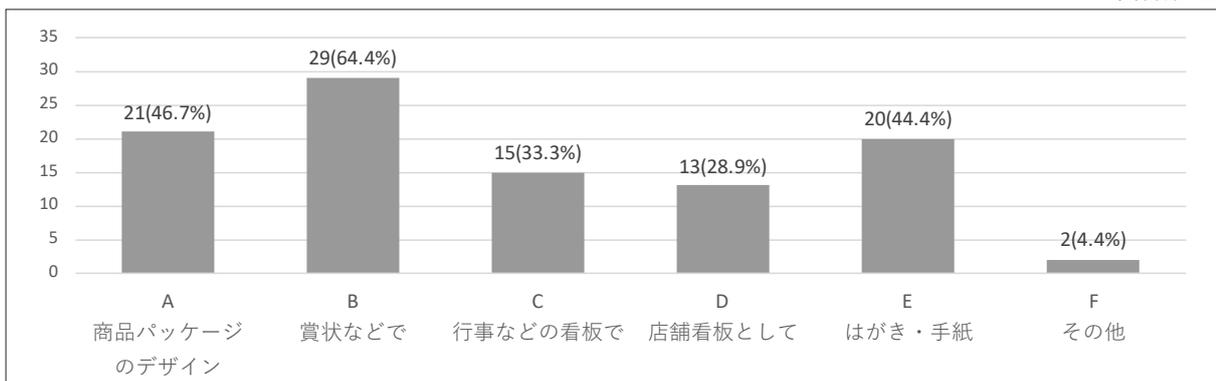


⑧ ⑦で「A 思う」と回答された方に質問です。

具体的に、どのような形で毛筆の文字が定着していますか。(複数回答可)

- A 食品などの商品パッケージのデザインとして B 賞状などで
 C 行事などの看板で D 店舗看板として E はがき・手紙
 F その他()

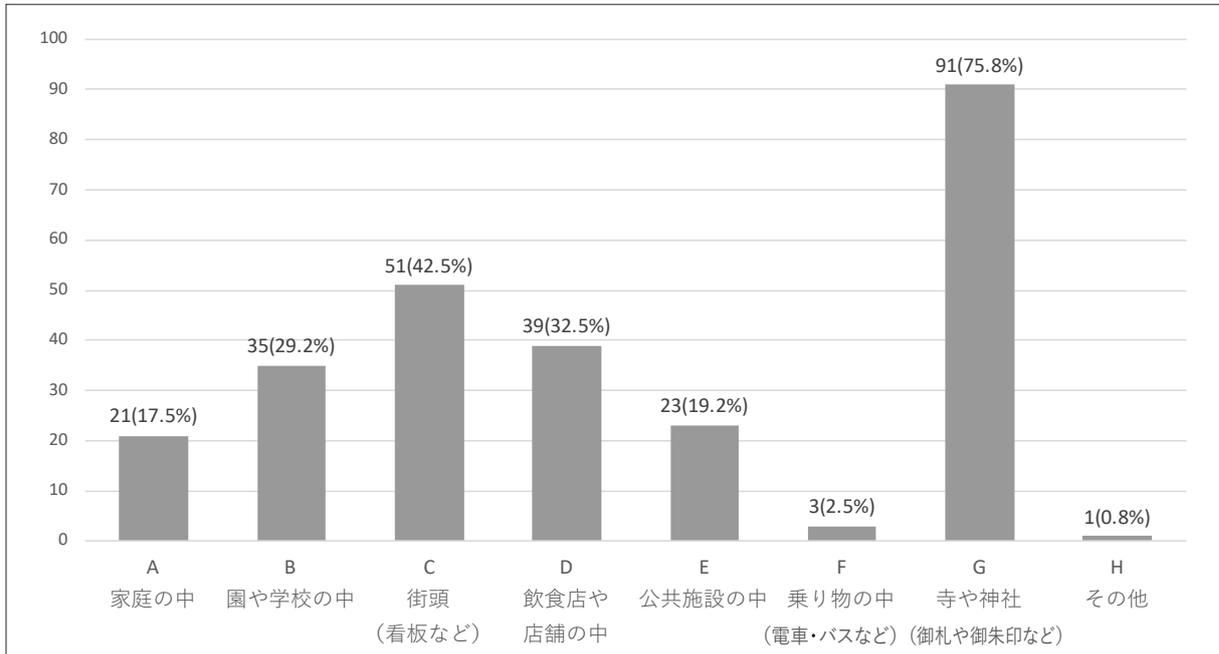
回答数 45



⑨ あなたの行動範囲で、毛筆で書かれた文字や毛筆体のフォントをどんな場所で見かけますか。(複数回答可)

- A 家庭の中 B 園や学校の中 C 街頭(看板など) D 飲食店や店舗の中
 E 公共施設の中(駅・公民館・図書館・児童館など) F 乗り物の中(電車・バスなど)
 G 寺や神社(御札や御朱印など) H その他()

回答数 120



⑤ 書道展に来場した未就学児
 高校生およびその保護者

- ⑩ 毛筆で書かれた文字や毛筆体のフォント、また、毛筆を使用することや書道を学ぶ(触れる)ことなどは、あなた(お子さま)の日常生活にどう影響している(影響していく)と思いますか。
課題や希望なども含めご自由に記述してください。

※本人による記述のまま

- ・日本人として、筆を使うこと引き継いでいく事が大切だと思う。便利な時代になりパソコン等で簡単に筆の書体は出てくるが、自分で書けることは今見直されていると思う。価値があることだと思う
- ・活字があふれる今、毛筆書は、目に止まりやすく新鮮美があります。今後、毛筆書の必要性が少なくなるかもしれないが、娘には、毛筆書道の大切さを教えて生きたい
- ・漢字の筆順がわかる
- ・毛筆に興味をもってほしいと思っています
- ・文字を書くという時間が、あまり日常生活のなかでとれず、お習字を習えば、少しは、落ち着いて、文字を書く時間が持てるかなと思いました
- ・毛筆は年に一回書き初めのときしかやらない子供達に、今回のようなイベントで体験できる場をふやして、楽しい体験をさせてあげたい。楽しむことで毛筆にふれたいと思います
- ・姉の影響もあり、書道展への意欲もあり、運動の動と時間内で集中して、静かに行う静とのバランスがいいと思います
- ・集中力の向上に期待しています
- ・毛筆の普及がもっと up したら
- ・字がキレイになる
- ・集中力がつき、文字の理解力がついてきていると思います
- ・毛筆を学ぶことで集中力がつくと思います
- ・しゅじ楽しいです
- ・毛筆の方が書道の良さなどがより伝わると思うので、もっと親しみをもっていきたい。これからも、書道を続け、技術向上を目指していきたい
- ・情操教育を豊かにする
- ・文化と伝統を感じ、次世代に伝えていくことが重要、毛筆も大事だが手軽さを考え、硬筆(手書き文字)を身近に考える必要がある。デジタル化が進む現代だからこそ
- ・学校の書道授業が少なく、その影響か書道熱も減少しつつ有ると思います。もっと、毛筆に触れる機会を増やしてほしいと願います
- ・書は日本の伝統文化として大切なものと思いますので、小学生のころから書道に触れさせることで、自然なかたちで身につけることができれば良いなと思います。静かに物事に集中できる生活も大切と思います
- ・40の手習いは遠くに聞こえます。80の手習いって聞こえますか? 92の手習い? 遅すぎてる残念残念。でもありがたい92です
- ・習字はよきです
- ・毛筆の授業が好きなので今回書けて楽しかったです
- ・子供は書道部でした。書くことが好きで粘り強く作品に取組み、完成した喜びを味わっていました
- ・現在親子で習字を習っています。教科書と書き順が異なったり止め、はね、払いが違うこともあります。それを指摘するのが楽しいです。美しい文字を見ると背筋が伸びます。墨の匂いをかぐと心が洗われます
- ・文字習得だけでなく礼儀等も身につく
- ・気持ちをこめて一文字集中して書くので集中力が高まると思う
- ・美しい文字を見ると感動します。心が豊かになると思います
- ・もっと書をPR すべき!
- ・毛筆できれいな文字が書けないことは財産だと思います。きっかけがないと大人になってから書道を始めにくいので、小学校で習うことはいいことだと思う
- ・筆の運びを体験することで推量や予測、加減などの感覚が育つように思います
- ・書道は人生を豊かにする。美しい文字は大切である
- ・静かに自分と向き合うことができる
- ・日本人のたしなみとして、小学校で書道をするのはとても良いと思います。そこから漢字に興味を持つ事もあると思います
- ・ぜひ広めてほしいです。子供には絶対に習わせたいです
- ・文字がきれいに書かれてあると気持ちが良い。書道は学ぶべき教材だと思います
- ・人間力の向上につながると思います。漢字を少しはじめてところですが、字を書くだけでなく、その背景を知り書道史への理解も必要になります

【⑤書道展に来場した未就学児～高校生およびその保護者 分析結果】

▶ アンケート対象者の性質

このアンケートは謙慎書道会が主催する書道展会場で併催した「文字の水族館(東京)」「文字の動物園(静岡)」「文字の動物園(茨城)」に来場した、未就学児から高校生およびその保護者を対象とし、任意で回答を求めたものである。

▶ アンケート回答者の所属[設問1]

アンケート回答者は小学生が6割超、未就学児を合せると9割近くが小学生以下だった。

▶ 毛筆による書道活動について[設問2]

書道用具が家庭に揃っているのは85%、その一方で、家庭で毛筆を使って文字を書く機会があるのは約51%という回答だった(①②)。家庭では、書き初めに際して毛筆を用いる機会がもっとも多く、小学校や中学校で宿題として毛筆書写が課せられることも密接に関係していることが想像される。年賀状をはじめとする手紙も約24%が回答した(③)。

書道教室に通っている、あるいは通っていたという回答が7割超で(④)、書を技法的に学ぶことが、展覧会場に足を運びきっかけになっていることが想像される。書道教室に通う(通わせる)目的は、文字の習得や書写能力の向上が上位で、集中力の涵養や日本の伝統文化理解といった内面的な充実を促すためといった回答がこれに次いだ(⑤)。

日常生活に毛筆の使用が定着していないと回答した人は約83%、毛筆で書かれた文字が定着していないと回答した人も6割を超えた。これは、小中学校に対するアンケートと同様の傾向を示し、家庭生活においても毛筆が定着しているという自覚は希薄であるという様子が覗えた(⑥⑦)。身近な生活では賞状や各種の看板、商品パッケージ、手紙などで毛筆に親しんでいる(⑧)。毛筆で書かれた文字やフォントを目にする場として寺社を上げる意見が91件約76%で、日本的な空間と毛筆との親和性が高いことがわかる。また、街頭や飲食店をはじめとする店舗、学校といった日常生活の場を上げる回答も多く見られた(⑨)。

▶ 自由記述[設問2]

- ・ 手書きの機会が減少しているからこそ毛筆文化を継承していかなければならない。伝統文化の理解につながる。
- ・ 毛筆で文字を書くことで集中力が養われる。人間的な力を向上させる。
- ・ 書道作品の制作を通して達成感が得られる。
- ・ 書を習うことで文字に対する理解が深まり、技術的な向上が期待できる。
- ・ 毛筆に親しむ環境が欲しい。

⑥ 書道団体

- ・書道団体実態調査
- ・書道文化に関する基礎調査(書き初めについて)

書道団体実態調査 NO. 1

		記入日	2018(平成30)年		月	日				
① 団体名 代表者名	ふりがな		ふりがな							
	団体名		代表者名							
② 団体の位置付け (口に✓を入れる)	<input type="checkbox"/> 毎日系 <input type="checkbox"/> 読売系 <input type="checkbox"/> 産経系 <input type="checkbox"/> その他()									
	あなたの団体を束ねる上の団体があればお答えください。		{ 団体名() 代表者名()							
③ 分野 (複数回答可)	<input type="checkbox"/> 漢字 <input type="checkbox"/> 仮名 <input type="checkbox"/> 漢字仮名交じり <input type="checkbox"/> 篆刻 <input type="checkbox"/> 刻字 <input type="checkbox"/> 前衛									
④ 団体所在地	〒 - -		都道府県							
	TEL - -		FAX - -		E-mail					
⑤ 本調査対応者名とその連絡先	ふりがな			対応者の携帯番号	- -					
	対応者名									
	<input type="checkbox"/> ご対応者様のご連絡先が④団体所在地と同じ場合には✓を入れ、下の連絡先は未記入で結構です。									
	〒 - -		都道府県							
TEL - -		FAX - -		E-mail						
⑥ 支部・会派・社中等の総数・分布	総計	北海道	東北地方	関東地方	中部地方	関西地方	中国地方	四国地方	九州沖縄地方	海外
	箇所	箇所	箇所	箇所	箇所	箇所	箇所	箇所	箇所	箇所
⑦ 団体の特色	※他団体にはない独自の書法や文化的価値、または、組織構成図等をご記入ください。 ※団体について、参考資料・パンフレットがありましたら、本アンケートとは別に、別紙で付けてください。									
⑧ 団体の沿革	※団体の創設年、創設者名、創設後の主な事項や主な事業内容をご記入ください。 ※別紙で沿革をお持ちでしたら、本アンケートとは別に、別紙で付けていただいても結構です。									

本用紙に記入しきれない場合は、任意の用紙に記入して同封してください。

書道団体実態調査 NO. 2

団体名【 】

※お手数ですが、こちらの2枚目にも必ず団体名をご記入ください。

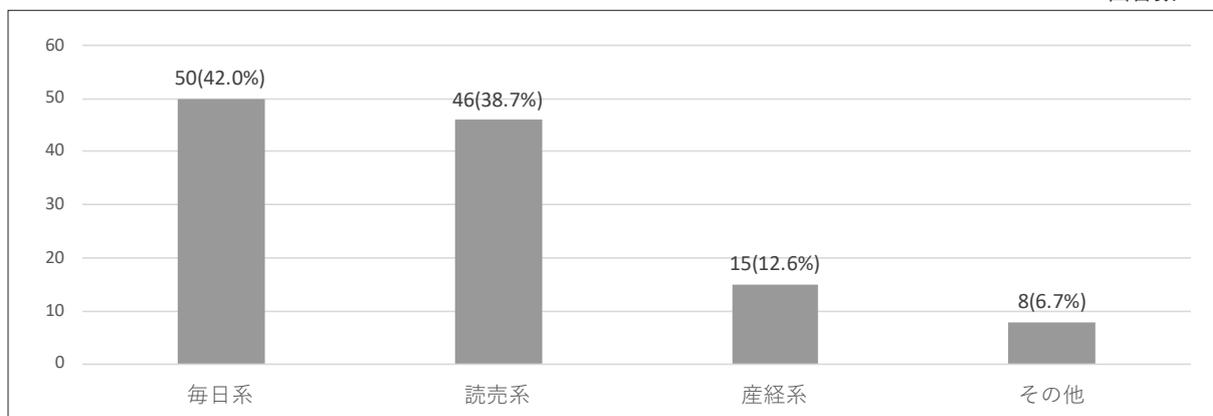
⑨ 団体の事業内容	貴団体の「平成28年度 事業報告書」を別紙で同封してください。 事業報告書は<A4サイズ>でご提出いただきますよう、ご協力をお願いいたします。						
⑩ 団体の活動詳細	国内における展覧会	1年間に	箇所	回実施			
	国内における講習会・ワークショップ	1年間に	箇所	回実施			
	国内における講演会	1年間に	箇所	回実施			
	海外における展覧会・講習会・ワークショップ・講演会	1年間に	箇所	回実施			
	展覧会図録	1年間に	種類	部発行			
	会報	1年間に	回	1回に	部	全体で	部発行
	競書雑誌	1年間に	回	1回に	部	全体で	部発行
	その他の出版物	内容()	1年間に	回発行	全体で	部発行	
	内容()	1年間に	回発行	全体で	部発行		
	内容()	1年間に	回発行	全体で	部発行		
⑪ 団体の会員数とその変動							
※会員数は、団体主催の展覧会に定期的に出品している方、及び、団体が発行する雑誌(競書雑誌)の定期購読者も含めてお答えください。							
会員総数	現在の会員総数	名					
	会員総数の内訳	男性	名	女性	名	うち外国籍	名
	1945年(昭和20年)～現在で、最も会員が多かった時の会員総数とその時期		名	(昭和	平成	年時点)
年齢層別会員数とその割合	10歳未満	名	10代	名	20代	名	
		%		%		%	
	30代	名	40代	名	50代	名	
		%		%		%	
※各年齢層の会員数と全体における割合(%)を併せてお答えください。	60代	名	70代	名	80代	名	
		%		%		%	
	90代以上	名				%	
		%					
10年間(2008年～現在)の会員数の増減傾向	<input type="checkbox"/> 増加		<input type="checkbox"/> 減少		<input type="checkbox"/> 変化なし		
10年間(2008年～現在)の会員数の増減割合	<input type="checkbox"/> ±0%		<input type="checkbox"/> ±1～10%		<input type="checkbox"/> ±10～20%		
※右の数字は、上記項目で<増加>を選択した場合はプラスの%、<減少>を選択した場合はマイナスの%を示す。<増加>の場合のみ100%以上の選択が存在。	<input type="checkbox"/> ±20～30%		<input type="checkbox"/> ±30～40%		<input type="checkbox"/> ±40～50%		
	<input type="checkbox"/> ±50～60%		<input type="checkbox"/> ±60～70%		<input type="checkbox"/> ±70～80%		
	<input type="checkbox"/> ±80～90%		<input type="checkbox"/> ±90～100%		<input type="checkbox"/> +100%以上		
⑫ 団体の年間事業予算額	<input type="checkbox"/> 300万円未満		<input type="checkbox"/> 300～500万円		<input type="checkbox"/> 500～1,000万円		
	<input type="checkbox"/> 1,000～2,500万円		<input type="checkbox"/> 2,500～5,000万円		<input type="checkbox"/> 5,000万～1億円		
	<input type="checkbox"/> 1～2億円		<input type="checkbox"/> 2～3億円		<input type="checkbox"/> 3億円以上		
⑬ 一般会員の年間活動費	平均	円/年	※月謝、用具用材代、表具代、出品料、交通費等を含む推定平均額をご記入ください。				
⑭ 一般会員の年間活動時間	平均	時間/年	※書道活動にかかるおおよその年間活動時間の推定平均時間をご記入ください。				

書道団体実態調査

対象：書道団体(計119件)

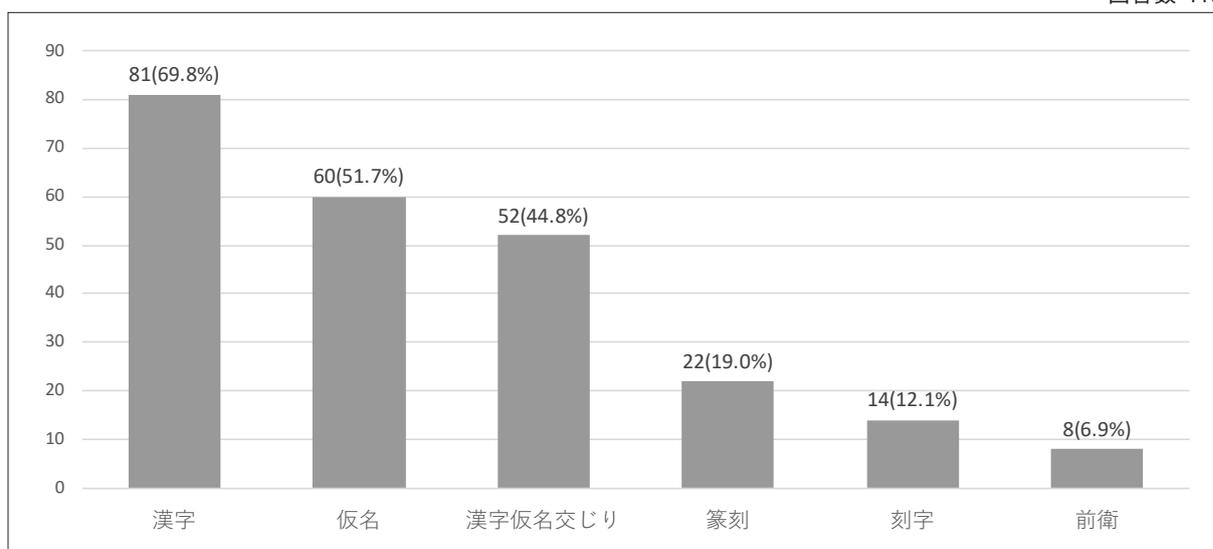
【②団体の位置付け】

回答数 119



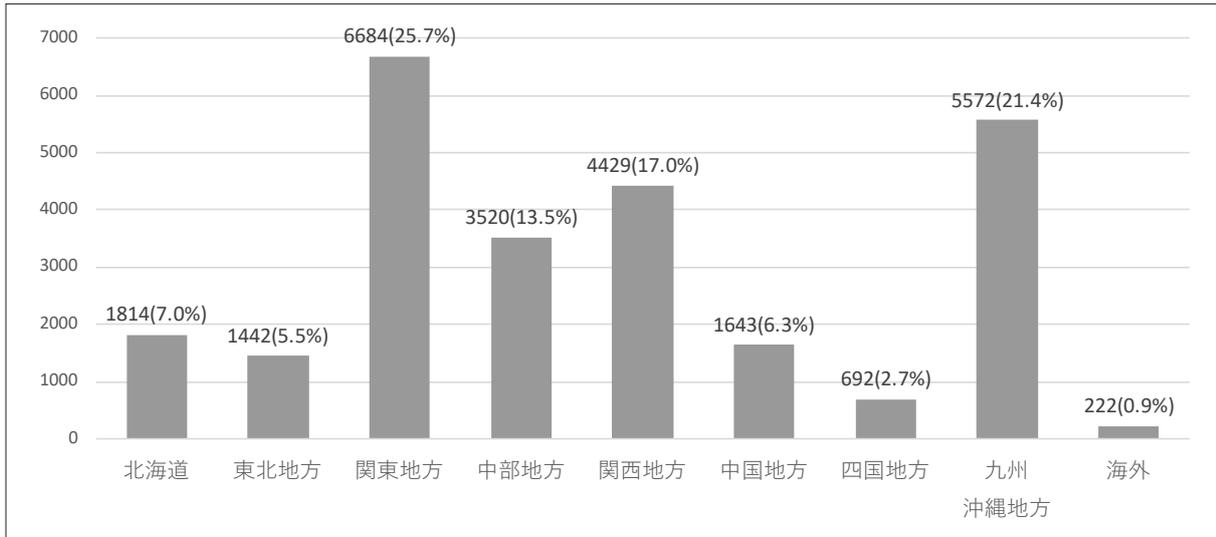
【③分野】(複数回答可)

回答数 116



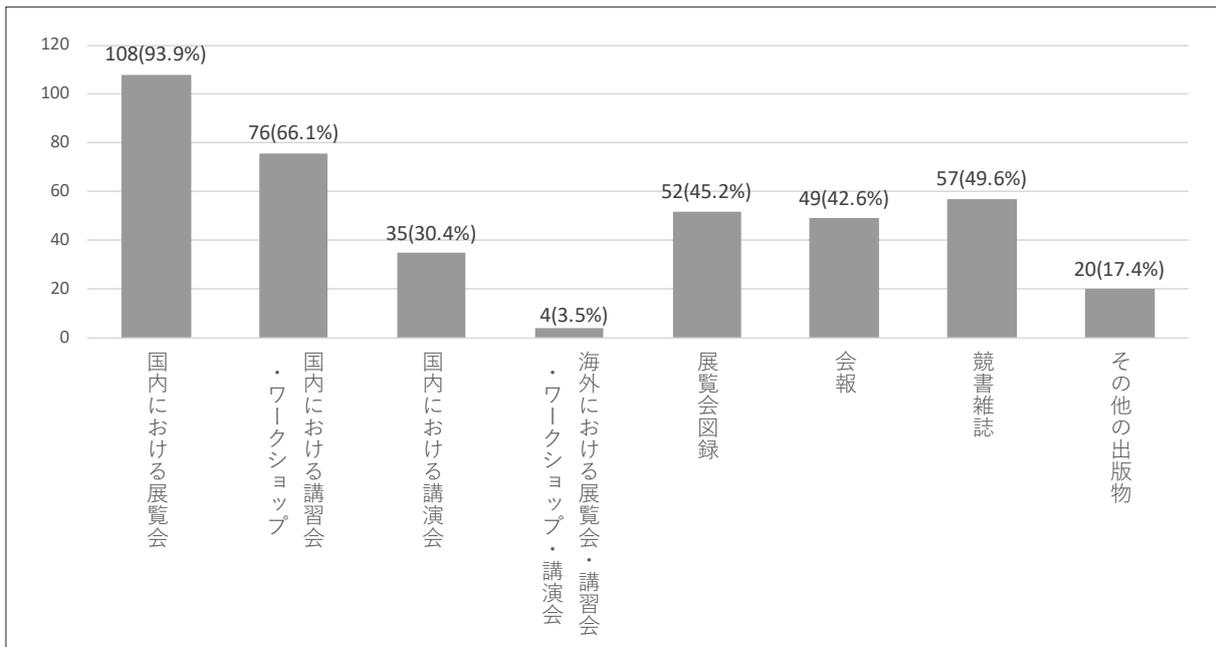
【⑥支部・会派・社中等の総数・分布】 総数 26018名

回答数 105



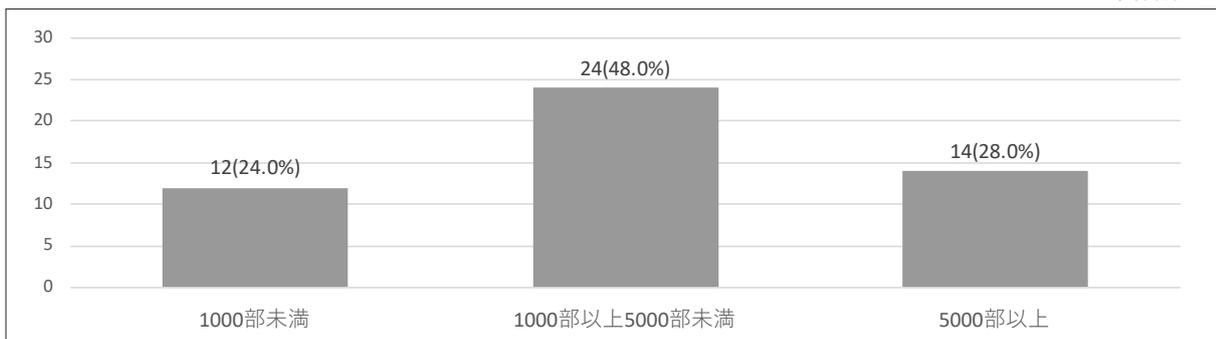
【⑩団体の活動詳細】（複数回答）

回答数 115



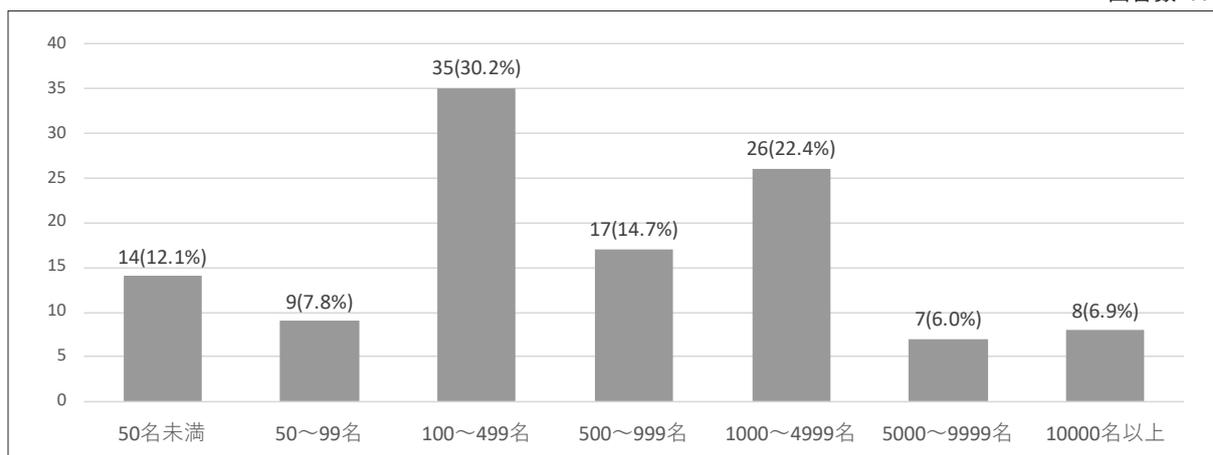
【⑩団体の活動詳細（競書雑誌の発行部数）】

回答数 50



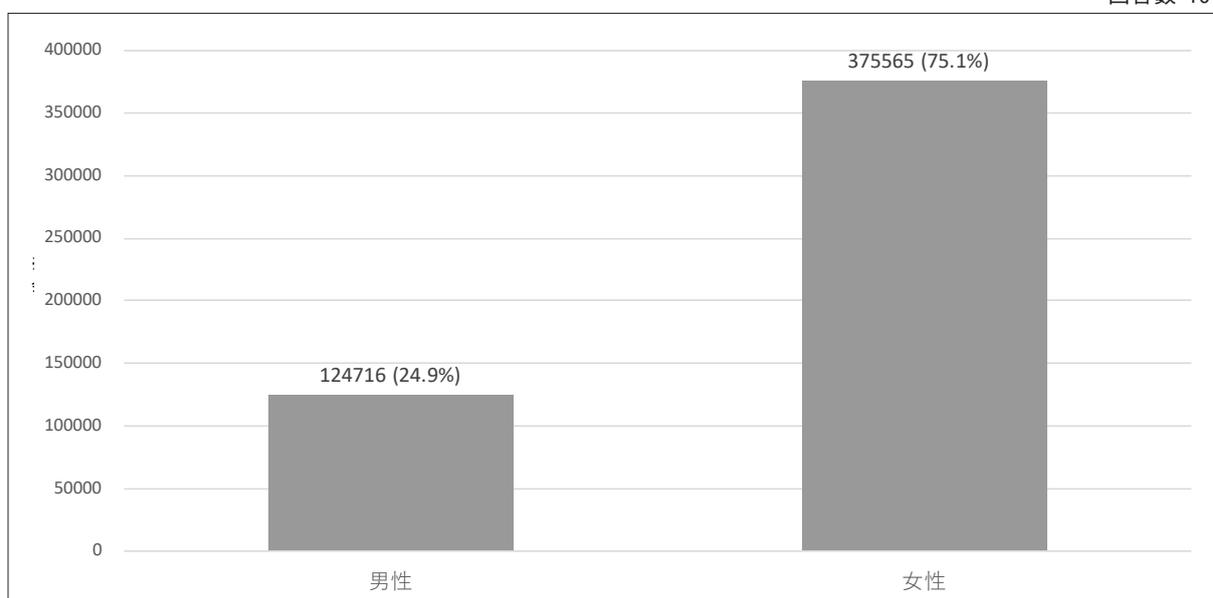
【⑪現在の会員総数】 会員総数 667366名

回答数 116



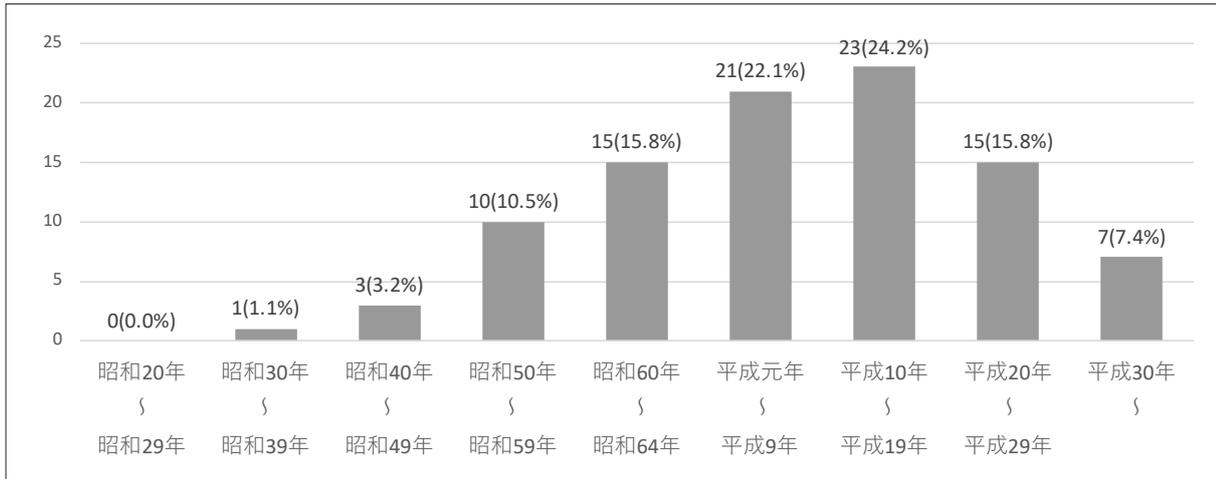
【⑫会員総数の内訳】 会員総数 500281名

回答数 101



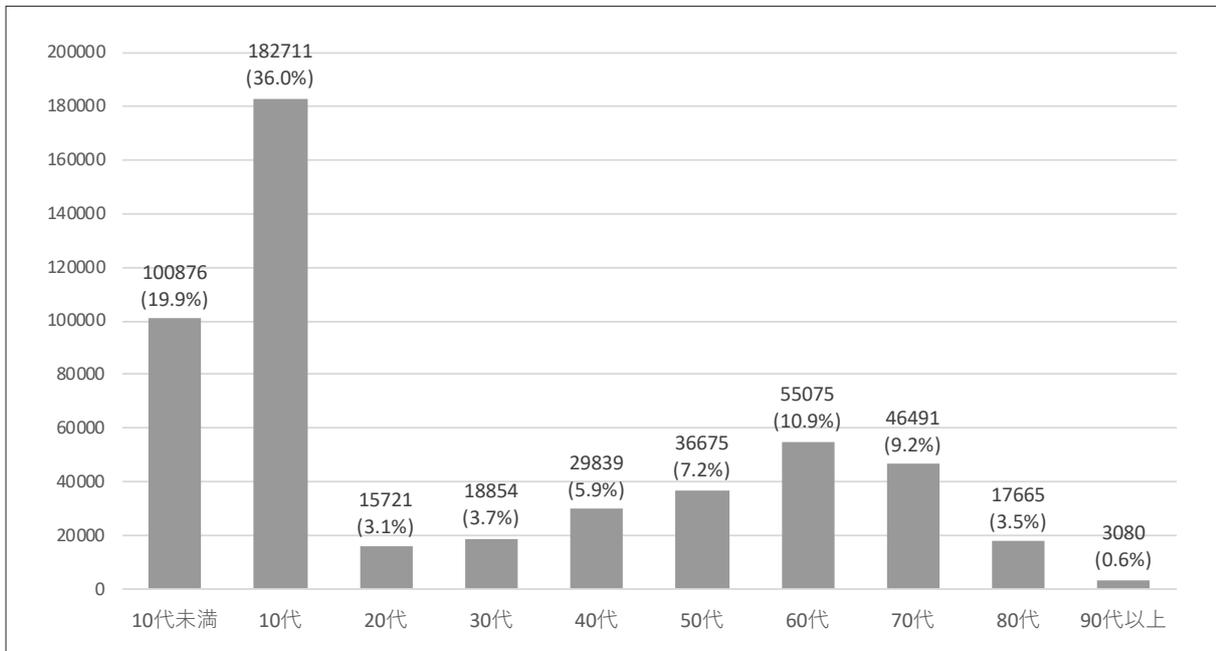
【⑪1945年(昭和20年)～現在で、最も会員が多かった時期】

回答数 95



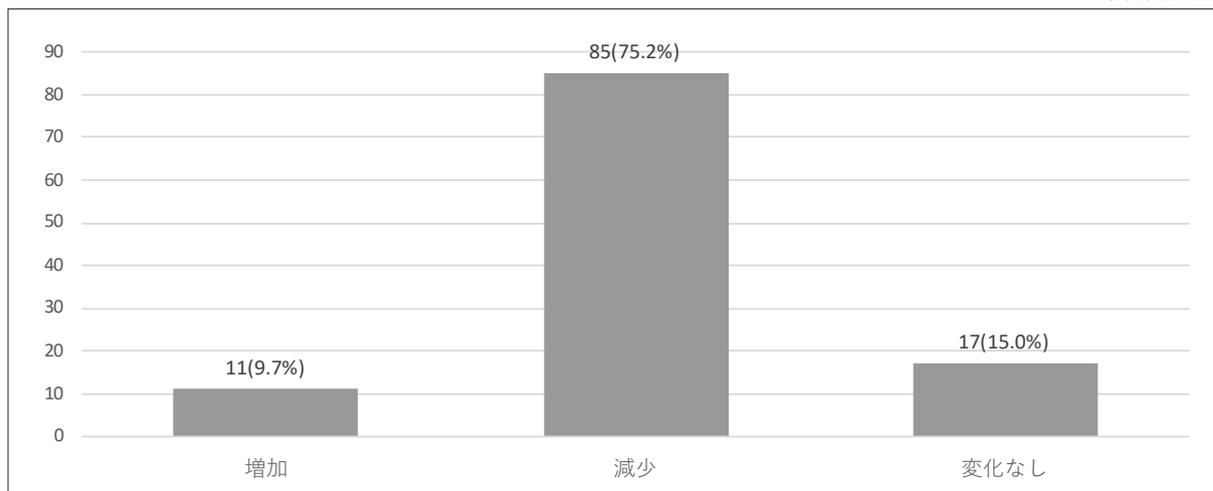
【⑪年齢層別会員数とその割合】 総数 506987人

回答数 87



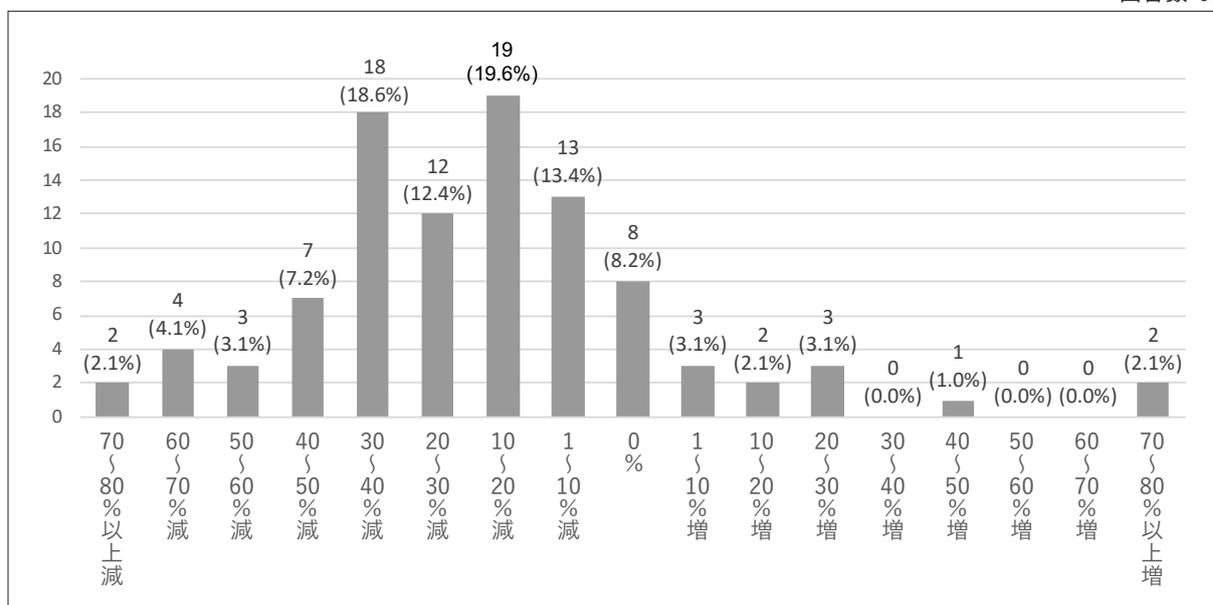
【⑪10年間(2008年～現在)の会員数の増減傾向】

回答数 113



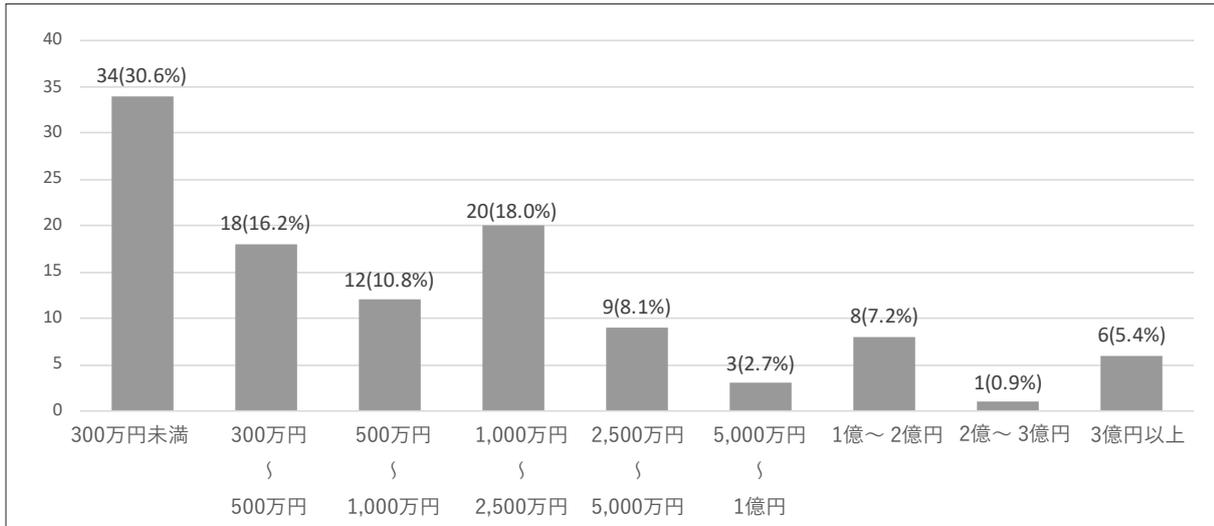
【⑪10年間(2008年～現在)の会員数の増減割合】

回答数 97



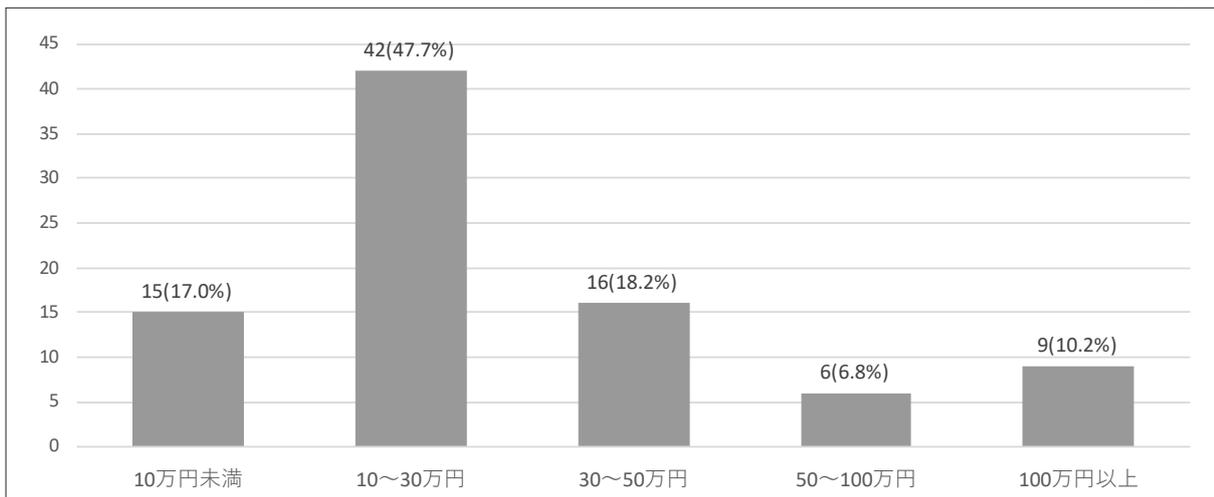
【⑫団体の年間事業予算額】

回答数 111



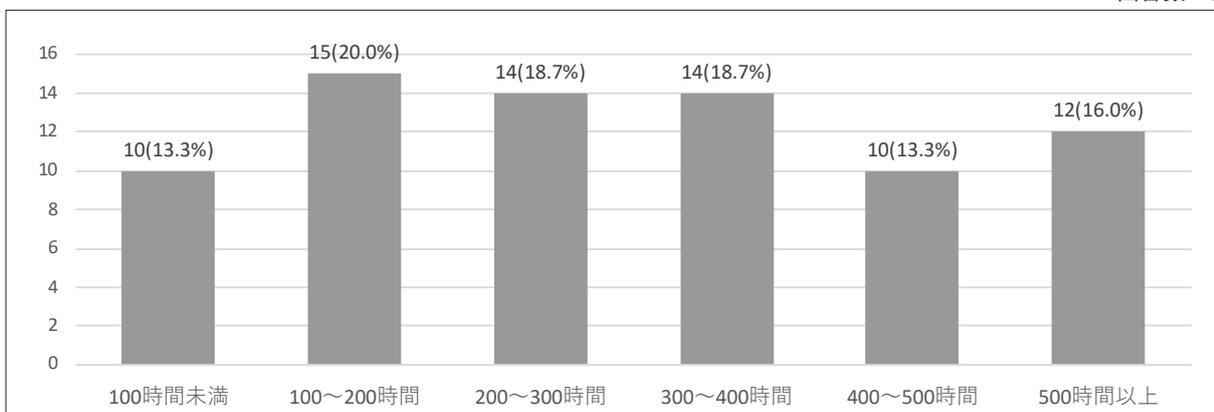
【⑬一般会員の年間活動費】

回答数 88



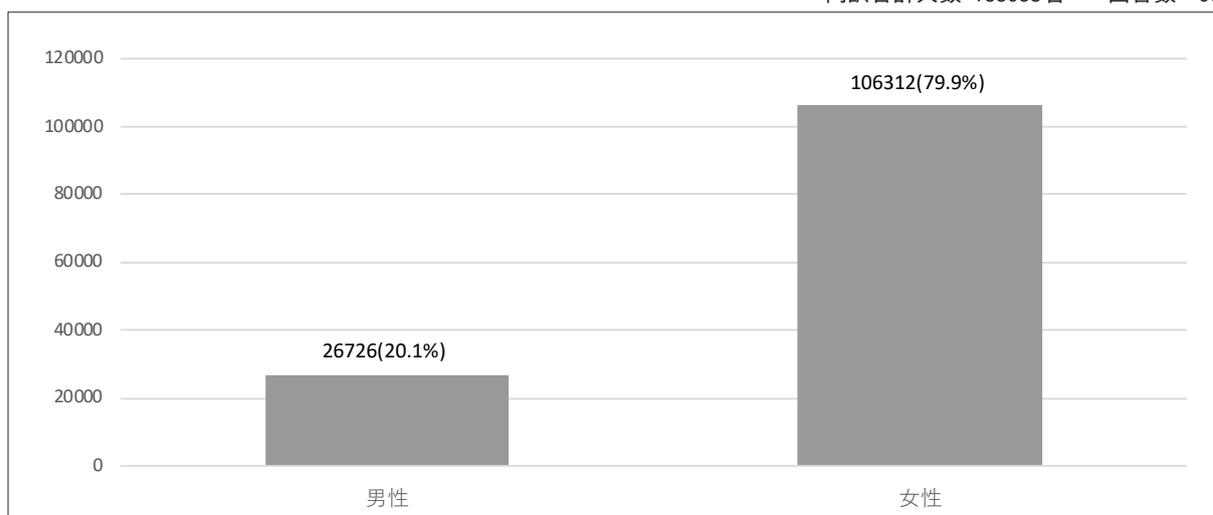
【⑭一般会員の年間活動時間】

回答数 75



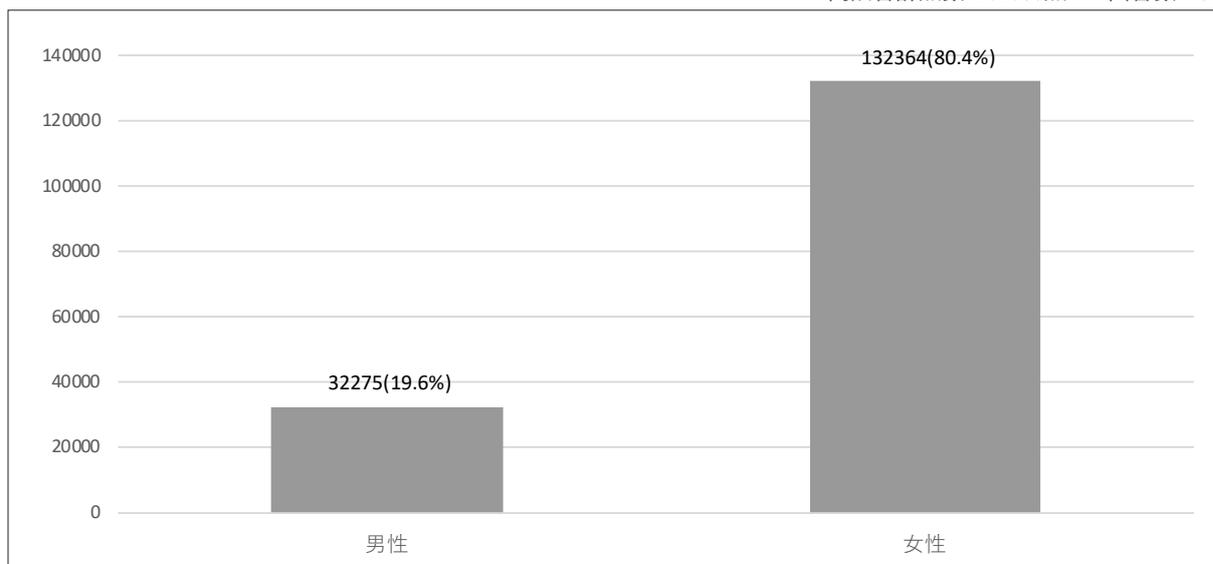
【⑮展覧会の出品者数】

出品者総数 188134名 回答数 108
内訳合計人数 133038名 回答数 93



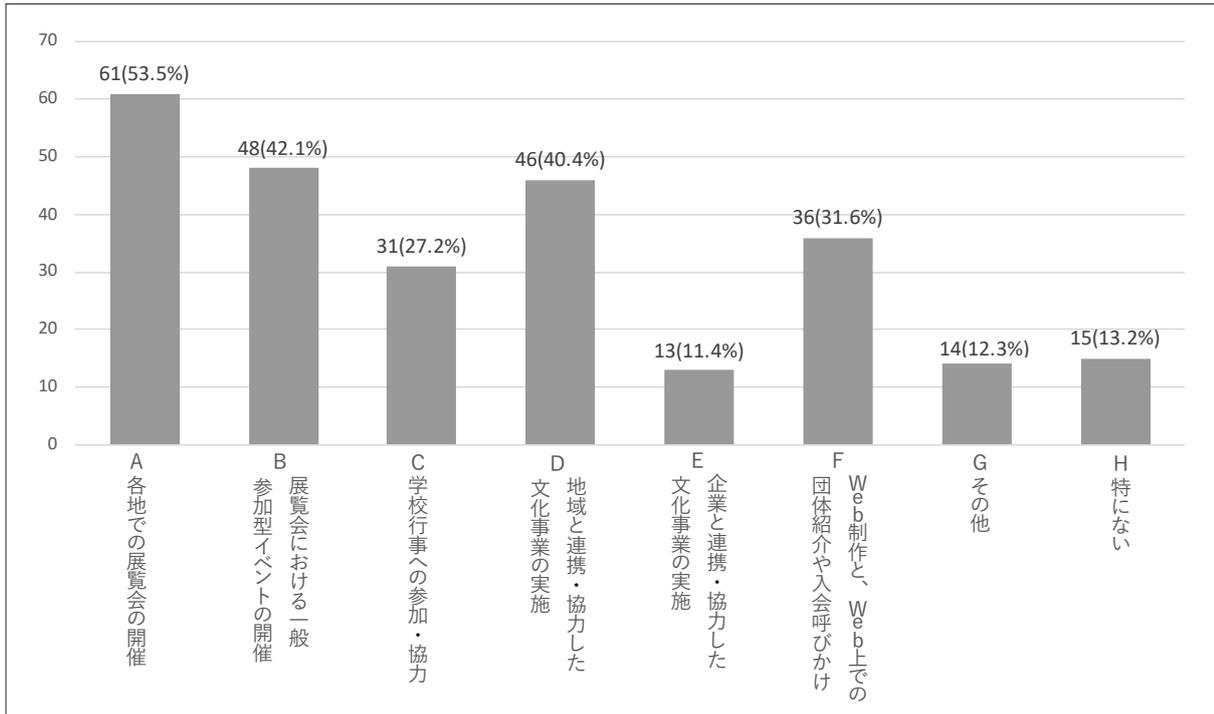
【⑮展覧会の出品点数】

出品点数 317597点 回答数 101
内訳合計点数 164639点 回答数 86



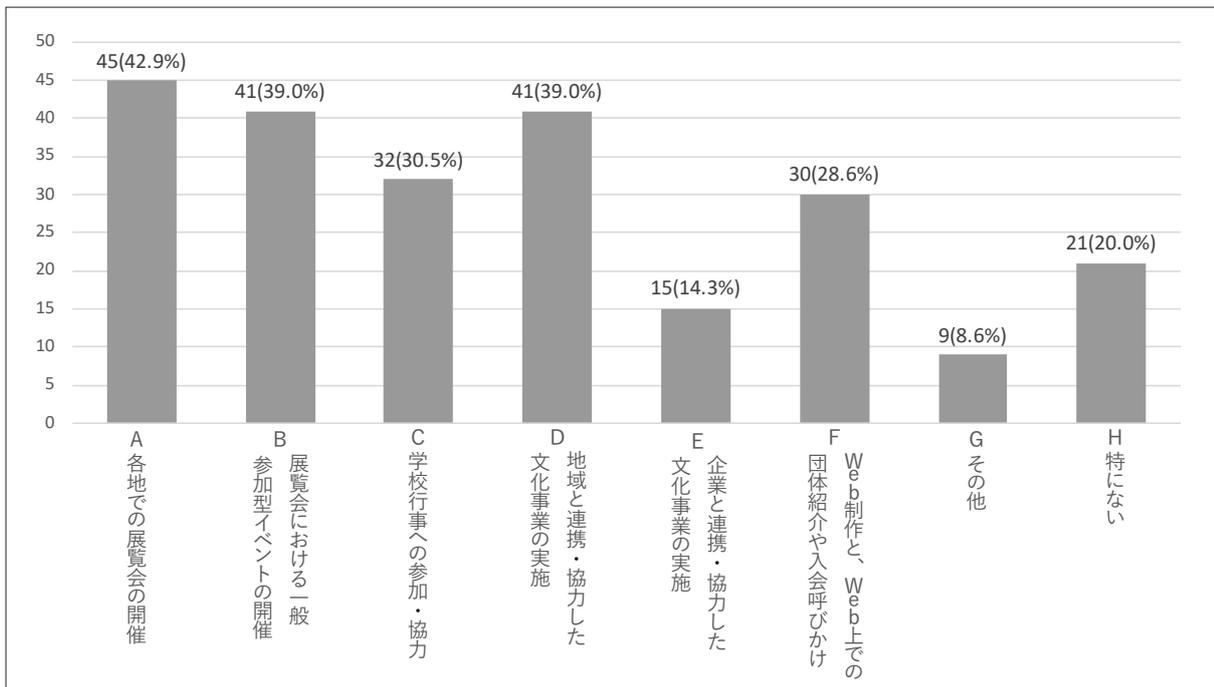
【⑩新規会員の獲得に向けた団体の活動 —現在、実施している活動—】（複数回答可）

回答数 114



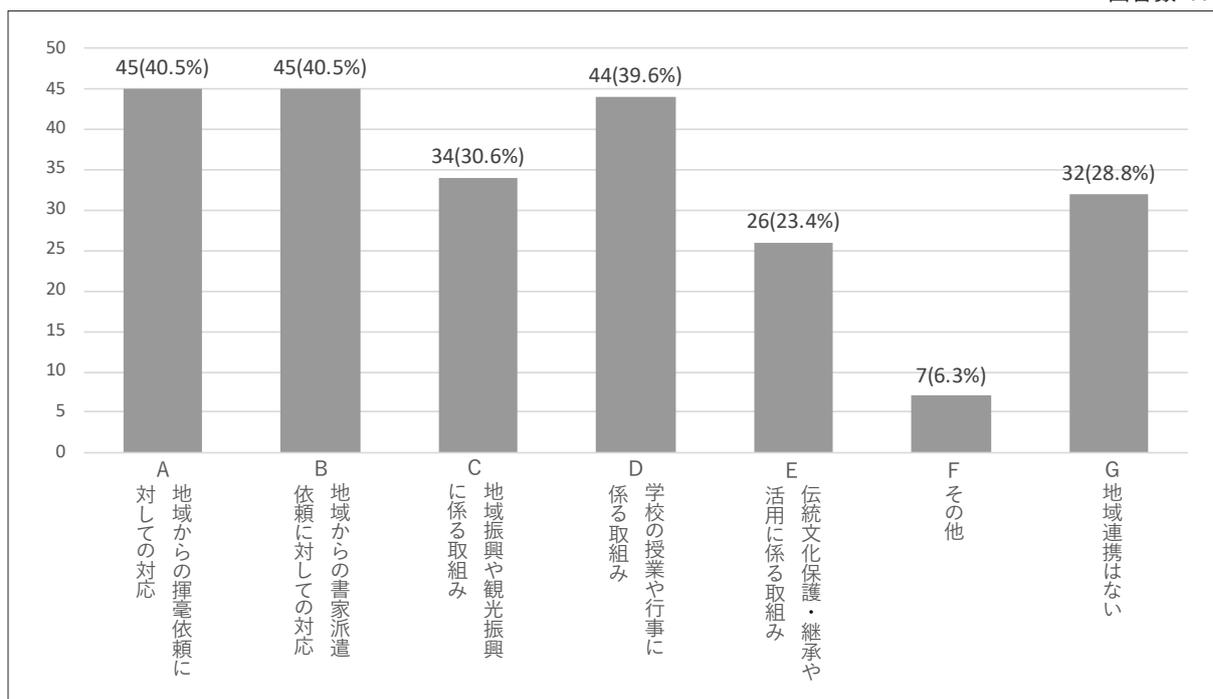
【⑩新規会員の獲得に向けた団体の活動 —今後、予定又は検討している活動—】（複数回答可）

回答数 105



【⑰地域連携の有無 —現在、実施している活動—】（複数回答可）

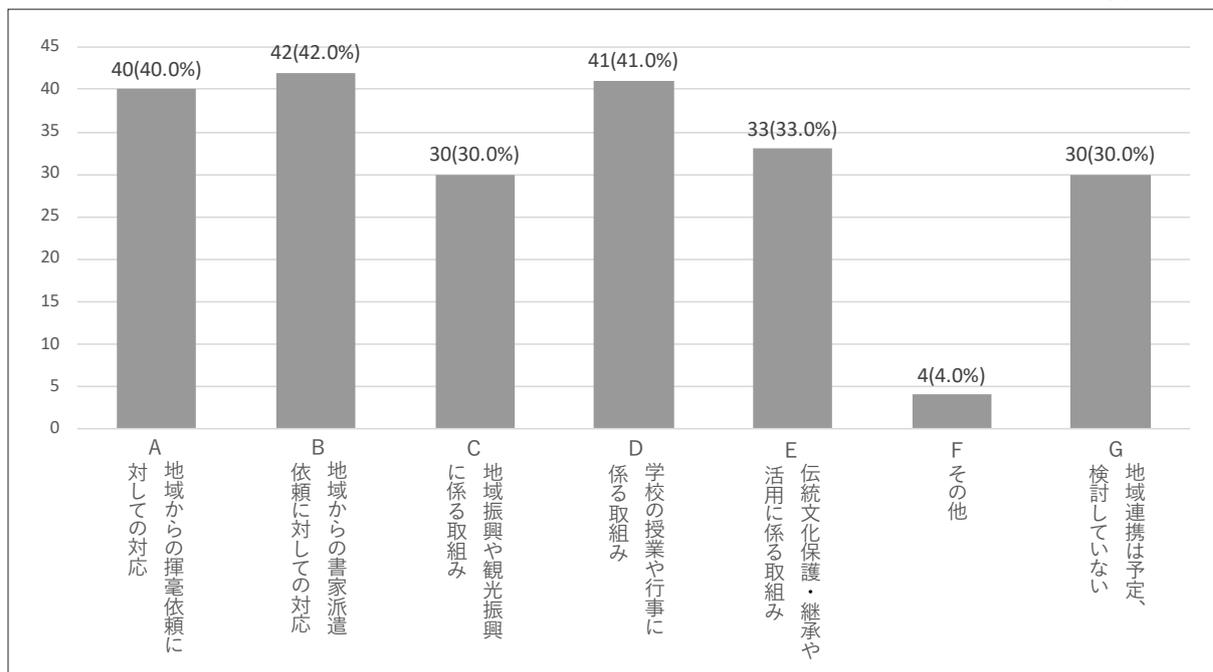
回答数 111



⑥書道団体

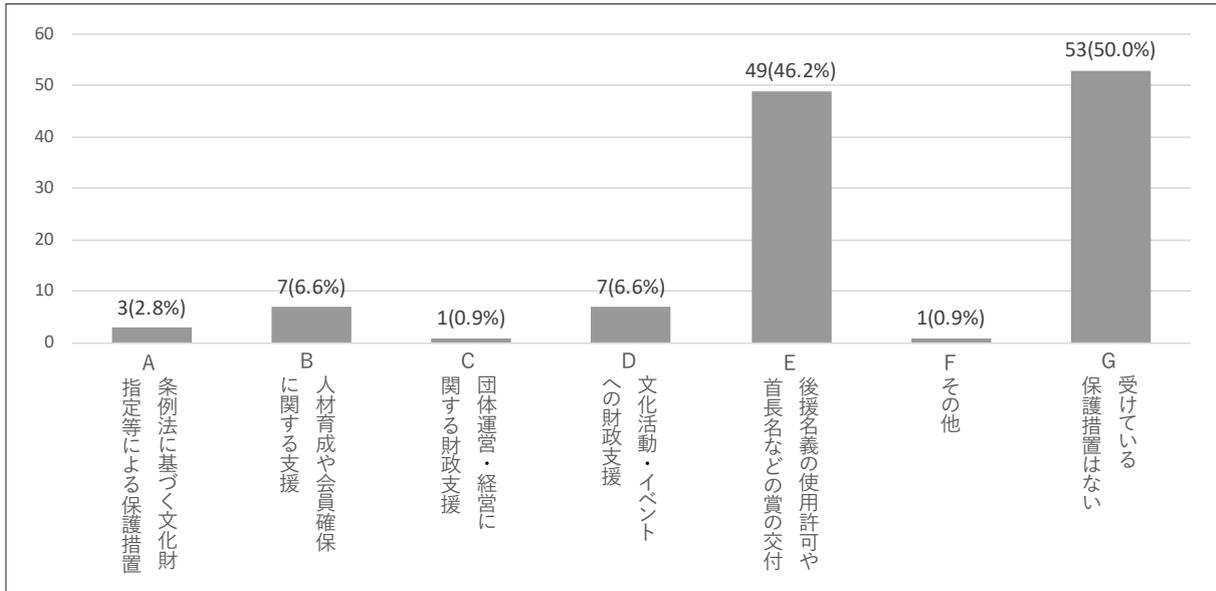
【⑰地域連携の有無 —今後、予定又は検討している活動—】（複数回答可）

回答数 100



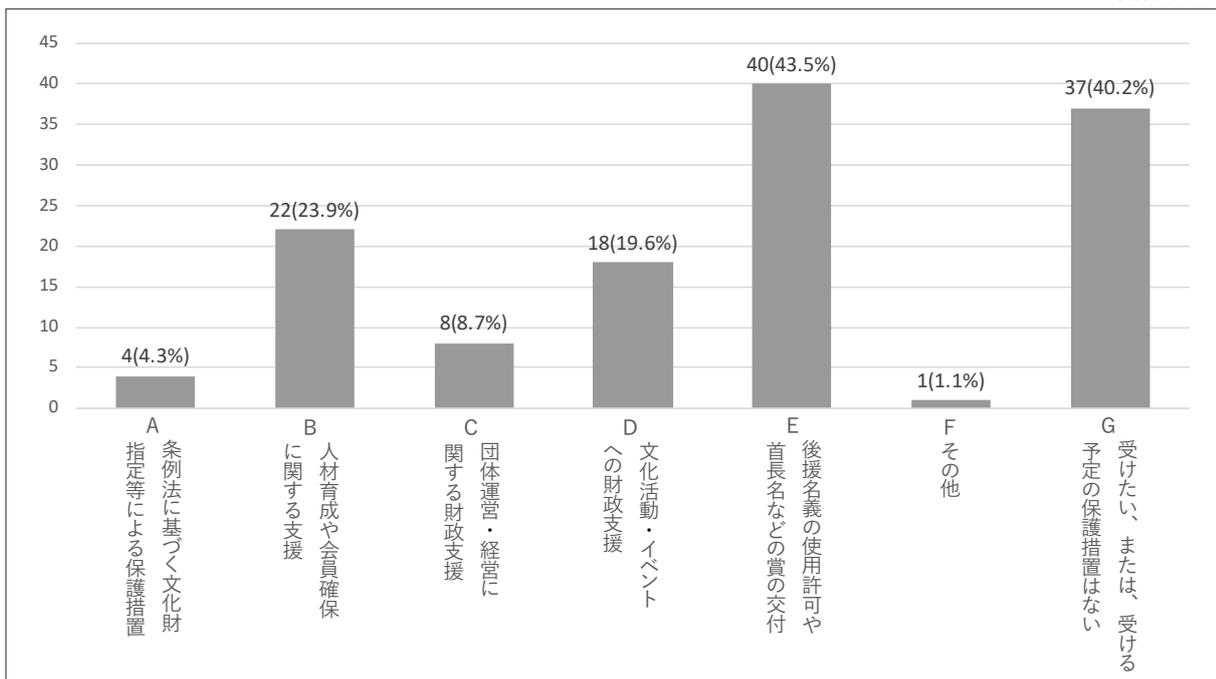
【⑱地方公共団体からの書道文化の保護措置の有無—現在、受けている保護措置—】（複数回答可）

回答数 106



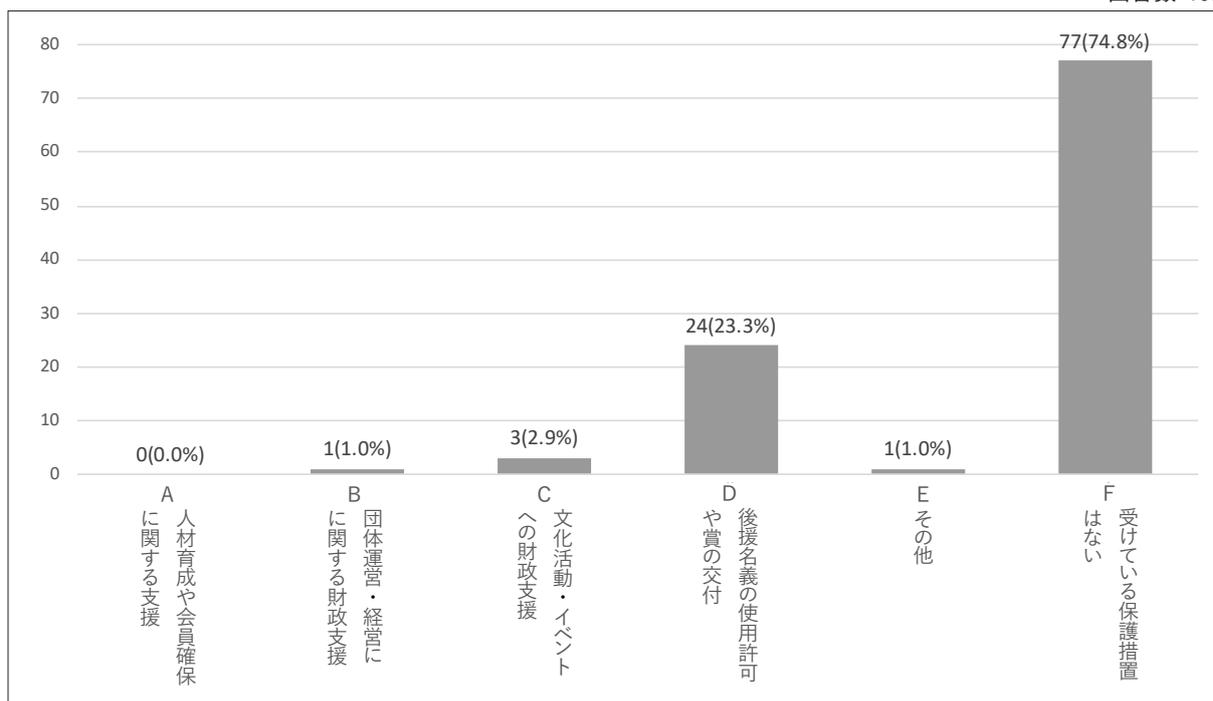
【⑱地方公共団体からの書道文化の保護措置の有無—今後受きたい又は受ける予定の保護措置—】（複数回答可）

回答数 92



【⑱国からの書道文化の保護措置の有無 —現在、受けている保護措置—】（複数回答可）

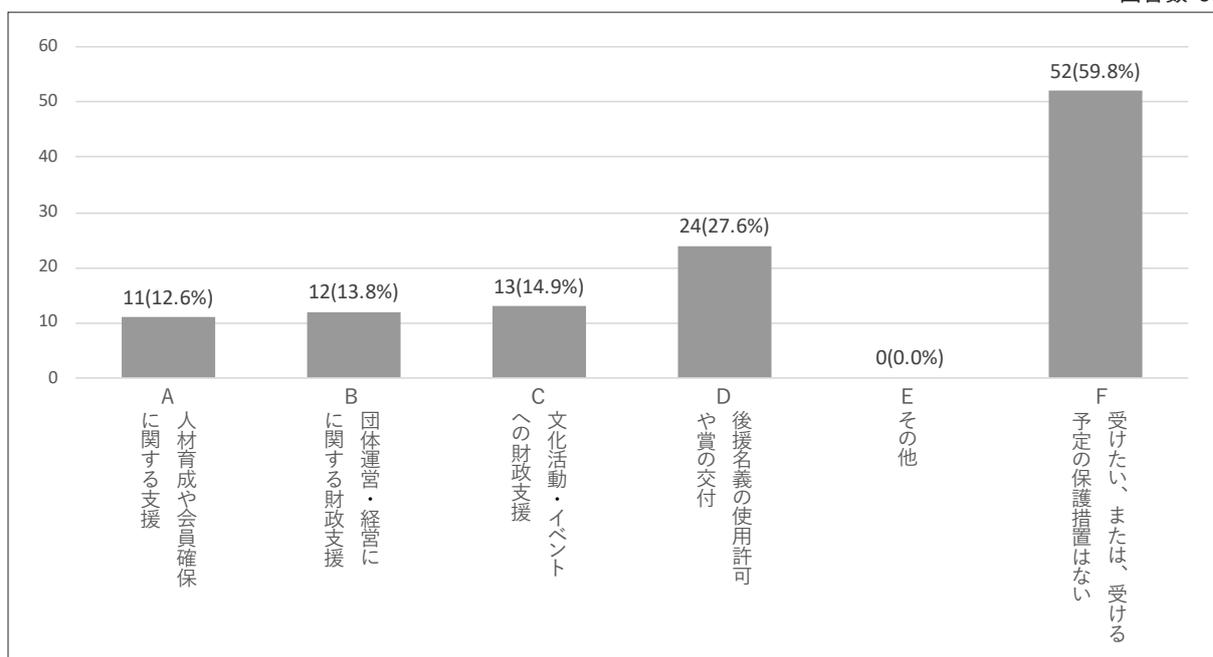
回答数 103



⑥書道団体

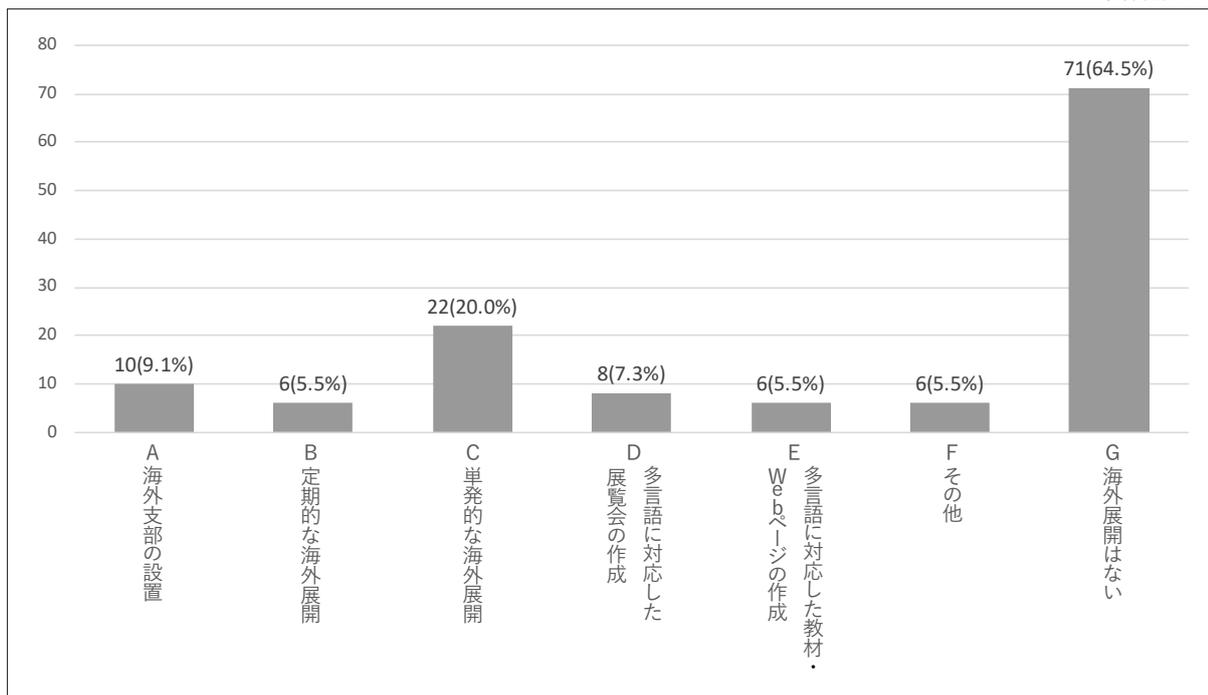
【⑱国からの書道文化の保護措置の有無 —今後受きたい又は受ける予定の保護措置—】（複数回答可）

回答数 87



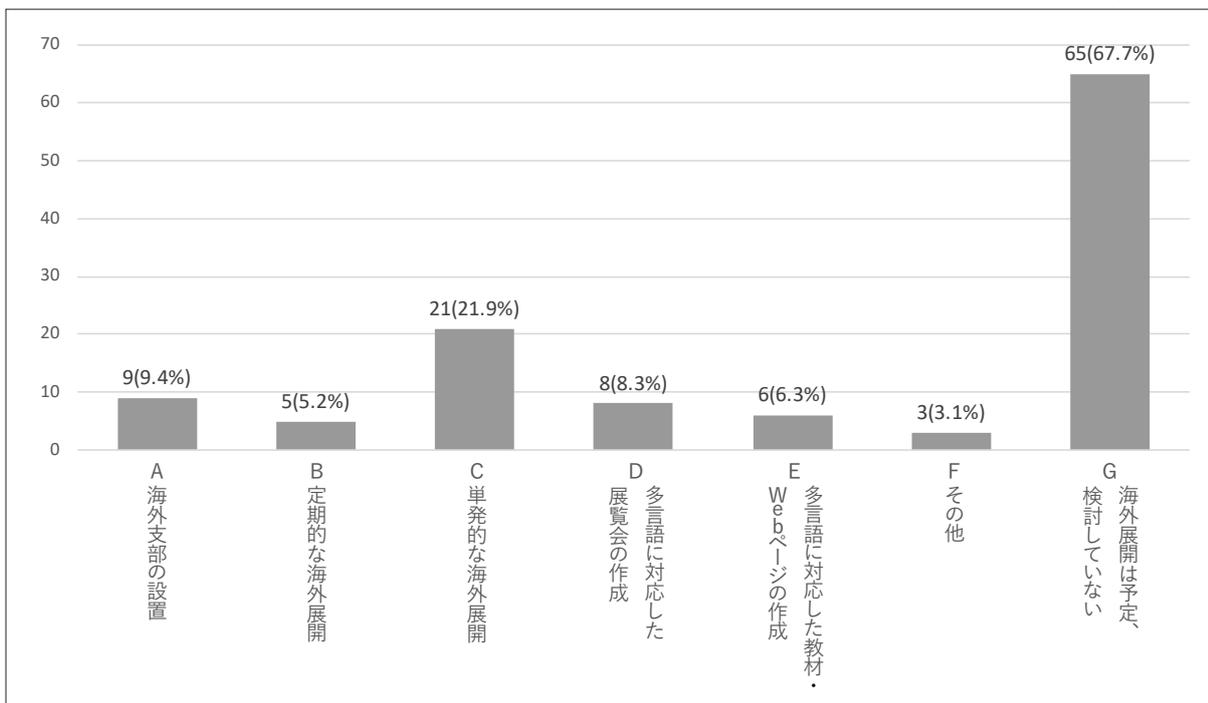
【⑳団体の海外展開の有無 —現在、実施している活動—】（複数回答可）

回答数 110



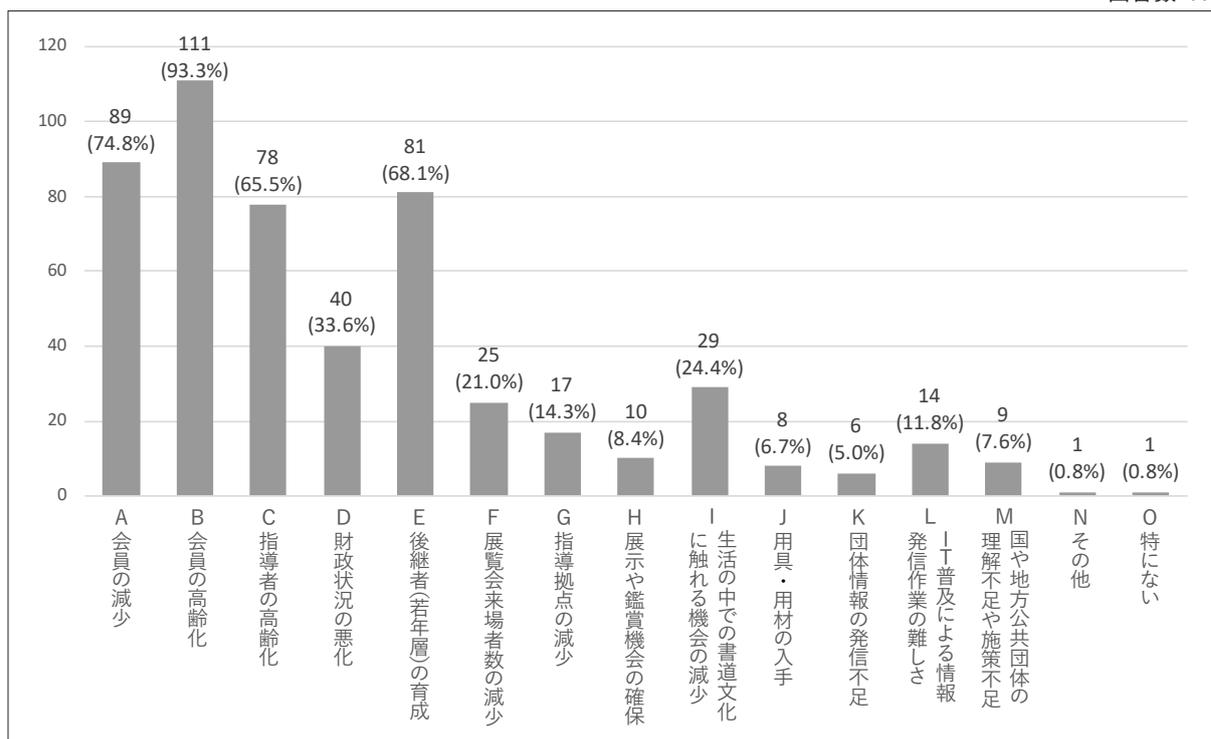
【⑳団体の海外展開の有無 —今後、予定又は検討している活動—】（複数回答可）

回答数 96



【②現状における団体の問題点や課題点】（複数回答可）

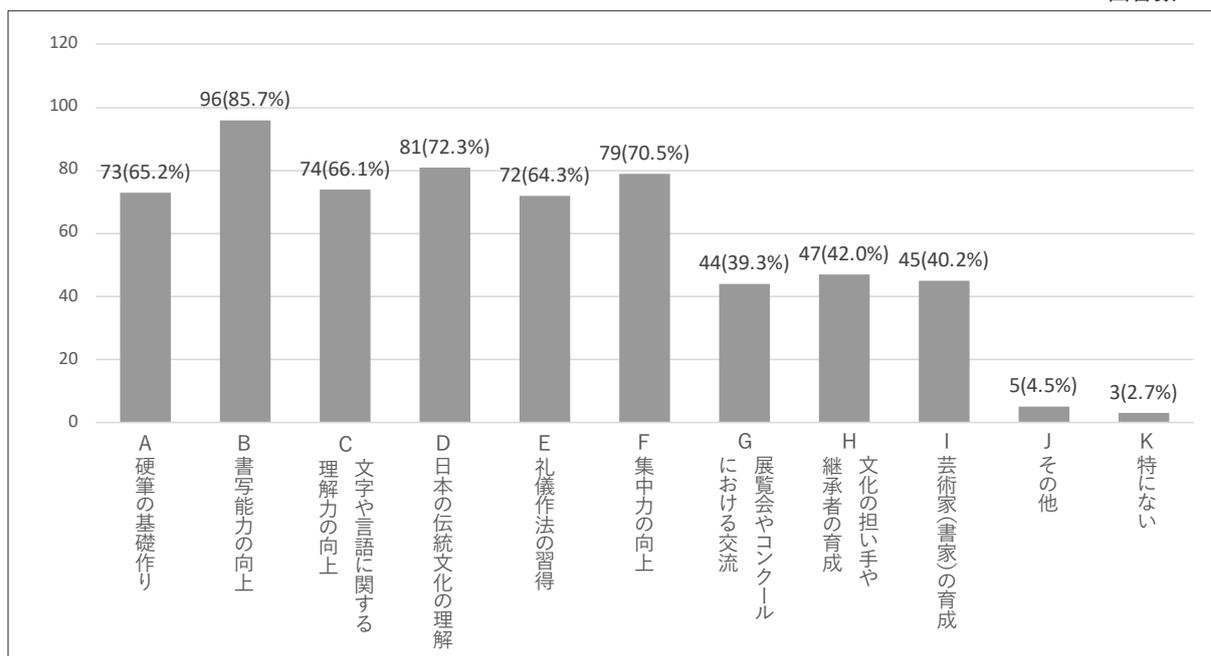
回答数 119



⑥書道団体

【②子どもに書道を学ばせた際の、書道文化の社会的役割・社会的効果】（複数回答可）

回答数 112



書道文化に関する基礎調査 NO. 2

団体名 【 】 ※お手数ですが、こちらの2枚目にも、必ず団体名をご記入ください。

- ⑦ 題材（課題や手本）は規定していますか。
 A 規定している B 一部規定している C 規定していない
- ⑧ ⑦で「A 規定している」「B 一部規定している」と回答された方に質問です。
 題材（課題や手本）の文言（ことば）はどのように選択していますか。
 選択する際の留意点などを含めてご記入ください。

また、直近の書き初めでの題材（課題や手本）と規定の紙のサイズを教えてください。
 該当箇所のみご記入ください。

未就学児	題材（					
	紙	A 半紙	B 条幅	C その他（	D 各自自由	
小学校1年生	題材（					
	紙	A 半紙	B 条幅	C その他（	D 各自自由	
小学校2年生	題材（					
	紙	A 半紙	B 条幅	C その他（	D 各自自由	
小学校3年生	題材（					
	紙	A 半紙	B 条幅	C その他（	D 各自自由	
小学校4年生	題材（					
	紙	A 半紙	B 条幅	C その他（	D 各自自由	
小学校5年生	題材（					
	紙	A 半紙	B 条幅	C その他（	D 各自自由	
小学校6年生	題材（					
	紙	A 半紙	B 条幅	C その他（	D 各自自由	
中学校1年生	題材（					
	紙	A 半紙	B 条幅	C その他（	D 各自自由	
中学校2年生	題材（					
	紙	A 半紙	B 条幅	C その他（	D 各自自由	
中学校3年生	題材（					
	紙	A 半紙	B 条幅	C その他（	D 各自自由	
高校生	題材（					
	紙	A 半紙	B 条幅	C その他（	D 各自自由	
大学生	題材（					
	紙	A 半紙	B 条幅	C その他（	D 各自自由	
大人	題材（					
	紙	A 半紙	B 条幅	C その他（	D 各自自由	

①で「B 行っていない」と回答された方への質問 ⇒ 次の⑨をお答えください。

- ⑨ 書き初めを行わない理由を教えてください。（複数回答可）
- A 書き初めを行う経費がない B 時間の確保が困難 C 場所の確保が困難
 D 用具用材の準備が困難 E 書き初めに向けて準備を行う人手がない
 F 書き初めの要望自体がない G 書き初めを行う必要性をあまり感じない
 H その他（ ）

ご協力ありがとうございました。

書道文化に関する基礎調査
—書道団体 書き初めについて—

対象：全国の書道団体(計119件)

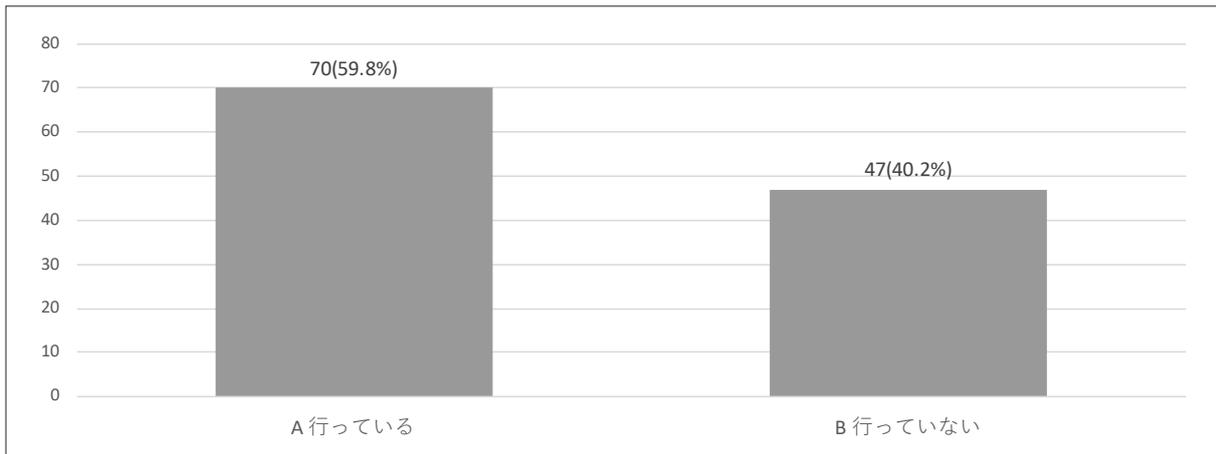
書き初めについてお伺いします。

書き初めとは、文字の上達を願って本来新年に初めて毛筆で文字を書く行為を言いますが、書き初め大会や正月のコンクールなどに出品するために、新年または新年以外の時期に毛筆で書くことなども含め、幅広く捉えてご回答ください。

① 書き初めを行っていますか。

A 行っている B 行っていない

回答数 117



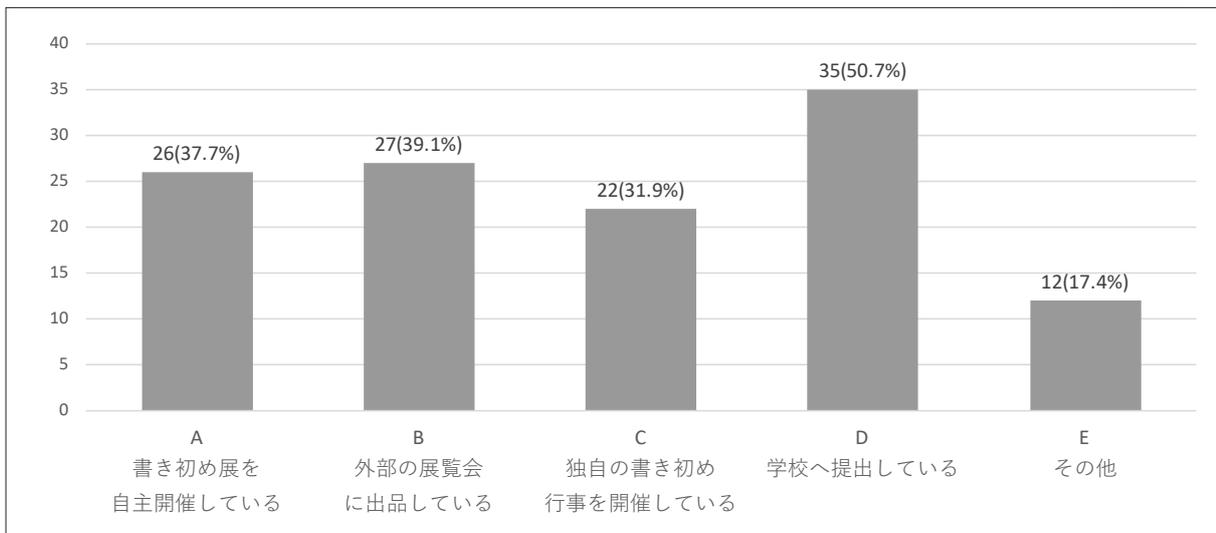
①で「A 行っている」と回答された方への質問 ⇒ ②～⑧をお答えください。

①で「B 行っていない」と回答された方への質問 ⇒ 次ページの⑨をお答えください。

② 書き初めはどのように行っていますか。(複数回答可)

A 書き初め展を自主開催している B 書き初めの成果を外部の展覧会に出品している
C 書塾等における独自の書き初め行事を開催している D 学校へ提出している
E その他()

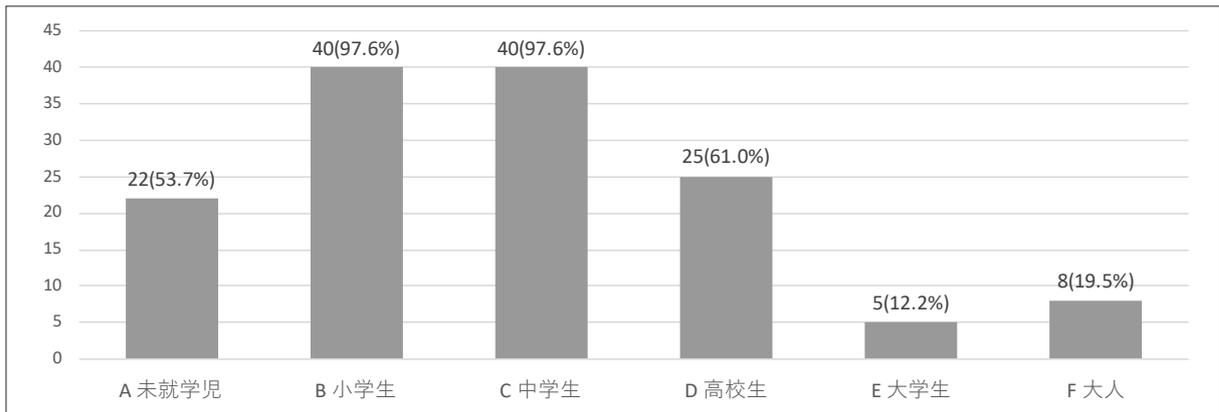
回答数 69



③ 書き初めの対象としている年齢をお答えください。(複数回答可)

- A 未就学児 B 小学生 C 中学生 D 高校生
E 大学生(専門学校や大学院の学生も含む) F 大人

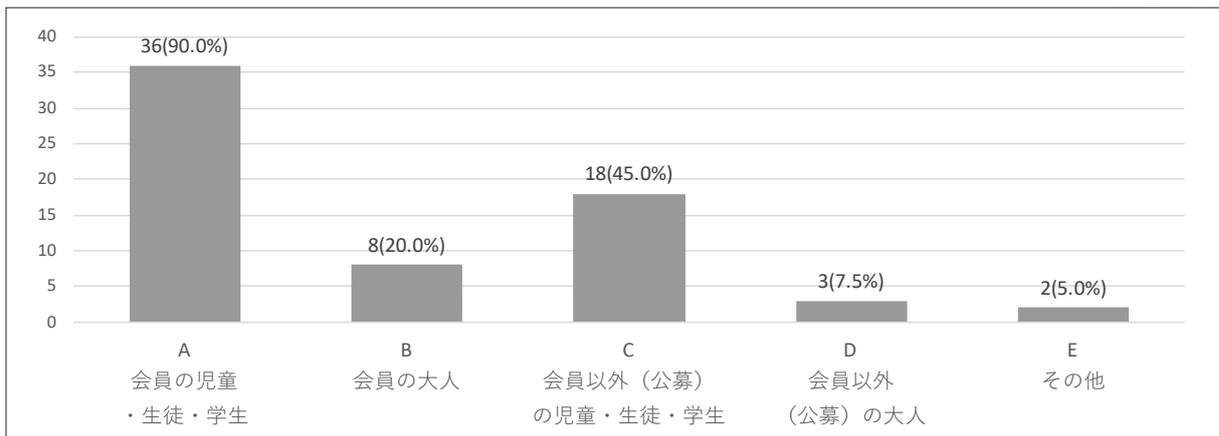
回答数 41



④ 書き初めの対象としている参加範囲をお答えください。(複数回答可)

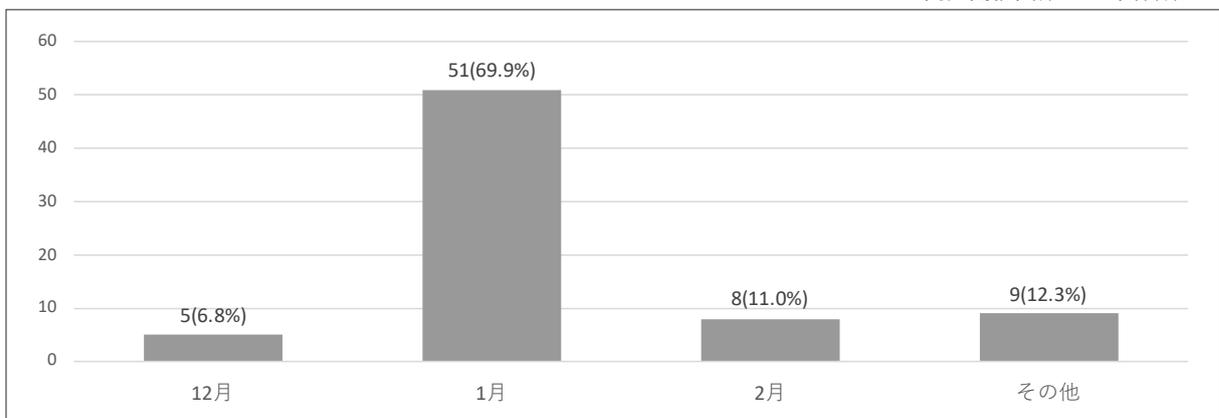
- A 会員の児童・生徒・学生 B 会員の大人
C 会員以外(公募)の児童・生徒・学生 D 会員以外(公募)の大人
E その他()

回答数 40



⑤ 開催はいつですか。直近の開催日(2回分)をご記入ください。

内訳開催回数 73 回答数 38



⑥ 普段の稽古の教授内容と書き初めの教授内容に違いがありましたら、具体的に教えてください。

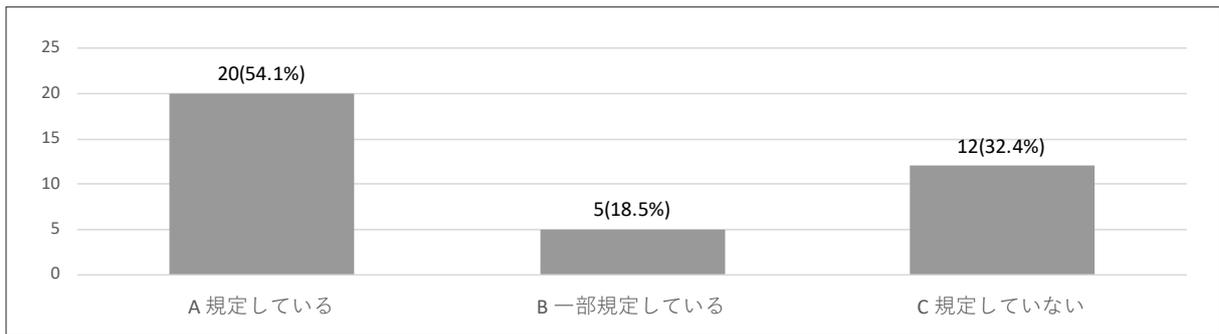
※回答者による記述のまま

- ・ 普段の教授内容は大きく、力強く、自由にのびのび書かせている
書き初め展は全国教育の標準的書写に応じて書きぶりを指導します
- ・ 書き初め用紙に元気に書くよう指導している
- ・ 普段は半紙ですが書き初め展は半切(条幅4分の1)、半紙の2種類
- ・ 県書写研究部会の参考手本があり、その手本どおりに模写しなければ、なかなか評価がされない
- ・ 競書誌の課題中心に行くが、学校で宿題が出た場合、提出日を勘案して宿題を中心として進めている
- ・ まず用紙のサイズが違うので少し大きめの筆を用意し貸与もしたりして対応しています
- ・ 県・市等の主催の地域主催の書き初めには、各支部の一部の者が参加。ほかに新聞社などが主催する学生書道長・競書大会などに積極的に参加している
- ・ 検査を受けている団体の書き初め展出品
- ・ 普段よりけいこ時間を増やしている
- ・ 各教室の年初稽古日を書き初めに当てている
- ・ 書道教室では本院発行の課題を中心に学習しているが、書き初めでは自由に書いている
- ・ 基本動作への意識を高める
- ・ 縦長ですが教授内容は違いません
- ・ 普段よりも力強くのびやかな表現ができるように指導している
- ・ 高校生は半切と決まっている
- ・ 理解度、認識の低さに原因があると考えられる
- ・ 新年を迎えた希望に満ちたおごそかな気持ちをもち筆をとる
- ・ 普段は半紙のみの稽古であるが、夏休みの宿題は半切なので場所などに費用がかかり、アシストも大変で3、4人お願いしている現況
- ・ 自己に向かい集中力を高め1年のはじめとして丁寧に落ち着いて仕上げる稽古をする
- ・ 小さな生徒の場合立たせて書かせている
- ・ コンクールを実施している
- ・ 学年ごとにコンクール形式にしている
- ・ 新春書道展などで展示を行っている
- ・ 競書に基づいて
- ・ 吉語を選んでくることという課題がある
- ・ 紙と筆とを替え四半切に対応する様にしている
- ・ 大きな作品制作となります
- ・ 紙に適した書き方の指導
- ・ 全国学生書道展と改称しました
- ・ 普段は半紙で教授する。書き初めは半紙で教授する
- ・ 書き初め出品に特に別の稽古日を当てる
- ・ 小学、中学において学校教科書と県の書写の筆法の違いに苦しむ
- ・ 本展に併せ、学部生として作品発表をしていますので、毎月の月例の競書とは別に作品を制作している
- ・ 普段の稽古では半紙に書くが、書き初めの場合は年の始めの稽古の日に心新たに大きな書初め用紙に書く
- ・ 中学生、高校生には文言を選ばせている
- ・ 普段の稽古は、各会員または書塾が行っており、その自主性に委ねている。
おおむね半紙による教授が多いようであり、用紙の大きさの違いから、用筆・布字・章法などを工夫する必要がある
- ・ 書き初めは自分の思いを画仙紙に書くので通常より紙の大きさが違う
- ・ 用紙を半紙よりも大きく、筆も大きくなります。素材も相応しいものを吟味します
- ・ 書き初め作品は冷金箋など派手な紙を使い1月の新年に家に飾られるよう持って帰らせませす
- ・ サイズの違いがあるため稽古とは別の日に書初めだけの日を設定し広い別会場を使ったりしている教室が多い
- ・ 毎年原則1月に条幅の展覧会を実施しており書初めのかたちになっている。普段は半紙中心の稽古です

⑦ 題材(課題や手本)は規定していますか。

A 規定している B 一部規定している C 規定していない

回答数 37



⑧ ⑦で「A 規定している」「B 一部規定している」と回答された方に質問です。

題材(課題や手本)の文言(ことば)はどのように選択していますか。

選択する際の留意点などを含めてご記入ください。

※回答者による記述のまま

- ・ 正月にふさわしい内容の文言、学校で学習した文字・漢字
- ・ 新年に向けてのふさわしい言葉や慶事語
- ・ 県書写研究部会で決定している
- ・ 規定課題は各学生各1年分を一括決め、それに沿って指導し学生のレベルに合わせて指導方法をかえる
文言は季節に合った言葉を選んだり心に響くことばや俳句の季語などの言葉も然し子供たちには知らない言葉が多すぎるように近年なってきたように思う。美しい日本語を伝えていきたいと思う
- ・ 親団体の決めた課題を書く
- ・ 視覚で美しい題材、心に響くことば
- ・ 自主開催ではないので学校や教育委員会等で規定された課題で指導している
- ・ 検定課題はあるので季節のことばを選ぶ
- ・ 文言もいいですが字数のバランスを考えてランダムに字数を指定して調和を研究している
- ・ 各都道府県の課題で書くことについて推奨している
- ・ 学校の教科書から引用
- ・ 理解しやすい言葉、時代を反映する言葉等
- ・ 節に似合うことばや学年で既に使用した漢字の文言を課題としている
- ・ 提示された課題を稽古している
- ・ 伝統に根差した春を慶ぶ言葉
- ・ 身近な文言
- ・ 書きやすい題材を選んでいる
- ・ 社会現象などにちなんだ題材を新たに考案したりしている
- ・ 漢詩中心に選んでいる
- ・ 正月や新年の決意などにふさわしい語句を選ぶ
- ・ 毎年同じ課題にならないよう注意している
- ・ 墨場必携などの書物より
- ・ 出張規定課題又は新年にふさわしい語
- ・ 文化省学習指導要領より
- ・ 県教育委員会課題
- ・ 学年に応じた対応
- ・ 主催する団体の課題に応じて指導
- ・ 季節に合った文言を選び課題としている

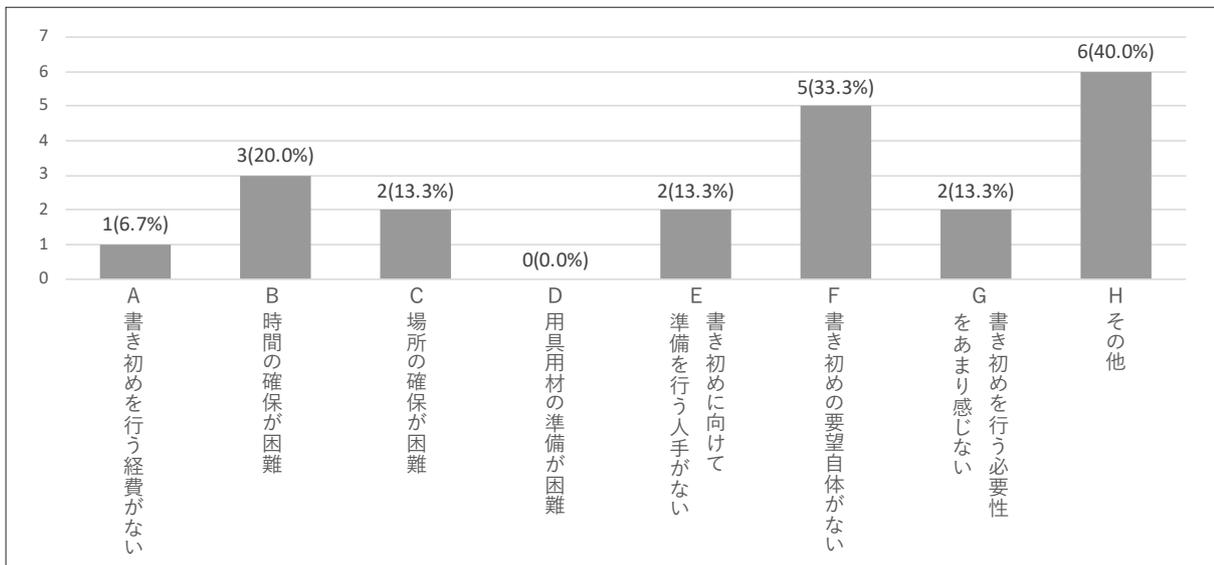
- ・毎年テーマを定めます
- ・学校からの指定教材
- ・学校経由で発表されている
- ・学年で学校でなっているか、常用漢字かどうかで手本の課題を決めている
- ・学生の部 大人の部
- ・幼少1に規定はない小2漢字1字以上小3、4漢字2字以上小5、6漢字3字以上中学生漢字4字以上(サイズは半切四分の一)
- ・冬の季節に合った言葉、めでたい言葉、年の始めにふさわしい斬新な言葉などを選ぶ
- ・通常の競書課題と同時に担当者が年間計画として公表している
- ・競書学生誌の課題による
- ・小学生 新年らしい文言 中高 好きな座右の銘等
- ・小学生には各学年で学習する教育漢字とひらがなを課題とする。書体は楷書とする
中学生は常用漢字の範囲内で書体は楷書または、行書とする
高校生は課題に七言二句または古典臨書とし、書体は篆隸楷行草いずれも可とする
- ・自分の思いの字を書く
- ・各学年で習得する漢字を中心に子供たちが書きやすい文字をなるべく多くし、正月にちなんだ言葉を選択している

①で「B 行っていない」と回答された方への質問 ⇒ 次の⑨をお答えください。

⑨ 書き初めを行わない理由を教えてください。(複数回答可)

- | | | |
|----------------|----------------------|------------|
| A 書き初めを行う経費がない | B 時間の確保が困難 | C 場所の確保が困難 |
| D 用具用材の準備が困難 | E 書き初めに向けて準備を行う人手がない | |
| F 書き初めの要望自体がない | G 書き初めを行う必要性をあまり感じない | |
| H その他() | | |

回答数 15



【その他の主な回答】

- ・別の課題に取り組んでいる(書き初めを対象としていない)
- ・時間がとれない
- ・子供を指導していない
- ・指導者、運営者として協力している

【⑥書道団体 分析結果】

▶書道団体の性格

今回回答を得た119団体は、会員数50名未満が14団体、10,000名以上が8団体、最小8名、最大は326,600名で大きな偏りがある。規模は大小さまざまであり、今回回答のあった団体の会員総数を合計すると667,366名である。しかし、新聞社を母体とする大規模な団体から、単独の指導者を中心に組織される小規模な結社まで混在しているため、会員総数には相当数の重複があるであろうことを断っておく。

女性が会員全体の75%を占める。年齢構成としては10代以下が55%超だが、このうち、特定の1団体の会員が85%を占めている(⑪)。競書雑誌を発行する団体に10代以下の会員が多い。支部数についても年齢比と同様で、この1団体の傾向に大きな影響を受け、九州沖縄地方が大きな割合を占める結果となった。10代を除くと40代以上の参加人口が多く、60代が最多で70代がそれに次ぐ(⑥)。10代で一度書道から離れ、壮年期に再び取り組み、高齢層でその数を増している可能性がある。

回答者の90%以上が毎日書道会、読売書法会、産経国際書会のいずれかに属し(②)、専門とする分野は多い順に漢字、仮名、漢字仮名交じり、篆刻、刻字、前衛の順である(③)。

会員数のピークは平成10年から19年の間にあったと回答する団体が23団体、近10年間で会員数が減少したと回答する団体が85団体75%超で、終戦後、平成10年代まで増加し、近年は急速に減少しているものと考えられる(⑪)。

会員の年間活動時間は、取り組みの度合いによってさまざまだと思われるが、85%以上が100時間以上、500時間以上との回答も16%見られた(⑭)。

会員の年間活動費について、10万円～30万円との回答が約48%で最多だった。30万円以上は約35%である。他方、10万円未満も17%で、比較的気軽に取り組むことができるという側面もある。用具用材や表具、展覧会出品料、指導料などを総合し、先の会員数などと考え合せると、書道の産業規模が決して小さくないことがわかる(⑬)。

各団体の年間事業予算額は34団体30%が300万円未満でもっとも多い。一方で1億円以上の予算を計上する団体も15団体存在し、大規模な展覧会などを開催し、わが国の文化面において大きな役割を担っていることが理解される(⑫)。

▶書道団体の諸活動

国内における展覧会を設けている団体が約94%、このアンケートの回答分だけでも約19万人が参加し、32万点近くの作品が出品されている。国内で講習会やワークショップなどを開催する団体も約66%で展覧会に付帯する事業が活発に行われている様子がわかる。4割超の団体で展覧会図録や会報が発行され、講演会を開催する団体が3割ほど見られる。展覧会を基軸に、多様な文化活動が展開されていることが理解される。

競書雑誌を発行している57団体のうち、詳細が回答された50団体の半数近くが1000部以上5000部未満、14団体約3割弱で5000部以上発行している。競書雑誌を通して多くの書道愛好者の指導が行われていることがわかる(⑩)。

新規会員獲得のために現在実施している活動としては展覧会活動がもっとも多く、これに付随して一般参加型のイベントを開催することも多い。地域社会や学校教育との連携、協力にも積極的であることがわかる(⑯)。

揮毫依頼、書家の派遣、学校の授業や行事に係る取り組み、地域振興や観光、伝統文化の保護・継承・活用などさまざまな場面で地域社会と密接に関わり、団体として貢献していることがわかる(⑰)。それに対して現在受けている保護措置はあまり手厚いとは言えず、後援名義の使用や首長名などの賞の交付が目立つのみである。対して、これに加えて人材育成や会員確保に関する支援、文化活動やイベントへの財政支援を期待する団体が一定数見られる(⑱)。

海外展開に関してはそれほど積極的とは言えないが、単発的な海外展開を実施、予定する団体が2割弱存在する。海外支部を設置している団体も1割弱ある(⑳)。

▶課題

現状における課題として、会員の高齢化を上げた団体が大半であり、これが会員数の減少、後継者の育成、指導者の高齢化、財政状況の悪化といった多岐にわたる課題のもっとも大きな原因になっているものと思われる。生活の中で書道文化に触れる機会の減少を問題点とする回答も24%ほど見られ、高齢化に次ぐ問題として意識されている(㉑)。

▶子どもの学び

子どもに書道を学ばせた際の書道文化の社会的役割・社会的効果について、書写能力の向上や文字や言語に関する理

解の向上、硬筆の基礎作りと回答する団体が多く、文字言語の基礎として書道が効果的であるとする意見が多い。また、日本の伝統文化の理解や集中力の向上、礼儀作法の習得という回答も前記と並んで多く、書写能力の向上とは別の観点で、書が内面的な豊かさをもたらすいとなみとして認識されている様子がわかる(22)。

▶書き初めについて

書道団体で書き初めを行っているのは70団体で約60%。団体が書き初め展や関係行事を主催するのはそのうち70%弱、書き初めの成果を学校に提出させたり、外部の展覧会に出品させたりすることも多い。

書き初めの対象年齢は高校生までが大半であり、大人を対象とする団体は2割ほどである。会員の児童生徒をおもな対象とする会が多いが、公募などによって会員以外を受け入れる団体も半数以上見られた。書き初めは正月の開催が圧倒的に多く、2月、12月、その他の時期という回答も見られたが、正月の行事として重視されていることがわかる。

書き初めの指導では、普段と異なる大きさの用紙を用いることも多く、特別の配慮をしているという回答が多かった。また、新年らしい心持ちについても配慮がなされている。コンクールを見据えた指導も多い。文言については特に配慮がなされ、当該学年における文字学習の進捗や学校などにおける課題、各種の規定に即したもののほか、新年にふさわしい吉語や年頭の抱負など、それぞれに工夫を凝らして選んでいる。

書き初めを行わない理由は多様で、団体の性格とも密接に関わっているものと考えられ、一定の傾向が見られるわけではない。

⑦ 書道具の生産業者・卸問屋・
メーカー・生産販売併業者

書道文化に関する基礎調査

5枚

生産業者様用/卸問屋様用/メーカー様用
生産・販売の併業者様用

こちら青色のアンケート用紙は、生産業者様・卸問屋様・メーカー様を対象にしています。
小売業者様、書道具店様は、別紙赤色のアンケート用紙でご回答ください。
なお、生産と販売の両方をされておられる業者様は、こちらの青色のアンケート用紙でご回答ください。

アンケート用紙は、平成30年8月20日（月）までに、同封の返信用封筒にてご返送ください
ますようお願いいたします。

業者名 【 様 】
本社所在地 【 〒 - - 】
【 都道府県 】
電話番号 【 - - 】 FAX番号 【 - - 】
E-mail 【 】
ご記入者様の役職・氏名 【 役職 / 様 】
業種区分（該当のアルファベットに○印） A 生産業 B 卸問屋 C メーカー
D 生産業、販売業の両方 E その他（ ）

① 主な生産品目（取り扱い品目）をご選択ください。（該当のアルファベットに○印）（複数回答可）
A 筆 B 墨 C 硯 D 紙 E その他（ ）

② 創業年、営業年数をお伺いします。
創業年（西暦 年（明治 大正 昭和 平成 年）） 営業年数（約 年間）

③ 現在の店舗数とその所在内訳をお伺いします。

店舗数 合計	北海道	東北地方	関東地方	中部地方	近畿地方	中国地方	四国地方	九州 沖縄地方	海外
店	店	店	店	店	店	店	店	店	店

④ 現在の従業員数とその年代内訳をお伺いします。
そのうち職人（技術保持者）の数を下段の（ ）内にご記入ください。

※正職員のほか、週4日以上勤務するパート・アルバイトも含めてお答えください。

従業員数 合計	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代 以上
名	名	名	名	名	名	名	名	名	名
（名）	（名）	（名）	（名）	（名）	（名）	（名）	（名）	（名）	（名）

⑤ 従業員数と職人数の変化についてお伺いします。※従業員数は、職人数を含めた全体数でお答えください。

30年前（1988年）の従業員数（ 名） うち職人数（ 名）
20年前（1998年）の従業員数（ 名） うち職人数（ 名）
10年前（2008年）の従業員数（ 名） うち職人数（ 名）

⑥ 現在の従業員数と職人数の過不足状況についてお伺いします。

従業員数 A 不足 B 適正 C 過剰
職人数 A 不足 B 適正 C 過剰

業者名【

様】 ※こちらの3枚目にも必ず
業者名をご記入ください。

⑩ 伝統技術を保護・継承するにあたり、学校や地域に根付く施設など、地域と連携する機会についてお答えください。(複数回答可)

- A 地域施設でのデモンストレーションや講習会の実施
 B 地域施設での一般参加型イベントの開催
 C 学校の特別授業や行事への参加、協力
 D 地域と連携、協力した文化事業の実施
 E 企業と連携、協力した文化事業の実施
 F パンフレット等による会社や技術の紹介
 G HP制作と、Web上での会社や技術の紹介
 H その他 ()
 I 地域と連携する機会はない

⑪ 御社の生產品、御社の技術、御社の職人(個人)に対して、国、地方公共団体、法人等からの保護措置があればお答えください。(複数回答可)

受けている保護措置(該当のアルファベットに○印)	それはどこからの保護措置ですか
A 条例法に基づく指定・選定・登録などの認定	
B 人材育成に関する支援	
C 技術保持のための財政支援	
D 文化活動やイベントへの財政支援	
E 後援名義の使用許可や賞の交付	
F その他 ()	
G 受けている保護措置はない	

⑫ 御社の生產品、御社の技術、御社の職人(個人)に対して、国、地方公共団体、法人等から、文化財、文化財保持者として、何らかの指定、選定、登録を受けているものがあれば、分かる限りで具体的に回答ください。

※一例：有形文化財、無形文化財、選定保存技術、人間国宝(重要無形文化財保持者)、伝統的工芸品、伝統工芸士…

何に認定されたか	所管はどこか	認定名称、認定された人物	認定年月日
(例) 人間国宝、伝統工芸士…	経済産業大臣、京都市…	表具用手漉和紙製作、○山○雄	S50.1.1

⑬ 生產品の原材料についてお伺いします。原材料の確保に問題を抱えていますか。

- A 問題あり B 問題なし

業者名【

様】 ※こちらの4枚目にも必ず
業者名をご記入ください。

⑳ 前項⑱で<A 問題あり>と回答された方に質問です。

調達、確保が難しい原材料名と、その具体的な問題点を挙げてください。

調達、確保が難しい原材料名	問題点（該当のアルファベットに○印）（複数回答可）	
	A 材料枯渇で入手困難 C 品質の低下 E その他（ ）	B 高価になり入手困難 D 材料育成の生産者不足
	A 材料枯渇で入手困難 C 品質の低下 E その他（ ）	B 高価になり入手困難 D 材料育成の生産者不足
	A 材料枯渇で入手困難 C 品質の低下 E その他（ ）	B 高価になり入手困難 D 材料育成の生産者不足
	A 材料枯渇で入手困難 C 品質の低下 E その他（ ）	B 高価になり入手困難 D 材料育成の生産者不足

㉑ 生産するための用具についてお伺いします。用具の確保に問題を抱えていますか。

A 問題あり B 問題なし

㉒ 前項㉑で<A 問題あり>と回答された方に質問です。

問題を抱える用具名と、その具体的な問題点を挙げてください。

問題を抱える用具名	問題点（該当のアルファベットに○印）（複数回答可）	
	A 品質の低下 C 用具を作る人材の不足 E その他（ ）	B 用具を作るための材料不足 D 用具のコスト増加
	A 品質の低下 C 用具を作る人材の不足 E その他（ ）	B 用具を作るための材料不足 D 用具のコスト増加
	A 品質の低下 C 用具を作る人材の不足 E その他（ ）	B 用具を作るための材料不足 D 用具のコスト増加
	A 品質の低下 C 用具を作る人材の不足 E その他（ ）	B 用具を作るための材料不足 D 用具のコスト増加

㉓ 原材料や生産するための用具の生産基盤についてお伺いします。

現在抱える問題点に対して、例えば、代替品を使用するようになった、国内では調達が難しく海外から輸入するようになったなど、御社が何らかの対応策を取っていらっしゃれば、それを具体的にお聞かせください。

.....

.....

.....

.....

.....

.....

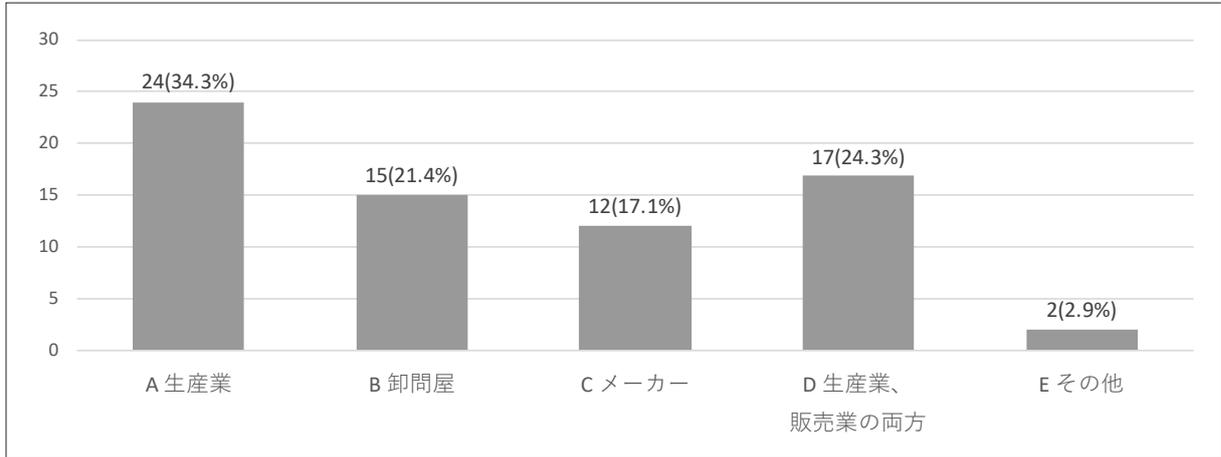
.....

書道文化に関する基礎調査 —アンケート集計結果—

対象：書道具の生産業者・卸問屋・メーカー・生産販売併業者(計70件)

業種区分 A 生産業 B 卸問屋 C メーカー
 D 生産業、販売業の両方 E その他()

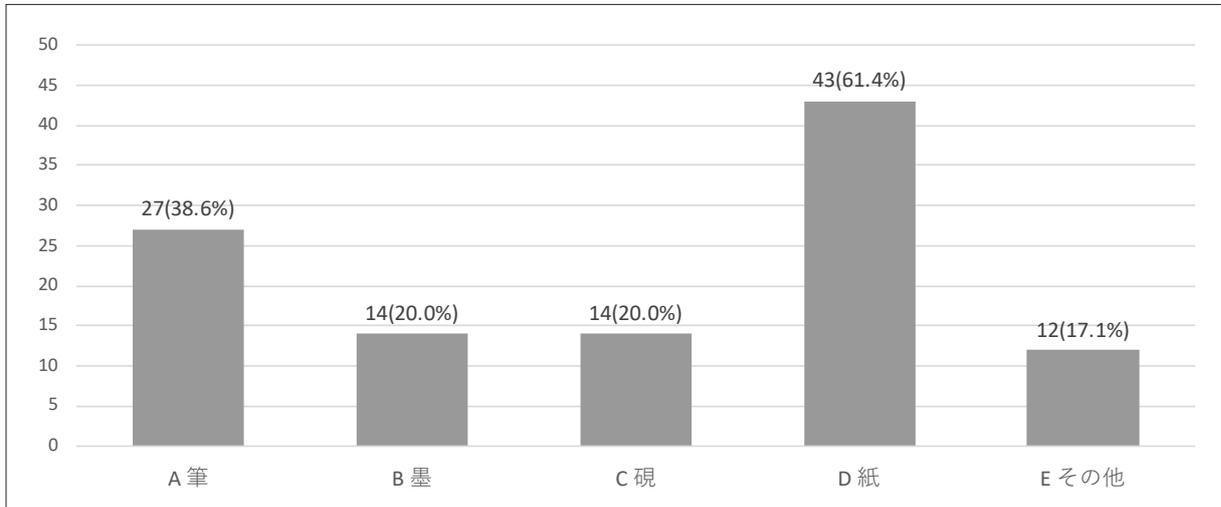
回答数 70



① 主な生産品目(取り扱い品目)をご選択ください。(複数回答可)

A 筆 B 墨 C 硯 D 紙 E その他()

回答数 70



【その他の主な回答】

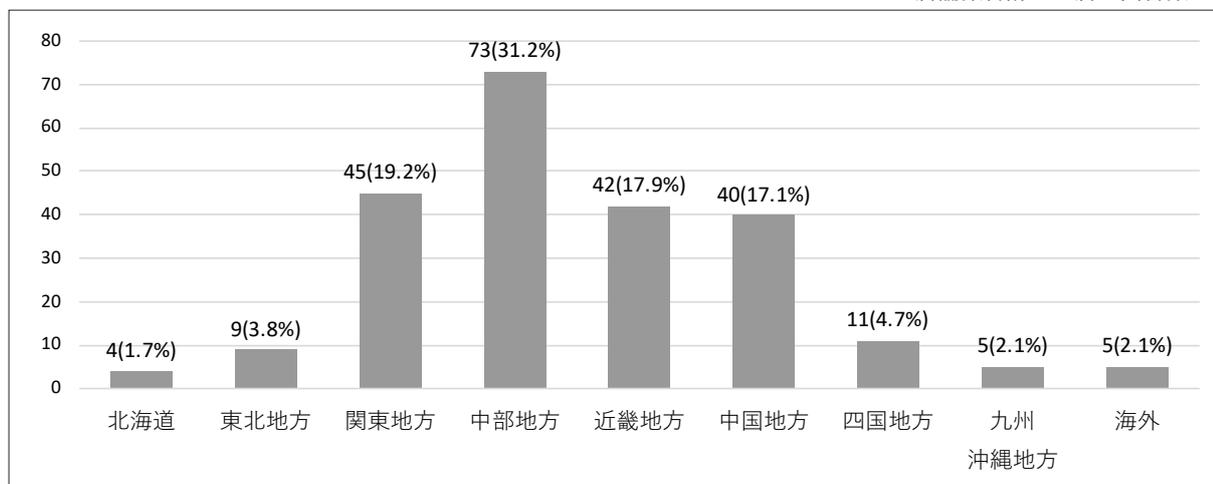
・篆刻用品 ・表装 ・下敷、文鎮 ・額 ・雅印制作 ・化粧筆

⑦ 書道具の生産業者・卸問屋・メーカー・生産販売併業者

③ 現在の店舗数とその所在内訳をお伺いします。

店舗数 合計	北海道	東北地方	関東地方	中部地方	近畿地方	中国地方	四国地方	九州 沖縄地方	海外
店	店	店	店	店	店	店	店	店	店

店舗数合計 234店 回答数 64



④ 現在の従業員数とその年代内訳をお伺いします。

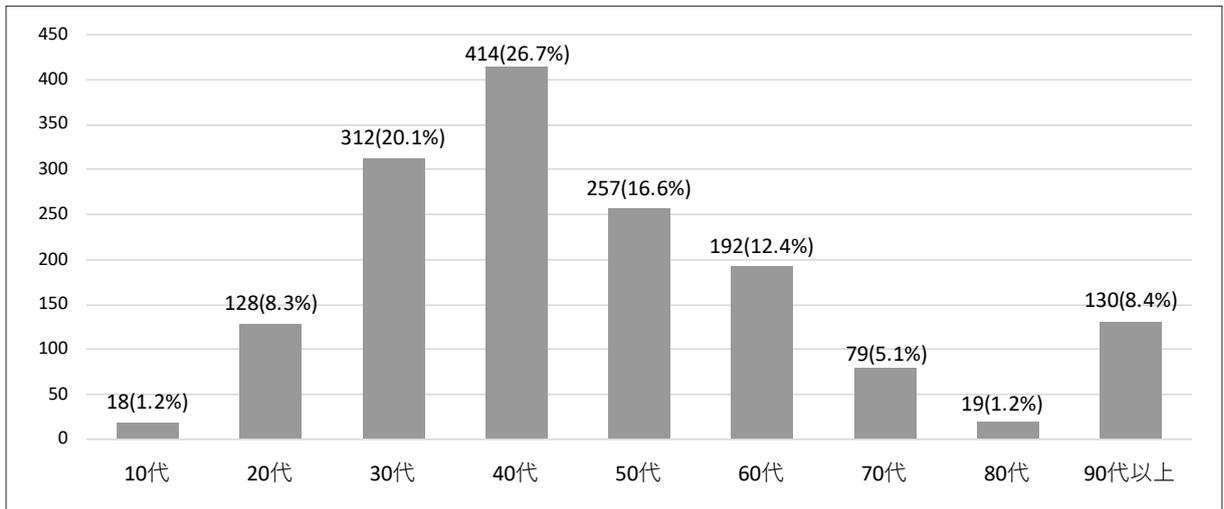
そのうち職人(技術保持者)の数を下段の()内にご記入ください。

※正職員のほか、週4日以上勤務するパート・アルバイトも含めてお答えください。

従業員数 合計	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代以上
(名)	(名)	(名)	(名)	(名)	(名)	(名)	(名)	(名)	(名)

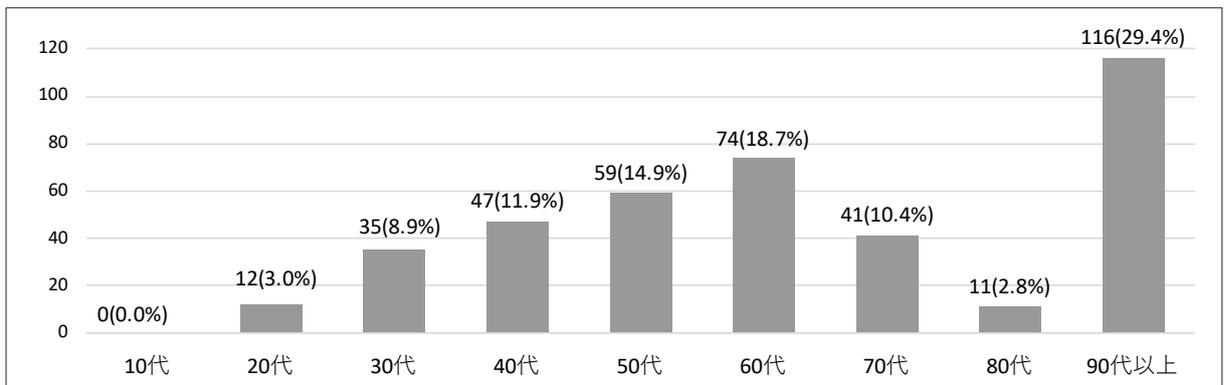
【従業員数】

従業員数合計 1549名 回答数 62



【職人数】

職人数合計 395名 回答数 29

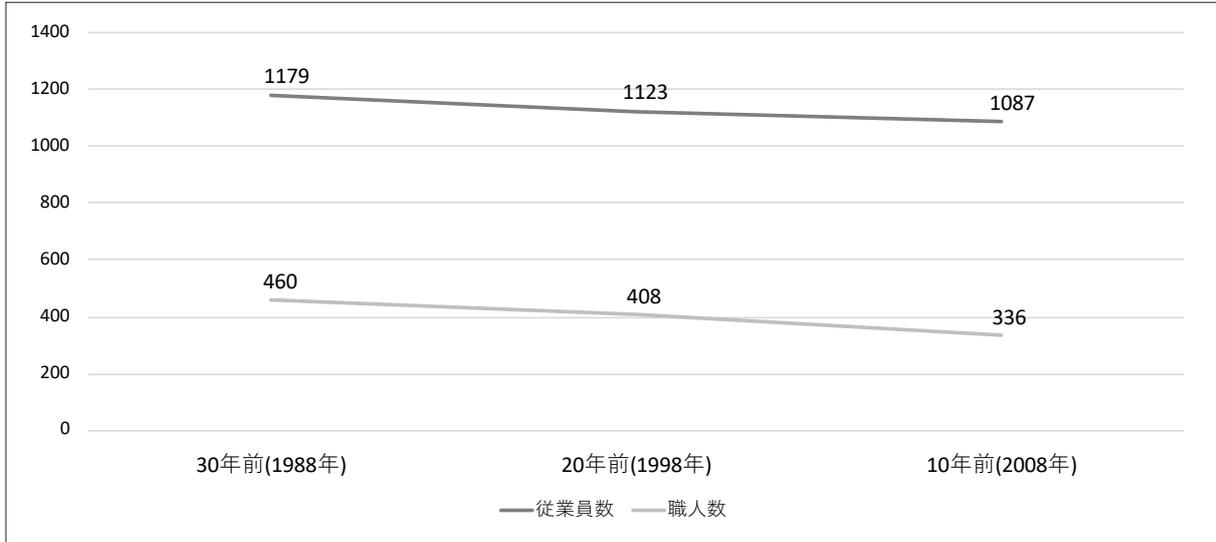


※90代の116名は豊橋筆振興協同組合による回答である。

⑤ 従業員数と職人数の変化についてお伺いします。※従業員数は、職人数を含めた全体数でお答えください。

30年前(1988年)の従業員数 (名) うち職人数(名)
 20年前(1998年)の従業員数 (名) うち職人数(名)
 10年前(2008年)の従業員数 (名) うち職人数(名)

回答数 63

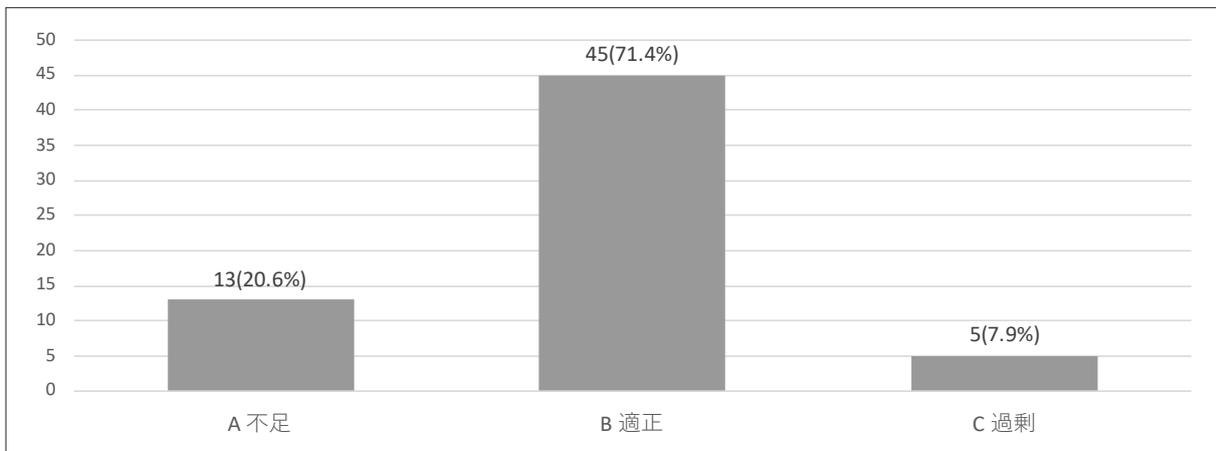


⑥ 現在の従業員数と職人数の過不足状況についてお伺いします。

従業員数 A 不足 B 適正 C 過剰
 職人数 A 不足 B 適正 C 過剰

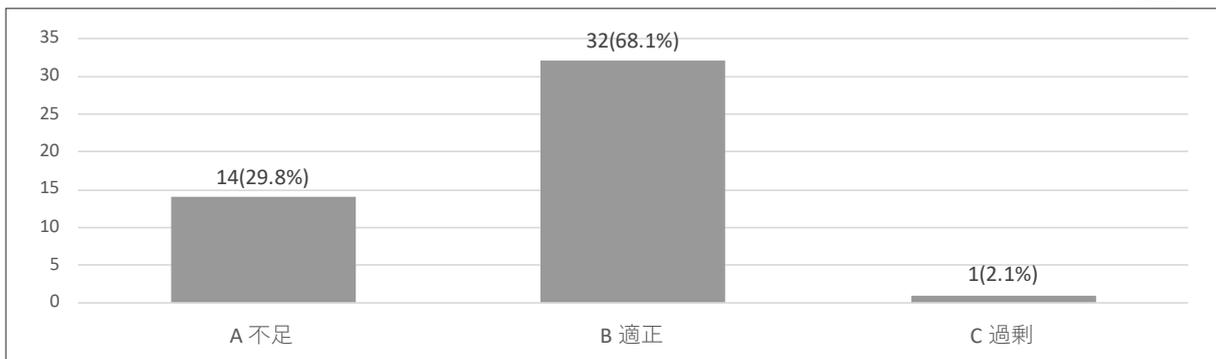
【従業員数】

回答数 63



【職人数】

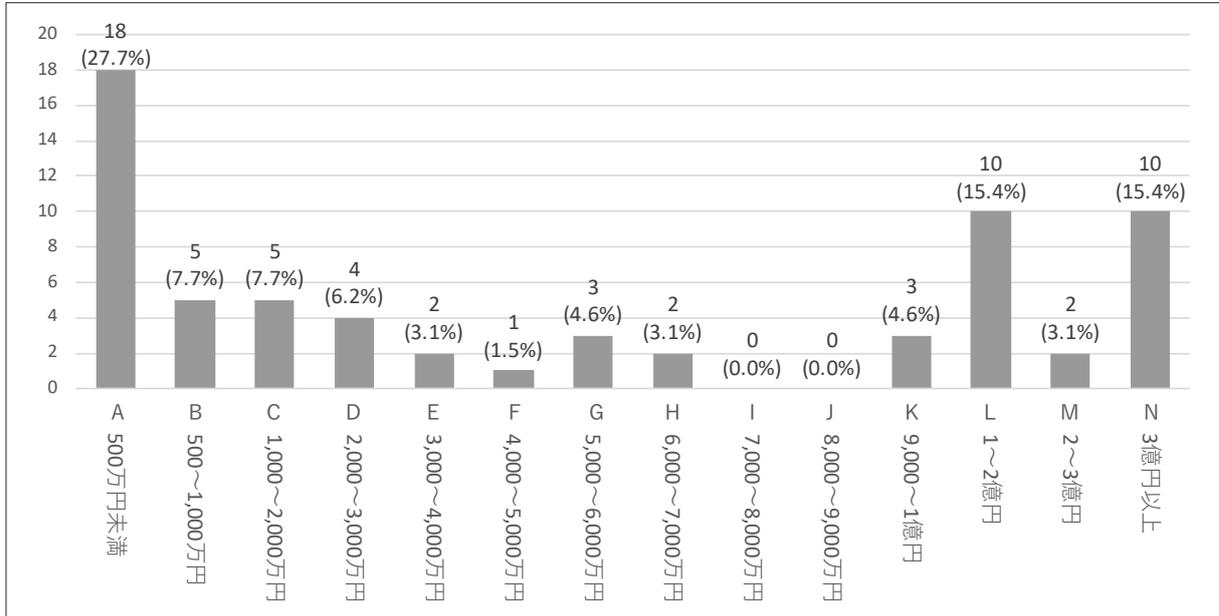
回答数 47



⑦ 現在の年間売上高のうち、書道部門に限定した売上高をお伺いします。

- | | | |
|-----------------|-----------------|-----------------|
| A 500万円未満 | B 500～1,000万円 | C 1,000～2,000万円 |
| D 2,000～3,000万円 | E 3,000～4,000万円 | F 4,000～5,000万円 |
| G 5,000～6,000万円 | H 6,000～7,000万円 | I 7,000～8,000万円 |
| J 8,000～9,000万円 | K 9,000万～1億円 | L 1～2億円 |
| M 2～3億円 | N 3億円以上 | |

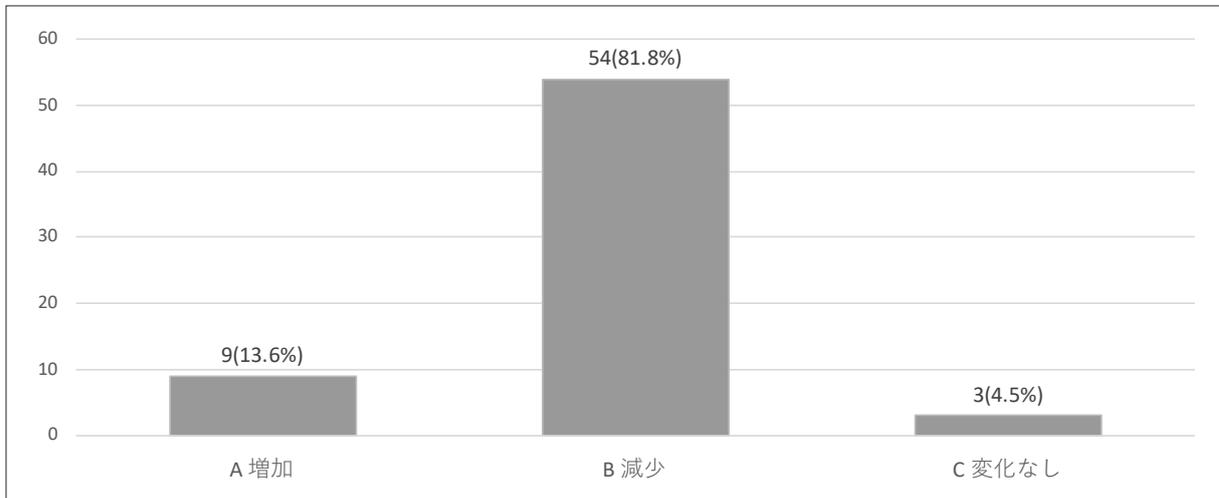
回答数 65



⑧ 過去30年間(1988年～現在)の売上高の増減傾向についてお伺いします。

- A 増加 B 減少 C 変化なし

回答数 66



⑦ 書道具の生産業者・卸問屋・メーカー・生産販売併業者

⑨ 過去30年間(1988年～現在)の売上高の増減率についてお伺いします。

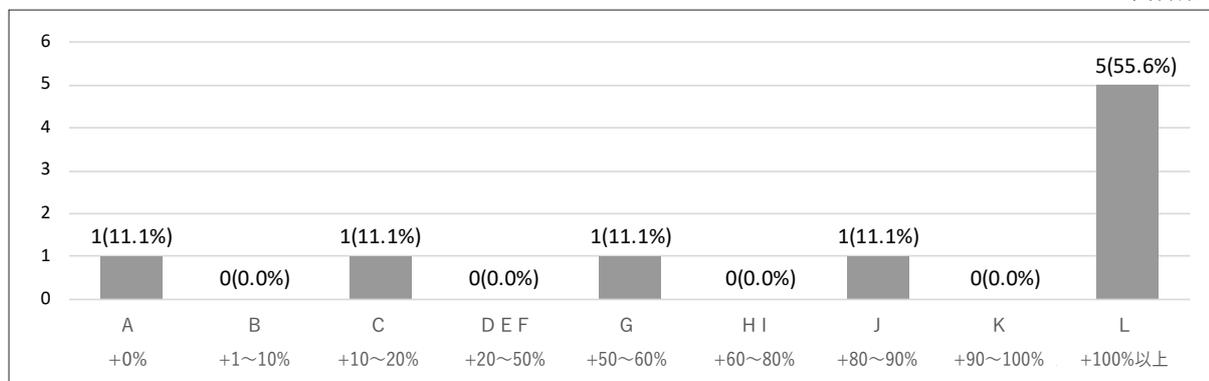
※前項⑧で、〈A増加〉を選択の場合は売上が増加率、〈B減少〉を選択した場合は売上の減少率を示します。

〈A増加〉の場合のみ、100%以上の増加率の選択が存在します。

- | | | | |
|-----------|-----------|------------|-----------|
| A ±0% | B ±1～10% | C ±10～20% | D ±20～30% |
| E ±30～40% | F ±40～50% | G ±50～60% | H ±60～70% |
| I ±70～80% | J ±80～90% | K ±90～100% | L +100%以上 |

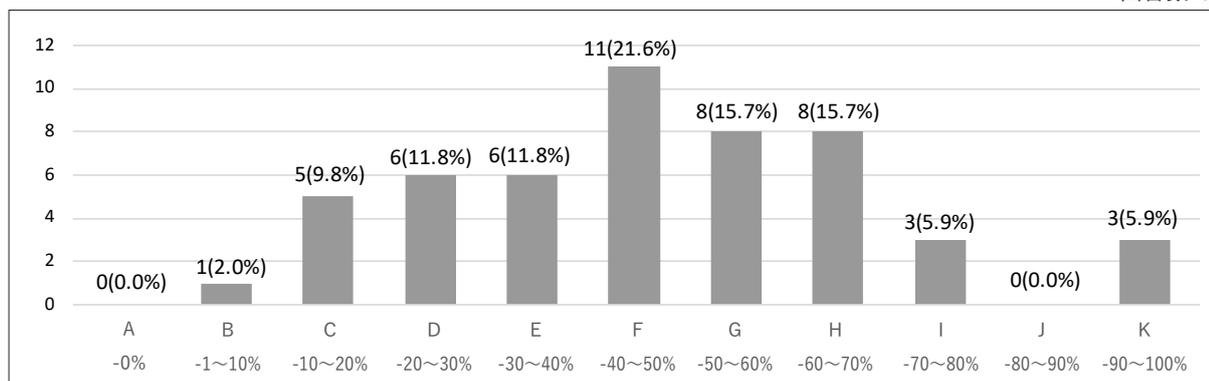
【増加率】

回答数 9



【減少率】

回答数 51

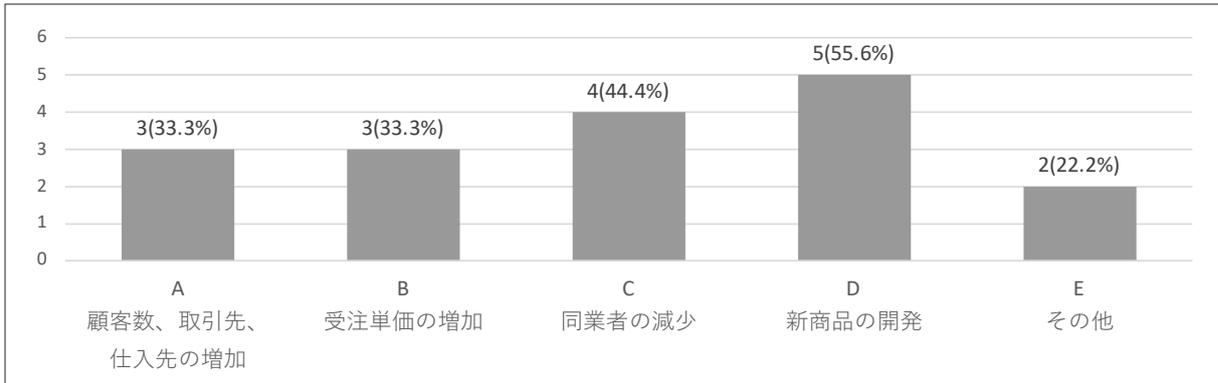


⑩ 前項⑧で〈A 増加〉と回答された方に質問です。

その理由は何だと思われますか。(複数回答可)

- A 顧客数、取引先、仕入先の増加 B 受注単価の増加 C 同業者の減少
D 新商品の開発 E その他()

回答数 9

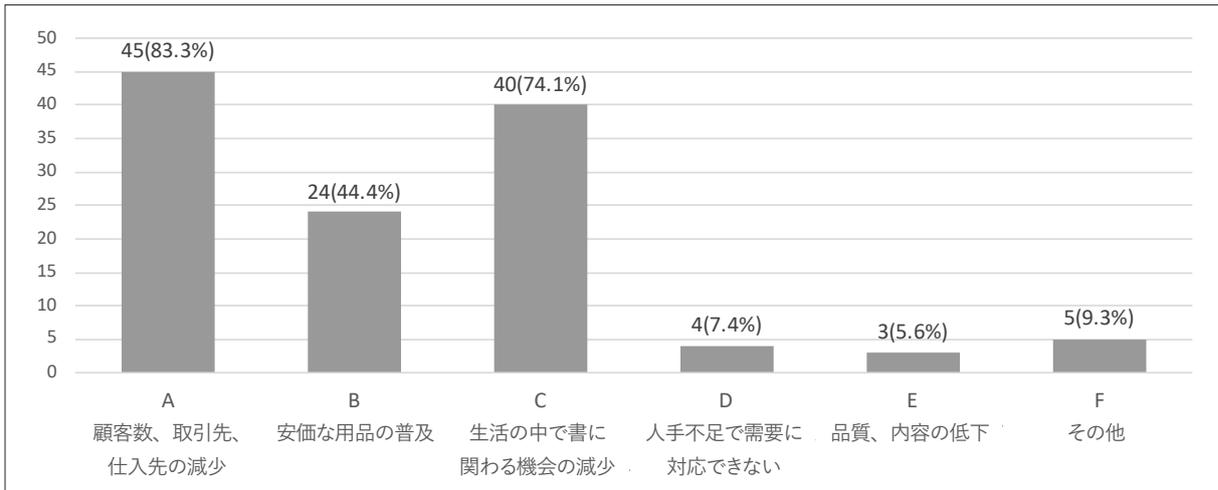


⑪ 前項⑧で〈B 減少〉〈C 変化なし〉と回答された方に質問です。

その理由は何だと思われますか。(複数回答可)

- A 顧客数、取引先、仕入先の減少 B 安価な用品の普及
C 生活の中で書に関わる機会の減少 D 人手不足で需要に対応できない
E 品質、内容の低下 F その他()

回答数 54

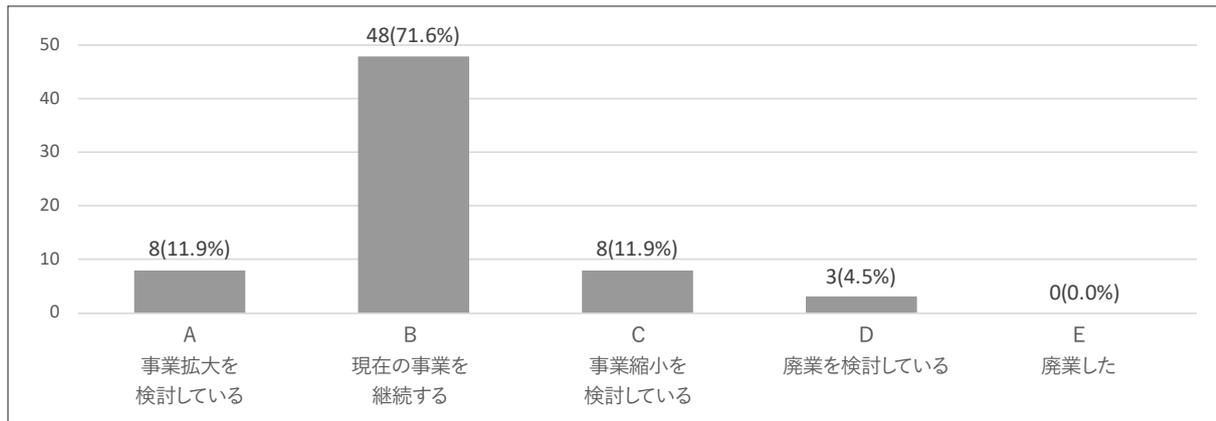


⑦ 書道具の生産業者・卸問屋・メーカー・生産販売併業者

⑫ 事業展開についてお伺いします。

- A 事業拡大を検討している B 現在の事業を継続する C 事業縮小を検討している
D 廃業を検討している E 廃業した

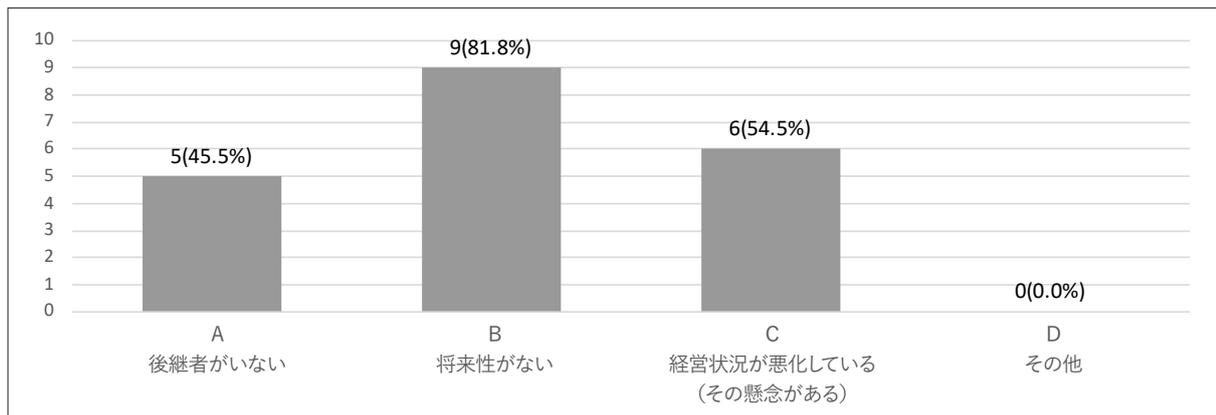
回答数 67



⑬ 前項⑫で〈C 事業縮小を検討している〉〈D 廃業を検討している〉〈E 廃業した〉と回答された方に質問です。その理由は何ですか。(複数回答可)

- A 後継者がいない B 将来性がない C 経営状況が悪化している(その懸念がある)
D その他()

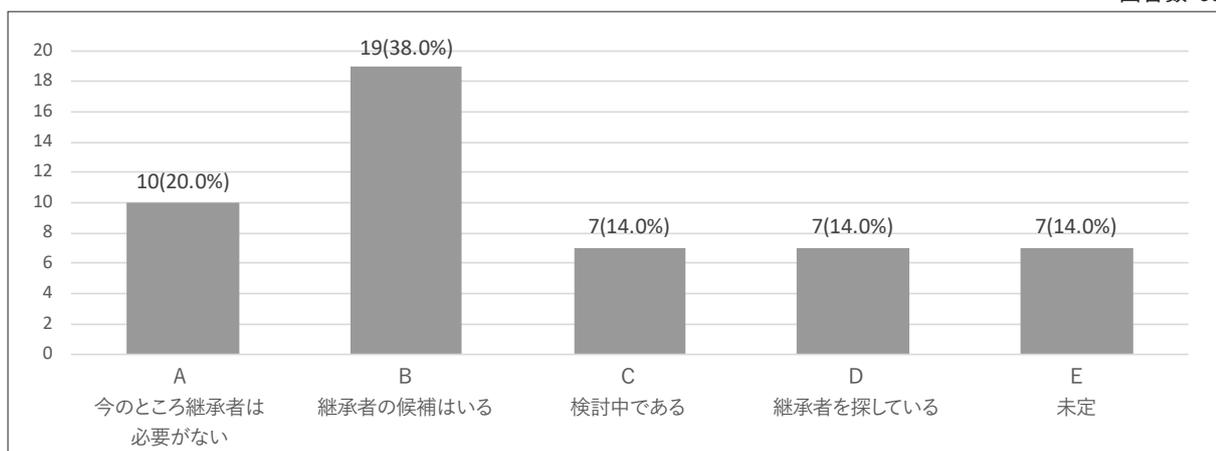
回答数 11



⑭ 前項⑫で〈A 事業拡大を検討している〉〈B 現在の事業を継続する〉と回答された方に質問です。職人の技、技術を受け継ぐ継承者について、現在どのようにお考えですか。

- A 今のところ継承者は必要がない B 継承者の候補はある C 検討中である
D 継承者を探している E 未定

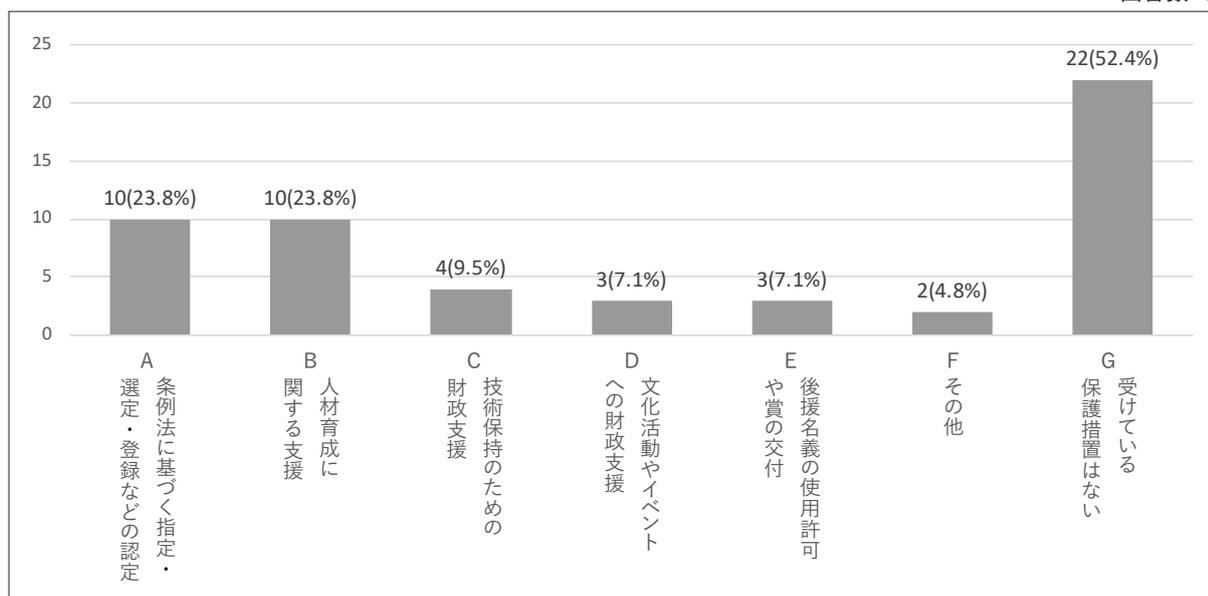
回答数 50



⑰ 御社の生產品、御社の技術、御社の職人(個人)に対して、国、地方公共団体、法人等からの保護措置があればお答えください。(複数回答可)

受けている保護措置(該当のアルファベットに○印)	それはどこからの保護措置ですか
A 条例法に基づく指定・選定・登録などの認定	
B 人材育成に関する支援	
C 技術保持のための財政支援	
D 文化活動やイベントへの財政支援	
E 後援名義の使用許可や賞の交付	
F その他()	
G 受けている保護措置はない	

回答数 42



筆

生産業者	受けている保護措置	それはどこからの保護措置ですか
大友毛筆店	A	宮城県
豊橋筆振興協同組合	A	
	B	
雲平筆攀桂堂	A	県
奈良筆田中	A	伝統的工芸品産業復興協会
	B	伝統的工芸品産業復興協会
株式会社 やまき筆菊壽堂	F	経済産業省
広島筆産業株式会社	B	町及び組合
株式会社 仿古堂	B	熊野筆事業協同組合によるマイスタースクールへの参画
株式会社 一休園	A	経済産業省
	B	県町より筆組合
株式会社 あかしや	A	伝産協会
	E	県、市、商工会議所

硯

生産業者	受けている保護措置	それはどこからの保護措置ですか
株式会社 宝研堂	C	東京都台東区

紙

生産業者	受けている保護措置	それはどこからの保護措置ですか
太興紙業株式会社	A	山梨県
	D	身延町、身延町商工会
柳川杏美	C	文化庁、教育委員会
丸重製紙企業組合	E	地域、市町村から
美濃竹紙工房	B	文化庁、岐阜県、美濃市
	C	文化庁、岐阜県、美濃市
美濃手すき和紙協同組合	A	ユネスコ世界文化遺産
	B	美濃市補助金
	D	学校授業、伝統的工芸品産協会
	E	岐阜県、美濃市、各教育委員会他
長谷川憲人製紙	A	S50年国の伝統的工芸品、S51鳥取県無形文化財
いなば和紙協業組合	B	県、市
	D	市
有限会社 かみんぐさじ	F（伝統的工芸品指定）	地方公共団体（鳥取市）
西田和紙工房	A	国指定重文、ユネスコ無形文化遺産
	B	浜田市行政
	C	文化庁補助金
株式会社 天神産紙工場	B	町

⑱ 御社の生産品、御社の技術、御社の職人(個人)に対して、国、地方公共団体、法人等から、文化財、文化財保持者として、何らかの指定、選定、登録を受けているものがあれば、分かる限りで具体的にお答えください。

筆

生産業者	何に認定されたか	認定所管	認定名称・認定人物
大友毛筆店	伝統的工芸品	宮城県	仙台御筆
	日本遺産	文化庁	政宗が育んだ伸達な文化
豊橋筆振興協同組合	伝統工芸士	豊橋筆振興協同組合	6名
有限会社 みなせ筆本舗	兵庫県重要無形文化財	兵庫県	有馬筆技術保存会
奈良筆田中	奈良筆伝統工芸士	経済産業大臣	奈良筆 1名
株式会社 やまき筆菊壽堂	伝統工芸品	経済産業大臣	
文進堂 畑製筆所	伝統工芸士	経済産業大臣	川尾筆 総合部門 1名
株式会社 久保田号	伝統工芸士	経済産業大臣	1名
株式会社 仿古堂	熊野筆 伝統工芸士	経済産業省	仿古堂 1名
株式会社 一休園	伝統工芸士	経済産業省	筆士 1名
	伝統工芸士	経済産業省	筆士 1名
	ザ広島ブランド	広島市	書道筆
株式会社 あかしや	伝統工芸士	経済大臣	1名

硯

生産業者	何に認定されたか	認定所管	認定名称・認定人物
株式会社 澤村製硯	伝統的工芸品	経産省	
やなせ留山堂	伝統的工芸品	経済産業大臣	雄勝硯

墨

生産業者	何に認定されたか	認定所管	認定名称・認定人物
株式会社 墨運堂	伝統的工芸品	経済産業省	奈良墨

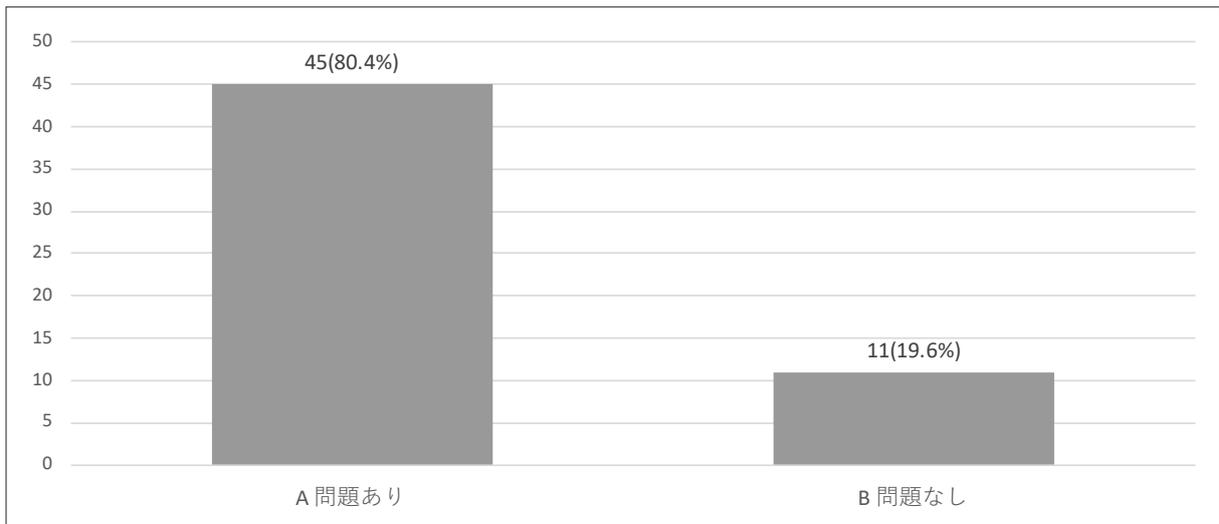
紙

生産業者	何に認定されたか	認定所管	認定名称・認定人物
農事組合法人 五箇山和紙	伝統工芸士	経済産業大臣	総合部門 2名
瀧株式会社	福井ふるさと企業	福井県	和紙
山口和夫	伝統工芸士	経済産業大臣	手漉和紙製作 1名
太興紙業株式会社	伝統工芸品	山梨県	手漉き和紙(西嶋和紙)
美濃竹紙工房	重要無形文化財技術	文化庁	本美濃紙製作 1名
	伝統工芸士	経産省	美濃和紙製作 1名
美濃手すき和紙協同組合	伝統工芸士	経済産業大臣	美濃和紙 6名
鳥取県因州和紙協同組合	伝統的工芸品	国	因州和紙
	無形文化財	鳥取県	因州佐治みつまた紙
	無形文化財	鳥取県	因州青谷こうぞ紙
	伝統工芸士	経済産業大臣	3名
長谷川憲人製紙	伝統工芸士	経済産業大臣	手漉き和紙製作 1名
有限会社 かみんぐさじ	伝統工芸士	経済産業大臣	因州和紙(画仙紙) 1名
西田和紙工房	重要無形文化財	文化庁	石州半紙技術者会
	ユネスコ無形文化遺産	文化庁	石州半紙技術者会
	ユネスコ無形文化遺産	文化庁	石州半紙技術者
	伝統工芸士	経済産業	1名
	伝統工芸品	経済産業	石州和紙協同組合
	選定保存技術	文化庁	伝統技術伝承者協会(会員)
株式会社 天神産紙工場	伝統的工芸品	経済大臣	
		町	無形文化財
田村製紙	土佐の匠	高知県	1名

⑱ 生産品の原材料についてお伺いします。原材料の確保に問題を抱えていますか。

A 問題あり B 問題なし

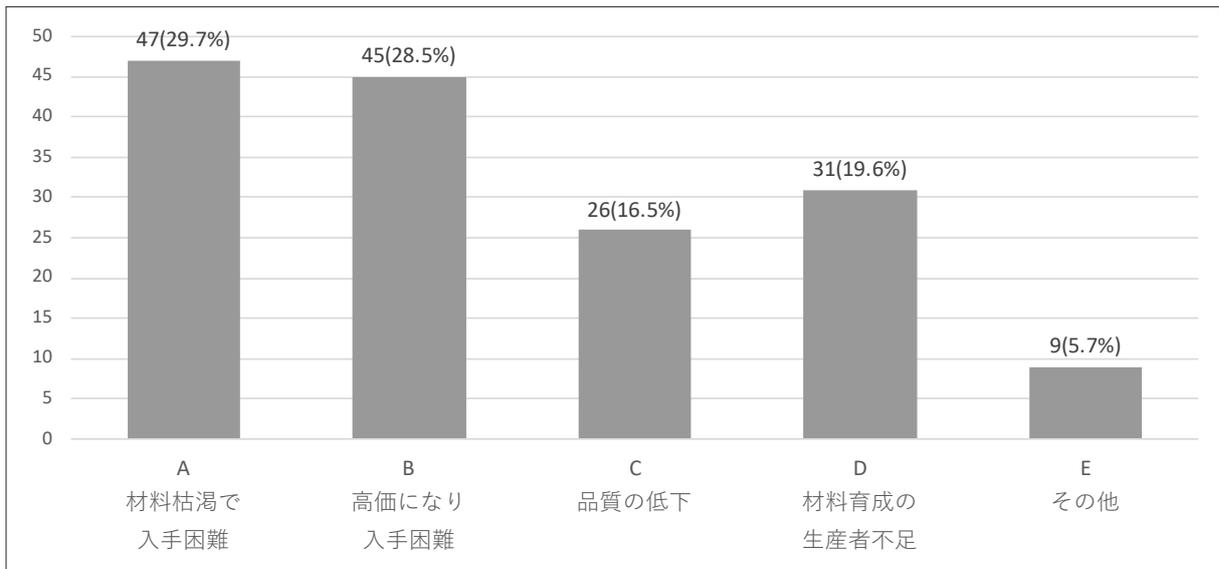
回答数 56



⑳ 前項⑱で〈A 問題あり〉と回答された方に質問です。

調達、確保が難しい原材料名と、その具体的な問題点を挙げてください。

原材料別回答数 158 回答数 44



【調達、確保が難しい原材料名】

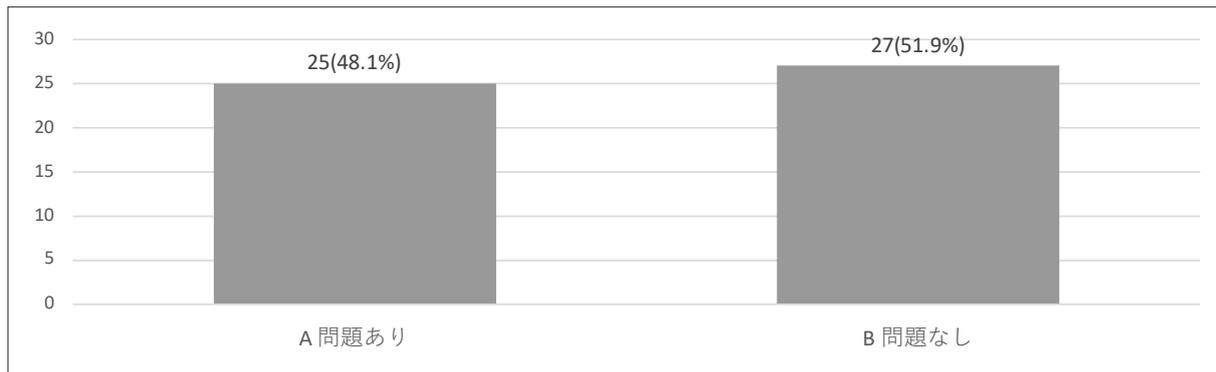
- ・石印材 ・イタチ・ムジナの尾っぽ ・硯 ・木材パルプシート ・楮、三桮、雁皮
- ・マニラ麻パルプ ・故紙パルプ ・本字多紙 ・鉄 ・膠 ・油煙 ・山馬 ・羊毛

⑦ 書道具の生産業者・卸問屋・メーカー・生産販売併業者

②1 生産するための用具についてお伺いします。用具の確保に問題を抱えていますか。

A 問題あり B 問題なし

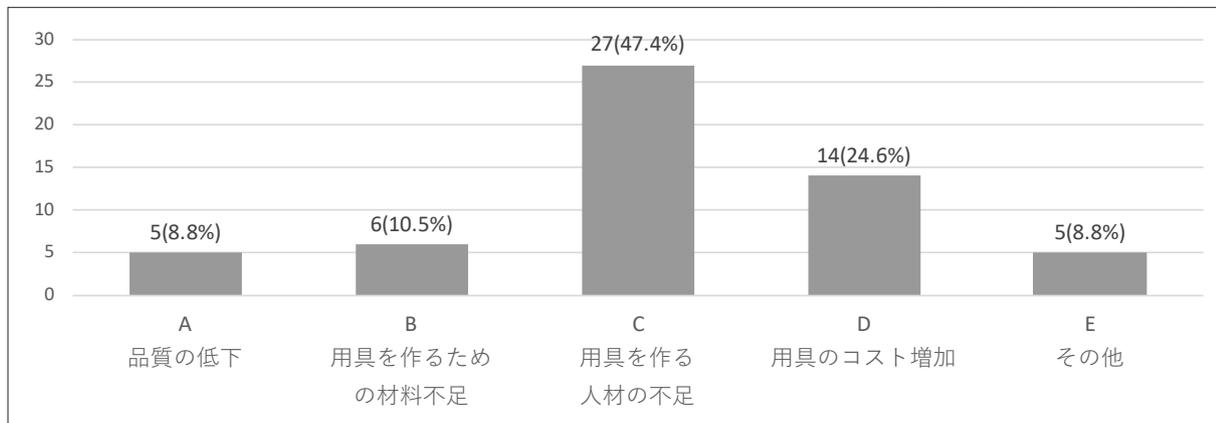
回答数 52



②2 前項②1で「A 問題あり」と回答された方に質問です。

問題を抱える用具名と、その具体的な問題点を挙げてください。

用具別回答数 57 回答数 25



【問題を抱える用具名】

- ・堀ノミ
- ・作業工場、原石裁断機、採石重機、原石運搬車
- ・簾
- ・漉きわく
- ・簀、桁
- ・中国産金櫛
- ・台湾製の画仙紙
- ・金ぐし
- ・筆軸
- ・国内産バリカン刃
- ・綱

②3 原材料や生産するための用具の生産基盤についてお伺いします。

現在抱える問題点に対して、例えば、代替用品を使用するようになった、国内では調達が難しく海外から輸入するようになったなど、御社が何らかの対応策を取っていらっしゃったら、それを具体的にお聞かせください。

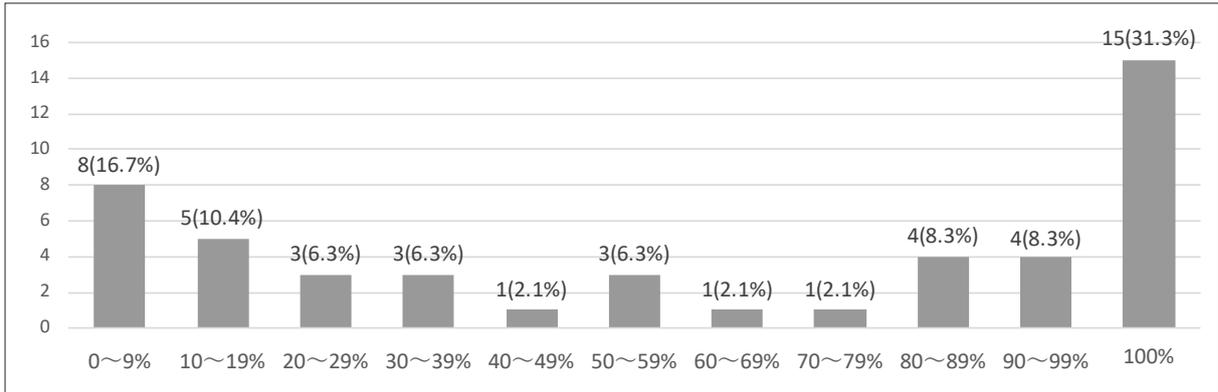
- ・原材料、製品ともに海外から輸入している(12件)
- ・原材料(紙)を自社で栽培している(2件)
- ・原材料(筆)にナイロン毛を導入している(2件)
- ・原材料生産者と積極的に意見交換している(2件)
- ・作業工程を機械化した(2件)

②④ 御社の生産品の割合についてお伺いします。

生産品全体を100%とした場合、書道用品の生産率と、書道用品以外の生産率をお答えください。

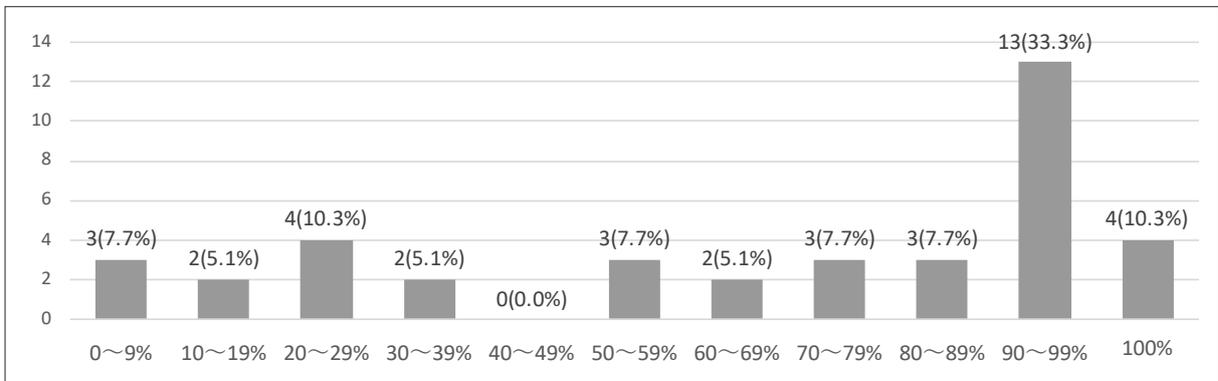
【書道用品の生産率】

回答数 48



【書道用品以外の生産率】

回答数 39



⑦ 書道具の生産業者・卸問屋
メーカー・生産販売併業者

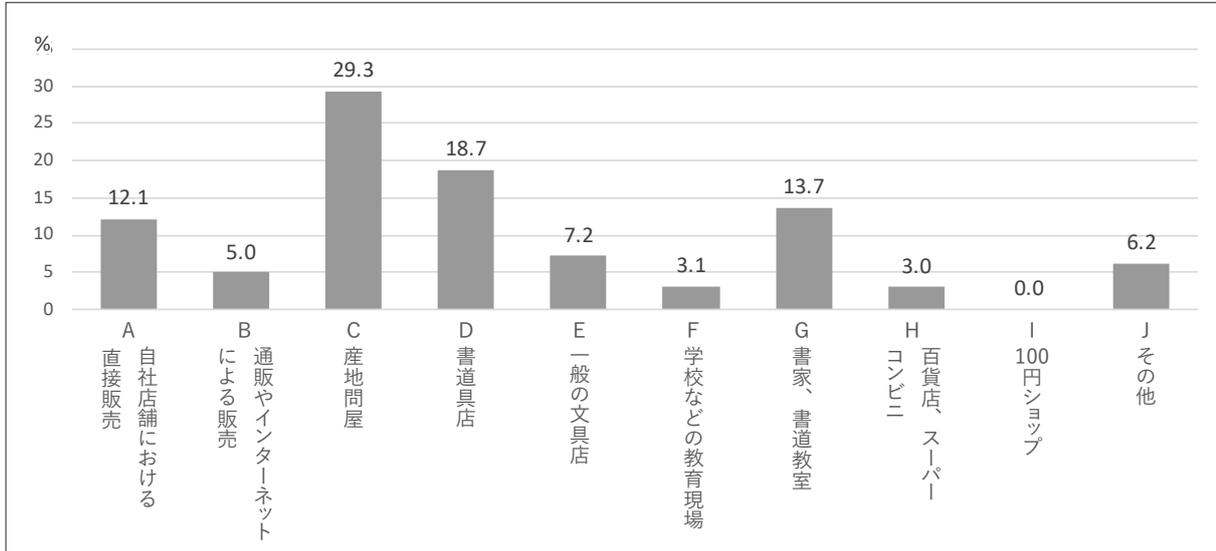
㉔ 御社の生産品(書道用品に限る)の販路についてお伺いします。

販路の割合を()内にご記入ください。

- | | |
|-----------------------|--------------------------|
| A 自社店舗における直接販売() (%) | B 通販やインターネットによる販売() (%) |
| C 産地問屋() (%) | D 書道具店() (%) |
| E 一般の文具店() (%) | F 学校などの教育現場() (%) |
| G 書家、書道教室() (%) | H 百貨店、スーパー、コンビニ() (%) |
| I 100円ショップ() (%) | J その他() (%) |

【販路割合】

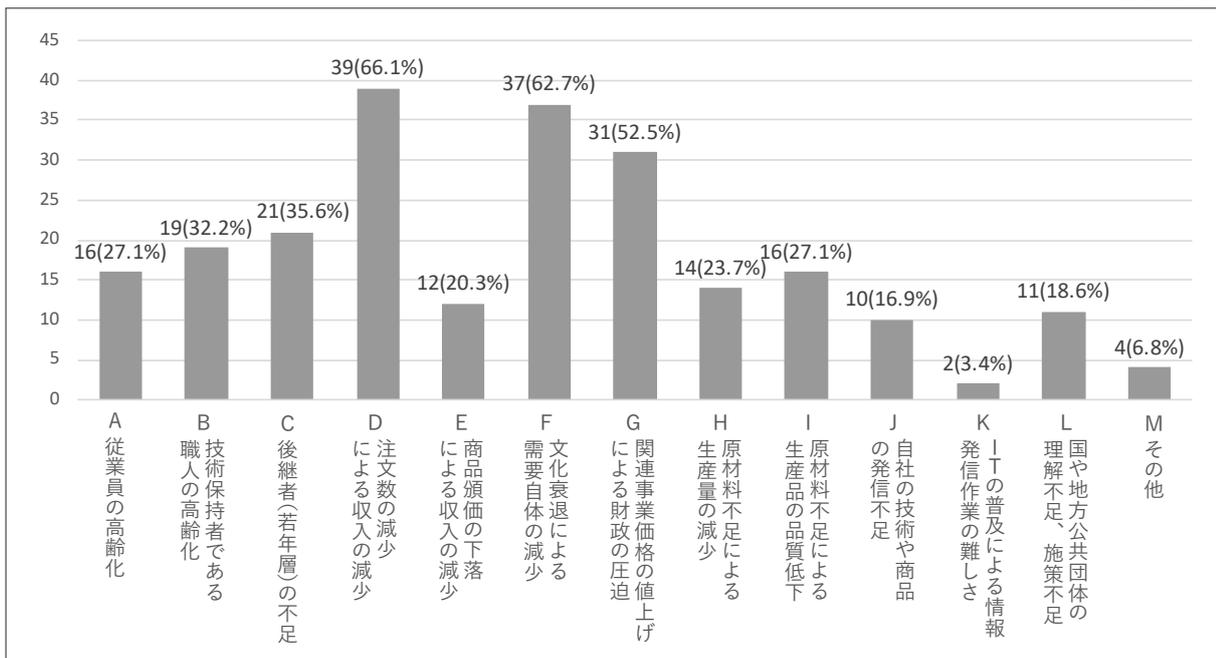
回答数 53



㉕ 現在の御社の問題点や課題点を教えてください。(複数回答可)

- | | |
|-------------------------------------|----------------------|
| A 従業員の高齢化 | B 技術保持者である職人の高齢化 |
| C 後継者(若年層)の不足 | D 注文数の減少による収入の減少 |
| E 商品頒価の下落による収入の減少 | F 文化衰退による需要自体の減少 |
| G 関連事業価格(原材料費・通信費・運搬費等)の値上げによる財政の圧迫 | I 原材料不足による生産品の品質低下 |
| H 原材料不足による生産量の減少 | J 自社の技術や商品の発信不足 |
| L 国や地方公共団体の理解不足、施策不足 | K ITの普及による情報発信作業の難しさ |
| M その他() | |

回答数 59



⑳ 前項㉔での問題点や課題点対策として、御社が現在行う、または、過去に行った施策や企業努力を具体的に教えてください。

- ・ワークショップ、展示会、講演会などの開催(9件)
- ・ホームページによる通信販売、SNSによる情報発信(7件)
- ・後継者の育成、インターンシップ、研修生の受入れ(8件)
- ・海外への販売ルートの拡大(6件)
- ・作業工程の機械化(3件)
- ・他の事業への業務拡大(3件)
- ・廉価製品と高級製品の差別化(価格の見直し)(2件)
- ・オリジナル製品の開発(2件)
- ・作業工程の見直し(簡略化)(1件)
- ・従業員の待遇の改善(1件)
- ・訪問販売の展開(1件)

㉑ 現在の取引先の状況について、卸問屋の方にお伺いします。

海外からのものも含め、仕入先の増減、量や質の事情、今後懸念されることなどを、具体的にご記入ください。

- ・輸入品に頼る割合が大きくなっている(4件)
- ・輸入先(中国)における人材不足、それに伴う品質低下の懸念(3件)
- ・輸入品の値上がり幅が大きい(1件)
- ・後継者不足(1件)
- ・書道人口の低下(1件)
- ・従業員の高齢化(1件)

㉒ 日本の書道文化や伝統技術の保護・継承・活用に関して、ご意見やご助言をお聞かせください。

また、今後の事業の方向性、展望、技術の継承など、伝統文化を守る皆様からの希望・要望・思いがあれば、併せてお聞かせください。

- ・学校教育における書写・書道教育の充実を図ってほしい(12件)
- ・伝統文化、文字文化の振興を図ってほしい(7件)
- ・日本文化を積極的に海外に発信してほしい(3件)
- ・書道に関するイベントを開催してほしい(2件)
- ・手書き文字を保護する運動をしてほしい(1件)
- ・外国人労働者を受入れたい(1件)

【⑦書道具の生産業者・卸問屋・メーカー・生産販売併業者 分析結果】

▶ 回答を得た生産業者等の性格

回答のあった業者は、生産業(約34%)や卸業(約21%)とともに、生産業と販売業を兼ねる業者が約24%存在した。主な取扱品目としては紙が多く、筆がこれに次いだ(①)。消耗の度合いが早い用具用材が主力商品となりやすいものと推測される。本州に広く店舗が存在しており、北海道・九州沖縄などは少数である(③)。

▶ 従業員について

従業員の年齢構成は40代がもっとも多く、30代、50代、60代が中心を担っている。90代という回答が約8%あり、生涯現役を貫く関係者も少なくないことがわかる。これは職人数とも傾向をほぼ一にしている(④)。生産等に従事する人数は30年前から20年間で10%ほど減少しており、とりわけ職人の数は約27%減とその減り幅が大きい。総従業員数に対する職人数の割合は、30年前は約39%、10年前は31%、今日ではさらにその比率を下げている(④⑤)。現在の従業員数を適正と回答したのは約7割で、約2割が不足とし、過剰の約8%を上回る(⑥)。特に職人に関しては不足との回答が3割ほどあり、人材の枯渇が懸念される。

▶ 売上について

書道部門の年間売上高は1000万円未満との回答が23件で約35%、一方で1億円以上が22件約34%と二極化している(⑦)。過去30年で売上が減少した業者が8割を超え、増加の13.6%を大きく上回る(⑧)。

増加と回答した業者の半数以上は増加率を100%以上としており、新商品の開発や顧客数などの増加といった企業努力とともに、同業者の減少をその理由に挙げる回答も複数あった。売上が減少した業者の4割超は50%以上の減少率で、その主たる原因を、顧客等の減少、書に関わる機会の減少、安価な用品の普及としている(⑨⑩⑪)。

▶ 事業展開について

現在の事業を継続、あるいは拡大して継続すると回答した業者が約84%ある一方で、縮小を検討する業者が8件約12%、廃業を検討する業者が3件4.5%あった(⑫)。縮小や廃業を検討する業者11件のうち9件で将来性がないと回答し、経営状況の悪化、後継者の不在も大きな原因となっている(⑬)。

事業を継続する50件の業者のうち、後継者問題に不安がないのは約6割の29件、検討中、継承者を探している、あるいは未定と回答したのはそれぞれ7件で約4割である。縮小や廃業を検討する業者と同様に、後継者に関する課題が内在している様子がわかる(⑭)。

▶ 伝統技術の保護や継承について

伝統的な技術を社内で継承していると回答した業者は35件53%、世襲制で継承する16件約24%を大きく上回る。社外での伝承を行う業者も8件見られた(⑮)。先輩社員から後輩社員へという社内の継承を中心にさまざまな様態で技術を伝えていこうという姿勢が見られる。それぞれの業者が保持する伝統技術を通じて、学校の特別授業や地域の文化事業に協力・参加しているという回答が多く、ホームページやパンフレットによる紹介を上回っている。書道具の生産が伝統的な産業として地域社会に根付いている様子が看取される(⑯)。

用具用材の生産技術や職人に対して条例法に基づいて指定などを受ける例が10件ほど見られ、人材育成に関する支援を受けている例が10件、技術保持のための財政的な支援を受けている例が4件あった(⑰)。

条例法で指定などが行われている具体的な内容は一覧の通りである。ユネスコ無形文化遺産に指定された和紙を中心に、筆、墨、硯の職人が指定されている(⑱)。書道に親しむ人たちがこうした製品の主な消費者であり、産業の基盤を支えていることがわかる。こうした指定等を積極的に受けて、伝統産業を維持していこうという姿勢が一部にあることがわかる。

▶ 生産品の原材料、生産のための用具、販路について

原材料の確保に問題を抱えているという回答が8割を超え、材料の枯渇や価格の高騰、材料を育成する生産者の不足、品質の低下などが主な原因として上げられ、複数の要因が存在している様子が看取された(⑲⑳)。

生産するための用具の確保にも5割程度の業者が問題を抱えており、用具を作る人材の不足がそのもっとも大きな要因に上げられた(㉑)。

こうした原材料や生産のための用具の確保に関する問題について、双方とも輸入によって対応するという回答がもっとも多かった。材料を自社栽培したり、代替品で対応したり、作業工程を機械化したり、多様な企業努力が見られた(22)(23)。

生産品によって大きく異なるが、販路は産地問屋、書道具店、書家・書道教室、一般の文具店のほか、ネット販売などにも広がっており、多様な販路を開拓して売上を確保しようという姿勢が見られる。産地問屋に卸す割合が高く、書道具店がこれに次ぎ、書家や書道教室への販売も多い(25)。

▶問題点

受注数の減少は収入の減少に直結しており、書を取り巻く文化の衰退が需要を後退させている主たる原因と考えている業者が多い。また、原材料や流通経費などの上昇による利益の圧迫も大きな問題である。それらに次いで高齢化や後継者不足が上げられており、事業継続の不安材料となっていることがわかる。材料不足による品質の低下や生産量の減少も看過することができない(26)。

産地や生産者の事情に通じているものと思われる卸問屋では、輸入品への依存の割合が高まっていることと、それらの品質低下や価格上昇への懸念を抱いているという回答が複数見られた。後継者不足や書道人口の減少、従業員の高齢化など、生産業者が抱える問題もそのまま指摘された(28)。

▶問題への対策

さまざまな問題に対して、ワークショップや講演会、インターネットなどを通じて積極的に情報発信を行い、それぞれの生産活動に対する理解を促そうという姿勢が見られる。また、後継者育成にも力を入れる。同時に海外に販路を拡大する例も見られ、作業工程の見直しや機械化などで合理化を図ることなどと合せて利益を確保しようとしている。

廉価製品との差別化やオリジナル商品の開発といった、今日の社会に見合った製品の生産に取り組む業者もある(27)。

▶自由記述

書写書道教育の充実や伝統文化・文字文化の振興、日本文化の海外への発信といった総合的な書道文化の振興を要望する意見が大半である。書道文化の盛衰が書道用品の生産活動の命運を握っているいっても過言ではない状況が看取される(29)。

⑧ 書道具の小売業者・書道具店

書道文化に関する基礎調査

2枚 小売業者様用/書道具店様用

こちら赤色のアンケート用紙は、小売業者様、書道具店様を対象にしています。
 生産業者様・卸問屋様・メーカー様は、別紙青色のアンケート用紙でご回答ください。
 また、生産と販売の両方をされておられる業者様も、別紙青色のアンケート用紙でご回答ください。

アンケート用紙は、平成30年8月20日（月）までに、同封の返信用封筒にてご返送ください
 ますようお願いいたします。

業者名 【 様 】
 本社所在地 【 〒 - - 】
 【 都道府県 】
 電話番号 【 - - 】 FAX番号 【 - - 】
 E-mail 【 】
 ご記入者様の役職・氏名 【 役職 / 様 】

① 御社の主力商品をご選択ください。（該当のアルファベットに○印）（複数回答可）

A 筆 B 墨 C 硯 D 紙 E 額、表具
 F 篆刻用品 G 書籍 H その他（ ）

② 創業年、営業年数をお伺いします。

創業年（西暦 年（明治 大正 昭和 平成 年）） 営業年数（約 年間）

③ 現在の店舗数とその所在内訳をお伺いします。

店舗数 合計	北海道	東北地方	関東地方	中部地方	近畿地方	中国地方	四国地方	九州 沖縄地方	海外
店	店	店	店	店	店	店	店	店	店

④ 現在の従業員数とその年代内訳をお伺いします。

※正職員のほか、週4日以上勤務するパート・アルバイトも含めてお答えください。

従業員数 合計	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代 以上
名	名	名	名	名	名	名	名	名	名

⑤ 従業員数の変化についてお伺いします。

30年前（1988年）の従業員数（ 名）
 20年前（1998年）の従業員数（ 名）
 10年前（2008年）の従業員数（ 名）

⑥ 現在の従業員数の過不足状況についてお伺いします。

A 不足 B 適正 C 過剰

⑦ 現在の年間売上高のうち、書道部門に限定した売上高をお伺いします。

A 500万円未満 B 500～1,000万円 C 1,000～2,000万円
 D 2,000～3,000万円 E 3,000～4,000万円 F 4,000～5,000万円
 G 5,000～6,000万円 H 6,000～7,000万円 I 7,000～8,000万円
 J 8,000～9,000万円 K 9,000万～1億円 L 1～2億円
 M 2～3億円 N 3億円以上

①

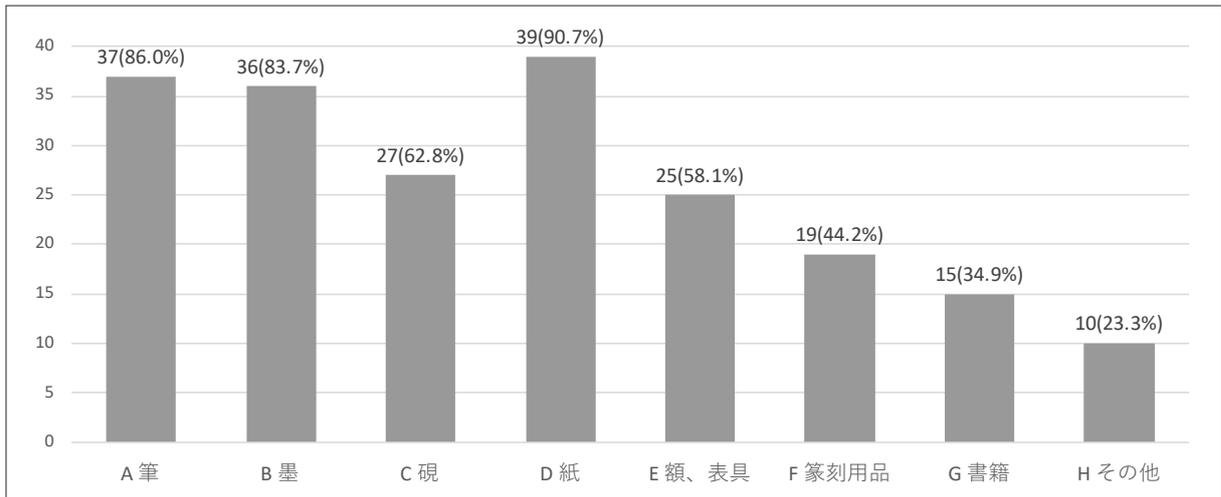
書道文化に関する基礎調査 —アンケート集計結果—

対象：書道具の小売業者・書道具店(計43名)

① 御社の主力商品をご選択ください。(該当のアルファベットに○印) (複数回答可)

- A 筆 B 墨 C 硯 D 紙 E 額、表具
F 篆刻用品 G 書籍 H その他()

回答数 43



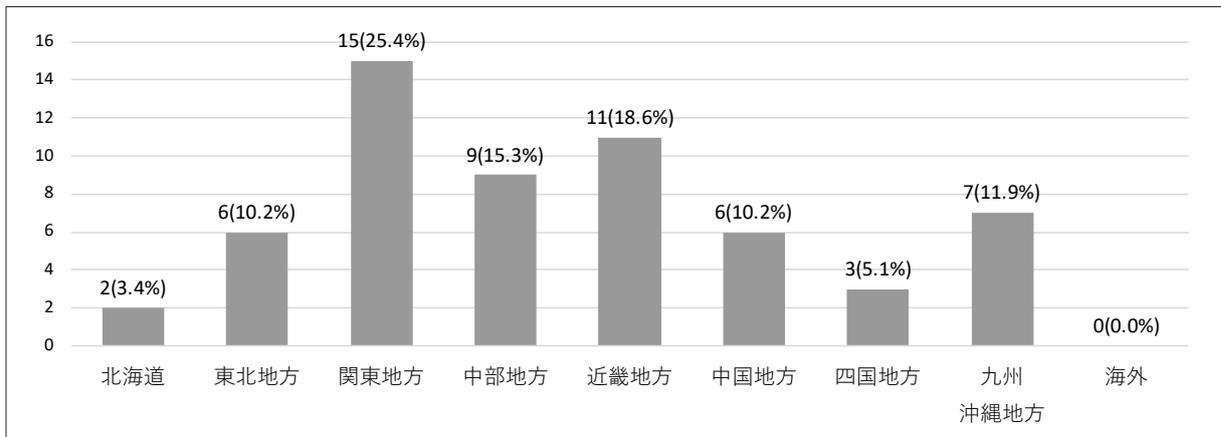
【その他の主な回答】

- ・古筆、書画 ・文具、事務用品 ・かな料紙 ・書き初め手本用紙 ・拓本等書道資料
- ・学校教材 ・展覧会対応 ・小学生向け書道セット

③ 現在の店舗数とその所在内訳をお伺いします。

店舗数合計	北海道	東北地方	関東地方	中部地方	近畿地方	中国地方	四国地方	九州 沖縄地方	海外
店	店	店	店	店	店	店	店	店	店

店舗数合計 59店 回答数 41

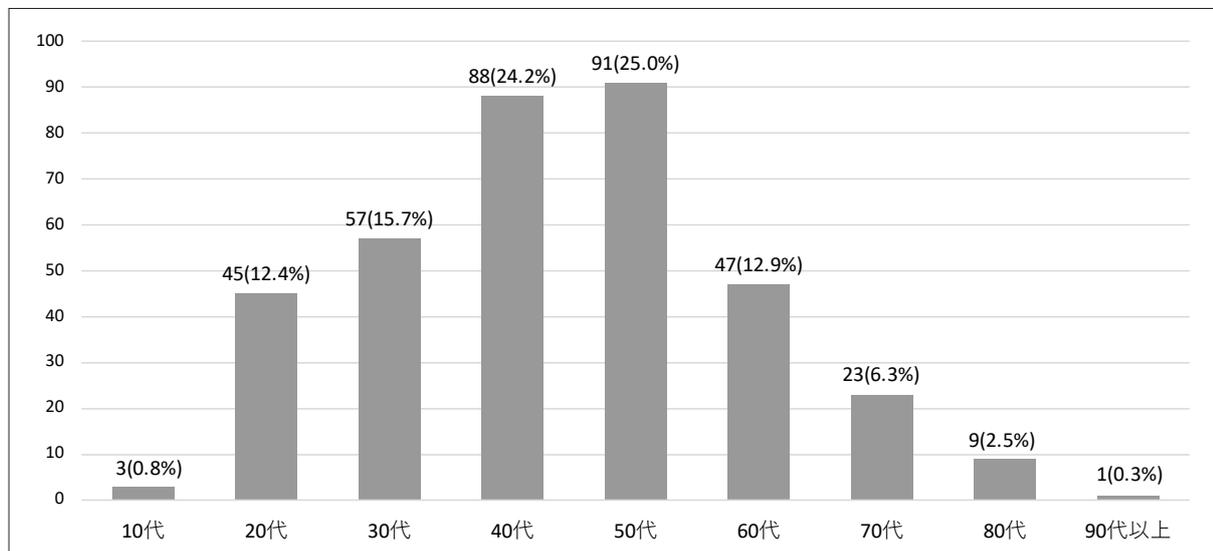


④ 現在の従業員数とその年代内訳をお伺いします。

※正職員のほか、週4日以上勤務するパート・アルバイトも含めてお答えください。

従業員数 合計	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代以上
名	名	名	名	名	名	名	名	名	名

従業員数合計 364名 回答数 36



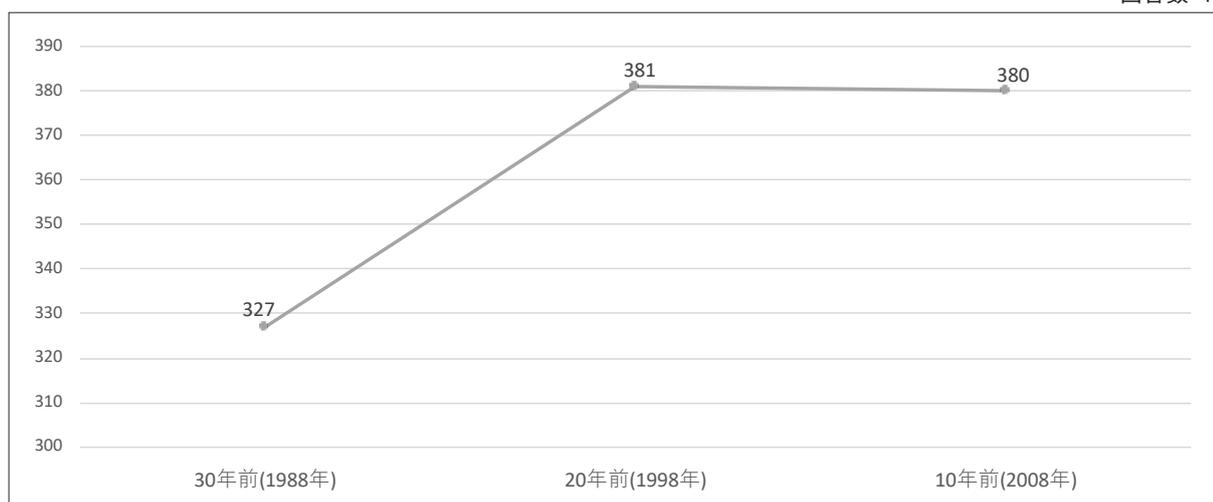
⑤ 従業員数の変化についてお伺いします。

30年前(1988年)の従業員数 (名)

20年前(1998年)の従業員数 (名)

10年前(2008年)の従業員数 (名)

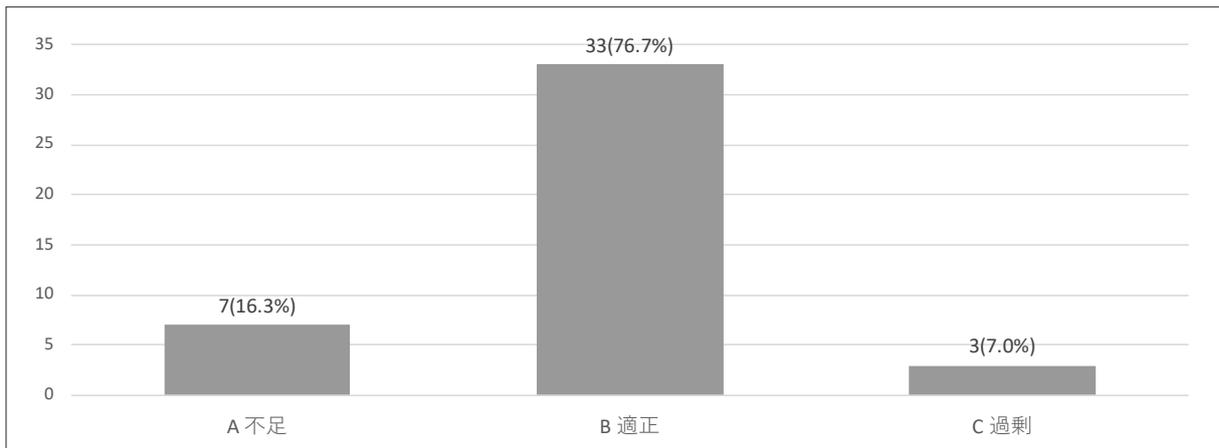
回答数 41



⑥ 現在の従業員数の過不足状況についてお伺いします。

A 不足 B 適正 C 過剰

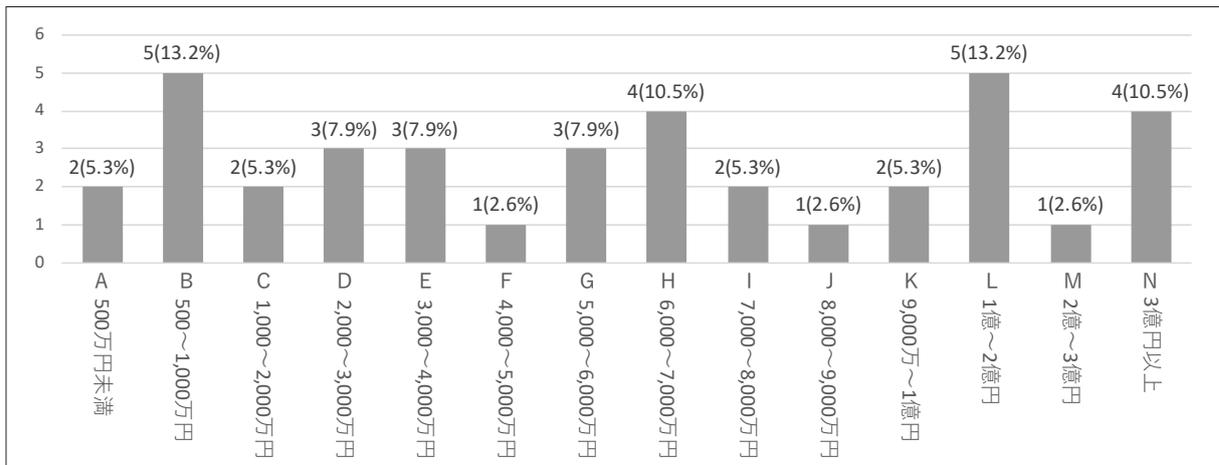
回答数 43



⑦ 現在の年間売上高のうち、書道部門に限定した売上高をお伺いします。

A 500万円未満 B 500～1,000万円 C 1,000～2,000万円
 D 2,000～3,000万円 E 3,000～4,000万円 F 4,000～5,000万円
 G 5,000～6,000万円 H 6,000～7,000万円 I 7,000～8,000万円
 J 8,000～9,000万円 K 9,000万～1億円 L 1～2億円
 M 2～3億円 N 3億円以上

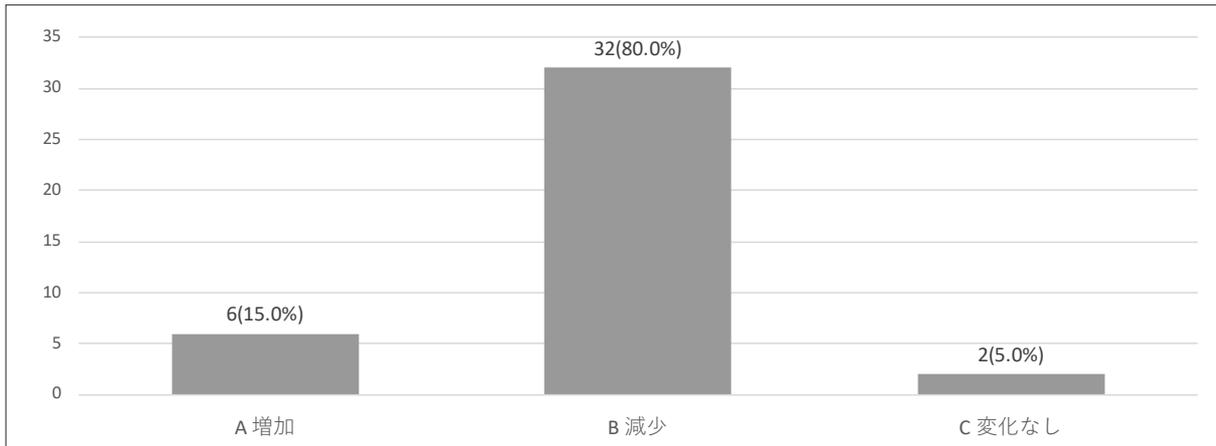
回答数 38



⑧ 過去30年間(1988年～現在)の売上高の増減傾向についてお伺いします。

A 増加 B 減少 C 変化なし

回答数 40



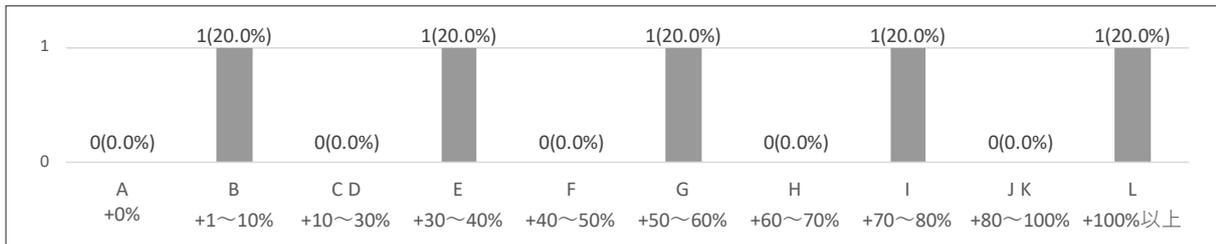
⑨ 過去30年間(1988年～現在)の売上高の増減率についてお伺いします。

※前項⑧で、〈A増加〉を選択の場合は売上の増加率、〈B減少〉を選択した場合は売上の減少率を示します。
 〈A増加〉の場合のみ、100%以上の増加率の選択が存在します。

A ±0% B ±1～10% C ±10～20% D ±20～30%
 E ±30～40% F ±40～50% G ±50～60% H ±60～70%
 I ±70～80% J ±80～90% K ±90～100% L +100%以上

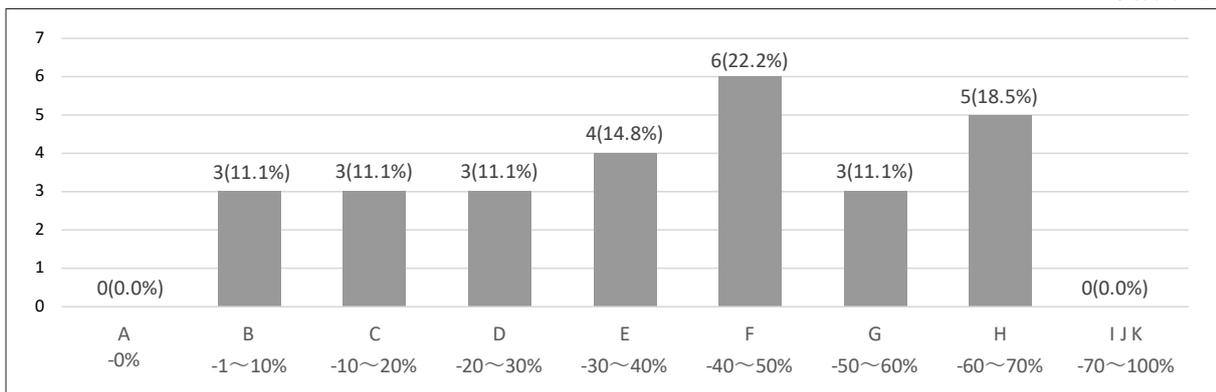
【増加率】

回答数 5



【減少率】

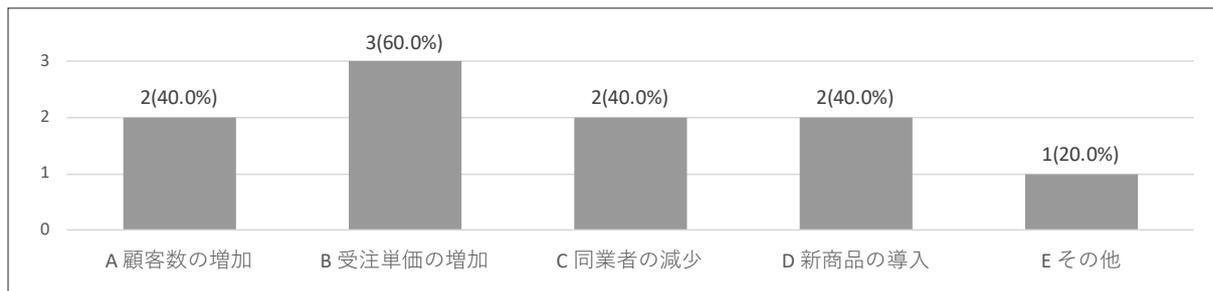
回答数 27



⑩ 前項⑧で〈A 増加〉と回答された方に質問です。
その理由は何だと思われますか。(複数回答可)

- A 顧客数の増加 B 受注単価の増加 C 同業者の減少 D 新商品の導入
E その他()

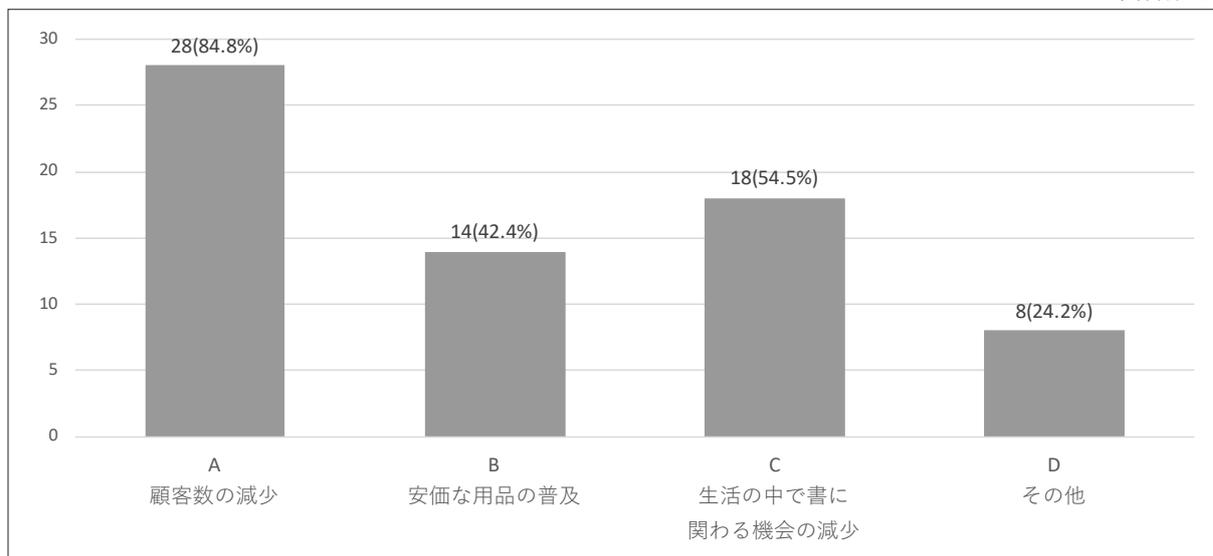
回答数 5



⑪ 前項⑧で〈B 減少〉〈C 変化なし〉と回答された方に質問です。
その理由は何だと思われますか。(複数回答可)

- A 顧客数の減少 B 安価な用品の普及 C 生活の中で書に関わる機会の減少
D その他()

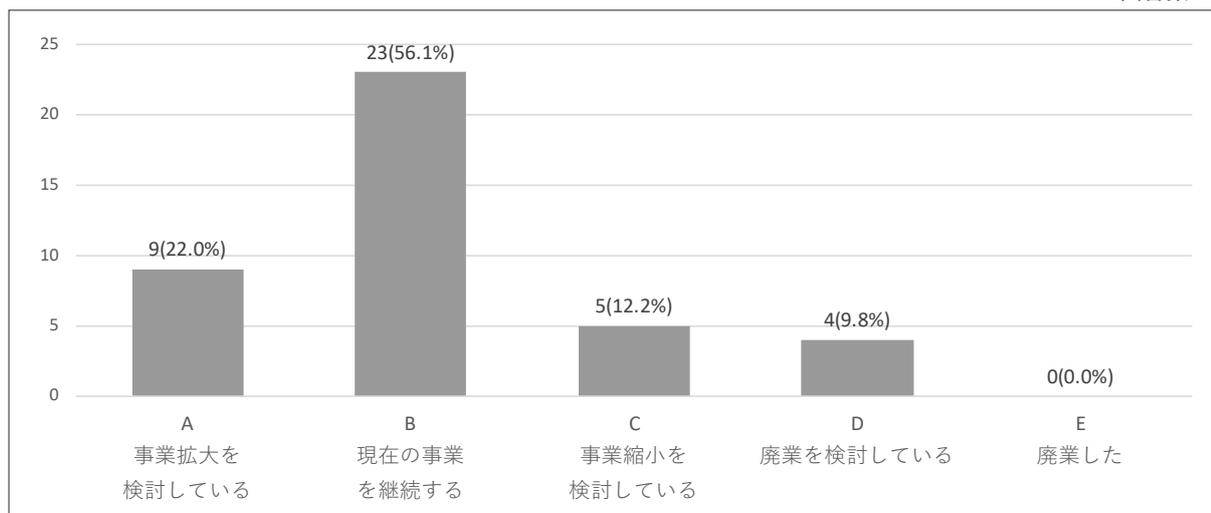
回答数 33



⑫ 事業展開についてお伺いします。

- A 事業拡大を検討している B 現在の事業を継続する C 事業縮小を検討している
 D 廃業を検討している E 廃業した

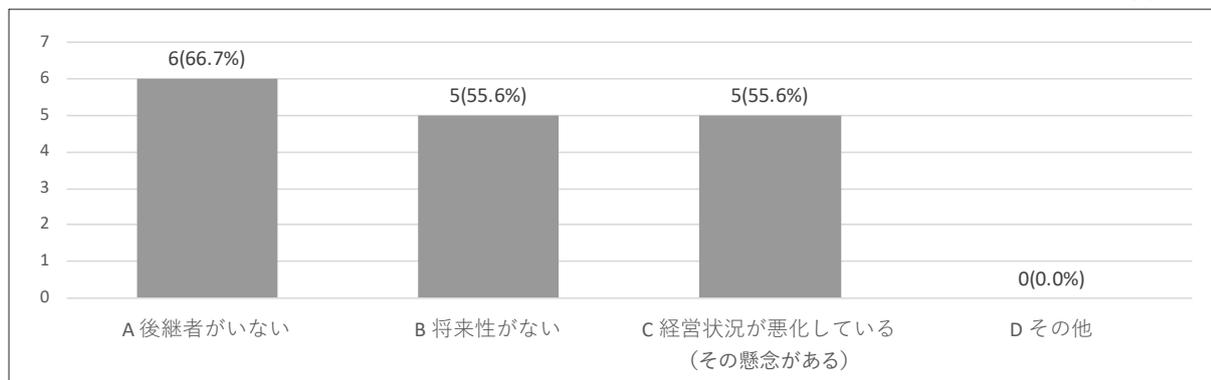
回答数 41



⑬ 前項⑫で〈C 事業縮小を検討している〉〈D 廃業を検討している〉〈E 廃業した〉と回答された方に質問です。
 その理由は何ですか。(複数回答可)

- A 後継者がいない B 将来性がない C 経営状況が悪化している(その懸念がある)
 D その他()

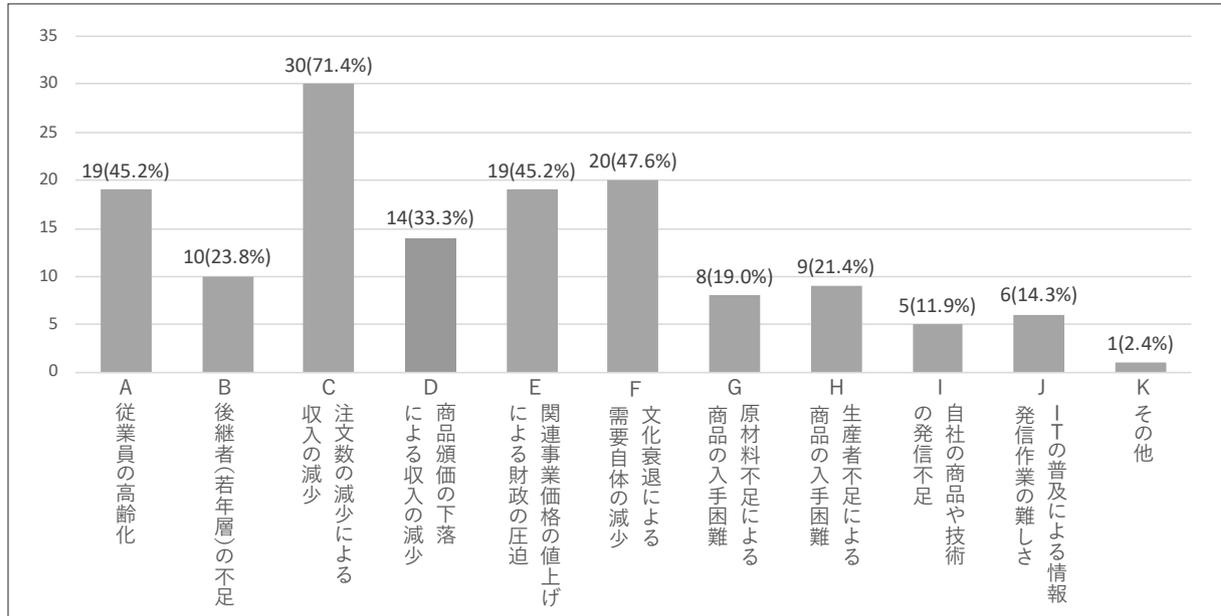
回答数 9



⑭ 現状における御社の問題点や課題点をお答えください。(複数回答可)

- A 従業員の高齢化
 B 後継者(若年層)の不足
 C 注文数の減少による収入の減少
 D 商品価値の下落による収入の減少
 E 関連事業価格(原材料費・通信費・運搬費等)の値上げによる財政の圧迫
 F 文化衰退による需要自体の減少
 G 原材料不足による商品の入手困難
 H 生産者不足による商品の入手困難
 I 自社の商品や技術の発信不足
 J ITの普及による情報発信作業の難しさ
 K その他()

回答数 42



⑮ 前項⑭での問題点や課題点対策として、御社が現在行う、または、過去に行った施策や企業努力を具体的に教えてください。

- ・ホームページ・インターネット通販の導入(6件)
- ・誠実な接客、営業努力(4件)
- ・商品品質の安定化・向上(4件)
- ・ワークショップ、店頭実演販売の開催(4件)
- ・新製品の開発(3件)
- ・他の事業への業務拡大(3件)
- ・若手を積極的に登用・採用した(2件)
- ・外国人観光客に向けた営業展開(2件)

⑯ 日本の書道文化の保護・継承・活用に関して、ご意見やご助言をお聞かせください。また、御社の今後の事業の方向性、展望などをご自由に記述してください。

- ・若い世代の書道人口を増やしていきたい(4件)
- ・外国人に向けたイベントを開催してほしい(3件)
- ・展覧会のみではない毛筆文化を発信していきたい(3件)
- ・メディアを活用した情報発信をしていきたい(2件)
- ・学校教育における書写・書道教育の充実を図ってほしい(2件)
- ・書道人口の減少が不安である(2件)
- ・文房具の研究者を育てていきたい(1件)
- ・書道に関わる人々のネットワークを活用化したい(1件)

【⑧書道具の小売業者・書道具店 分析結果】

▶回答を得た小売業者等の性格

回答のあった小売業者等は、紙、筆、墨などを中心に書道具や関連商品を幅広く扱う業者が多い(①)。回答のあった59の店舗の所在地はおおむね人口分布と同様の傾向を示し、北海道から九州沖縄まで、全国41件から回答を得た(③)。

▶従業員について

従業員総数は364人で、40代50代で約半数を占め、30代60代がそれに次ぐ(④)。30年前から20年前までは増加しているが、その後の10年間の従業員数はほぼ横ばいである。(⑤)。

現在の従業員数を適正であると回答した割合は75%超で、不足という回答が16%ほどで過剰の7%を上回る(⑥)。一部に人手の確保に問題を抱える業者があることがわかる。

▶売上について

現在の年間売上高は企業規模によってさまざまだが、2000万円以下が9件ある一方で1億円以上も10件見られる(⑦)。過去30年で売上高が増加したのは15%、減少が80%である(⑧)。

売上増の要因には受注単価や顧客の増加などとともに、同業者の減少も上げられた(⑩)。

売上減の要因は、顧客の減少とともに書に関わる機会の減少も数多く上げられた。また、安価な用品の普及も上げられ、いわゆる100円ショップやコンビニエンスストアなどで廉価品が販売されていることと関係が深いように見受けられた(⑪)。

▶事業展開について

事業の拡大を含めて、現在の事業を継続するとの回答が約78%。縮小を検討する業者が5件、廃業を検討する業者が4件、計9件で20%(⑫)。その原因には後継者の不在や将来への不安、経営状況の悪化など、複数の要因があることがわかる(⑬)。

▶問題点

注文の減少による収入の減少が1位に上げられ、書を取り巻く文化の衰退が需要を後退させていると考えていることがわかる。商品の仕入れ価格の上昇も売上を圧迫しており、原材料や生産者の不足による商品の入手困難も起きている。また、従業員の高齢化は事業の先行きを不安定にしているものと考えられる。情報発信の難しさや不足を上げるのも高齢化と関係しているのかもしれない(⑭)。

▶問題への対策

ネット通販や外国人観光客に向けた営業展開など新たな販路を開拓する一方で、他に事業を拡大して書道具から離れることが推量される回答もあった。誠実な接客やワークショップなどの開催等、商品知識を活かした営業活動、専門店ならではの品質の安定化、新商品の開発など、多様な企業努力を行っている様子がわかる(⑮)。

▶自由記述

書道人口の増加を望む声が多く、多様な書道文化の醸成や書写・書道教育の充実を期待している。メディアの活用や書に関わる人びとのネットワーク構築、文房具研究者の育成という意見もあった(⑯)。

⑨ 表具店・設営業者

業者名【

様】 ※こちらの3枚目にも必ず
業者名をご記入ください。

⑮ 伝統技術を保護・継承するにあたり、学校や地域に根付く施設など、地域と連携する機会についてお答えください。(複数回答可)

- A 地域施設でのデモンストレーションや講習会の実施
- B 地域施設での一般参加型イベントの開催
- C 学校の特別授業や行事への参加、協力
- D 地域と連携、協力した文化事業の実施
- E 企業と連携、協力した文化事業の実施
- F パンフレット等による会社や技術の紹介
- G H P制作と、Web 上での会社や技術の紹介
- H その他 ()
- I 地域と連携する機会はない

⑯ 御社の技術、御社の職人(個人)に対して、国、地方公共団体、法人等からの保護措置があればお答えください。(複数回答可)

受けている保護措置(該当のアルファベットに○印)	それはどこからの保護措置ですか
A 条例法に基づく指定・選定・登録などの認定	
B 人材育成に関する支援	
C 技術保持のための財政支援	
D 文化活動やイベントへの財政支援	
E 後援名義の使用許可や賞の交付	
F その他 ()	
G 受けている保護措置はない	

⑰ 御社の技術、御社の職人(個人)に対して、国、地方公共団体、法人等から、文化財、文化財保持者として、何らかの指定、選定、登録を受けているものがある場合は、分かる限りで具体的にお答えください。

※一例：有形文化財、無形文化財、選定保存技術、人間国宝(重要無形文化財保持者)、伝統的工芸品、伝統工芸士…

何に認定されたか	所管はどこか	認定名称、認定された人物	認定年月日
(例) 人間国宝、伝統工芸士…	経済産業大臣、京都市…	表具用手漉和紙製作、○山○雄	S 50. 1. 1

業者名【

様】 ※こちらの4枚目にも必ず
業者名をご記入ください。

⑱ 表具店様、兼業者様にお伺いします。

表具の材料について、材料の確保に問題を抱えていますか。

A 問題あり B 問題なし

⑲ 前項⑱で「A 問題あり」と回答された方に質問です。

調達、確保が難しい原材料名と、その具体的な問題点を挙げてください。

調達、確保が難しい原材料名	問題点（該当のアルファベットに○印）（複数回答可）	
	A 材料の入手困難 C 品質の低下 E その他（ ）	B 高価になり入手困難 D 材料の生産者不足
	A 材料の入手困難 C 品質の低下 E その他（ ）	B 高価になり入手困難 D 材料の生産者不足
	A 材料の入手困難 C 品質の低下 E その他（ ）	B 高価になり入手困難 D 材料の生産者不足
	A 材料の入手困難 C 品質の低下 E その他（ ）	B 高価になり入手困難 D 材料の生産者不足

⑳ 表具店様、兼業者様にお伺いします。

表具をするための用具について、用具の確保に問題を抱えていますか。

A 問題あり B 問題なし

㉑ 前項㉑で「A 問題あり」と回答された方に質問です。

問題を抱える用具名と、その具体的な問題点を挙げてください。

問題を抱える用具名	問題点（該当のアルファベットに○印）（複数回答可）	
	A 品質の低下 C 用具を作る人材の不足 E その他（ ）	B 用具を作るための材料不足 D 用具のコスト増加
	A 品質の低下 C 用具を作る人材の不足 E その他（ ）	B 用具を作るための材料不足 D 用具のコスト増加
	A 品質の低下 C 用具を作る人材の不足 E その他（ ）	B 用具を作るための材料不足 D 用具のコスト増加
	A 品質の低下 C 用具を作る人材の不足 E その他（ ）	B 用具を作るための材料不足 D 用具のコスト増加

㉒ 表具店様、兼業者様にお伺いします。材料や用具の現在抱える問題点に対して、例えば、代替用品を使用するようになった、国内では調達が難しく海外から輸入するようになったなど、御社が何らかの対応策を取っていらっしゃったら、それを具体的にお聞かせください。

.....

.....

.....

.....

.....

.....

業者名【

様】 ※こちらの5枚目にも必ず
業者名をご記入ください。

㉓ 設営業者様、兼業者様にお伺いします。

書道に関する設営を行う上で、顧客の内容や顧客数、展示作品の内容や展示数などについて、過去30年間の中で何か変化があればお聞かせください。また、設営業者様から見た書道文化全般についての変化についても、お気づきの点があればお聞かせください。

.....
.....
.....
.....
.....

㉔ 御社で取り扱う仕事の割合についてお伺いします。

全体を100%とした場合、書道の取扱率と、書道以外の取扱率をお答えください。

書道の取扱率 (%) 書道以外の取扱率 (%)

㉕ 御社の取り扱う仕事の受注者（書道関連に限る）についてお伺いします。

受注者の割合を（ ）内にご記入ください。

- | | |
|-------------------------------------|--|
| A 書家 (%) | B 書道教室、カルチャーセンター (%) |
| C 学校などの教育現場 (%) | D 美術館、博物館 (%) |
| E ギャラリー、画廊 (%) | F 百貨店 (%) |
| G 一般、個人 (%) | H その他 () (%) |

㉖ 現在の御社の問題点や課題点をお答えください。（複数回答可）

- | | |
|------------------------------------|----------------------|
| A 従業員の高齢化 | B 技術保持者である職人の高齢化 |
| C 後継者（若年層）の不足 | D 受注数の減少による収入の減少 |
| E 商品頒価の下落による収入の減少 | F 文化衰退による需要自体の減少 |
| G 関連事業価格（材料費・通信費・運搬費等）の値上げによる財政の圧迫 | |
| H 材料不足による生産量の減少 | I 材料不足による生産品の品質低下 |
| J 自社の技術や商品の発信不足 | K ITの普及による情報発信作業の難しさ |
| L 国や地方公共団体の理解不足、施策不足 | |
| M その他 () | |

㉗ 前項㉖での問題点や課題点対策として、御社が現在行う、または、過去に行った施策や企業努力を具体的に教えてください。

.....
.....
.....
.....
.....

㉘ 日本の書道文化や伝統技術の保護・継承・活用に関して、ご意見やご助言をお聞かせください。

また、今後の事業の方向性、展望、技術の継承など、伝統文化を守る皆様からの希望・要望・思いがあれば、併せてお聞かせください。

.....
.....
.....
.....
.....

※本用紙に記入しきれない場合は、任意の用紙に記入して同送いただいても結構です。 ご協力ありがとうございました。

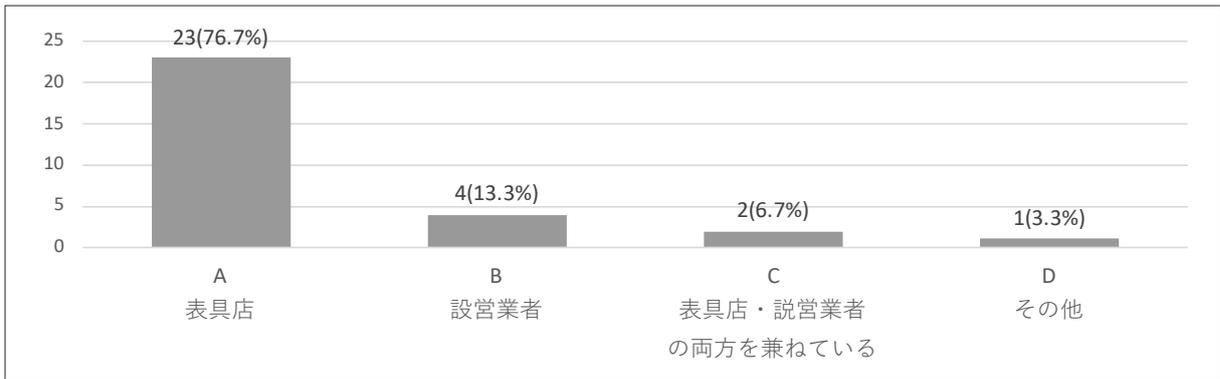
書道文化に関する基礎調査 —アンケート集計結果—

対象：表具店・設営業者(計30名)

業種区分(該当のアルファベットに○印)

- A 表具店 B 設営業者 C 表具店・設営業者の両方を兼ねている(以下、兼業者様と表記)
D その他()

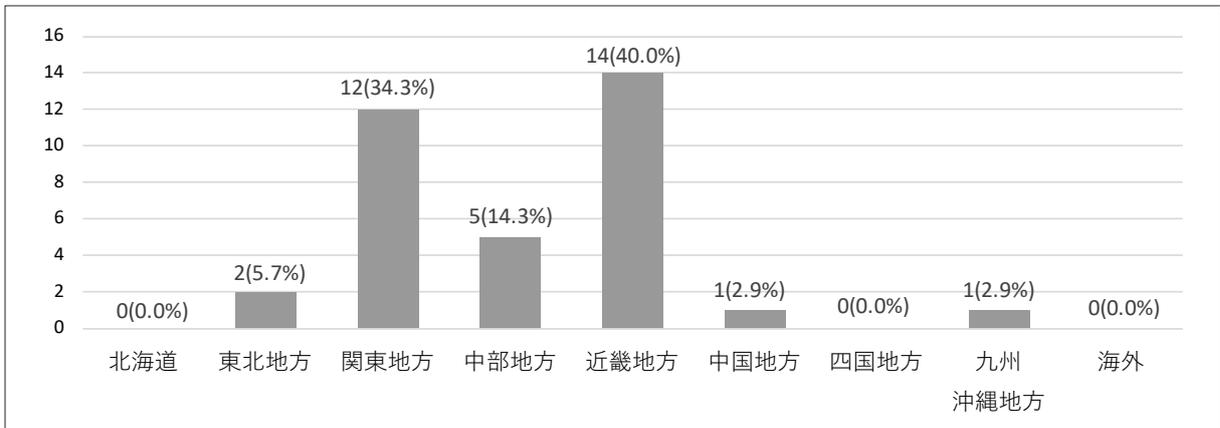
回答数 30



② 現在の店舗数とその所在内訳をお伺いします。

店舗数合計	北海道	東北地方	関東地方	中部地方	近畿地方	中国地方	四国地方	九州 沖縄地方	海外
店	店	店	店	店	店	店	店	店	店

店舗数合計 35店 回答数 27



③ 現在の従業員数とその年代内訳をお伺いします。

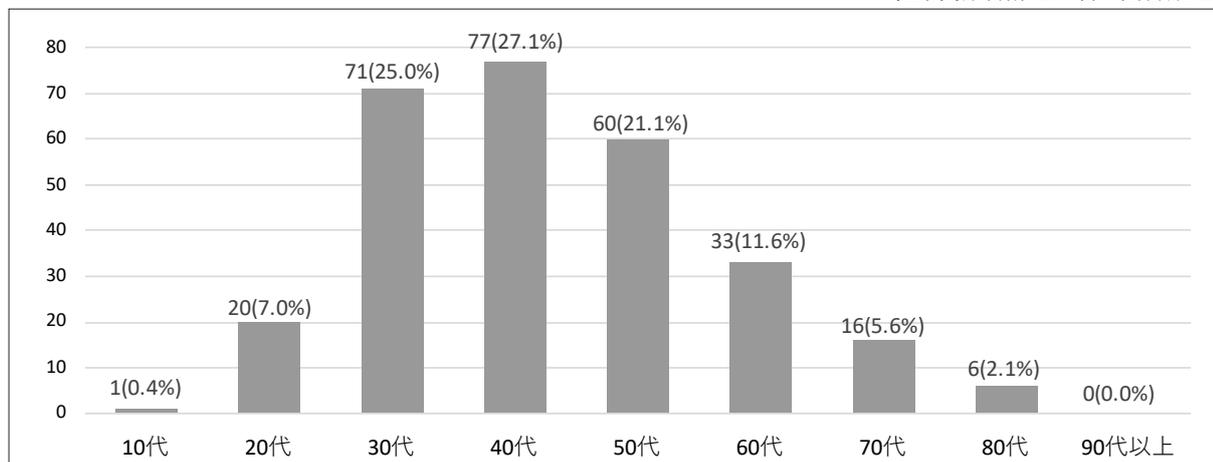
そのうち職人(技術保持者)の数を下段の()内にご記入ください。

※正職員のほか、週4日以上勤務するパート・アルバイトも含めてお答えください。

従業員数 合計	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代以上
(名)	(名)	(名)	(名)	(名)	(名)	(名)	(名)	(名)	(名)

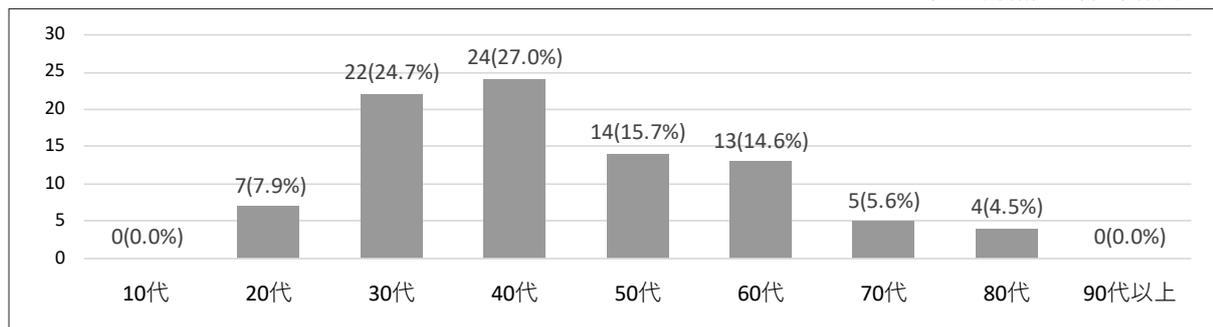
【従業員数】

従業員数合計 284名 回答数 26



【職人数】

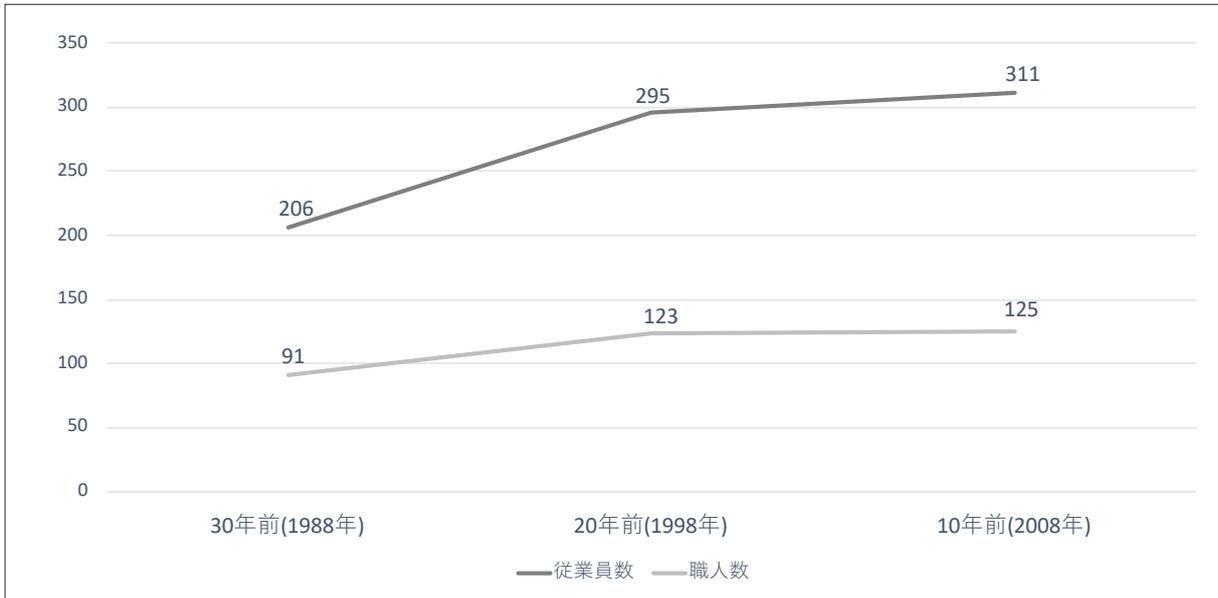
職人数合計 89名 回答数 16



④ 従業員数と職人数の変化についてお伺いします。※従業員数は、職人数を含めた全体数でお答えください。

30年前(1988年)の従業員数 (名) うち職人数(名)
 20年前(1998年)の従業員数 (名) うち職人数(名)
 10年前(2008年)の従業員数 (名) うち職人数(名)

回答数 29

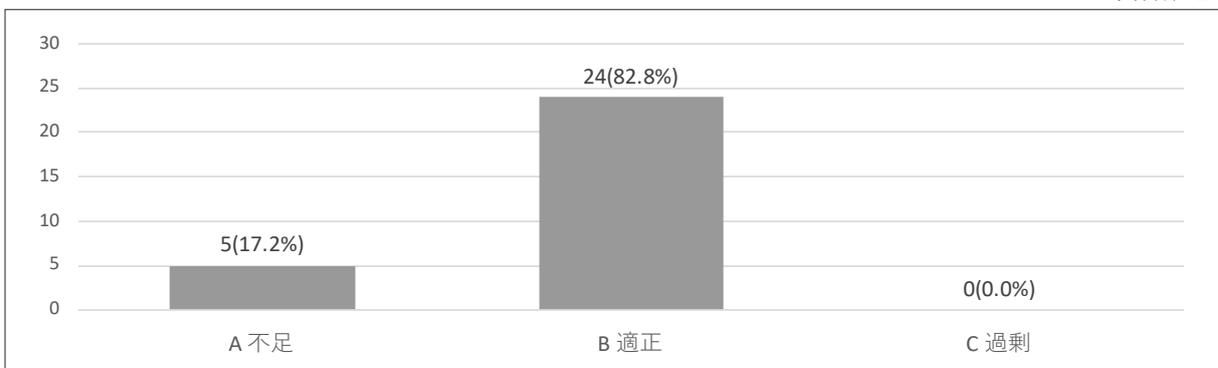


⑤ 現在の従業員数と職人数の過不足状況についてお伺いします。

従業員数 A 不足 B 適正 C 過剰
 職人数 A 不足 B 適正 C 過剰

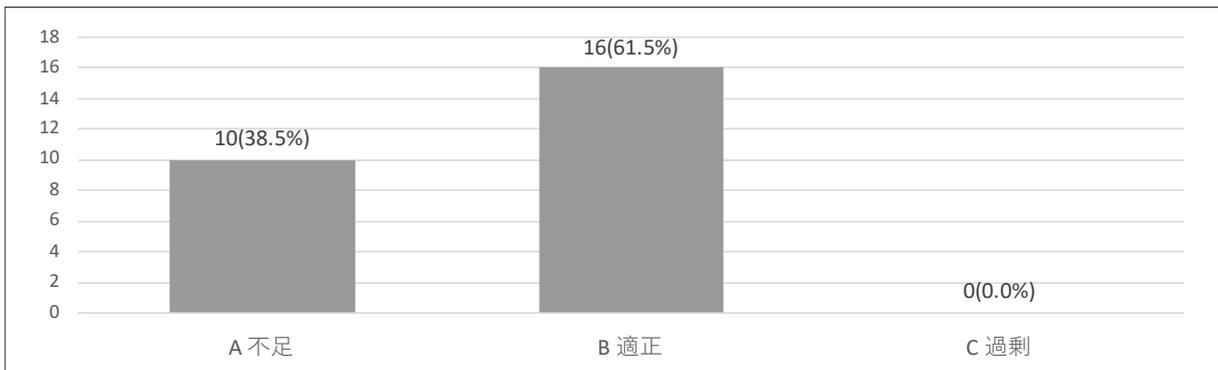
【従業員数】

回答数 29



【職人数】

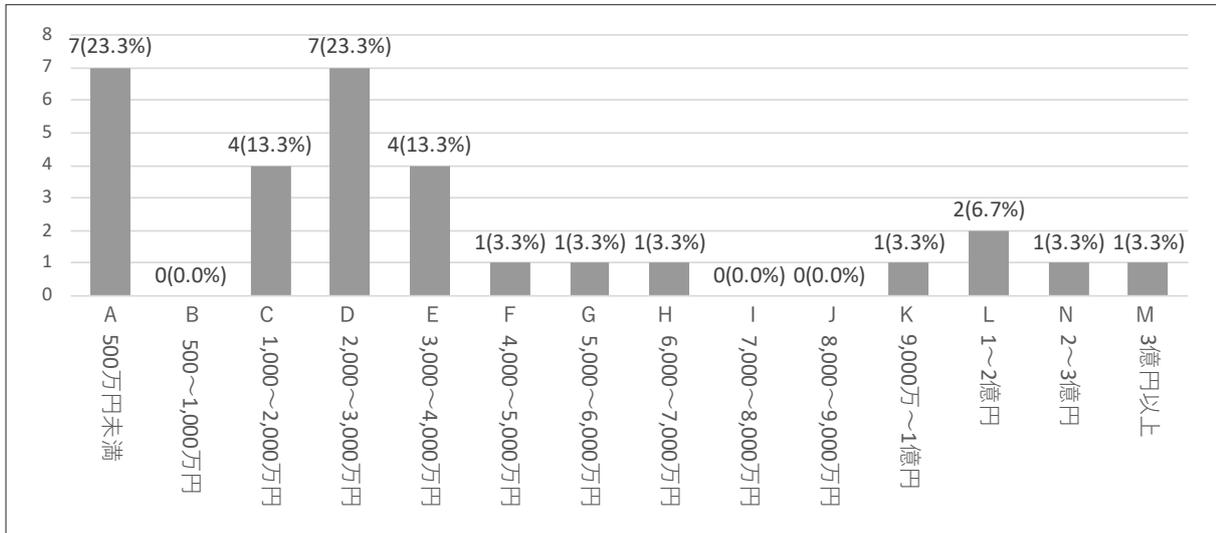
回答数 26



⑥ 現在の年間売上高のうち、書道部門に限定した売上高をお伺いします。

- | | | |
|-----------------|-----------------|-----------------|
| A 500万円未満 | B 500～1,000万円 | C 1,000～2,000万円 |
| D 2,000～3,000万円 | E 3,000～4,000万円 | F 4,000～5,000万円 |
| G 5,000～6,000万円 | H 6,000～7,000万円 | I 7,000～8,000万円 |
| J 8,000～9,000万円 | K 9,000万～1億円 | L 1～2億円 |
| M 2～3億円 | N 3億円以上 | |

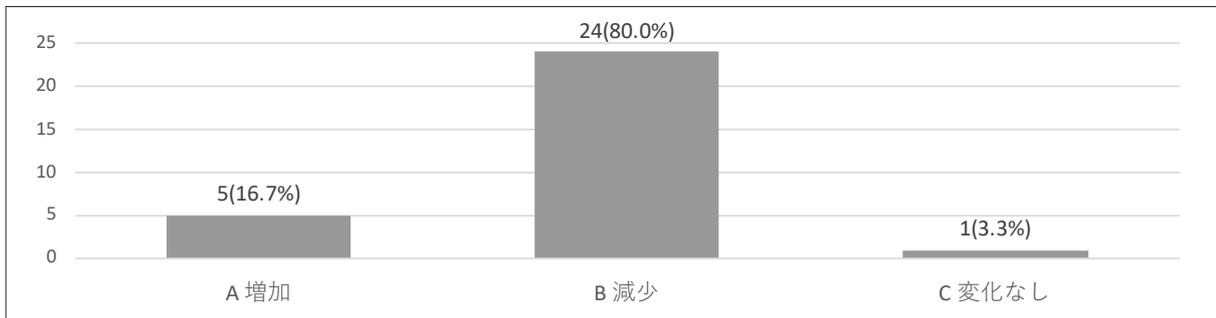
回答数 30



⑦ 過去30年間(1988年～現在)の売上高の増減傾向についてお伺いします。

- A 増加 B 減少 C 変化なし

回答数 30



⑧ 過去30年間(1988年～現在)の売上高の増減率についてお伺いします。

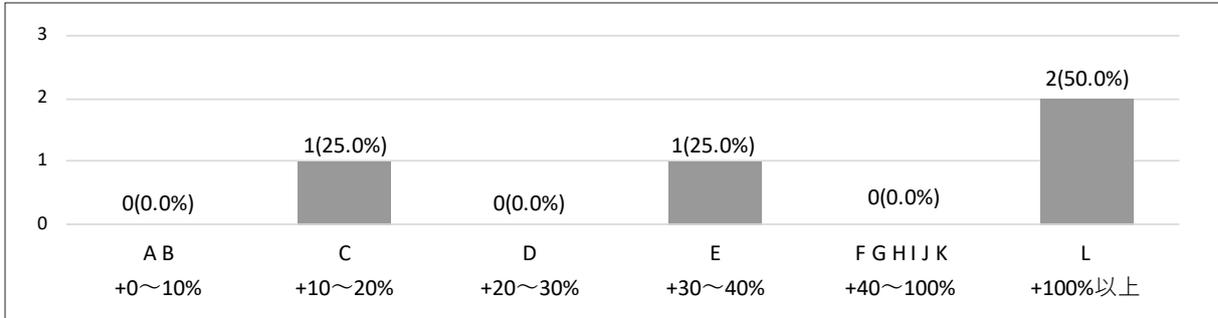
※前項⑦で、〈A増加〉を選択の場合は売上が増加率、〈B減少〉を選択した場合は売上の減少率を示します。

〈A増加〉の場合のみ、100%以上の増加率の選択が存在します。

- | | | | |
|-----------|-----------|------------|-----------|
| A ±0% | B ±1～10% | C ±10～20% | D ±20～30% |
| E ±30～40% | F ±40～50% | G ±50～60% | H ±60～70% |
| I ±70～80% | J ±80～90% | K ±90～100% | L +100%以上 |

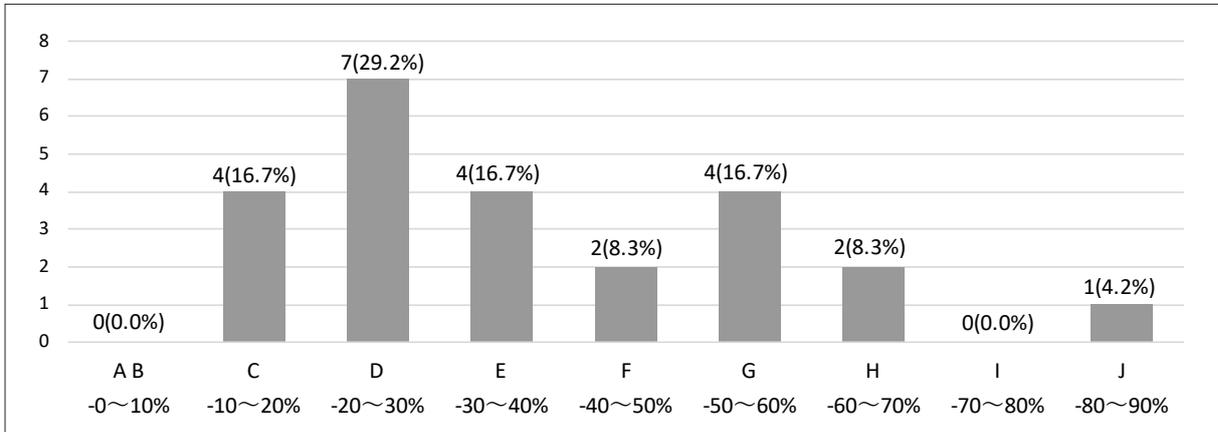
【増加率】

回答数 4



【減少率】

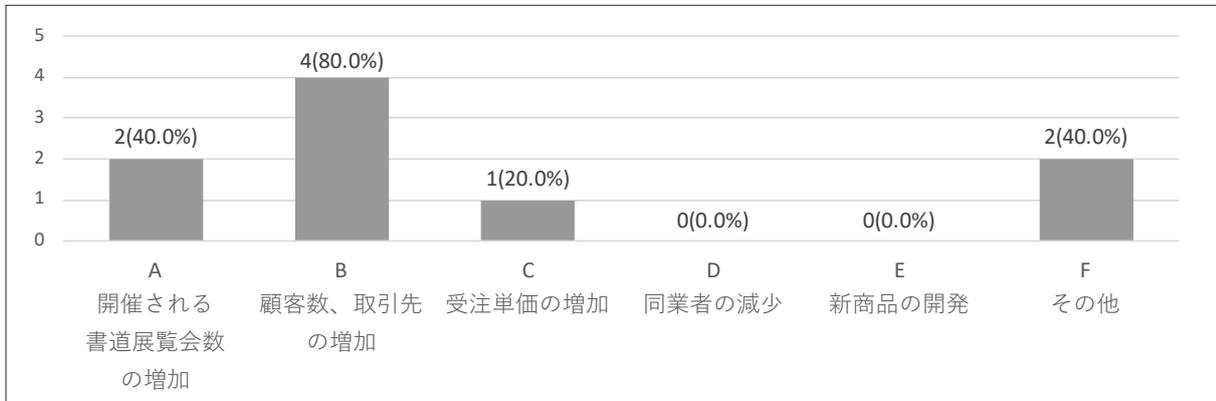
回答数 24



⑨ 前項⑦で〈A 増加〉と回答された方に質問です。
その理由は何だと思われますか。(複数回答可)

- A 開催される書道展覧会数の増加
- B 顧客数、取引先の増加
- C 受注単価の増加
- D 同業者の減少
- E 新商品の開発
- F その他()

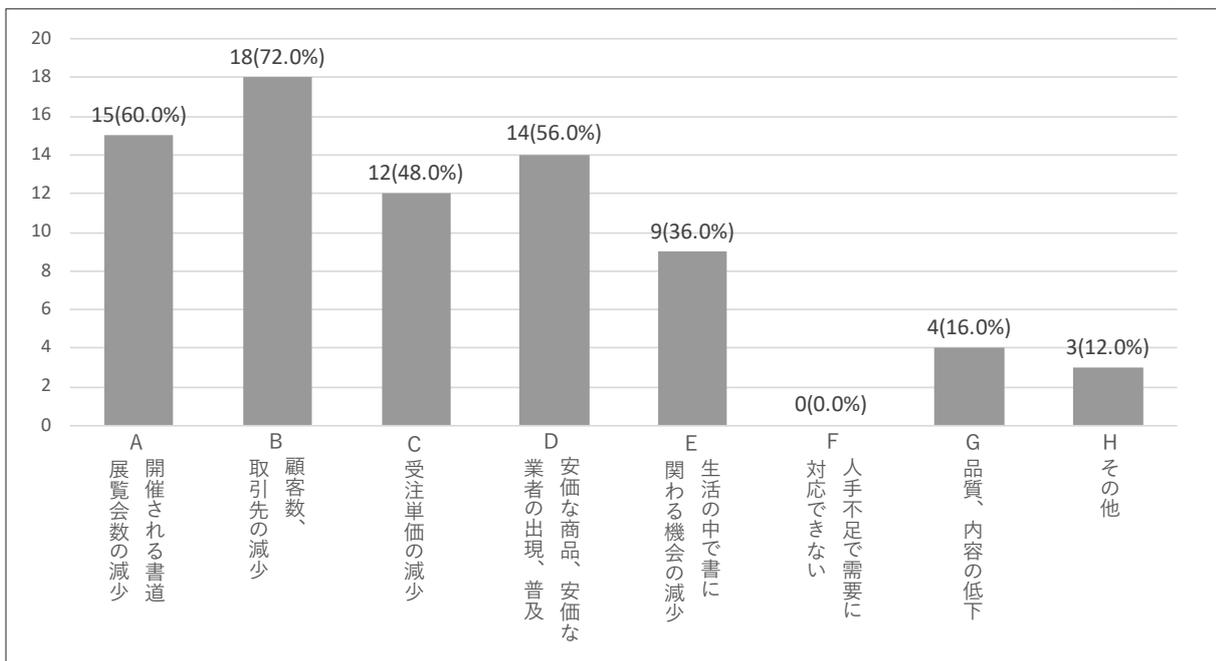
回答数 5



⑩ 前項⑦で〈B 減少〉〈C 変化なし〉と回答された方に質問です。
その理由は何だと思われますか。(複数回答可)

- A 開催される書道展覧会数の減少
- B 顧客数、取引先の減少
- C 受注単価の減少
- D 安価な商品、安価な業者の出現、普及
- E 生活の中で書に関わる機会の減少
- F 人手不足で需要に対応できない
- G 品質、内容の低下
- H その他()

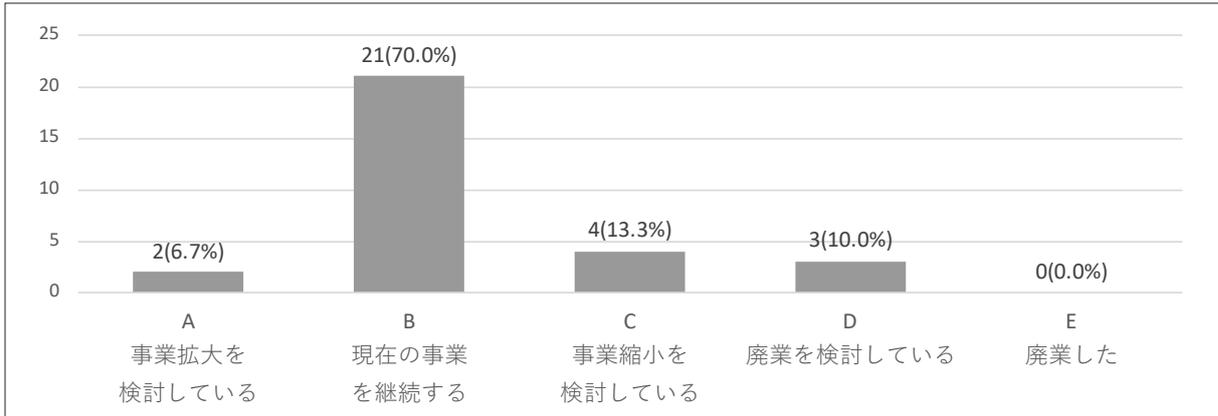
回答数 25



⑪ 事業展開についてお伺いします。

- A 事業拡大を検討している B 現在の事業を継続する C 事業縮小を検討している
D 廃業を検討している E 廃業した

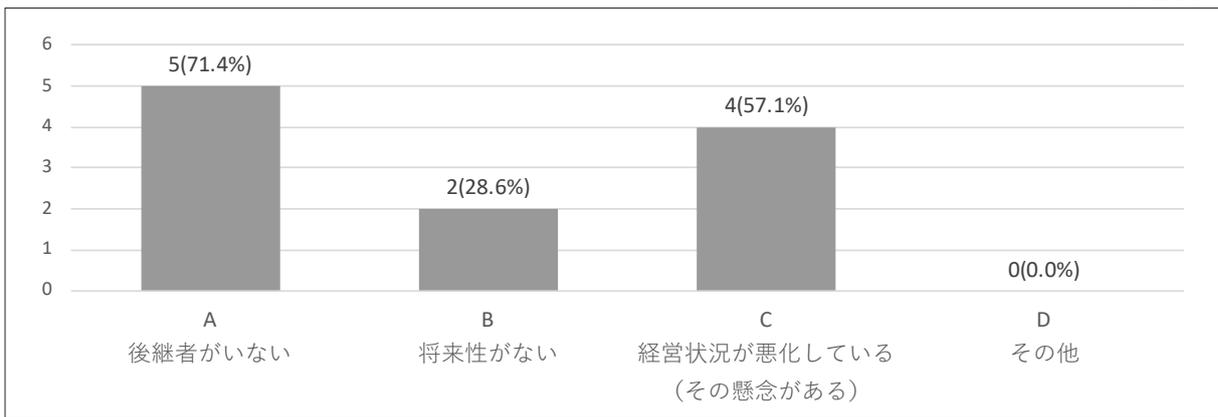
回答数 30



⑫ 前項⑪で〈C 事業縮小を検討している〉〈D 廃業を検討している〉〈E 廃業した〉と回答された方に質問です。その理由は何ですか。(複数回答可)

- A 後継者がいない B 将来性がない C 経営状況が悪化している(その懸念がある)
D その他()

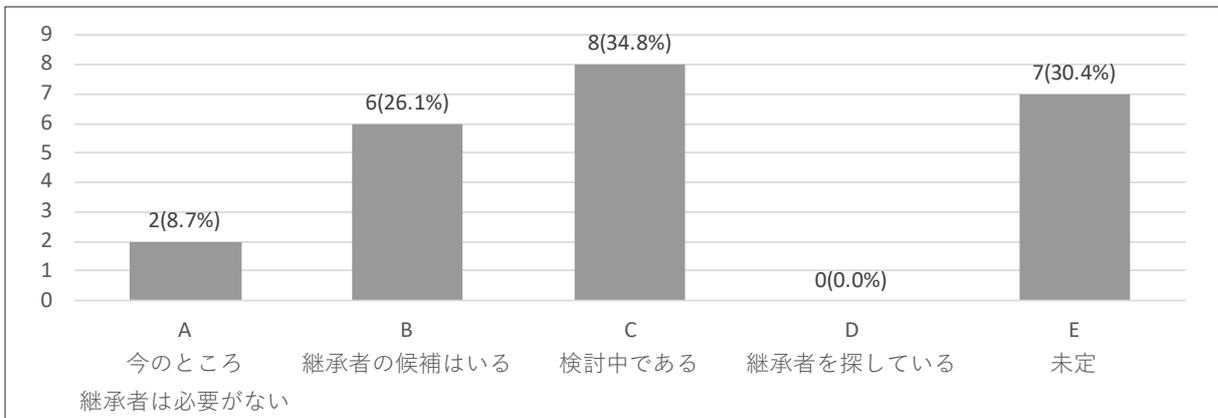
回答数 7



⑬ 前項⑪で〈A 事業拡大を検討している〉〈B 現在の事業を継続する〉と回答された方に質問です。職人の技、技術を受け継ぐ継承者について、現在どのようにお考えですか。

- A 今のところ継承者は必要がない B 継承者の候補はある C 検討中である
D 継承者を探している E 未定

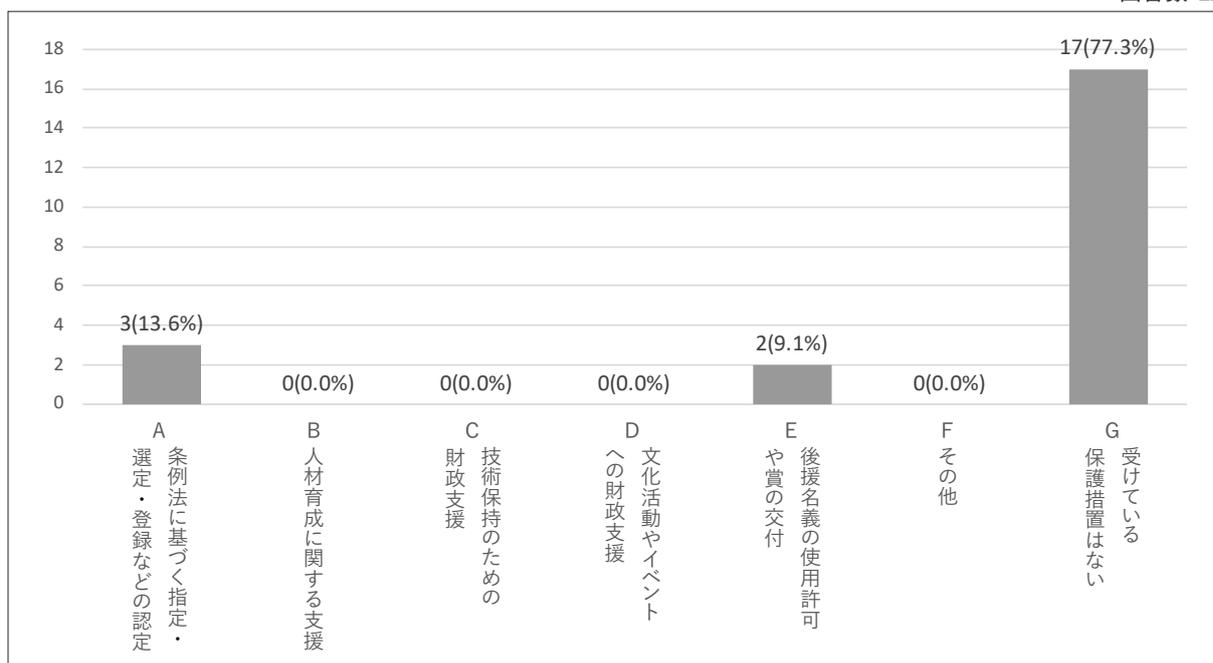
回答数 23



- ⑩ 御社の技術、御社の職人(個人)に対して、国、地方公共団体、法人等からの保護措置があればお答えください。
(複数回答可)

受けている保護措置(該当のアルファベットに○印)	それはどこからの保護措置ですか
A 条例法に基づく指定・選定・登録などの認定	
B 人材育成に関する支援	
C 技術保持のための財政支援	
D 文化活動やイベントへの財政支援	
E 後援名義の使用許可や賞の交付	
F その他()	
G 受けている保護措置はない	

回答数 22



表具店名	受けている保護措置	それはどこからの保護措置ですか
株式会社 湯山春峰堂	A	東京都港区教育委員会
装潢堂 伊藤表具店	E	東京表具経師文化協会
株式会社 清蘭堂	E	上田市 商工会議所
株式会社 原汲古堂	A	厚生労働省、兵庫県、神戸市
東洋額装株式会社	A	福山市

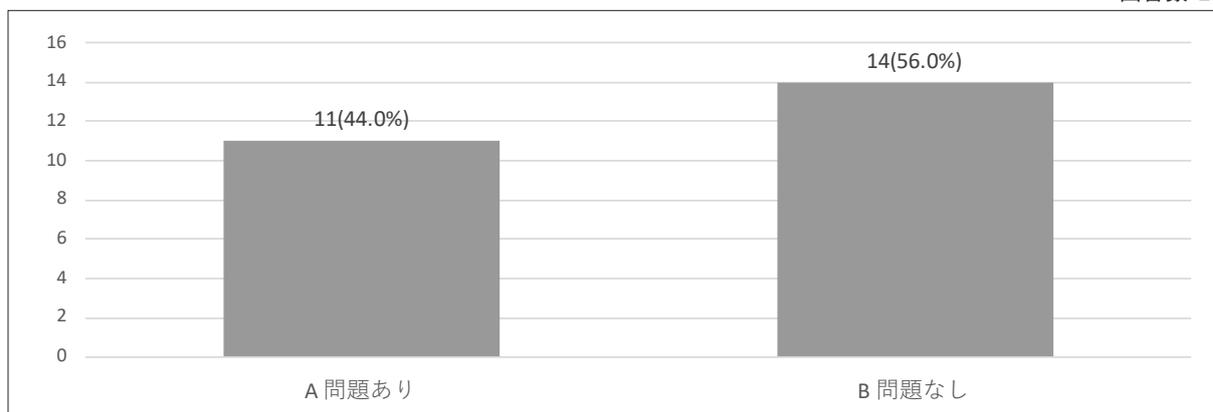
- ⑰ 御社の技術、御社の職人(個人)に対して、国、地方公共団体、法人等から、文化財、文化財保持者として、何らかの指定、選定、登録を受けているものがあれば、分かる限りで具体的にお答えください。

表具店・設営業者	何に認定されたか	所管はどこか	認定名称・認定人物
株式会社 湯山春峰堂	港区指定無形文化財	東京都港区教育委員会	伝統工芸無形文化財 1名
装演堂 伊藤表具店	伝統工芸士	東京都	表具 1名
オルク有限会社	東京都伝統工芸士	東京都	表具師 1名
	東京マイスター	東京都	表具師 1名
	ものづくりマイスター	厚生労働省	表具師 1名
株式会社 清蘭堂	黄綬褒章	内閣府	1名
	旭日双光章	内閣府	1名
中井清英堂表具店	一級表具技能士	厚生労働大臣	表具技能
	伝統工芸士	経済産業大臣・京都市	表具技能
株式会社 原汲古堂	現代の名工	厚生労働大臣	表具師 1名
	ひょうごの匠	兵庫県知事	表具師 1名
	神戸マイスター	神戸市長	表具師 1名
	ものづくりマイスター	厚生労働省	表具師 1名
	全技連マイスター	全国技能士会	表具師 1名
玉木楽山堂	一般技能検定 表具作業	厚生労働大臣	1名
	一般技能検定 表具作業	厚生労働大臣	1名
	神戸市優秀技能表彰	神戸市長	1名
	神戸市優秀技能者表彰	神戸市長	1名
高瀬温古堂	特定国際種事業者	環境、経済産業省	タイマイ等を取り扱う事業者
東洋額装株式会社	一級表装技能士	厚生労働大臣	25名(パート含む)
	二級表装技能士	厚生労働大臣	7名(パート含む)
	ものづくりマイスター	中央技能復興センター長	9名
	職業訓練指導員	広島県知事	2名
	福山ブランド	福山市都市ブランド、戦略推進協議会	表装技術

⑱ 表具店様、兼業者様にお伺いします。
表具の材料について、材料の確保に問題を抱えていますか。

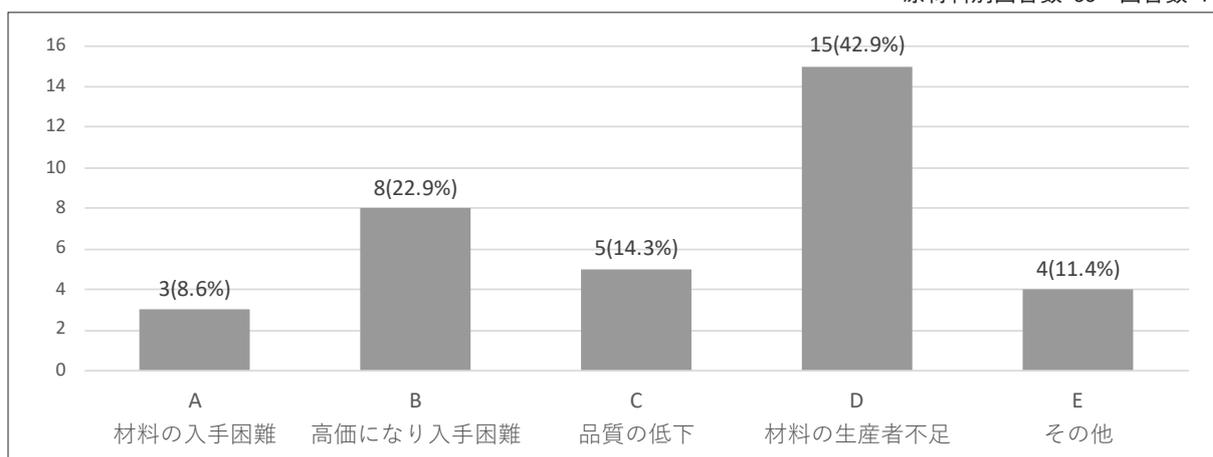
A 問題あり B 問題なし

回答数 25



⑲ 前項⑱で〈A 問題あり〉と回答された方に質問です。
調達、確保が難しい原材料名と、その具体的な問題点を挙げてください。

原材料別回答数 35 回答数 11



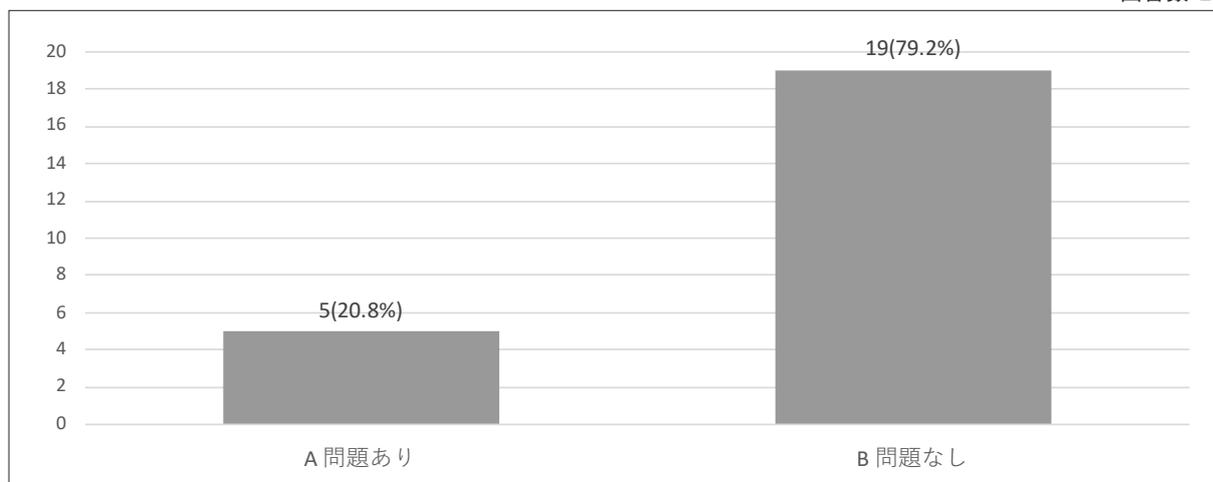
【調達、確保が難しい原材料名】

・裂地 ・紙 ・裏打ち紙 ・竹屋町本金欄 手漉き和紙

⑳ 表具店様、兼業者様にお伺いします。
 表具をするための用具について、用具の確保に問題を抱えていますか。

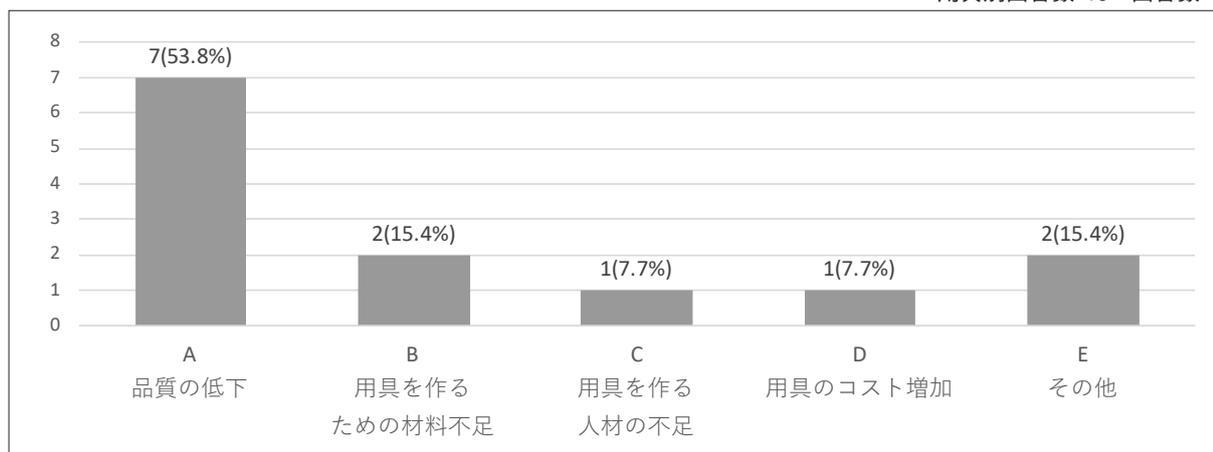
A 問題あり B 問題なし

回答数 24



㉑ 前項㉐で「A 問題あり」と回答された方に質問です。
 問題を抱える用具名と、その具体的な問題点を挙げてください。

用具別回答数 13 回答数 4



【問題を抱える用具名】

- ・刷毛 ・しょうふ糊 ・桐箱 ・角軸 ・コハゼ ・鉋 ・和紙
- ・道具 ・小刀や鋸抜き等の鍛冶製品

② 表具店様、兼業者様にお伺いします。材料や用具の現在抱える問題点に対して、例えば、代替用品を使用するようになった、国内では調達に難しく海外から輸入するようになったなど、御社が何らかの対応策を取っていましたら、それを具体的にお聞かせください。

- ・在庫(紙、裂など)を多く取り揃えるようにしている(3件)
- ・作業工程の機械化(2件)
- ・表具用刃物をカッターで代用した(1件)

③ 設営業者様、兼業者様にお伺いします。

書道に関する設営を行う上で、顧客の内容や顧客数、展示作品の内容や展示数などについて、過去30年間の中で何か変化があればお聞かせください。また、設営業者様から見た書道文化全般についての変化についても、お気づきの点があればお聞かせください。

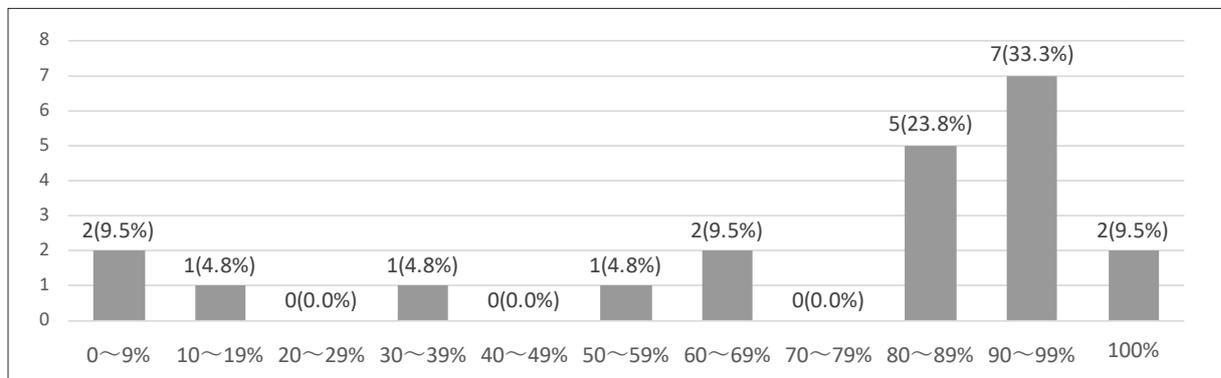
- ・展示点数が減少している(5件)
- ・書道人口が減少している(5件)
- ・顧客の高齢化が進んでいる(4件)
- ・比較的容易に会場を確保できるようになった(1件)
- ・新規参入業者いない(1件)
- ・作品が大型化している(1件)

④ 御社で取り扱う仕事の割合についてお伺いします。

全体を100%とした場合、書道の取扱率と、書道以外の取扱率をお答えください。

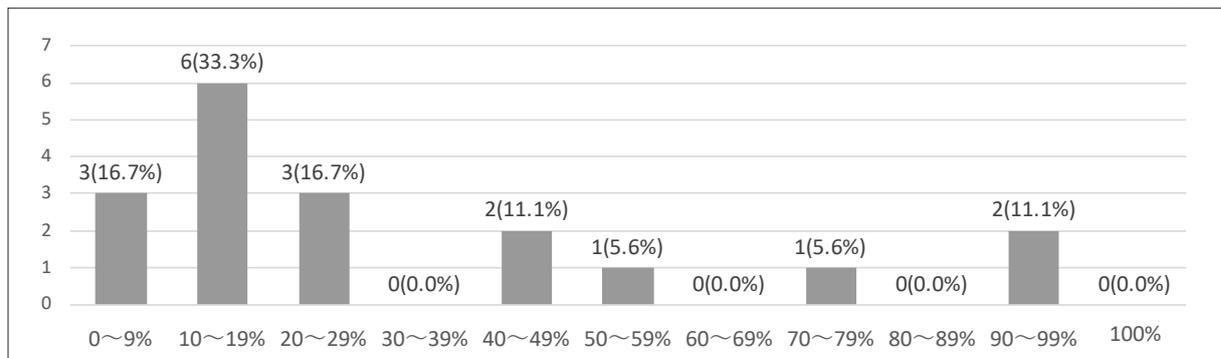
【書道の取扱率】

回答数 21



【書道以外の取扱率】

回答数 18



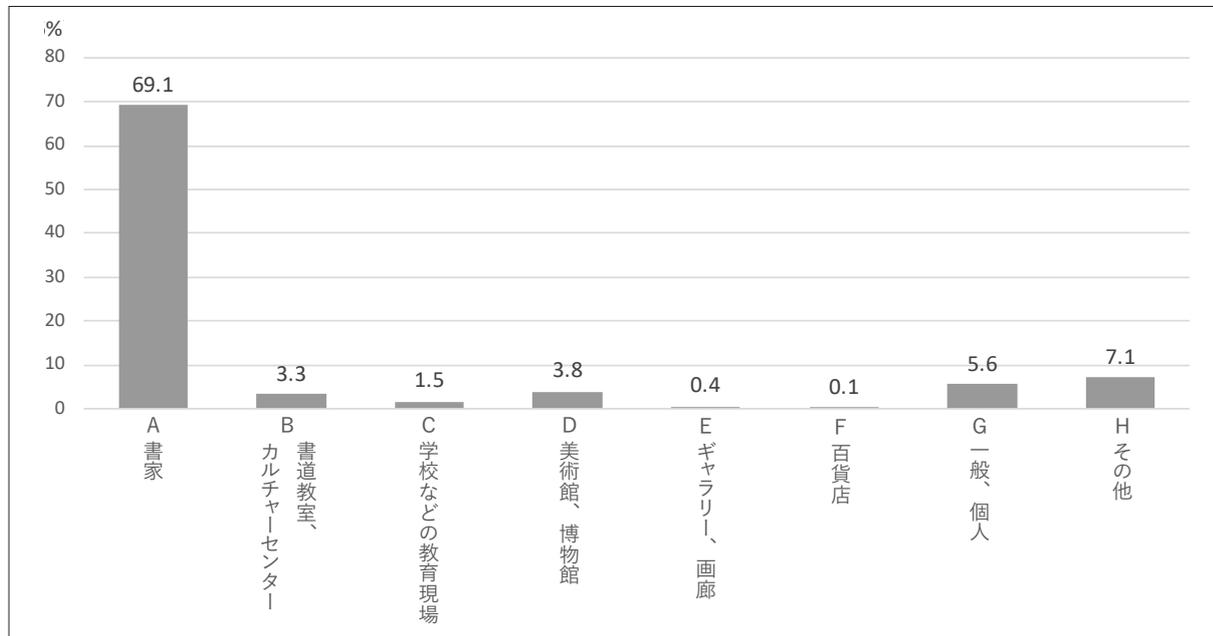
㊸ 御社の取り扱う仕事の受注者(書道関連に限る)についてお伺いします。

受注者の割合を()内にご記入ください。

- | | |
|--------------------|--------------------------|
| A 書家() (%) | B 書道教室、カルチャーセンター () (%) |
| C 学校などの教育現場() (%) | D 美術館、博物館() (%) |
| E ギャラリー、画廊() (%) | F 百貨店() (%) |
| G 一般、個人() (%) | H その他() () (%) |

【受注割合】

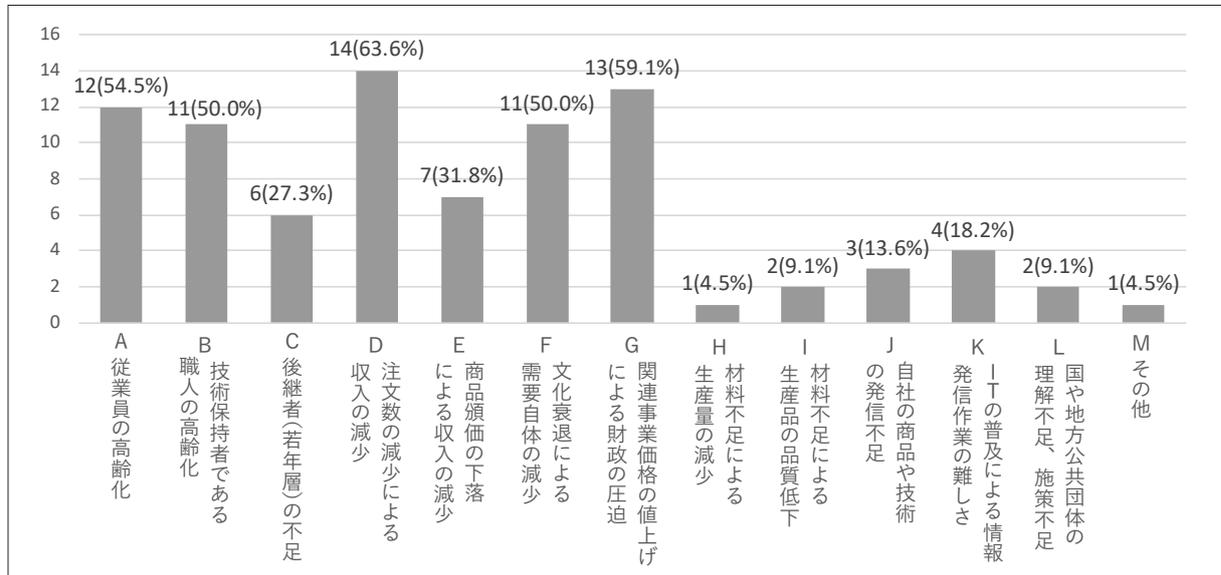
回答数 20



②⑥ 現在の御社の問題点や課題点をお答えください。(複数回答可)

- A 従業員の高齢化
- B 技術保持者である職人の高齢化
- C 後継者(若年層)の不足
- D 受注数の減少による収入の減少
- E 商品頒価の下落による収入の減少
- F 文化衰退による需要自体の減少
- G 関連事業価格(材料費・通信費・運搬費等)の値上げによる財政の圧迫
- H 材料不足による生産量の減少
- I 材料不足による生産品の品質低下
- J 自社の技術や商品の発信不足
- K ITの普及による情報発信作業の難しさ
- L 国や地方公共団体の理解不足、施策不足
- M その他()

回答数 22



②⑦ 前項②⑥での問題点や課題点対策として、御社が現在行う、または、過去に行った施策や企業努力を具体的に教えてください。

- ・若手社員の登用採用(4件)
- ・労働条件の見直し(働き方改革)(3件)
- ・作業工程の機械化・効率化(2件)
- ・業務に関するコストダウン(2件)
- ・他の事業への業務拡大(1件)
- ・ホームページによる情報発信(1件)
- ・ワークショップ、講演の開催(1件)

②⑧ 日本の書道文化や伝統技術の保護・継承・活用に関して、ご意見やご助言をお聞かせください。また、今後の事業の方向性、展望、技術の継承など、伝統文化を守る皆様からの希望・要望・思いがあれば、併せてお聞かせください。

- ・若者にかんばってほしい。若手を積極的に育てたい(5件)
- ・展示会の開催を増やしてほしい(3件)
- ・職人・技術者の地位向上を図ってほしい(2件)
- ・学校教育における書写・書道教育の充実を図ってほしい(2件)
- ・書道人口の増加を図ってほしい(生涯教育の充実)(2件)

【⑨表具店・設営業者 分析結果】

▶回答を得た表具店等の性格

30件の回答のうち、表具店が23件、設営業者が4件、双方を兼業するのが2件、その他が1件だった。店舗は関東地方と近畿地方に多い(②)。

▶従業員について

従業員の年齢は30代から50代で73%を占め、60代は12%、20代が7%、70歳以上が8%である(③)。体力を要するからか、壮年期の従業員が目立つ。在籍者数を適正と回答したのは24件約83%、不足は5件約17%(④⑤)。総従業員数に対する職人の割合は31%ほどで、40%だった10年前から下降している。職人に関しては10件、4割近くが不足を感じている。過剰の回答は従業員数、職人数ともに0だった(⑤)。職人を中心とする人手不足の状況にあることが理解できる。

▶売上について

現在の年間売上高は4000万円以下が22件約73%、そのうち500万円未満が7件約23%、1億円以上は4件である。売上高の上では、少数の大規模な業者に大きな比重があることがわかる(⑥)。

過去30年間で売上が減少したと回答した業者が24件80%、増加は5件約17%である(⑦)。売上が50%以上減少したという回答が約29%あった(⑧)。原因としては取引先などの減少、書道展の減少、安価な商品やサービスの出現、単価の下落などがおもに上げられ、生活の中で書に関わる機会が減少したことを回答する例も9件見られた(⑩)。

▶事業展開について

現在の事業を継続するとの回答が70%ある一方で、縮小を検討しているという回答が4件、廃業を検討が3件見られた(⑪)。その原因には、後継者不足や経営状況の悪化、将来性への懸念などが上げられた(⑫)。人手不足ではあるが売上は低落しているという現状と密接に関わっているものと思われる。

後継者を検討している、あるいは未定と回答したのは15件、半数以上で後継者に目処が立っていないことがわかる(⑬)。

▶技術の保護・伝承について

技術の保護・伝承は社内で行われることがもっとも多く、3割ほどが世襲と回答した。技術保持者による社外での伝承を行っている例も4件見られた(⑭)。

伝統技術の保護・伝承に関して、学校における特別授業などを行っている例が8件見られ、地域向けの文化事業などの展開やパンフレット・HP等による会社や技術の紹介、地域のイベントへの参加などとともに積極的に地域と連携しようとする姿勢も見られた。

しかし、地域と連携する機会はないという回答も8件あり、ここにも人手不足などの問題が影響していることを想像させる(⑮)。

伝統的な技術を持ちながら、条例法で指定などが行われているという例は少数に留まった。大半の業者は保護措置を受けていない(⑯)。条例法における指定等については一覧を参照されたい。自治体や各省で多様に指定されていることがわかる。一部にはこうした指定などを積極的に受けて、産業の維持に努めようという姿勢があることがわかる(⑰)。

▶表具の材料など

表具の材料の確保に問題を抱えているのは44%、材料の生産者不足をその原因とする回答が多く、価格の高騰、品質の低下がこれに次ぎ、材料の入手困難との回答が3件見られた(⑱⑲)。表具をするための用具に問題があると回答したのは5件約21%(⑳)。品質の低下との回答が多く、材料や人材の不足を上げる業者もあった(㉑)。これらの問題に対して、在庫の確保や作業工程の機械化、代替品の使用などで対応している例があった(㉒)。

▶設営業者の現状

設営業者の全てが展示点数の減少、書道人口の減少を感じており、大半が顧客の高齢化に直面している。会場の確保が容易になったことや、新規参入業者がいないことを上げた業者もあり、書道人口や展覧会の減少と関連していることが考えられる。作品の大型化という指摘も見られた(㉓)。

▶ 仕事の受注者について

表具店や設営業者の仕事は書家への依存の割合が非常に高く、書道教室、カルチャーセンター、美術館・博物館などがこれに次ぐ。今回回答のあった30件の業者においては書道に関する仕事の比重が圧倒的に高く、書道人口の減少が売上に直結することがわかる(24)(25)。

▶ 問題点

注文数の減少や書道をめぐる文化の衰退による需要の減少を背景とする収入の低下とともに、関連経費の高騰や頒価の下落も売上を押し下げている。同時に職人をはじめとする従業員の高齢化も多くの業者で問題となっている(26)。

▶ 問題への対策

若手の登用・採用で高齢化を解消しようとする回答が4件で最多であった。労働条件の見直しや作業の効率化を上げることで、人手不足に対応しようという姿勢も目立つ(27)。

▶ 自由記述

若年層の積極的な育成などを上げる例が5件でもっとも多い。先の従業員の年齢構成では10代は1名、20代も7%。若手の確保と育成が課題であることがわかる。展覧会や書道人口の増加、書写・書道教育の充実を期待する回答もあり、書道文化自体の底上げを要望する。職人や技術者の地位向上を図って欲しいという回答も見られた(28)。

4 まとめ

▶学校における書道—書き初めを中心に

多くの小学校や中学校では、学習指導要領に定められた通りかそれ以上に毛筆を用いる機会を設けていることがわかった。国語科書写の授業を除くと、書き初めのために毛筆を使用することが多く、小学校では約90%、中学校では70%以上でこれに取り組んでいる。通常授業において書き初めを実施する学校が半数ほどで、このほか、書き初め大会を開催したり、宿題として課したりして、書き初めが教育的な活動に深く馴染んでいることが理解された。大多数の日本国民が義務教育段階で書き初めを体験しているのである。各種の書道団体などでも書き初めを行っているが、これも児童・生徒を対象としたものが多く、おもに年少者向けの年中行事として全国に定着している。書き初め大会やコンクールの主催者は学校や自治体をはじめとして官民を問わず多様であり、毎年、夥しい数の書き初め行事が開催されている。

書き初めを行わない理由には、時間の不足が筆頭に上げられ、指導者不足も指摘される。

書き初めをはじめとする毛筆書写の成果を、自治体やJA 共済連などが主催する校外の書道コンクールなどに出品している小・中学校は90%を超え、学習の成果を積極的に披露しようという意欲が見られる。こうした活動が児童生徒の達成感に結びついているものと考えられる。また、選挙管理委員会や税務署、人権関連団体、水道、防災などに関する多様なコンクールがあり、毛筆の書が国語教育の枠組みを超えて多岐にわたって啓蒙・啓発活動に活用されていることがわかる。

高校も含めた大半の学校では、校内に毛筆で書かれた文字が掲示されており、児童や生徒らは教室や廊下、体育館、講堂など、学校生活のあらゆる場でそれらを目にしている。また、賞状や行事の看板などにおいても毛筆が活用されている。とりわけ、書に親しむ高校生や大学生には毛筆を積極的に生活に取り入れようという姿勢が見られる。

以上のことから、小・中学校を中心に、児童・生徒らは授業だけではなく、学校生活全体を通して毛筆文化に密接に関わっていることがわかった。

それに対して、教員の90%以上は、毛筆の使用が児童・生徒のあいだに定着していないと回答した。身の回りに毛筆で書かれた文字がたくさん存在し、書き初めなどで親しんでいるのにも拘わらず、それを意識化していないものと考えられる。

▶生活文化としての書について

小・中学校、高校・大学、その他のアンケートでも、伝統文化として毛筆の書や書写・書道に関する活動を大切にすべきであるという意見が際立って多く見られた。多くの人が、日本や東洋の伝統的な文化として書道が重要であることを強く自覚しているのである。その一方で、日常生活では手書きの機会自体が減少し、毛筆の書を活かす場面が限定的になっていることを危惧する意見も目立った。

同時に、毛筆による書写が、筆順や字形をはじめとする文字言語の理解を促し、書写能力そのものの向上に益するという意見が多かった。毛筆書写が言語活動の基礎を形成していることが理解されている状況がわかる。また、年賀状をはじめとする手紙やのし紙・のし袋、寄せ書き、芳名録の揮毫など、特に季節の行事や儀礼的な面で毛筆が活用されている。パソコンやプリンターが手書きと並んで一般化した今日でも、毛筆に対する愛着は失われておらず、身近な日本文化として尊重していこうという姿勢が見られた。

さらに、書を通して集中力が高まり、落ち着きが得られるといった、内面的な充実に益しているとの回答も多く見られた。毛筆を用いた書の学習には、技術力の向上とともに精神的な修養の効果が期待されている。

また、書を技術的に学ぶことと鑑賞活動とは密接に連動しており、書を習ったことによつて、美術館などで作品鑑賞する機会も増加している。同時に、書の学習を通じて人間的な交流が生まれているという意見も見られた。

▶書の愛好者とその動向

今回、回答を得た書道団体を構成する会員数は延べ667,366人である。男女比は、女性が約75%、男性が約25%。『レジャー白書2018』によれば、2017年の書道への参加人口は300万人、女性が68.3%、男性が31.7%である。男女比から見ると、今回のアンケートとおおむね同様の傾向を示す結果となった。

会員数のピークが平成10年から19年のあいだにあったと回答した団体もつと多く、近10年間で会員数が減少したと回答した団体が75%を超える。戦後から拡大を続けた書道団体の規模が近年急速に縮小していることが考えられる。大半の団体が高齢化を課題としており、これに起因して会員数の減少や後継者育成の渋滞、財政状況の悪化などが問題になっている。

書道団体の活動は総じて活発で、大半の団体が展覧会を主催し、それに付帯して講演会や各種のワークショップなどが開催されている。また、4割超の団体が展覧会図録や会報が発行されている。半数近い57団体が競書雑誌を発行しており、毎月発行している団体が大半で、1回につき5000部以上を刊行している団体も14団体あった。こうした競書雑誌を通して書の指導が行われ、購読者は毎月の成果を提出し評価されることで充実感を得ているものと考えられる。競書雑誌は書道を学びやすくするために大きな役割を果たしている。

地域社会への貢献にも積極的であり、各所からの揮毫依頼や学校の授業などにおける講師派遣といった、教育や地域振興のための役割を果たしていこうという意欲が見られる。

こうした書道団体のうち、年間の活動予算が1億円を超える団体が15団体13%ほど見られた。また、会員一人あたりの年間活動費は10万円から30万円という回答が最多で半数弱、10万円未満が17%、30万円以上という回答は4割近く、費用的には気軽に取り組むことができると同時に、指導料や出品料、書道用品、装丁などに相応に費用をかけている様子も垣間見られた。先の『レジャー白書2018』では2017年の書道の市場を540億円と推計している。今回のアンケートと合せて、書道をめぐる市場の規模は相当に大きなものであることが類推される。

▶書道用品などの現状

書道用品の生産業者や小売業者、表具店など全業種の約8割の業者が、30年前と比較して売上が減少したと回答している。生産、小売、表具すべての業種で従業員の高齢化が大きな課題となっており、これに起因して一部では人手不足の状況にあるものと考えられる。特に書道用品の生産や表具などの技術を持った職人の減少率が高い。例えば、豊橋筆振興協同組合では90歳以上の職人を100名以上と回答しており、こうした状況は、産業の衰退はおろか、維持存続そのものが困難になっていることを示している。今回、こうした書道関連業界へのアンケートを計631件に送付したが、25件が宛所不明で返送され、廃業等を理由とした返却もあった。事業の縮小や廃業を検討する業者もあり、国内における書道用品の生産が、一部では危機的な状況に瀕していることがわかった。

一方で、筆やユネスコ無形文化遺産に指定された和紙などを中心として、伝統工芸士などに指定される職人も多く、技術の保護や振興などに関する制度によって技術の保護・継承が行われる面があることも理解された。

それぞれの業者は、売上の減少や人材確保などの課題に直面して積極的な行動を起こしている。新商品の開発や販路の拡大、ワークショップやデモンストレーションなどを展開しているほか、学校をはじめとする地域の文化行事にも関わりながら、それぞれの伝統的な技術に対する関心を喚起するための努力をしている。

筆、墨、紙、表具などを中心に、書道関連用品の主要な輸入元である中国の教育環境の変化などもあり、資源の枯渇や価格上昇、取引業者の廃業などによって原材料の確保には困難が生じている。原材料や製品の輸入などをはじめとする企業努力で不足を解消しようとしているが、安定的な供給のための決定的な打開策がないのが現状である。

売上の減少の理由は、仕入れや流通のためのコスト増などとともに、書道文化の後退による書道人口の減少に起因する受注減と考えている業者が大半である。書道文化はこうした伝統産業を支えており、その活性化は伝統的な技術の保護に直結している。

▶おわりに

今回のアンケートを通して、日本の生活に書が極めて自然に浸透していることが改めて理解された。毛筆で文字を書くことを通して文字言語の感覚を養い、精神的な充実感を得ることができるということを、日本社会で広く共有しているのである。

とりわけ書き初めは年中行事として、生活に根付いた国民的な創作活動と言って過言ではない。主要な正月行事として今日でも全国的にまんべんなく定着しており、日本人にとってはもともと親しみ深い伝統的な生活文化であろう。書き初めに象徴されるように、江戸時代以来、大衆のあいだに広がって定着した書道は、伝統的ないとなみであると同時に、今日まで受け継がれて幅広く日本社会に馴染んだ生活文化でもある。このほかにも毛筆で書かれた文字は、賞状や看板、年賀状をはじめとする手紙、のし紙・のし袋、各種の商品パッケージなど、さまざまな形で私たちの日常生活を彩っている。今日の書道が、伝統的な書法を背景とする日本の国民生活に根ざした文化であることが明確に理解された。

しかし、パソコンやスマートフォン、プリンターの普及などによって手書きの機会が減少し、書道人口が減少傾向にあることも如実に理解された。この現状に呼応して、毛筆文化の喪失に危機感を抱き、文化として継承していかなければならないという必要性を多くの人が感じている。デジタル化していく社会環境だからこそ、書道文化を意識し尊重していこうという自覚が生まれている側面もあるのである。

毛筆文化の後退は筆・墨・硯・紙をはじめとする書道用品の生産や小売、表具といった書をめぐる産業の衰退にも直結しており、伝統技術の継承に影を落としている。書道文化に支えられて維持されてきた書道用品の生産技術も衰退を余儀なくされているのである。

書道は古来、言語として、また造形芸術として、さらには教育的な活動として日本文化の基底を形成し、深く根付いてきた。その環境は今日でも基本的に変わらない。書き初めが国民的な活動として今日でも活発に行われている現状を鑑みれば、この状況を疑う余地はないだろう。それだけに、特段の配慮がなくとも書道文化が存続しうると考えられてきたきらいがある。これまで、書道団体や教育現場などにおける自律的な活動に保護や継承という側面も委ねてきたのである。しかしながら、今回改めて現状を確認してみたことによって、能動的に保護・継承に関する施策を打ち出して行かねばならない時期に差し掛かっていることが理解された。

書道文化に関する基礎調査報告書
(付)書道団体実態調査

発行日 平成31年1月15日

発行 日本書道ユネスコ登録推進協議会 調査委員会
E-mail info@shodoisan.jp
http://www.shodoisan.jp

〈協議会東京事務局〉

〒107-0052

東京都港区赤坂2-11-1 デルックス溜池山王6階

公益財団法人 全国書美術振興会内

TEL : 03-3568-2071 FAX : 03-3568-2072

〈協議会大阪事務局〉

〒540-6591

大阪府大阪市中央区大手前1-7-31 OMMビル7階

公益社団法人 日本書芸院内

TEL : 06-6945-4501 FAX : 06-6945-4505